



朝鮮總督府編纂

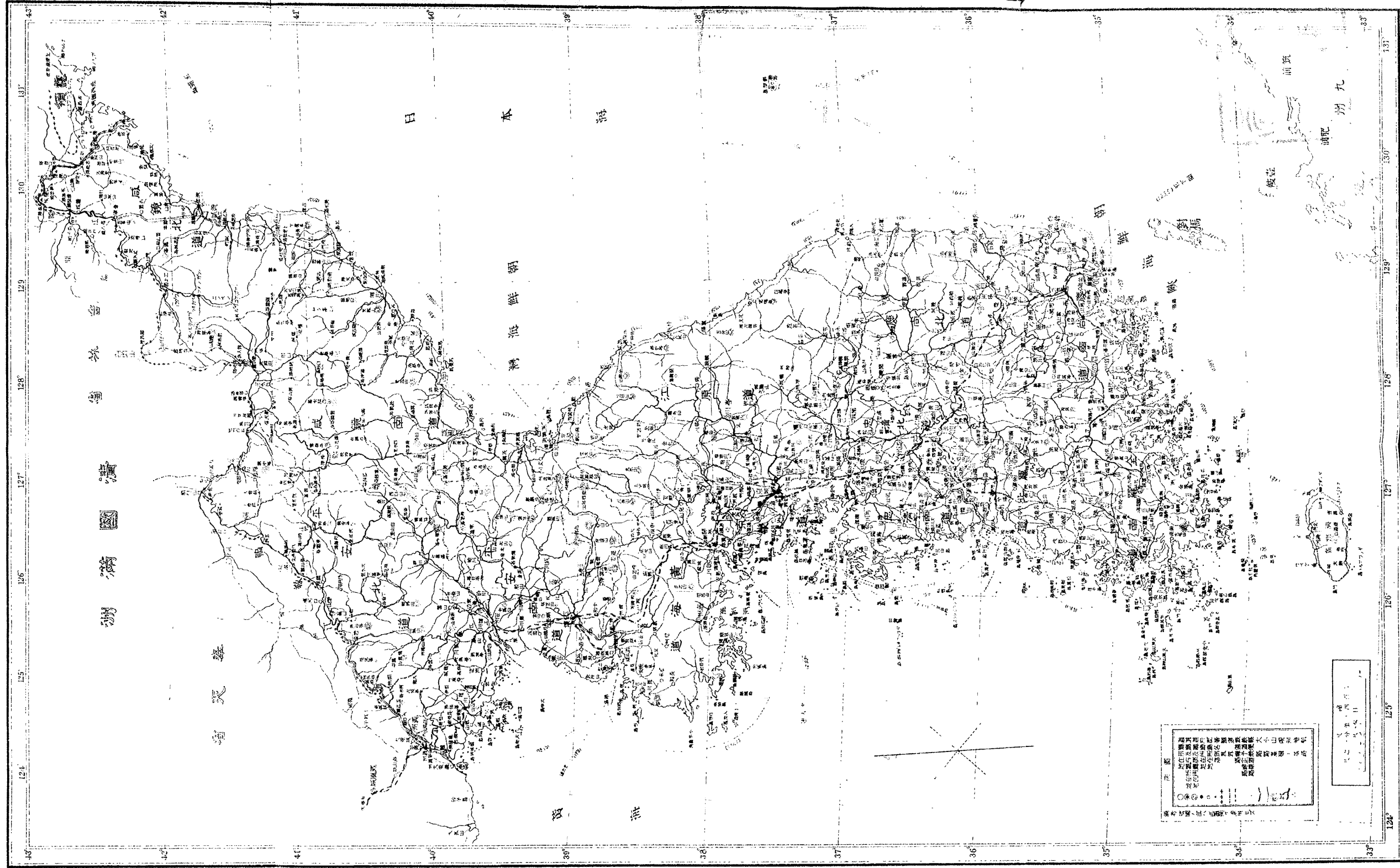
最近朝鮮事情要覽

352
53901
6



1 : 3 2 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 5

朝鮮地圖

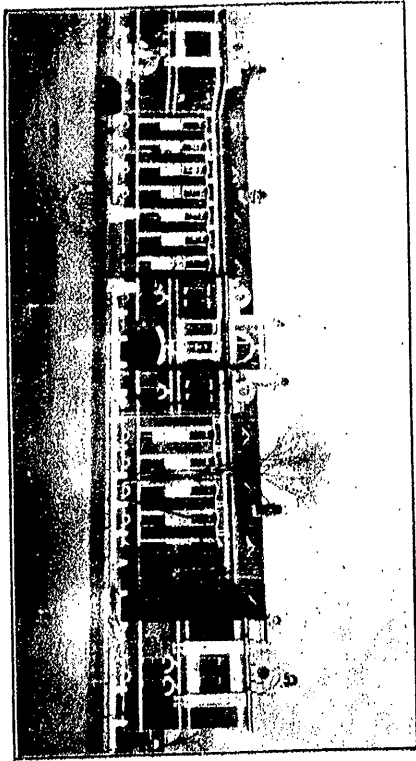


朝鮮總督府

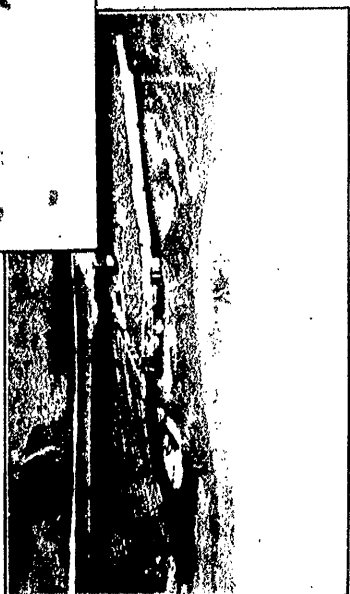
品名 01 牌



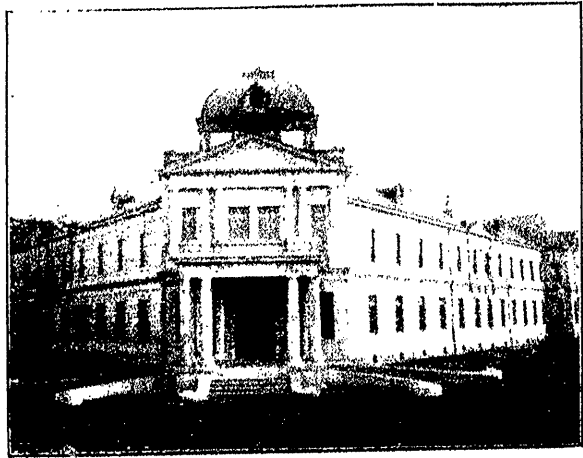
東京鐵道



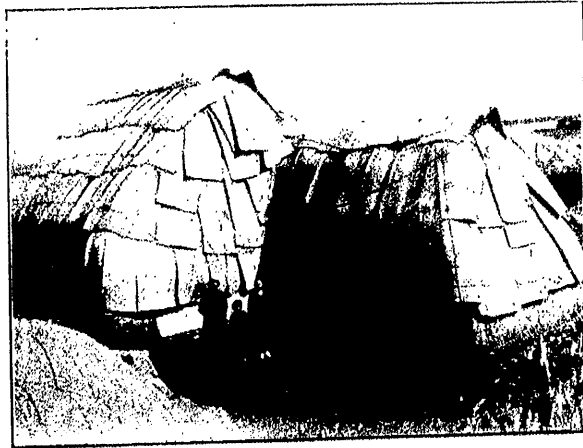
麥人別給麥



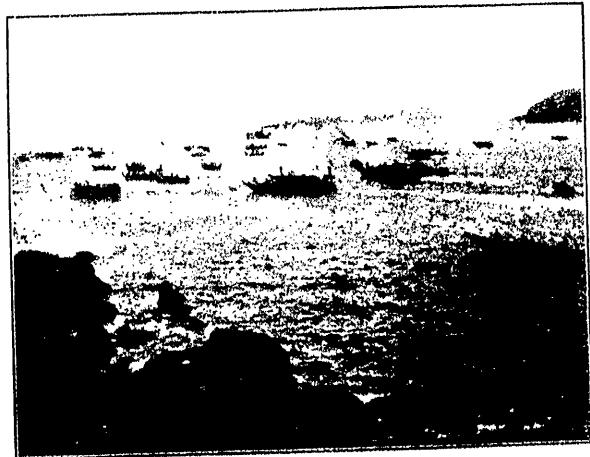
圖麥人城墻



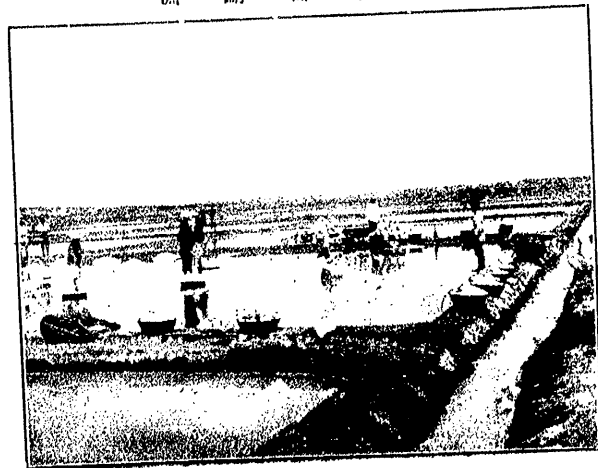
東洋拓殖株式會社



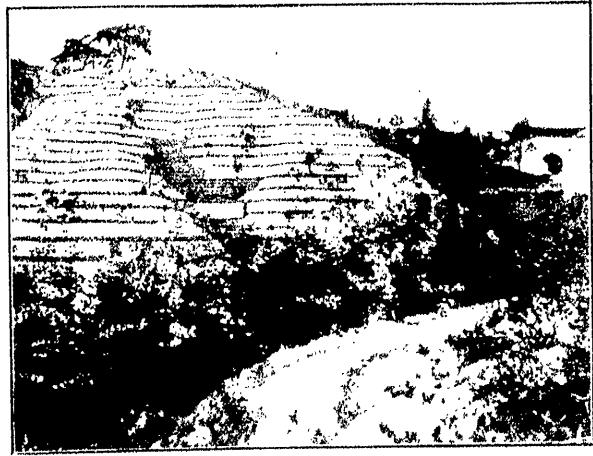
小作農の露宿



流 鯨 島 濱 巨



田 鹽 灣 築 廣



(元年一) 林栽植工防砂洞雲白城京



(五年五) 上 同



鳴 緑 江 造 材 光 景



同 上 流 筏 光 景

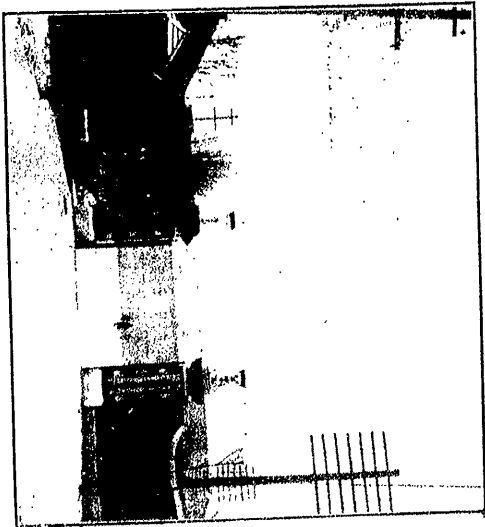


佛石勒彌津恩

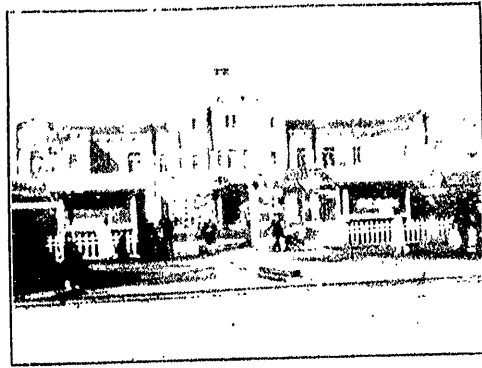
查 巡 馬 騾



部 令 司 隊 兵 憲

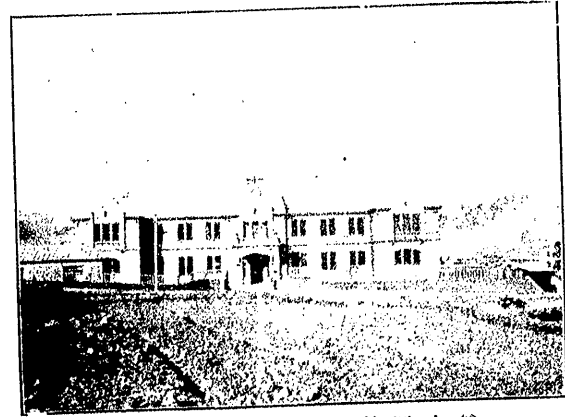


京
城
控
訴
院

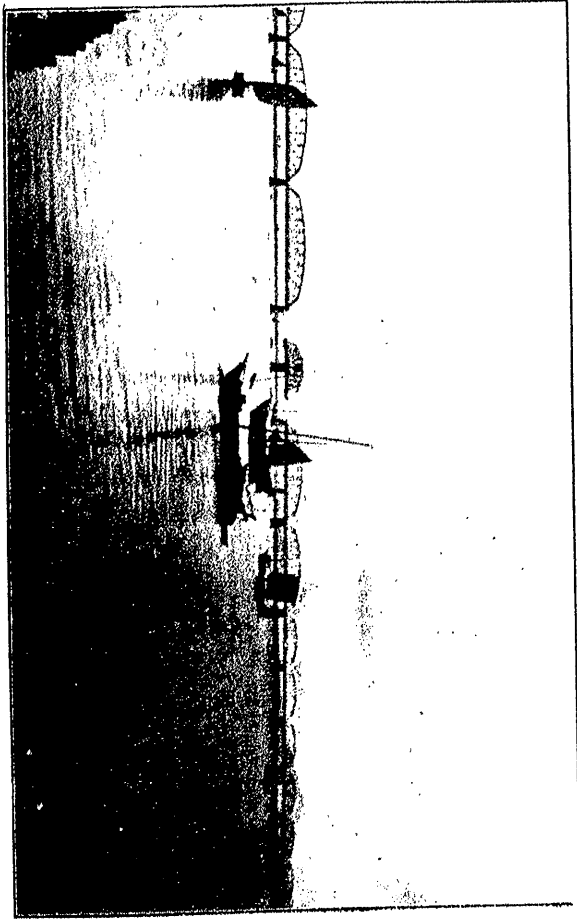


高
等
法
院

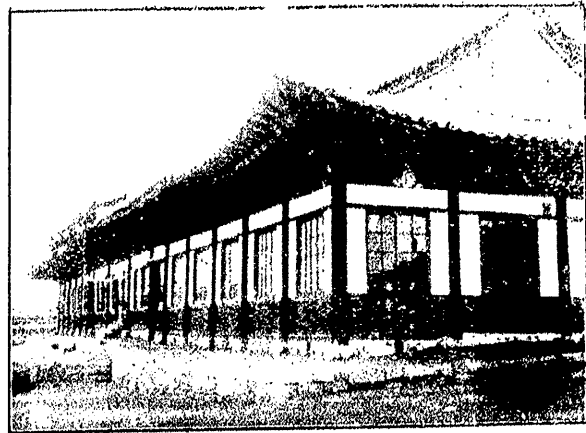
所
列
裁
方
地
城
京



所
列
裁
方
地 所
列
裁
區
山
釜



德 興 江 開 輪



平 觀 公 立 善 通 學 校



公 立 於 義 洞 善 通 學 校 女 子 教 室

二	學校組合及日本人會	七四
三	水利組合	七七
第四節	地方費	七九
一	管理	八〇
二	財源	八〇
三	事業	八二
第五節	臨時恩賜金	八九
一	授產事業	九〇
二	教育事業	九二
三	凶歉救濟事業	九二
第六節	濟生院	九五
第七節	土地家屋證明	九五
第四章	財政及經濟	九九
第一節	財政	九九

一	財務機關	九九
二	歲計	一〇一
三	特別會計	一一一
四	繼續費	一一二
五	國債	一一三
六	租稅	一一五
第二節	朝鮮經營費	一二〇
第三節	貨幣	一二二
第四節	金融	一二五
一	金融機關	一二五
二	朝鮮銀行	一二七
三	內地人設立銀行	一三〇
四	朝鮮人設立普通銀行	一三一
五	農工銀行	一三三

第十五章 衛生

- 三 留學生..... 四〇六
- 一 一般衛生..... 四〇八
- 二 醫藥機關..... 四一〇
- 三 藥品取締..... 四二二
- 四 飲食物取締..... 四二三
- 五 屠場..... 四二五
- 六 傳染病..... 四四三
- 七 水道..... 四四五

八

第十六章 裁判及監獄

- 一 警備機關之配置..... 四九四
- 二 海上警備..... 四九七

第十七章 警察

- 三 警察官之養成..... 四九八
- 四 官職類似其ノ他取締..... 四九九
- 五 引火質物貯藏所取締..... 四九九
- 六 信用告知藥取締..... 四九九
- 七 狩獵取締..... 五〇〇
- 八 寄附金募集取締..... 五〇〇
- 九 消防..... 五〇五
- 十 犯罪..... 五〇六
- 十一 犯罪即決例實施後ノ狀況..... 五〇七
- 十二 民事争訟調停ノ概況..... 五〇八

第十八章 通信

第十九章 交通

- 一 道路..... 五三二

九

二	鐵道	五三七
三	關釜聯絡概況	五四四
四	海運	五四五
五	航路概況	五六二
六	江運	五六三

刑事課	稅務課	稅關支署	稅關出張所
監視課	海務課	釜山稅關移出檢査所	
検査課	印刷局		
海務課	厚實局		
	營林支廠		
	附屬事務所		
	本署課務所		
	勸業模範場		
	勸業模範場支場		
	農林學校		
	中學校		
	附屬臨時小學校		
	教員養成所		
	工業傳習所		

(六)帝國代表者ト韓國外務大臣トノ間ニ未悉ノ細條ヲ臨機協定スルコトヲ定ム超エテ同年八月二十
二日ニ至リ日韓兩國政府代表者ハ京城ニ於テ協定シタル協約ニ調印セリ本協約ハ三項ヨリ成リ財政
外交兩顧問ノ備聘竝韓國政府カ外國トノ條約締結其ノ他重要ナル外交案件即チ外國人ニ對スル特權
讓與若ハ契約等ノ處理ニ關シテ豫メ帝國政府ト協議スヘキコトヲ規定ス蓋シ二月ノ議定書ニ依リ日
韓兩國ノ關係大ニ進ミタリト雖韓國ニ於ケル施政改善ノ事タル決シテ容易ニアラス且外交ニ關スル
議定書ノ取柄ハ韓國政府カ同議定書ノ趣意ニ反スル協約ヲ第三國ト締結スルヲ得ザルノ一項ニ限リ
一般外交ノ處理ニ亙リテ詳言スル所ナシ是レ即チ本協約ヲ以テ更ニ兩國ノ關係ヲ一層明確ニ規定シ
タル所以ナリ

明治三十八年九月日露兩國間ニ締結セラレタル「ポーツマス」條約第三條ニ於テ露國政府ハ帝國カ
韓國ニ於テ政事上及經濟上ノ卓越ナル利益ヲ有スルコトヲ承認シ帝國カ韓國ニ於テ必要ト認
ムル指導保護及監視ノ措置ヲ執ルニ方リ之ヲ阻害シ又ハ之ニ干渉セサルヘキヲ約シタリ之ヨリ先キ
同年八月十二日調印セラレタル日英同盟約款モ亦日本國ハ韓國ニ於テ政事上及經濟上ノ卓越

ナル利益ヲ有スルヲ以テ大不列顛國ハ日本國カ該利益ヲ擁護増進セムカ爲ニ正當且必要ト認ムル
指導保護及監視ノ措置ヲ韓國ニ於テ執ルノ權利ヲ承認スト規定シ即チ一方ニ於テハ日英同盟約款ノ
支持、他方ニ於テハ日露講和條約ノ承認ニ依リ日韓兩國ノ關係ハ日露戰爭終結ト前後シテ大進捗ヲ
來タシ韓國ニ對スル帝國ノ地位益々鞏固且明確ヲ加フルニ至レリ帝國政府ハ乃チ此新關係ニ基キ韓
國ニ對スル保護指導ヲ完クシテ益々兩國ヲ結合スル利益共通ノ主義ヲ鞏固ナラシメムコトヲ欲シ此
目的ヲ以テ同年十一月十七日所謂日韓新協約ヲ締結シタリ同協約ハ前文及五箇條ヨリ成リ(一)外交
權ノ收受(二)統監ノ駐劄(三)日韓兩國間現存條約及約束ノ效力繼續(四)韓國皇室ノ安寧及尊嚴維持
ノ保證ヲ約セリ本協約ハ日露戰役中ニ於ケル議定書及協約ヲ享ケテ之ヲ大成シタルモノニシテ永ク
日韓兩國關係ノ基礎タルヘキモノナリ此ニ於テ帝國政府ハ愈々在京城公使館ヲ撤廢シテ統監府ヲ置
キ統監ヲ駐劄セシムルニ決シ同年十二月二十日勅令第二百六十七號ヲ以テ統監府及理事廳官制ヲ公
布シ統監府及理事廳ハ翌明治三十九年二月一日各其ノ事務ヲ開始セリ統監府既ニ設置セラレ韓國ノ
外交ハ專クテ帝國政府ノ管理ニ歸シ之ヲ内ニシテハ施政ヲ改善漸ク其ノ緒ニ就クト雖一朝ニシテ數

第一章 韓國併合願末



百年ノ積弊ヲ一洗シ保護ノ實ヲ舉ゲテモト固ヨリ容易ニアラス加フルニ維新更始ノ際ニ當リ上下ノ人心動モスレハ其ノ衝ヲ所ヲ限リ各般ノ妨礙百出セリ偶々明治四十年夏ニ至リ海牙密使事件ノ起ルアリ統監ハ更ニ韓國政府代表者ト一ノ協約ヲ訂立シ日韓兩國ノ關係ヲ一層密遣ヒシムルノ必要ヲ認メ同七月二十四日兩國代表者ノ調印ヲ了セリ同協約ハ前文及七箇條ヨリ成リ先ツ前文ニ於テ兩國政府力韓國ノ富強ヲ圖リ韓國民ノ幸福ヲ増進セムトスルノ目的ヲ有スルコトヲ宣明シ(一)韓國政府カ施政改善ニ關シ統監ノ指導ヲ受クルコト(二)法令制定及重要ナル行政上ノ處分ニ付豫メ統監ノ承認ヲ受クヘキコト(三)司法事務ト普通行政事務トノ區別サルヘキコト(四)高等官吏ノ任免ニ統監ノ同意ヲ要スルコト(五)統監ノ推薦ニ依リ日本人ヲ韓國政府ニ任用スルコト(六)統監ノ同意ナクシテ外國人ヲ僱用セサルコト(七)明治三十七年八月調印日韓協約第一條即チ財政顧問僱用ノ廢止サルヘキコトヲ約ス此協約ハ明治三十八年ノ新協約ト互ニ相補ヒ特ニ韓國ノ内政改善ニ關シテハ既往三種ノ協約ニ規定スル所ニ比シ一層我保護權行使ノ範圍ヲ擴張セリ

明治四十二年七月ニ至リ韓國ノ司法及監獄事務ヲ我政府ニ委託セシムルノ件ヲ約シ同年十月敕

令第二百三十六號ヲ以テ統監府裁判所令、同第二百四十二號ヲ以テ司法廳官制及同第二百四十三號ヲ以テ監獄官制ヲ公布シ同年十一月一日ヨリ實施シ同時ニ韓國ニ於ケル此等ノ機關ヲ廢止セシメ以テ韓國ニ在留スル帝國臣民暨韓國民民ノ生命財產ノ保護ヲ確定スルノ基礎ヲ立テタリ次テ同四十二年六月二十四日帝國ハ韓國ノ警察事務ヲ繼承シ統監府警察官署官制ヲ公布シ七月一日ヨリ之ヲ實施ス斯クノ如クニシテ施政ノ統一ヲ圖リ改善治安ノ途ヲ完クセムコトヲ期セリト雖現代ノ複雜ナル統治制度ニテハ未タ以テ的確ニ韓國民衆ノ幸福ヲ増進シ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルニ足ラス暴徒草賊出沒シ民衆ヲ驚害スルモノ全ク其ノ跡ヲ絶ツニ至ラズ又不退ノ徒ハ民衆ノ指嚆標トシ徵稅ニ從事スル日本人官吏ニ對シ特ニ嫌忌ノ念ヲ生シ徵稅ハ之ヲ日本ニ奪去スルモノノ如ク誤解シ甚シキハ是等官吏ニ對シ危害ヲ加ヘントスル者アリ國內ノ形勢ハ依然トシテ不穩ヲ缺キ全然同國ヲ帝國ニ併合スルニ非サレハ全國統治ノ責任ヲ明ニシ有終ノ效果ヲ舉グル能ハサル可キヲ認メタリシカ爾來韓國ノ形勢ハ益非ナルモノアリ同年十月廿六日ニハ前統監伊藤公爵一韓人ノ爲ニ哈爾濱ニ於テ狙撃セラレ暴ニ斃去セラレ、アリ天下舉テ哀歎シ帝國ハ國葬ヲ以テ公ノ凶變ヲ弔ヘリ併合ノ議漸ク是ヨリ動キ

第一章 韓國併合願末

シト雖未タ之ヲ遂行スルノ機運ニ到達セザリキ

二

明治四十三年五月統監子爵曾爾荒助病ヲ以テ職ヲ退キ陸軍大臣子爵寺内正毅統監ニ兼任セラレ七月二十三日退任ス當時ノ狀勢ハ併合ノ一日モ忽ニスヘカラサルモノアルヲ認メ乃チ韓國政府ノ當局者ト會見シテ帝國政府ノ所信ヲ披瀝シ且帝國一方ノ意思ニ基ク宣旨的併合ヨリモ當時ノ韓國統治者トノ間ニ意思ヲ疏通シ條約ヲ締結シ韓國皇帝自ラ進ミテ統治權ヲ天皇陛下ニ讓渡セラル、ナ適當ト信シ之ヲ進言シタルニ韓國當局者モ亦其ノ相互永遠ノ福利ヲ増進スル所以ナルヲ確認シ爾來併合案件ニ關シ數次交渉ヲ重ね兩國政府ノ意見玆ニ一致シ八月二十一日統監ハ併合條約案ヲ帝國政府ニ打電シ御親臨ヲ仰キタリ同月二十二日臨時樞密院會議ヲ開カレ併合條約案ヲ裁可セラレ韓國政府ニ於テモ亦直チニ皇帝ノ裁可ヲ仰キタルニ皇帝ハ能ク時勢ヲ洞觀セラレ併合ノ兩國永遠ノ幸福ヲ増進スヘキモノナルコトヲ認メラレ直ニ裁可ヲ與ヘラレタルヲ以テ同日寺内統監ハ韓國總理大臣李完用トノ間ニ併合條約ニ副印セリ而シテ韓國皇室ノ安寧ト尊嚴ヲ維持スルニ至リテ

ハ終始渝ルコトナク中間ノ併合條約ニ於テ前韓國皇帝、太皇帝、皇太子並其ノ皇妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應ジ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歳費ヲ供給スルコトヲ約セラレタリ尙併合條約ノ締結ニ際シテハ一ニ和衷協同ニ由リ管ニ開通ノ協議ヲ遂ケタルノモナラス形式ニ於テモ總テ遺漏ナカラムコトヲ期シ完全ニ之ヲ履行セリ而シテ帝國政府ハ列國ニ通牒スルニ韓國併合ノ事ヲ以テス同月二十九日昭誓ノ換發ト共ニ併合條約ヲ公布セラル 昭誓ニ曰ハク

朕東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持シ帝國ノ安全ヲ將來ニ保障スルノ必要ナルヲ念ヒ又常ニ韓國力亂ノ淵源タルニ顧ミ漢ニ朕ノ政府ヲシテ韓國政府ト協定セシメ韓國ヲ保護ノ下ニ置キ以テ禍源ヲ杜絶シ平和ヲ確保セムコトヲ期セリ

爾來時ヲ經ルコト四年有餘其ノ間朕ハ銳意韓國施政ノ改善ニ努メ其ノ成績亦見ルヘキモノアリト雖韓國ノ現制ハ尙未タ治安ノ保持ヲ完スルニ足ラス靡爛ノ愈毎ニ國內ニ充溢シ民其ノ堵ニ安ニス公共ノ安寧ヲ維持シ民衆ノ福利ヲ増進セムカ爲ニハ革新ヲ現制ニ加フルノ避ク可ラサルコ

第一章 韓國併合願末

ト朕然タルニ至レリ

八

朕ハ韓國皇帝陛下ト與ニ此ノ事慮ニ鑑ミ韓國ヲ舉テ日本帝國ニ併合シ以テ時勢ノ要求ニ應スルノ
已ムヲ得サルモノアルヲ念ヒ茲ニ永久ニ韓國ヲ帝國ニ併合スルコトトナセリ
韓國皇帝陛下及其ノ皇室各員ハ併合ノ後ト雖相當ノ優遇ヲ受クヘク民衆ハ直接朕カ綏撫ノ下ニ立
チテ其ノ康福ヲ増進スヘク産業及貿易ハ治平ノ下ニ顯著ナル發達ヲ見ルニ至ルヘシ面シテ東洋ノ
平和ハ之ニ依リテ愈々其ノ基礎ヲ鞏固ニスヘキハ朕ノ信シテ疑ハサル所ナリ
朕ハ特ニ朝鮮總督ヲ置キ之ヲシテ朕ノ命ヲ承ケテ陸海軍ヲ統率シ諸般ノ政務ヲ總轄セシム百官有
司克ク朕ノ意ヲ體シテ事ニ從ヒ施設ノ緩急其ノ宜キヲ得以テ衆庶ヲシテ永ク治平ノ慶ニ賴ラシム
ルコトヲ期セヨ

併合條約ノ全文ハ左ノ如シ

日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ハ兩國間ノ特殊ニシテ親密ナル關係ヲ願ヒ相互ノ幸福ヲ増進シ東
洋ノ平和ヲ永久ニ確保セムコトヲ欲シ此ノ目的ヲ達セムカ爲ニハ韓國ヲ日本帝國ニ併合スルニ如
カサルコトヲ確信シ茲ニ兩國間ニ併合條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ統監子
爵寺內正毅ヲ韓國皇帝陛下ハ內閣總理大臣李完用ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ右全權委員ハ
會同協約ノ上左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

韓國皇帝陛下ハ韓國全部ニ關スル一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ日本國皇帝陛下ニ讓與ス

第二條

日本國皇帝陛下ハ前條ニ掲ケタル讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトヲ承諾ス

第三條

日本國皇帝陛下ハ韓國皇帝陛下太皇帝陛下皇太子殿下並其ノ后妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應ジ
相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歳費ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第一章 韓國併合願末

九

第四條

日本國皇帝陛下ハ前條以外ノ韓國皇族及其ノ後裔ニ對シ各相當ノ名譽及待遇ヲ享有セシメ且之ヲ維持スルニ必要ナル資金ヲ供與スルコトヲ約ス

第五條

日本國皇帝陛下ハ勳功アル韓人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタル者ニ對シ榮爵ヲ授ケ且恩金ヲ與フヘシ

第六條

日本國政府ハ前記併合ノ結果トシテ全然韓國ノ施設ヲ擔任シ同地ニ施行スル法規ヲ遵守スル韓人ノ身體及財產ニ對シ十分ナル保護ヲ與ヘ且其ノ福利ノ増進ヲ圖ルヘシ

第七條

日本國政府ハ誠意忠實ニ新制度ヲ尊重スル韓人ニシテ相當ノ資格アル者ヲ事情ノ許ス限リ韓國ニ於テ帝國官吏ニ登用スヘシ

第八條

本條約ハ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ裁可ヲ經タルモノニシテ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス右條據トシテ爾全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

明治四十三年八月二十二日

統 監 子爵 寺 内 正 毅 印

隆熙四年八月二十二日

内閣總理大臣 李 完 用 印

同日舊韓國皇帝ハ舊韓國臣民ニ對シ左ノ勅諭ヲ發セラレ曰ク

朕否徳ニシテ艱大ナル業ヲ承ケ臨御以後今日ニ至ル迄維新ノ政令ニ關シ亟圖シ備試シ用力未タ嘗テ至ラズンハアウスト雖山來積弱ヲ爲シ疲弊極處ニ至ル時日尙ニ挽回ノ措置望ナシ晝夜憂慮深後ノ鏡茫然タリ此ニ任シ支離益々甚シクレバ自ラ終局拾收シ得サルニ慮ラン寧ロ大任ヲ人ニ託シ完全ナル方法ト革新ナル功效ヲ發セシムルニ如カス故ニ朕於是置然内ニ省ミ廓然自ラ斷シ茲ニ韓

第一章 韓國併合顛末

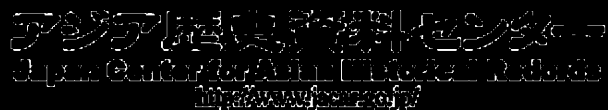
國ノ統治權ヲ從前ヨリ親信依仰シタル隣國大日本皇帝陛下ニ讓與シ外東洋ノ平和ヲ鞏固ニシ内八
域ノ民生ヲ保全セントス惟フニ爾大小臣民國勢ト時宜トヲ深察シ煩擾スルコト勿ク各々其ノ業ニ
安シ日本帝國ノ文明新政ニ服從シ幸福ヲ共受セヨ朕ノ今日ノ此ノ舉ヤ爾有衆ヲ忘ル、ニ非ス唯
爾有衆ヲ救活セントスルノ至意ニ出ツ爾臣民等ハ朕ノ此ノ意ヲ克ク體セヨ

ト以テ兩國素志ノ相融和セルヲ見ルヘク何等ノ騷擾ヲ見ルコトナクシテ併合ノ事成リ面積一萬四千
百二十三方里ノ領土ハ新ニ附加セラレ韓國ヲ改メテ朝鮮ト稱シ朝鮮總督ヲ置キ天皇ニ直隸シ委任ノ
岡内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ階級ノ政務ヲ統轄セシメラル茲ニ於テ寺内統監ハ朝鮮總督ニ任セラ
ルト同時ニ各地理事官ニ訓令ヲ發シテ經營指導宜シキヲ得、施政ノ効果ヲ舉グルニ遺漏ナカラジメ
ンコトヲ期セリ其ノ訓令ニ曰ク

本日公布ノ併合條約ニ依リ韓國ハ帝國ニ併合セラレ自今朝鮮ト改稱シテ帝國領土ノ一部トナリ城
内ノ人民ハ悉ク帝國ノ治下ニ立テ政令是ヨリ一途ニ出テ皆皇化ノ惠澤ニ浴スヘシ然レトモ朝鮮現
時ノ狀態ハ未タ全ク帝國内地ト同シカラサルモノアリ故ニ帝國法令ニシテ直ニ朝鮮ニ適用セラル

ルモノノ外併合ノ結果朝鮮ニ於テ効力ヲ失フヘキ帝國法令及韓國法令ハ爾後總督ノ命令トシテ其
ノ効力ヲ存續シ將來時勢ノ進退ニ從ヒ漸ク逐テ改修ヲ加フヘシ居留民間ハ元來外國ニ住居スル帝
國臣民ノ設立スル團體ニシテ朝鮮カ帝國ノ版圖ニ歸シタル以上ハ自然地方行政機關ニ編入セラ
ルヘキモノナリト雖今俄ニ之ヲ廢止スルニ便ナラサル事情アルニ依リ暫ク其ノ存在ヲ認メ將來之ニ
代ルヘキ地方制度ノ完成ヲ待テ其ノ整理ヲ爲サシムヘシ又韓國及外國間ノ諸條約ハ消滅ニ歸シ帝
國及外國間ノ諸條約ハ事情ノ許ス限リ朝鮮ニ適用セラレ該條約國ノ臣民及人民ハ帝國内地ニ於ケ
ルト同様ノ權利及特典ヲ享有スルト共ニ總テ帝國ノ法權ニ服從スルコト、ナリ隨テ朝鮮ニ在留ス
ル外國人ニ係ル訴訟事件ハ之ヲ帝國裁判所ニ於テ管轄スルコト恰モ他ノ一般人民ニ關スル場合ト
同一ナルヘシ關稅ニ至テハ之ト稱其ノ事情ヲ異ニシ今直ニ帝國ノ關稅法又ハ協定稅率ヲ適用スル
トキハ當ニ外國貿易ニ關連シ與フルノミナラス内國ノ經濟關係ニ對シ重大ナル影響ヲ及スヘキカ
故ニ帝國政府ハ當分ノ内總テ從來ノ慣例ヲ繼續スルコトニ決シ條約上ノ規定ニ拘ラス朝鮮ノ輸
入貨物ニ對シテハ從來ト同率ノ關稅ヲ課シ又帝國内地ト朝鮮トノ間ニ出入スル貨物ニ付テモ從來

第一章 韓國併合願末



ト同率ノ移出入税ヲ課スルコトト爲セリ
 元來併合ノ趣旨タルヤ兩國相合シテ一體ト爲リ彼我ノ差別ヲ撤去シ相互全般ノ安寧幸福ヲ増進セ
 ムトスルニ外ナラス然ルニ之ヲ以テ強弱兩國ノ成敗ト爲シ驕慢自ラ持シ輕浮ノ言行ニ出ツルカ如
 キコトアラハ是レ實ニ其ノ本旨ヲ没却スルモノト謂フヘシ從來本邦ノ居留民ハ多クハ異郷ニ僑居
 スルノ想ヲ爲シ勸モスレハ自ラ高ウシテ他ヲ蔑視スルノ弊アリ若今日ノ改革ニ際シ一層僑民ノ心
 ヲ增長シ新附ノ人民ニ浸透チ加フルカ如キコトアラハ却テ彼等ノ惡感隔意ヲ招キ事毎ニ杆格ヲ生
 シ將來永ク相融和スル機ヲクシテ遂ニ不測ノ禍ヲ醸スニ至ルヘシ今幸ニ此ノ更始一新ノ時ニ會ス
 宜シク其黨想前慮チ一變シ新附ノ領民ハ即我方同胞タルコトヲ念ヒ之ニ接スルニ同情ヲ以テシ之
 ヲ待ツニ友誼ヲ以テシ相提携シテ處世ノ事ニ從ヒ以テ國家ノ隆昌ニ貢獻スルコトニ努ムルヲ要ス
 貴官ハ以上ノ趣旨ニ基キテ管下一般ノ居住民ヲ指導シ將來施政ノ効果ヲ擧グルニ於テ遺憾ナキコ
 トヲ期セラルヘシ

明治四十三年八月二十九日

統監 子爵 寺内 正毅

又總督ハ朝鮮上下ノ民衆ニ諭告シ施政ノ綱領ヲ示シテ曰ク

淑聖文武 天皇陛下ノ大命ヲ奉シ本官今ヤ朝鮮統轄ノ任ニ膺ルニ際シ茲ニ施政ノ綱領ヲ示シテ朝
 鮮上下ノ民衆ニ諭告ス

夫レ疆域相接シ休戚相倚リ民情亦昆弟ノ誼アルモノ相合シテ一體ヲ成スハ自然ノ理必至ノ勢ナリ
 是ヲ以テ大日本國 天皇陛下ハ朝鮮ノ安寧ヲ確實ニ保障シ東洋ノ平和ヲ永遠ニ維持スルノ緊切ナ
 ルヲ念ヒ前韓國元首ノ希冀ニ應シ其ノ統治權ノ讓與ヲ受諾シ給ヒタリ自今前韓國ノ皇帝陛下ハ昌
 德宮李王陛下ト稱セラレ皇太子ハ王世子トナリテ後嗣長ヘニ相繼承シ萬世無窮タルヘク大帝皇陛
 下ハ德壽宮李太王陛下ト稱セラレ皇族ノ禮遇ヲ賜ハリ其ノ秩俸ノ豐厚ナル皇位ニ在スノ時ト
 異ル所ナカルヘシ朝鮮民衆ハ盡ク帝國ノ臣民ト爲リ 天皇陛下撫育ノ化ヲ被ハリ長ヘニ深仁厚德
 ノ惠澤ニ浴スヘシ殊ニ忠順ニ新政ヲ翼賛スル實長ハ其ノ効勞ニ準シ榮爵ヲ授ケラレ恩金ヲ賜ハリ
 又其ノ材能ニ應シ帝國ノ官吏トシテ或ハ中樞院議官ノ班ニ列セラレ武ハ中央若ハ地方官廳ノ職員
 ニ登用セララルヘシ



又班廣衛生ノ善者ニシテ恭謙能ク庶民ノ仰表タル者ニハ尙齒ノ恩典ヲ與ヘラレ孝子節婦孺黨ノ模範タル者ニハ褒賞ヲ賜リ以テ其ノ德行ヲ表彰セラルヘシ畿ニ地方官吏ノ職ニ在リ國稅欠進ノ行爲アリタル者ハ其ノ責任ヲ解除シ特ニ其ノ未勘金ノ完納ヲ免セラルヘシ又從前法律ニ違反シタル者ニシテ其ノ犯罪ノ性質特ニ惡劣スヘキ者ニ對シテハ一律ニ大赦ノ特典ヲ與ヘラルヘシ

如令地方ノ民衆積弊ノ餘孽ヲ受ケ或ハ業ヲ失ヒ產ヲ傾ケ又甚シキハ流離饑饉ニ瀕スル者アリ依テ先ツ民力ノ休養ヲ圖ルノ急務ナルヲ認メ隆熙二年度以前ノ地稅ニシテ今尙未納ニ係ルモノハ之ヲ免除シ隆熙三年以前ノ貸付ニ係ル社穀ハ其ノ還納ヲ特免セシメ且本年秋季ニ徵收スヘキ地稅ハ特ニ其ノ五分ノ一ヲ輕減シ更ニ國幣約一千七百萬圓ヲ支出シ之ヲ十三道三百二十有餘ノ府郡ニ配與シ以テ士民ノ授産、教育ノ補助並凶歉ノ救濟ニ充テシムヘシ是皆斯ノ更始一新ノ時ニ方リ惠撫慈養ノ聖旨ヲ昭ニスル所以ナリ然リト雖國政ノ利溥チ蒙ル者其ノ分ニ應シテ國費ヲ負擔スルハ天下ノ通則ニシテ古今東西皆然ラサルハ莫シ故ニ克ク道般救恤ノ本旨ヲ體シ或ハ恩ニ徂レテ奉公ノ心ヲ失ハサランコトヲ期スヘシ

凡ソ政ノ要ハ生命財產ノ安固ヲ圖ルヨリ急ナルハ莫シ蓋シ殖産ノ方興業ノ途之ニ次テ振作スルヲ得ヘケレハナリ從來不逞ノ徒頑迷ノ輩遐邇ニ出沒シ或ハ人ヲ殺シ財ヲ掠メ或ハ非謀ヲ企テ騷擾ヲ得ス者アリ是ヲ以テ帝國ノ軍隊ハ各道ノ要所ニ駐屯シテ時變ニ備ヘ憲兵警官ハ普ク郡縣ニ互リテ專ラ治安ノ事ニ從ヒ又各地ニ法廷ヲ開キテ公平無私ノ審判ヲ下ズニ努ム是固ヨリ奸兇ヲ懲罰シ邪曲ヲ芟除セムカ爲ナリト雖畢竟國內全般ノ安寧秩序ヲ維持シ各人ヲシテ其ノ堵ニ安シテ業ヲ營ミ庶ナ治メシメムトスルニ外ナラス

今朝鮮ノ地勢ヲ通觀スルニ其ノ南土ハ肥沃ニシテ農桑ニ適シ其ノ北地ハ樞子礦物ニ富ミ内河外海亦魚介多シ遺利餘澤ノ獲收スヘキモノ鮮少ナリトセス其ノ開發ノ方法宜シキヲ得ハ産業ノ振作期ニ待テシヘシ而シテ産業ノ發達ハ主トシテ運輸機關ノ完成ニ俟タサルヘカラス是事ヲ創メ業ヲ起スノ階梯ナレハナリ今道路ヲ十三道ノ各地ニ開キ鐵道ヲ京城元山間及三南地方ニ新設シ漸ク以テ全土ニ及ボサムトス斯ノ如クニシテ大成ヲ將來ニ期スルト共ニ其ノ開發敷設ノ工程ニ於テ衆民ニ生業ヲ興ヘ其ノ窮乏ヲ拯フノ一助タルヘキヲ疑ハス朝鮮古來ノ流弊ハ奸惡難逆唯利ヲ以テ相爭フ

第一章 韓國併合願末



ニ在リ是ヲ以テ一黨勢ヲ得レハ忽チ他派ヲ殺ハムトシ一派方ヲ占ムレハ輒チ他黨ヲ併サズトシ
頑排其ノ窮極スル所ヲ知ラス終ニ盡テ破リ家ヲ亡ホス者動シトセ是尺審アリナサニ爾後
黨ヲ併テ社ヲ結ヒ徒ニ軋擧妄動ヲ事トスルカ如キコトアルヘカラス但シ政令洽ク下ニ及ハス民庶
動モスレハ上ニ達セシテ上壓下怨ノ弊ヲ醸スハ古今其ノ例ニ乏シカラス依テ市權院ノ規模ヲ擴
張シ老成ノ賢良ヲ網羅シテ其ノ職官ニ列シ重要ナル政務ノ諮詢ニ應セシメ又各道及各府郡ニハ參
與官又ハ參事ノ職ヲ設ケ能士俊材ヲ登用シテ之ニ充テ其ノ智識ヲ徵シ其ノ職策ニ聽キ以テ政令ト
民情ト相抵牾スル所ナカラントナ期ス
凡ソ人生ノ憂患ハ疾病ヨリ酷シキハ莫シ從來閉鎖ノ醫術ハ未ダ幼穉ノ域ヲ脱セズシテ以テ痛苦ヲ
救ヒ天壽ヲ益リセシムルニ足ラズ是故モ痛嘆スヘキ所ナリ曩ニ京城ニ中央醫院ヲ開キ又全州清州
及咸興ニ慈惠醫院ヲ設ケテ以來榮庶ノ其ノ恩波ヲ蒙ル者極メテ多シト雖未ダ全土ニ普及セサルヲ
遺憾トシ既ニ令ヲ發シテ更ニ各道ニ慈惠醫院ヲ増設セシメ名醫ヲ置キ良藥ヲ備ヘ汎ク起死回生ノ
仁術ヲ施サシメムトス

願フニ人文ノ發達ハ後進ノ教育ニ俟タサルヘカラス而シテ教育ノ要ハ智ヲ進メ徳ヲ磨キ以テ修身
齊家ニ資スルニ在リ然ルニ諸生動モスレハ勞ヲ厭ヒ逸ニ就キ徒ニ空理ヲ談シテ放漫ニ流レ終ニ無
爲徒食ノ遊民タル者往々ニシテ之レ有リ自今宜シク其ノ弊ヲ矯メ罪ヲ去リ實ニ就キ懶惰ノ陋習ヲ
一洗シテ勤儉ノ美風ヲ涵養スルコトニ努ムヘシ
信教ノ自由ハ文明列國ノ均シク認ムル所ナリ各人其ノ崇拜スル教旨ニ倚リ以テ安心立命ノ地ヲ求
メムトスルハ固ヨリ其ノ所ナリト雖宗派ノ異同ヲ以テ漫ニ紛爭ヲ賦ミ又ハ名ヲ信教ニ藉リテ明ニ
政事ヲ議シ若ハ異圖ヲ企テムトスルカ如キハ即チ瓦俗ヲ荼毒シ安寧ヲ妨害スルモノナルヲ以テ當
ニ法ヲ案シテ處斷セサルヘカラス然レトモ儒佛諸教ト基督教トヲ間ハス其ノ本旨ハ畢竟人心世態
ノ改善ニ在ルカ故ニ固ヨリ施政ノ目的ト背馳セサルノミナラス却テ之ヲ裨補スヘキモノタルヲ疑
ハス之ヲ以テ各種ノ宗教ヲ待ツニ蒙モ親疎ノ念ヲ挾マサルハ勿論其ノ有教傳道ニ對シテハ適當ナ
ル保護便宜ヲ與フルニ吝ナラサルヘシ
本官今 聖旨ヲ奉シテ此ノ地ニ花ムヤ一ニ治下生民ノ安寧幸福ヲ増進セムト欲スルノ外他念アル



ナシ是レ玆ニ尊々トシテ其ノ遺從スヘキ所ヲ諭示スル所以ナリ尙漫ニ妄想ヲ逞リシ故テ施設ヲ妨
 碍スル者アラハ斷シテ假借スル所ナカルヘシ若シ夫レ忠誠身ヲ持シ謹慎法ヲ守ルノ良士順民ニ至
 ヲテハ必ス皇化ノ惠澤ニ霑ヒ其ノ子孫亦永ク恩波ニ浴スヘシ爾等恪テ新政ノ宏猷ヲ奉體シテ荷
 邁フ所アル勿レ

明治四十三年八月二十九日

統 監 子爵 寺 内 正 毅

三

斯クテ併合ノ事成レリト雖 天皇陛下ハ深ク前後ノ事ヲ軫念シ給ヒ併合條約第三條及第四條ニ依リ
 併合ノ後ト雖前韓國皇帝及其皇室各員ハ其ノ地位ニ應シ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有スヘク前
 韓國皇帝ヲ冊シテ王ト爲シ昌德宮李王ト稱シ嗣後此ノ隆錫ヲ世襲シ以テ其ノ宗祀ヲ奉セシメ皇太子
 及將來ノ世嗣ヲ王世子トシ太皇帝ヲ太王ト爲シ德壽宮李太王ト稱シ各其儲臣ヲ王妃、太王妃又ハ王
 世子妃トシ尊待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ特ニ殿下ノ敬稱ヲ用井シメ李家ノ子孫ヲシテ福履ヲ増綏シ永
 ク休祉ヲ享ケシムヘキコトヲ宣シ給ヒ又李王ノ懿親李嫔及李嬪ヲ以テ公トシ其配臣ヲ公妃トシ尊待

ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ殿下ノ敬稱ヲ用キシメ子孫ヲシテ其榮錫ヲ世襲シ永ク寵光ヲ享ケシメラレ且
 其ノ皇位ニ在リシ時ト同一ノ歳費ヲ與ヘラル
 而シテ條約第五條ニ依リ勳功アル朝鮮人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スナ適當ナリト認メタルモノニ對シ榮
 爵ヲ授ケ且恩賜金ヲ下賜セラルヘキヲ定メ朝鮮貴族令ヲ發布セラレ本令ニ依リ十月七日勳功者ノ貴
 族ニ列セラレタルモノ七十六名ニ及ヘリ而モ聖恩ノ優渥ナル管ニ李家及勳功者ノミニ止ラス更ニ赤
 子ヲ體卹スルノ意ヲ昭示シ給ヒ重刑階級ノ罪囚中情狀ノ惘涼スヘキモノニ對シテハ特ニ大赦ヲ行ヒ
 且積年ノ進租及當年ノ租稅ハ之ヲ減免シ給ヘリ囚人ニシテ此ノ恩惠ニ浴シタルモノ一千七百十七人
 ニ及ヘリ
 又貴族及功勞者並其ノ遺族、勳任、發任、判任ノ官吏ニシテ恩賜金ノ下賜ニ與リタルモノ三千六百
 四十三人、又寡族、備生ノ耆老ニシテ恭廉能ク庶民ノ師表タル者ニハ尙齒ノ恩典ヲ與ヘラレ其ノ寡
 ニ浴セシモノ一萬二千三百餘人又孝子節婦鄉黨ノ模範タル者ニハ褒賞ヲ賜ハリ鰥寡孤獨情ノ感勵ス
 ヘキ者ニ對シテハ賜金ヲ惠マセラレ其ノ恩典ニ與カリタル者孝子節婦三千二百九人鰥寡孤獨七萬九

第一章 韓國併合顛末



鎮南浦等ノ港灣ヲ始メトシ鋪地頗ル多シ

鎮南浦等ノ港灣ヲ始メトシ鋪地頗ル多シ
續テ朝鮮ノ地勢ヲ見ルニ北境ニハ長白山脈蜿蜒トシテ東北ヨリ西南ニ延ビ不安威鏡兩道ノ境ヲ劃シ
テ江原道ニ入り東海岸線ニ平行シテ南方ニ駛走シ以テ牛島ノ脊梁骨ヲナス此ノ如ク大山脈東方ニ偏
在スルヲ以テ山脈以東ノ地ハ斜面急峻ニシテ殆ンド平野ト稱スベキモノナク從ツテ江河ノ大ナルモ
ノナシ之ニ反シ山脈以西ハ比較的緩ナル斜面ヲナシ平野處々ニ少ナカラズ鴨綠江大同江漢江錦江洛
東江等其ノ間ニ榮流シテ舟楫ノ便灌溉ノ利アリ地味概シテ豊饒ナリ

二 氣候

氣候 氣温ハ年平均釜山地方ハ攝氏十三度餘ニシテ漸次北方ニ遷滅シ京仁地方及元山地方ハ十度餘
又龍岩浦地方及城津附近ハ八度内外ニシテ北緯内陸ハ五度乃至四度トナル之ヲ本土ニ比較スレバ南
岸ハ福井地方ニ中部ハ信濃地方ニ比スベク北緯ノ沿海地方ハ兩館地方ニ其ノ内陸高原ハ恰モ北海道
内陸ト相似タリ而シテ年中最暖ナルハ八月最寒ナルハ二月ニシテ其ノ差南部ハ二十三度中部ハ二
十七八度北部ハ三十二度内外ナリ本州ニ在リテハ中部ノ沿岸地方ハ其ノ差概テ二十一二度内陸ハ二

十四五度北海ハ左ノ如シ()ヲ附セルハ氷點下ノ温度ヲ示ス

	高極	低極	高極	低極
本浦	三四、一	()一二、五	釜山	三三、六
木邱	三七、八	()一四、五	仁川	三四、六
京城	三五、六	()一九、九	平壤	三五、五
元山	三八、二	()一九、二	龍岩浦	三三、六
城津	三五、五	()二二、〇		()二六、三

即チ暖極ハ四岸及南岸ハ三十四度内外其他ニ在リテハ三十五度乃至三十八度ニ達ス斯ノ如キ暑氣ハ
本土ニ在リテハ到所ニ遭遇スル所ナルモ寒氣ニ於テハ零下十五度ニ達スル事アルハ美濃地方乃至福
島山形地方同二十度以下ニ下ルハ北海ノ各地ニシテ更ニ零下三十度下ニ降ルハ北海内陸ノ十勝上川
地方ニ間々起ルノミ故ニ寒氣ニ於テハ本土ノ各地ニ比シ稍ヤ甚シキヲ見ル氣温晝夜ノ差モ亦稍著シ
ク中部以内ノ沿岸ハ八度内外ニシテ中部ノ内陸ハ十三度餘北部ノ内陸高原ニ於テハ十七度ニ達スル

風 全半島ヲ通シテ季節風ノ勢力卓越スルヲ以テ主風ノ方向ハ季節ニ由リ略ホ一定セリ即チ十月ヨリ四月迄ハ北乃至北西風ニシテ六月ヨリ八月マテハ一般ニ南東風ナリ雨季節風ノ交代期ナル五月及九月前後ハ風向區々ニシテ一定セズ又西岸及南岸ハ冬季ノ北西風ヲ受クルガ故ニ此ノ季節ニ於テ風力殊ニ強ク之ニ反シ東岸ハ朝鮮山脈ニ遮キラル、ニヨリ極シテ弱シテ冬季大陸方面ニ高氣壓ノ發達セル時ニ際シ適々日本海方面ニ低氣壓ノ通過スルモノアルトキハ強烈ナル北乃至北西風ヲ起スト共ニ氣溫頓ニ下リ甚シキ時ハ前日トノ差十度以上ニ達スル事アリ然レトモ氣壓ノ配布當ニ復シ高氣壓ノ衰退スルト共ニ風力減シ寒氣亦退クシ以テ冬季ニ於テハ寒暖ノ日交錯スルヲ常トス但俗ニ三寒四溫ノ語アルハ蓋シ之ヲ謂フナリ

雨霰 雨霰ノ年數ハ半島ノ大部分ハ八百乃至千耗ニシテ南岸ハ之ヨリモ多ク釜山地方ハ千四百耗ニ達ス又東岸ニ於テ元山附近ニモ亦多ク千五百耗ニ達ス蓋シ此ノ地方ハ半島ニ於テ最多雨地方ナリ而シテ北部内陸高原地方ニ在リテハ六百耗内外ニ過ギズ之ヲ本土ニ比スレバ南岸地方ハ略ホ瀬戸内地

方ニ比スベク元山地方ヲ除ク中部以南ハ信濃及兩毛地方ト相似タリ既ニ氣溫ニ於テ酷似シ氣候モ亦能ク相似タルニ見ルモ近年蠶桑ノ半島ニ適スルヲ稱道セラルル所以ノモ決シテ偶然ニアラザルヲ知ルベク而シテ北部寒雨ノ地方ハ本土ニ於テハ之ニ比スベキ地方ナシ然レトモ半島ニ於テハ季節ニ由ル降雨ノ差異著シク十月ヨリ三月ニ至ル乾燥期ニ際シテハ其ノ量極メテ少ク此ノ六個月間ノ合計ハ降雨期一箇月ノ量ニモ充タス之ニ反シ六月ヨリ八月ニ至ル間ニ雨量ノ大部分ヲ降下スルヲ常トス故ニ北部地方ト雖モ降雨期ノ量ヲ以テ比較スルトキハ北海道地方ト較テ讓ラサルヲ見ル斯ク冬季ノ量寡少ナルヲ以テ北部ニ於テモ積雪ハ甚々少ク雨天日數ハ概シテ百日内外ニシテ南岸及元山地方ハ百三十日内外ニ達ス降雨期ニ於テハ月ノ三分ノ一以上ヲ算スル事アルモ概シテ降雨ノ時間短ク本土ニ於ケルカ如ク霖雨數日ニ涉ルカ如キハ殆ント見サル所ナリ

蒸發 斯ノ如ク雨量妙ク空氣乾燥シテ且日照多キヲ以テ蒸發量ハ甚々多シ年量ハ北部八千耗餘西岸ハ千四百耗餘南岸ノ釜山地方ハ千五百耗餘ナリ本土ニ於テ蒸發量ノ多キ瀬戸内地方ト雖半島ノ蒸發量少ナル地方ト相匹敵スルノヨリ四岸地方ニ於テ天日製鹽業ノ著々效ヲ奏シツアル洵ニ所以アリト



云フヘン面シテ東岸ノ西岸ニ比シテ繁盛ノ少キハ前述ノ如ク同地方ノ風力弱キモ其ノ一原因ナラン
 隣 朝鮮近海ノ濃霧ハ日露戰役以來世人ノ注意スル所トナリシカ濃霧ハ半島ノ東西沿岸ヲ流ルル所
 ノ暖流方面ニ於テ三月ヨリ八月ニ至ル間ニ屢起リ殊ニ七八月ニ最頻繁ナリ濃霧ノ一度襲來スルトキ
 ハ冥濛トシテ所謂咫尺ヲ辨セサル程ニシテ其ノ甚タシキモノハ三晝夜ニ涉リテ衰退セサル事アリ之
 カ爲メニ船舶ノ航行ヲ妨ケラルル事尠ナカラス
 從來半島ノ事情ニシテ内地人ニ觀傳セラレタルモノ尠ナカラス氣候ノ如キモ其ノ一ニシテ朝鮮全土
 ナリテ寒暑共ニ酷烈ナリトナシ又ハ雨量寡小ニシテ農耕ニ適セストナスカ如キ既チナスモノ間々ア
 リ然レトモ從來ノ實測ハ念ク然ラサルヲ示スノミナラス却テ本土ノ或地方ニ比スレハ居住ニ適順ニ
 シテ且農業ニモ佳良ナルハ近來ノ實績ニ徴シ明白ナリ況ンヤ暴風ノ如キ本土ニ比シ極メテ尠ナク稍
 強烈ナルモノハ年ニ二回ニ過キヌ又本土ノ如ク震災ノ怖ルヘキモノナク實ニ天然ノ樂土ト稱スヘ
 キナリ

三人 口

明治四十四年六月末日ノ調査ニ據レハ現在内地人戸數ハ各道ヲ通シテ五萬七千五百四十五戸、人口
 十九萬三千六百七十五人朝鮮人戸數二百七十九萬二千五百五十九戸人口一千三百五十三萬九千二百十八人
 外國人戸數三千五百三十九戸人口一萬四千六百五十五人ナリ左ニ各道別表ヲ掲グ

(甲) 内地人 (イ) 現住内地人

道名	戸數	人		計
		男	女	
京畿道	一七、一六三	三一、九四三	二七、九〇〇	五九、八四三
忠清北道	一、一〇四	一、八一六	一、三三九	三、一五五
忠清南道	二、七二八	四、七三〇	三、九四九	八、六八三
全羅北道	二、五六六	四、七七〇	三、九二二	八、六九二
全羅南道	三、二〇二	六、〇二三	四、六七〇	一〇、六九三
慶尙北道	三、七〇三	六、五〇六	五、三二三	一一、八二九
慶尙南道	二、九八七	二四、九九五	二一、八四四	四六、八三九
江原道	九一〇	一、七〇六	一、〇三四	二、七四〇

第二章 地誌



第二章 地點

本籍	北海道		東 京 府		大 阪 府		神 奈 川 縣		兵 庫 縣		長 崎 縣		新 潟 縣		埼 玉 縣	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
道 京 畿	1,053,371	883,304	1,053,371	883,304	1,053,371	883,304	1,053,371	883,304	1,053,371	883,304	1,053,371	883,304	1,053,371	883,304	1,053,371	883,304
北 道 清	575,545	483,304	575,545	483,304	575,545	483,304	575,545	483,304	575,545	483,304	575,545	483,304	575,545	483,304	575,545	483,304
南 道 清	92,751	78,792	92,751	78,792	92,751	78,792	92,751	78,792	92,751	78,792	92,751	78,792	92,751	78,792	92,751	78,792
北 道 全 羅	43,405	37,000	43,405	37,000	43,405	37,000	43,405	37,000	43,405	37,000	43,405	37,000	43,405	37,000	43,405	37,000
南 道 全 羅	7,122	6,033	7,122	6,033	7,122	6,033	7,122	6,033	7,122	6,033	7,122	6,033	7,122	6,033	7,122	6,033
北 道 慶 尙	70,145	59,023	70,145	59,023	70,145	59,023	70,145	59,023	70,145	59,023	70,145	59,023	70,145	59,023	70,145	59,023
南 道 慶 尙	12,455	10,532	12,455	10,532	12,455	10,532	12,455	10,532	12,455	10,532	12,455	10,532	12,455	10,532	12,455	10,532
道 黃 海	48,028	40,287	48,028	40,287	48,028	40,287	48,028	40,287	48,028	40,287	48,028	40,287	48,028	40,287	48,028	40,287
南 道 安	193,675	163,743	193,675	163,743	193,675	163,743	193,675	163,743	193,675	163,743	193,675	163,743	193,675	163,743	193,675	163,743
北 道 安	171,543	144,147	171,543	144,147	171,543	144,147	171,543	144,147	171,543	144,147	171,543	144,147	171,543	144,147	171,543	144,147
道 江 原	1,261,681	1,061,001	1,261,681	1,061,001	1,261,681	1,061,001	1,261,681	1,061,001	1,261,681	1,061,001	1,261,681	1,061,001	1,261,681	1,061,001	1,261,681	1,061,001
南 道 咸 鏡	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337
北 道 咸 鏡	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337	33,377	28,337
計	11,933,733	10,097,733	11,933,733	10,097,733	11,933,733	10,097,733	11,933,733	10,097,733	11,933,733	10,097,733	11,933,733	10,097,733	11,933,733	10,097,733	11,933,733	10,097,733

(P) 現住内地人本籍別

現住内地人戸口累年比較

年 次	戸 數		男 女		平 均 一 戸 二 付 人 口	
	男	女	男	女	男	女
明治四十四年六月末日	5,755,450	4,833,040	5,755,450	4,833,040	33.7	33.7
同四十三年十二月末日	5,099,932	4,275,121	5,099,932	4,275,121	33.6	33.6
同四十二年十二月末日	4,340,500	3,700,000	4,340,500	3,700,000	33.7	33.7
同四十一年十二月末日	3,712,200	3,033,000	3,712,200	3,033,000	33.7	33.7
同四十年十二月末日	2,802,800	2,366,600	2,802,800	2,366,600	34.0	34.0
同三十九年十二月末日	2,213,300	1,833,300	2,213,300	1,833,300	34.1	34.1

道 道	戸 數	男	女	平 均 一 戸 二 付 人 口
平 安 道	3,928,800	4,010,000	7,118,800	5,979
平 安 道	2,398,800	2,935,000	5,843	6,853
咸 鏡 道	1,919,000	2,280,000	5,215	8,721
咸 鏡 道	2,440,000	4,687,000	7,315	7,315
計	5,755,450	5,843,000	11,933,733	34.1

第二章 地誌

七七

道名	戸數	人口		計
		男	女	
京畿道	三九六,五四〇	七三七,四九五	六七八,六一一	一四一六,一〇六
忠清北道	二二〇,六七三	三三〇,八八九	二六九,九〇〇	五八〇,七八九
忠清南道	一九五,七六五	四七三,九〇三	四三三,六四四	八九五,五四六
全羅北道	二〇五,七九九	五二二,六一五	四五〇,九六六	九六三,五八一
全羅南道	三三三,八六三	八二七,四六九	七五三,四二二	一五八〇,八九一
慶尙北道	二九七,一〇三	八五九,〇五三	七六五,五二六	一六二四,五六九
慶尙南道	二六六,七二二	七五二,五四七	六八九,二〇四	一四四二,六五一
黃海道	二六六,七二二	四四九,九七三	三六八,七二二	八一八,七〇〇

(乙) 朝鮮人

總計	沖繩縣		鹿兒島縣	
	男	女	男	女
九,〇〇〇	九,〇〇〇	九,〇〇〇	九,〇〇〇	九,〇〇〇
...

道名	朝鮮人	
	男	女
宮崎縣
熊本縣
佐賀縣
大分縣
福岡縣
愛媛縣
香川縣
德島縣
和歌山縣
山口縣
廣島縣

朝鮮ハ曾テ建國以來二千年ノ歴史ヲ有スル舊邦ナリシモ所謂都府ト稱スヘキモノハ京城、平壤、開

四 重要ナル市街地

總計	四	丁	端
計家木 族業	計家木 族業	計家木 族業	計家木 族業
九六	四七		
四一九	二四五		
四二四	一六九		
五五七七	二一七		
八一八	四〇三		
一九七五	一、三三三		
八二	三五		
五六九三	四、八一五		
一四、六五五	一〇、三四八		

土	加	漆	葡	白
計家木 族業	計家木 族業	計家木 族業	計家木 族業	計家木 族業
				三 - 二
	三三九	七五二		
八	八	八		
八	三三九	七五二		三 - 二

城、水原等ニシテ就中京城、奉天ヲ除キ他ハ殆ト收積ニ歸シタリ然ルニ日清日露兩戰役ヲ經テ日本
 人ノ移住額ニ増加シ仁川釜山ヲ始メ其ノ他ノ開港場ハ整然タル市街地トナリ京釜京仁兩鐵道ノ開通
 以來沿線各地ニ漸次發展ノ歩武ヲ進ムルニ至レリ明治廿九年統監府開設セラレ居留民團法實施セラ
 ルルニ及リ京城、仁川、釜山、平壤、鎮南浦、蔚山、木浦、馬山、元山、大邱、新義州ノ各地ニ居
 留民團ノ設置ヲ見ルニ至レリ京城仁川平壤釜山木浦等ニハ水道ノ設置アリ鎮南浦ハ客年ヨリ四箇年
 計番ニテ日下經營中ナリ

重ナル集團地ヲ舉グレハ京釜鐵道沿線ニ於テハ京城、龍山、永登浦、仁川、水原、平澤、成歡、烏
 致院、江界、大田、永同、金泉、大邱、密陽、三浪津、馬山、釜山ニシテ京釜鐵道沿線ニ於テハ汝
 山、開城、新義、沙里院、黃州、兼三浦、中和、平壤、鎮南浦、定州、宣川、新義州、龍岩浦トナ
 シ沿岸ニ於テハ蔚山、木浦、元山、咸津、清津等トス

(イ) 三千人以上ノ居住地又ハ著名市街地現住戸口表 明治四十三年十二月末日

地名	内地人		朝鮮人		清國人		其他		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
京城府	1,234,567	678,901	12,345	6,789	1,234	567	1,234	567	1,356,789
仁川府	567,890	234,567	3,456	1,789	456	234	456	234	567,890
水原府	345,678	123,456	2,345	1,234	345	178	345	178	345,678
安城郡	234,567	98,765	1,234	678	234	123	234	123	234,567
江華郡	123,456	56,789	678	345	123	67	123	67	123,456
始興郡	98,765	45,678	567	289	98	56	98	56	98,765
開城郡	87,654	43,210	456	234	87	43	87	43	87,654
開州郡	76,543	38,901	345	178	76	38	76	38	76,543
清州郡	65,432	32,109	234	123	65	32	65	32	65,432
忠清道	54,321	27,654	123	67	54	27	54	27	54,321
永同郡	43,210	21,098	98	56	43	21	43	21	43,210
公州郡	32,109	16,543	67	34	32	16	32	16	32,109
懷德郡	21,098	10,876	56	28	21	10	21	10	21,098
大田郡	10,987	5,432	45	23	10	5	10	5	10,987
洪州郡	9,876	4,901	34	17	9	4	9	4	9,876

第二章 地誌

四五

ノ附近ニ密集シ爾業ヲ營ム者多シ
内地人ノ宗教ニ付テハ東西本願寺別院、日蓮宗、淨土宗、曹洞宗、眞言宗等各派ノ寺院アリ有数ニ從事ス基督教モ明治三十七年五月日本美以教會ノ設立セラレシヲ始メトシ日本基督教會、組合教會、聖公會等教會ヲ設ケ内地人ノ傳道ニ從事セリ尙非朝鮮人ノ宗教ニ關シテハ第十三章宗教ノ部ニ譲ル南大門市場ハ日韓入間ノ日用品商賣ヲ以テ有名ナリ内地人ノ商業繁榮セル地ヲ本町通（俗ニ泥鰂街ト稱ス）ト爲ス

電車ハ東大門外清涼里ヨリ西大門ヲ經麻浦ニ達シ鐘路ヨリ南大門ニ延ヒ龍山新蓄雨市街ニ達シ交通ノ便ヲ助グルコト大ナルモ街筋ハ一般ニ狹隘ニシテ本町通ノ如キハ肩輿搬運ノ状態ヲ呈スルヲ以テ道路改善、市區改正ノ要アリ電信、電話、電燈、瓦斯ノ設備ハ既ニ完成セリ

京城ニハ南山公園、德壽宮、昌德宮、景福宮、關帝廟、メコム公園、博物館、動物園等ノ名勝地アリ京城ヨリ各道驛所在地ニ到ル距離ヲ示セハ左ノ如シ

京城各道驛所在地間里程

地名	鐵道	陸路	水路	合計
公州(忠清南道)	八〇、八	六二、八		三九、〇三
清州(忠清北道)	八〇、八	四三、〇		三七、〇五
光州(全羅南道)	一〇三、九	五五、〇五		九七、二一
全州(全羅北道)	一〇三、九	二二、二五		六六、〇五
晉州(慶尙南道)	二六、八	八、二一	五三、〇	一四三、二三
大邱(慶尙北道)	一九、六七			八〇、〇八
海州(黃海道)	五四、一	二一、一三		四三、一四
春川(江原道)	一六四、〇	二二、〇〇		二二〇、〇〇
平壤(平安南道)	三一、七	四、三〇		六七、〇一
咸興(咸鏡南道)	三一、七	六四、二四		一三二、一六
鏡城(咸鏡北道)		六〇、一九	二四、〇七	一七四、〇二

龍山 京城ヨリ距ル里余、漢江ニ臨ム形勝ノ地ニシテ京城ノ間ハ電車汽車ノ往來頻繁ナリ、從來龍山 第二章 地誌 五三

山浦下稱シ漢江ノ舟楫ノ便アリ物貨輻輳ス明治四十三年七月龍山居留民團ハ京城居留民團ト合併セラル近ク駐劄軍司令部、鐵道局ノ移轉ニ因リ頓ニ繁榮ヲ來セリ、京釜、京義兩鐵道線ノ分岐點ニシテ又京元線ノ基點タリ

近時内地人續々移住シ股賑ニ向フ目下内地人約一萬小學校アリ一千餘ノ兒童ヲ收容ス、金融機關トシテハ百三十八銀行ノ出張所アリ

三永登浦 漢江ノ對岸ニ在ル一小驛ニ過キスト雖京釜、京仁線ノ分岐點タルヲ以テ漸次發展ノ途ニ在リ郵便局、監獄署、尋常小學校等ノ設備アリ、附近ヨリ農産物、糠瓦等ヲ産出ス

四仁川 京畿道西端ニ突出セル小半島ニ在リ月尾島、小月尾島、沙島等面前ニ横ハリテ内港ヲ圍ミ入尾島迄ニ外廓ヲ畫キテ外港ヲ爲ス港内水淺クシテ巨船ヲ入ル、ナ得ス殊ニ潮水ノ干満甚シクシテ大潮時ニハ其差三十二尺ニ及フ平安、黃海、京畿、忠清各道ノ貨物ヲ吞吐シ内地各港及滿州要港ト

ノ定期航海アルヲ以テ貿易ハ朝鮮ニ於ケル第一位ヲ占ム

内地人ノ居住スル者一萬千九百〇七人ニ達シ府廳、區裁判所(地方裁判所支部)居留民團、小學校、

女學校、病院等ノ設備アリ電燈、電話、水道等ノ施設亦完備セリ

仁川ヨリ諸要港ニ至ル航程ヲ擧ケルハ

蚕群山	一、二二	五神戶	二、六一	至大沽	五、三五
同木浦	二、七〇	同大坂	三、八一	同牛莊	四、三八
同益山	四、三二	同横濱	一、〇八九	同上	四、九三
同長崎	五、〇〇	同大連	二、八七	同浦	一、〇五〇
同	四、五九	同芝罘	二、七二	同沙	一、〇五〇

五水原 京城ヲ距ル南廿五哩ニ在リ京釜線ニ沿フ一都府ナリ、水原城ハ往時正祖大王ノ築ク所ニシ

テ三方繞スニ山ヲ以テシ壁ヲ以テ之ヲ抱ク今ヤ殆ト敗壞ニ歸セリト雖蒼龍、八達、華西等ノ遺跡アリ西方一帯ノ地ハ空漠タル平野ニシテ鬱蒼タル八達山ノ西麓浚タル西湖ノ汀ヘルアリテ風光雅ナ

リ此ノ地ニ朝鮮總督府勸業模範場アリ農産物ノ標本ヲ陳列シ種苗家畜ヲ培養シ一般希望者ノ觀覽ヲ許ス其ノ他區裁判所、警察署、農林學校植苗園等アリ目下居住セル内地人一、千五百五人アリ

六平潭、成敏、島致院 共ニ京釜線ニ沿ヒタル一小驛ニ過キサルヲ將來農業發展ノ地トシテ嚆目セ

第二章 地誌

ラハ平澤附近ハ平野ニシテ米、大豆ノ産出多シ雁、鴨、七面鳥、鶉、雉子等鳥類ニ富ミ狩客ノ遊ヲモシ多シ成獣ハ日清戦争ノ古戰場ニシテ平澤ト共ニ農産地トシテ將來有望ノ地ナリ同地ニハ小學校憲兵分遣所アリ

烏致院ハ忠清兩道及釜羅兩道ニ通スル要地ニ在リ附近ノ農産物ノ輻輳スル所ニシテ近時漸次發展ノ途ニ在リ内地人ノ居住セルモノ約七百人ニ上ル烏致院ニハ古來有名ノ市場アリ小學校、憲兵分遣所アリ

七六田 京釜線ニ於ケル大都ノ一ニシテ湖南線ノ分岐點ナリ物貨ノ集散スルコト大邱ニ次ク守備隊區裁判所、警察署、郵便局、小學校、興業會社等ノ設アリ

八清州、公州、江景、清州ハ忠清北道廳ノ所在地ナリ區裁判所(地方裁判所支部)警察署、守備隊アリ近時内地人ノ移住スルモノ多シ

公州ハ忠清南道廳所在地ニシテ三万山ヲ以テ蔽ハレ錦江其ノ北ヲ流ル京釜線ノ英江驛ニ下車シ輕舟ニ乗リ河ヲ下レバ僅ニ四時間ニシテ達スルヲ得ヘシ地味豊饒ニシテ農産ニ適シ内地人ノ居留者約九

百人ニ及ブ地方裁判所、區裁判所、警察署、小學校等アリ

江景モ亦忠清南道ニ在ル小都府ニシテ錦江ニ臨ミ舟楫ノ便アリ郡山トノ交通アルヲ以テ貨物集散シ朝鮮三大市場ノ一トシテ數ヘラル内地人ノ居住スル者約六百人ナリ

九大邱 慶尙北道ノ大都ニシテ京釜線中最大ノ驛ナリ嘗テ府城ノアリシ所ナルカ敗類シテ今ヤ其ノ跡ヲ留メズ市街ヲ距ル十餘町ニシテ遊城公園アリ山頂平坦眺望ニ富ム洛東江近ク流レテ舟楫ノ便アリ以テ釜山ニ達スルヲ得ヘシ

大邱一帯ノ地ハ空曠タル平野ニシテ土壤肥沃農産ニ適ス米、大豆、果樹、棉花、烟草等ヲ其ノ主要ナルモノトス而シテ大邱ハ釜山、京城ノ要路ニ當リ慶尙、全羅、忠清、江原諸道ヲ控ヘ且洛東江水運ノ便アルヲ以テ商業最盛ナリ大邱ニハ古來有名ノ市ニアリ一ハ四門ノ市ト云ヒ他ハ東門ノ市ト云フ

前者ハ陰曆三、七ノ兩日ニ開カレ後者ハ四、九ノ兩日ニ開カル市日ニハ附近ヨリ數千ノ鮮人相集合シ雜沓ヲ極ム尙ニ市ノ外ニ令市アリ朝鮮國政府時代ニハ毎年命令ヲ以テ春秋二季ニ五十日間ヲ限リテ開設セシム故ニ此ノ名アリ各道各郡ノ商賈引キモ切レテ看者列ヲナス異觀ナリ

第二章 地誌



内地人の數約八千五百ヲ算シ道廳、府廳、控訴院、地方裁判所、區裁判所、守備隊、警察署、居留民團、學校、郵便局、救急會等アリ

十密陽、三浪津、密陽ハ慶尙南道ニ在ル一小郡ニシテ三方ニ山ヲ負ヒ南方ノ一面遠ク平野ニ達シ漢川沿テトシテ其ノ間ヲ縫ヒテ流ル楡川ヨリ密陽ニ至ル沿岸ノ地風光明媚ト所少カラズ楡川ノ清流能ク結テ産ス近時農産地トシテ漸次開發セラレ内地人ノ移住スルモノ多シ三浪津ハ密陽ノ南洛東江ノ東北ニ在リ馬山鐵道線ノ岐ル、處ニシテ穀物、果實野菜ノ産地トシテ知ラル

十一馬山、三浪津ヨリ馬山線ニ乘スレハ一時間ナラスシテ馬山ニ達スヘシ馬山ハ慶尙南道ノ南端ニ位シ東ニ丘陵ヲ負ヒ巨濟島ヲ外廓トシテ鎮海灣其ノ前方ニ横ハリ、水深クシテ天然ノ良港ナリ殊ニ其ノ山水ノ明媚ナル觀者ヲシテ瀬戸内海ニ接セルノ感アラシム海路僅ニ四十里ニシテ釜山港アルヲ以テ商港トシテ振ハサレトモ軍事上要害ノ地トシテ朝鮮唯一ノ軍港ナリ開港トシテハ明治四十三年ヲ限リ閉鎖セラレタルモ釜山稅關長ノ特許ヲ受テ又ハ朝鮮開港ニ於テ稅關手續ヲ了シタル帝國船隻ハ特ニ出入スルコトヲ許サレ内地人ノ居住スル者四千六百五十五人ニ及フ府廳、區裁判所（地方

船舶所支那）居留民團、小學校、病院、警察署、銀行等アリ

十二釜山、朝鮮ノ南端ニ在ル良港ニシテ一葉帶水ヲ隔テ、對馬ヲ迎ヘ本土ト相對ス東南ハ海水深ク灣入シテ一大港灣ヲ形リ龜影島、冬柏島港口ニ横ハリ天然ノ防壁ヲナシ港内水深クシテ大船巨舶ヲ泊スヘシ、市街ハ龍頭山ヲ中心トシテ東西ニ廣カリ北草梁、釜山鎮ニ到ル釜山ハ早クヨリ内地ト交通アリタル所ナルヲ以テ内地人ノ移住セルモノ多ク殆ト内地市街ヲ見ル感アリ今ハ關釜ノ間ニハ毎日一回乃至二回ノ定期航海アリテ鐵道院其ノ任ニ當リ内地朝鮮間ノ聯絡ヲ保テ僅ニ二十時間ナラスシテ渡航シ得ヘシ、又釜山ヨリ内地要港朝鮮滿洲諸港及露領浦鹽ニ至ルノ航路アリ

釜山ノ貿易ハ朝鮮内地ノ發展及各港トノ航行頻繁トナルニ從ヒ年々増加シ其貿易高ハ朝鮮諸港中第二位ヲ占ム其ノ輸出品ノ重ナルモノハ米、大豆、鐵節、海苔、魚類、生牛、牛皮、牛骨、砂金等ニシテ輸入品ノ重ナルモノハ木綿、金巾、石油、食鹽、酒、烟草、醬油、燐寸、紡績糸、砂糖其ノ他雜貨類ニシテ其ノ輸出先ハ内地、清國、浦羅斯德、新嘉坡等ニシテ其ノ輸入地ハ日、清、米、英、露、獨、佛等ヲ主ナルモノトス



宏壯ナル釜山停車場新ニ成リ築港ノ設備著々進行シ關釜聯絡ノ施設益完成ノ感ニ向ヒ内地人ノ移住スル者逐年増加シ人口二萬二千有餘ニ上レリ

釜山ヨリ諸要港ニ至ル航程ヲ擧ケレハ

至下	一二二	至神	三六六	至大	三八六
同横	七一三	同仁	四三二	同浦	六四八
同長	一六二	同鎮	五八〇	同沽	七五〇
同木	二一〇	同安	六二七	同芝	五四〇
同馬	三九	同東	六四〇	同上	五〇五
同群	三五七	同大	四四二	同元	三一八
		津連	四四二	山	
		各港經由		海	
		山		架	
		山		沽	
		山		鹽	
		山		坂	

十三木浦 全羅南道ノ四南端ニ在ル良港ニシテ附近奇巖島嶼ニ富ミ、風光佳ナリ港内水深ク大船巨船ヲ碇繋スルニ足ル市街ハ諭達山ノ麓ニ在リテ小都ヲ爲シ商業繁榮ナリ榮山江灣ニ往ク沿岸一帯ノ地ハ沃野ニシテ農産物ヲ出ス木浦ト釜山、群山トノ間ニハ定期航路アリ、内地人ノ居住スル者三千四百五十人ニ及ヘリ府廳、區裁判所(地方裁判所支部)、居留民團、學校、警察署、郵便局等アリ

十四群山 木浦ト共ニ南鮮ニ於ケル貿易港ナリ、全羅北道ニ在ル小都ニシテ錦江ノ河口ニ在リ、江ハ舟楫ノ便アリテ上流公州、江景ヨリ遠スルコトヲ得ヘク全州道路ノ開通アリテ交通ノ便多キヲ以テ附近一帯ノ沃野ヨリ巨額ノ農産物此ノ地ニ輻輳ス釜山經由内地トノ定期航路アリテ著シク發展ノ途ニ在リ目下内地人ノ居住スル者三千六百二十二人ニ及ヒ府廳、區裁判所(地方裁判所支部)、警察署、居留民團、學校等アリ

十五開城 高麗朝四百七十年間ノ常都ニシテ一ニ松都ト稱ス、京城ノ北十六里ノ處ニ位セル京畿線ニ於ケル著名驛ノ一ナリ今ヤ著名ノ古城敗蹟ニ歸シ見ルヘキモノナシト雖高麗歷代ノ陵廟城外ノ屏壁古城ヲ覆フ樗若タル老樹等ハ徐ニ往時ヲ偲ハシムルモノアリ朝鮮名勝ノ地ナリ
開城ハ高麗朝ノ名産地トシテ知ラルトモ既ニ其ノ製法ノ傳ハラサルヲ久シ往時高麗朝時代ノ遺器殘陶ヲ見ルニ過キス近時傳ハルモノノ多クハ墳墓ヲ發掘シテ得タルモノニシテ頗ル高價ナリ又開城ハ人蔘ノ産地トシテ知ラル其ノ産出高ハ毎年二萬斤内外、價格約百萬圓ニ達ス其ノ他米穀、野菜、果物、大豆等ヲ産ス内地人ノ居住スル者一千四百十五人アリ區裁判所、警察署、學校、銀行、郵便局

第二章 地誌

等アリ

十六新幕、沙里院 新幕沙里院共ニ黄海道ニ在リ京義線ノ完成ニ伴ヒ發展シタル新開地ニシテ、
新幕ハ薪炭、米穀、大豆等ヲ産出シ新溪地方ノ産出物ニ集マリ内地商人ノ入り込ム者少ナカラス學
校、警察署、郵便局等アリ内地人六百三十有餘人アリ、沙里院附近一帯ノ地ハ空漠タル沃野ニシテ
米穀大豆等ノ農産頗ル多ク興業會社、銀行、學校、郵便局等アリ

十七黃州、兼二浦 黃州ハ京義線ニ沿フ一驛ニ過キスト雖内ハ多數ノ朝鮮人齎軒ヲ列ヘ市場頗ル
盛ナリ穀物ノ産アリテ近時邦人ノ移住スル者多シ黃州ハ兼二浦線ノ分岐點ニシテ、兼二浦線ニ投ス
レハ半時ニシテ兼二浦ニ達スルヲ得、兼二浦ハ鎮南浦ノ南十哩ノ所ニ在ル一港ニシテ航行ノ利アル
ヲ以テ物貨輻輳ス兼二浦、鎮南浦間ニハ一日數回ノ航行アリ近海ニ於ケル捕魚ハ多ク兼二浦ニ集マ
リシカ客年中平南線ノ開通ニ因リ平壤鎮南浦間ノ交通便トナリシヲ以テ兼二浦ハ近日ノ便益ヲ有セ
サルニ至レリ目下内地人六百二十人アリ學校、警察署、郵便局、鐵道工場等アリ

十八平壤 平壤ハ朝鮮ノ舊都ニシテ箕子及高句麗氏ノ據リシ處ニシテ東南大同江ニ臨ミ北方大城山
ヲ負ヘル頗ル要害ノ地ナリ此地ハ南京城へ五十里、北義州へ五十三里、東元山へ五十二里、西鎮南
浦へ十六里ノ地ニアリテ京城以北樞要ノ地ニ在リ京義鐵道完成シ大同江舟楫ノ便アルニ加フルニ客
年中平南線ノ開通ニ因リ鎮南浦港トノ交通開ケタルヲ以テ平壤ハ北鮮ニ於ケル物貨輻輳ノ中心トナ
レリ殊ニ平壤附近一帯ハ遠ク沙漠タル平野ニ連ナリ、加フルニ土壤豐沃ニシテ穀物ヲ産出シ平壤米
ハ其ノ品質ノ瓦ヲ以テ名アリ然レトモ此ノ地ハ比較的寒暑ノ差甚シキヲ以テ從來内地人ノ移住スル
者少ナカリシカ日露戰爭以來頗ル其ノ移住ヲ増加セリ

平壤在留内地人戸口表

年次	戸數	人	口
明治三十七年末	九〇	三〇三	三〇三
同三十八年末	一五九二	二〇六四	二〇六四
同三十九年末	一四四三	四、五三〇	四、五三〇
同四十年末	一、七八三	六、一七四	六、一七四

第二章 地誌

六三

六二

同 同 同
四 四 四
十 十 十
三 二 一
年 年 年
末 末 末

一、八二三
二、〇八九
一、九七七

六八四九
七四三三
六四四三

右四

斯ノ如ク平壤ニ於ケル内地人ハ年々増加シ急遽ノ膨脹ニ由リ四方一帯ノ空地ハ數年ニシテ街衢ヲ爲スニ至レリ主要ナル産物ハ米、大豆、小豆、牛皮等ニシテ近時平壤無烟炭ノ聲價亦漸ク世人ニ認めラレ道廳、旅團司令部、府廳、控訴院、地方裁判所、區裁判所、平壤鑛業所、居留民團、學校、病院、警察署、郵便局、銀行、旅館其ノ他電燈、電話、水道等ノ公共的施設完備セリ牡丹臺ハ形勝ノ地トシテ有名ナリ

十九鎮南浦 平壤ヲ距ル四十六里、大同江ノ江口ニ在ル貿易港ナリ、黃海、平安兩道ノ山岳相擁シテ天然ノ防波堤ヲ作り港内水深ク十五乃至二十尋ナリ有シ輻員一里三直リ波靜ニシテ恰モ湖水ノ如シ大同江舟楫ノ利アルニ加フルニ客年中平南間ノ鐵道開通シタルヲ以テ貨物滯留ノ虞ナキニ至レリ周圍遶リスニ山ヲ以テシ飛渡島ハ港ノ東方ニ在ル形勝ノ地ナリ鎮南浦ヨリ仁川、下關ヲ經由シテ坂神

ニ至ルモノト仁川、蔚山、木浦、釜山ヲ經由シテ達スルモノトノ二航路アリ又清國大連ニ達スル航路アリ安東縣ニ達スル航路アリ其ノ他諸要港間ノ航路アリ此ノ地ヨリ各港ニ至ル距離ヲ舉ケレハ左ノ如シ

至仁川	二二七	至下關	五五六	至長崎	五一六
同蔚山	三三四	同大田	七九五	同安東縣	一二七
同木浦	四二七	同橫濱	八一五	同大連	一八〇
同釜山	五〇〇	同芝罘	一四五	同旅順	二二〇
同營口	五八〇	同上海	二〇二	同元山	八〇一
同天津	六五〇		六九〇	同浦鹽	一一〇六

鎮南浦ハ日清戰争前ニ在リテハ戶數二三十ヲ有スル一漁村ニ過キサリシカ日清及日露ノ兩戰役ニ因リ内地人ノ移住スル者著シク増加シ忽チニシテ一要港ト爲ルニ至レリ加フルニ鎮南浦ハ平壤ノ咽喉ニ當リ黃海平安兩道ノ貨物ヲ吞吐スル要路ニ當ルヲ以テ他日築港ノ完成等ニ因リ一層ノ盛況ヲ見ルヘシ

第二章 地誌

六五

鎮南浦在留内地人累年戸口表

年次	戸数	人口
明治三十七年末	四〇七	一、七八六
同三十八年末	七八九	三、〇〇三
同三十九年末	七六四	二、八八七
同四十一年末	七九〇	二、七二九
同四十二年末	七八〇	二、八一六
同四十三年末	八八八	三、一九七
同四十四年末	九九七	三、六九八

府廳、區裁列所(地方官列所支那)、居留民團、警察署、郵便局、學校等アリ

二十新義州 鴨綠江ノ南沿岸ニ在ル一都府ニシテ東方ハ丘陵ヲ以テ遮ラシ西方ハ一帯ノ平野ニ連リ
遙ニ鴨綠江ヲ隔テ、清國安東縣ニ相對ス鴨綠江ハ橋長十餘町瀾水ノ干瀆甚シク其ノ差十七八尺ニ及
フト雖能ク巨船大船ヲ容ルヘク舟楫ノ便江上數十里ニ及フヲ以テ貨物ノ集散頗繁ナリ殊ニ京義線ノ

完成セルヲ以テ朝鮮内陸トノ交通便利トナリ京城ヨリ三百十二哩、十三時間ニシテ達スヘク釜山ヨ
リ五百八十五哩、一晝夜ニシテ達スヘシ今チ鴨綠江架橋工事落成シ滿鮮ヲ連結シ安奉線ニ由リテ直
ニ哈爾濱ニ達シ更ニ四比利亞線ニ由リテ歐洲ニ到ルヘシ實ニ東亞ヨリ西歐ニ至ルノ旅程ハ最安全ニ
シテ最短縮セラル、ニ至レリ

新義州ハ北鮮ノ極端ニ在ルヲ以テ寒氣甚シク酷寒ノ際ハ零下二十六度ニ及フコトアリ鴨綠江結氷ノ
期ハ毎年十一月ヨリ翌年三月ニ及フ江畔一帯ノ平野ハ沃徳ニシテ耕作ニ適ス近時内地人ノ移住スル
者多ク農作、採蠶ノ業ニ従事スル者少ナカラス

新義州在留内地人累年戸口表

年次	戸数	人口
明治四十一年末	五六三	一、四七一
同四十二年末	五一五	一、五三五
同四十四年末	六二五	一、七九六

明治四十三年末

六八二

六八

二二〇〇

道廳、府廳、警察署、郵便局、居留民團、學校等アリ
 二十一元山 元山ハ日本海ニ面セル北鮮唯一ノ貿易港ニシテ葛麻半島ハ虎尾半島ト相擁シテ永興灣
 ナ成シ灣内ニハ十數餘ノ島嶼散在シ潮流緩漫ニシテ日本海北部ノ寒流ヲ受クルコト少ナク港内氷結
 ヲ見ルコト稀ナリ灣内水深クシテ大船巨船ヲ容ルヘク市街ハ曉徳山ノ麓ニ在リ朝鮮東沿岸ハ真港灣
 ニ乏シキカ故ニ地形上日本海沿岸ニ於ケル貨物積蓄領ヨリスル貨物ハ此ノ地ニ輻輳ス數年後京元
 線開通セハ日本海沿岸ニ於ケル貨物及諸領ヨリスル貨物ハ釜山、仁川ヲ經由セスシテ直ニ京城及朝
 鮮内地ニ輸入セラルヘク又内陸ノ貨物ハ直ニ元山ニ出テ各所ニ集散セラル、ニ至ルヘシ元山ヨリ要
 所ニ至ル距離ヲ示セハ左ノ如シ

至京	城 (釜山) 二七四哩	至清	津	二〇五哩	至浦	鹽	三二〇哩
同釜	山	同下	關	三八八哩			
同城	津	同長	崎	四〇六哩			

元山ヨリ各處ニ通スル道路ハ頗ル不完全ナルヲ以テ貨物ノ集散甚タ緩漫ナリ從テ物價ノ昇騰ヲ免レ
 ス又元山近海ハ魚類ニ富ムト雖販路ノ頗ル不利ナルヲ以テ漁業ニ從事スル者少ナシ京元鐵道ノ完成
 ハ目下ノ急務ナリトス

元山在留内地人累年戸口表

年次	戸	數	人	口
明治四十一年末		九五八		三、六三三
同 四十二年末		一、〇二五		三、七八〇
同 四十三年末		一、一四三		四、四二八
同 四十三年末		一、一七九		四、六二九

府廳、區裁判所(地方裁判所支部)、警察署、郵便局、居留民團、學校、病院、銀行等アリ
 二十二城津 元山ノ北方百二十四哩ノ所ニ在ル咸鏡道沿岸ノ小港ニシテ浦羅斯德ハ近ク百九十六哩
 ノ所ニ在リ咸鏡道一帯ノ貨物茲ニ輻輳ス輸出品ハ農産物、礦産物ニシテ其ノ重ナルモノハ大豆、生

第二章 地誌

牛、銅等ニシテ輸入品ノ重ナルモノ金巾、木綿、紡績、シーチンク等ナリ且下内埔人ノ在任スル者約五百六十人ア

二十三清津 北鮮ニ於ケル要港ノ一ニシテ浦蘆斯德ニ近ク咸鏡北道北方ニ於ケル郡都府ニシテ北鮮一帯ノ貨物農産物ノ集散地ナルヲ故ニ近來急ニ繁榮ヲ加ヘ咸津ヲ凌グニ至リ内地人ノ移住スル者ニ于人ニ漲ントス

清津在留内地人累年戸口表

年次	戸	数	人	口
明治四十年末		一七八		六二四
同四十一年末		三八九		二四六
同四十二年末		四八三		一七三
同四十三年末		四七五		一七〇

七〇

第三章 地方行政

第一節 道、府郡

朝鮮ハ之ヲ分テ京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道、黄海道、江原道、平安南道、平安北道、咸鏡南道、咸鏡北道ノ十三道、京城、釜山、馬山、蔚山、木浦、大邱、仁川、平壤、鎮南浦、義州、元山、清津ノ十二府及三百十七郡ト爲ス、道ニ道長官、府ニ府尹、郡ニ郡守ヲ置キ各區劃内ニ於ケル行政事務ヲ掌ラシム

道、府郡ハ行政區劃下シテハ内地ノ府縣、郡ニ該當シ其ノ機關ノ組織及職務權限等亦大ニ相似タル所アレトモ其ノ審シク相異レル點ヲ舉ケレバ警察事務ハ道長官ノ所管外ニシテ此事務ノ爲各道ニ警察部長ヲ置クルコト國稅ニ關スル事務ハ道長官ノ所管ニシテ之方爲道ニ財務部長ヲ置クルコト又府郡ニテハ土地家屋證明事務(内地ノ不動産登記事務)及民事裁判ノ結果ニ依ル強制執行事務(内地ノ執達吏ノ事務)ノ一部ヲ取扱ヘルコト是ナリ

第三章 地方行政

七二

第二節 面

各府縣ノ下ニ面ヲ置ク其ノ數四千三百五十二トス
 面ハ朝鮮ニ於ケル最下級ノ行政區劃タルノ點ニ於テハ内地ノ市町村ニ匹敵スレトモ市町村ノ如キ自治團體ニハ非ス
 面ニハ面長公錢領收員、面書記、洞里長等ヲ置キ面長ハ道長官之ヲ任命シ公錢領收員ハ面長ノ推薦ニ依リ府尹又ハ郡守之ヲ認許シ面書記ハ面長之ヲ任命シ洞里長ハ府尹又ハ郡守ノ認可ヲ得テ面長之ヲ任命ス
 面長ハ面事務ヲ統轄シ公錢領收員ハ國稅地方費ノ徵收及面經費ノ出納ヲ掌リ面書記ハ面長ノ事務ヲ補助シ洞里長ハ洞里(内地ノ市町村ノ區ニ類ス)ニ關スル事務ニ付面長ヲ補助ス
 面吏員手當及事務執行ニ要スル費用ハ面ノ負擔ニシテ其ノ支出負擔ノ方法ハ道長官ノ認可ヲ得テ府尹又ハ郡守之ヲ定ムルモノトス各地方ノ實況ニ依レハ面經費ノ財源ハ財產收入、國稅地方費徵收ニ關スル交付金其ノ他ノ雜收入ニ依リ仍不足アルトキハ面費ヲ賦課スルノ方法ナルモ實際徵收入ノ

ミキ以テ支辨シ得ルモノナク概テ若干ノ賦課ヲ爲シツ、アリ其ノ賦課目ハ戶數割、家屋割及結數割(地稅附加稅)等ナリ

第三節 公共團體

一 居留民團

始メテ居留民團ヲ設立シタルハ明治三十九年八月ニシテ京城、仁川、釜山、鎮南浦、平壤、群山、木浦ニ於ケルモノ即チ是ナリ同年馬山、大邱亦相次テ之ヲ設置ス其ノ後明治四十一年二月新義州ニ於テ之ヲ設置シ見タリ

民團ノ重ナル事業ハ教育、衛生ニシテ土木之レニ亞キ警備、基地、大葬場ノ如キモ其ノ經營ニ係リ左ニ本年度ニ於ケル各民團ノ歲入出豫算ヲ掲記スヘシ

京 城	入		出		入		出	
	經常部	臨時部	經常部	臨時部	經常部	臨時部	經常部	臨時部
三二、八二六	一〇、五五〇	三三、三九七	二九、五五三	三、八四四	三二、六九七			

第三章 地方行政

道名	組合數	戸數	人口
京畿道	七	一〇、二二	三、六八七
忠清北道	八	五、六一	一、七二四
忠清南道	一五	六、五九	二、〇五九
全羅北道	一八	二、七三	七、三三
全羅南道	一一	九、五三	二、八三三
慶尙北道	一一	九、五八	二、九三六
慶尙南道	三二	二、八九	九、九七五
黃海道	七	一、〇八	三、一〇〇
平安南道	四	三、四一	一、〇六三
平安北道	一〇	八、二八	二、三三三
江原道	六	四、〇三	九、五五六
咸鏡南道	六	四、六六	一、三〇二

學校組合及日本人會
 學校組合及日本人會ハ居留民團區域以外ノ地ニ集團セル内地人ニ於テ組織シ教育、衛生、土木其ノ他
 公共事務ヲ處理スルヲ以テ目的トス就中日本人會ハ漸次其組織ヲ學校組合ニ變更シ現存スルモノ僅
 ニ十八ニ過キス左ニ其ノ概況ヲ舉グヘシ

二 學校組合及日本人會

道名	組合數	戸數	人口
京畿道	七	一〇、二二	三、六八七
忠清北道	八	五、六一	一、七二四
忠清南道	一五	六、五九	二、〇五九
全羅北道	一八	二、七三	七、三三
全羅南道	一一	九、五三	二、八三三
慶尙北道	一一	九、五八	二、九三六
慶尙南道	三二	二、八九	九、九七五
黃海道	七	一、〇八	三、一〇〇
平安南道	四	三、四一	一、〇六三
平安北道	一〇	八、二八	二、三三三
江原道	六	四、〇三	九、五五六
咸鏡南道	六	四、六六	一、三〇二

(1) 學校組合

學校組合進別開 四十四年九月現在

道名	組合數	戸數	人口
京畿道	七	一〇、二二	三、六八七
忠清北道	八	五、六一	一、七二四
忠清南道	一五	六、五九	二、〇五九
全羅北道	一八	二、七三	七、三三
全羅南道	一一	九、五三	二、八三三
慶尙北道	一一	九、五八	二、九三六
慶尙南道	三二	二、八九	九、九七五
黃海道	七	一、〇八	三、一〇〇
平安南道	四	三、四一	一、〇六三
平安北道	一〇	八、二八	二、三三三
江原道	六	四、〇三	九、五五六
咸鏡南道	六	四、六六	一、三〇二

學校組合歳入出豫算 四十四年度

道名	歳入	歳出
京畿道	七、七五九	七、七五九
忠清北道	九、九六二	九、九六一
忠清南道	四、二五八	四、二五八
全羅北道	四、七二七	四、七二七
全羅南道	一、六八〇	一、六八〇
慶尙北道	一、七八四	一、七八四
慶尙南道	四、四七九	四、四七九
黃海道	一、三三三	一、三三三
平安南道	四、七六九	四、七六九
平安北道	一、六〇五	一、六〇五
江原道	五、一七〇	五、一七〇
咸鏡南道	五、四二四	五、四二四

第三章 地方行政



咸鏡北道	三	一、四三七	四、七七二
合計	三三二	二、八五五	三、七四七

備考 戸數、人口ハ本年三月末調
(口) 日本人會

日本人會道別調 四十四年九月現在			
道名	會數	戸數	人口
京畿道	三	一〇八	三五五
忠清南道	一	一、四四〇	五、〇一四
忠清北道	一	五五	一、六九
全羅南道	三	四七	一、五〇〇
全羅北道	三	五〇三	一、六四二
黃海道	二	三三七	六、二〇
咸鏡南道	一	三九	一、三九
咸鏡北道	一	六七七	二、〇三三
合計	一八	三、七八六	一、二五九

咸鏡北道	二、四三〇	二、四三〇
合計	一、七五、三九	五、七五、一三六

七六

日本人會歳入出豫算 四十四年度			
道名	歳入	歳出	
京畿道	三、四一七	二、四一七	四
忠清南道	二、九三六〇	二、九三六〇	四
忠清北道	一、〇五五	一、〇五五	四
全羅南道	三、三三三	三、三三三	四
全羅北道	六、六五九	六、六五九	四
黃海道	三、四九〇	三、四九〇	四
咸鏡南道	七、四一七	七、四一七	四
咸鏡北道	一、四四三	一、四四三	四
合計	七、八、六四	七、八、六四	

水利組合

朝鮮ニ於ケル水利組合ハ明治三十九年三月度支部令第三號水利組合條例ニ依リ設立セルモノニシテ其ノ目的土地ノ灌溉疏鑿開拓保護ニ在リ組合ノ最モ早ク設立セラレタルハ全州ノ平野ニシテ實ニ朝鮮全土ヲ通シ組合總數ノ七分ノ五ヲ占メリ組合ノ現狀ハ尙未タ徹々トシテ振ハサルモ將來地方ノ發達ニ伴ヒ漸次勃興ノ兆アリ左ニ其ノ概況ヲ舉クヘシ

水利組合一覽

明治四十四年十月十日調

組合名	事務所所在地	設立年月日	規約認可年月日	起債金額	組合區域	目的
全羅北道 群山府	全羅北道 群山府	明治三十二年三月八日	明治三十二年二月八日		全羅北道 群山府 米田 定額及四面内ニテ米 堤又ハ船堤ノ灌溉ヲ 受ケル地域	一、貯水池及灌溉水 路ノ改善後渠修補 二、防湖堤及種管ノ 築造補修 三、其他水利ニ必要ナル施設
全羅北道 群山府	全羅北道 群山府	明治三十二年三月八日	明治三十二年二月八日	三〇〇,〇〇〇圓	全羅北道 群山府 米田 定額及四面内ニテ米 堤又ハ船堤ノ灌溉ヲ 受ケル地域	一、貯水池及灌溉水 路ノ改善後渠修補 二、防湖堤及種管ノ 築造補修 三、其他水利ニ必要ナル施設

第三章 地方行政

七七

益 全	山 連	陽 密	益
全羅北道益山郡大場村	忠清南道連山郡夫人處	慶尙南道密陽郡內面	月二十三日
明治四十二年一月十五日	明治四十二年三月五日	明治四十二年四月六日	
一五〇〇〇	四、五〇〇	一〇〇〇〇	
全羅北道益山郡春浦面八里、東面六里	忠清南道連山郡夫人處面十一里、赤岩谷面三里	慶尙南道密陽郡內面密陽洞及南面密陽洞、金洞、至ル一帯ノ土地	里、東一面四里、東二面三里
一、新設及改良水路ノ設備 二、防備及灌漑ノ設備 三、其他水利ニ必要ナル施設	一、水利ヲ圖ル爲スルニ必要ナル施設 二、水害ヲ豫防スル爲スルニ必要ナル施設 三、其他水利ニ必要ナル施設	一、水利ヲ圖ル爲スルニ必要ナル施設 二、水害ヲ豫防スル爲スルニ必要ナル施設 三、其他水利ニ必要ナル施設	二、其他水利ニ必要ナル施設

七六

益 全	山 連	陽 密	益
全羅北道益山郡大場村	忠清南道連山郡夫人處	慶尙南道密陽郡內面	月二十三日
明治四十二年一月十五日	明治四十二年三月五日	明治四十二年四月六日	
一五〇〇〇	四、五〇〇	一〇〇〇〇	
全羅北道益山郡春浦面八里、東面六里	忠清南道連山郡夫人處面十一里、赤岩谷面三里	慶尙南道密陽郡內面密陽洞及南面密陽洞、金洞、至ル一帯ノ土地	里、東一面四里、東二面三里
一、新設及改良水路ノ設備 二、防備及灌漑ノ設備 三、其他水利ニ必要ナル施設	一、水利ヲ圖ル爲スルニ必要ナル施設 二、水害ヲ豫防スル爲スルニ必要ナル施設 三、其他水利ニ必要ナル施設	一、水利ヲ圖ル爲スルニ必要ナル施設 二、水害ヲ豫防スル爲スルニ必要ナル施設 三、其他水利ニ必要ナル施設	二、其他水利ニ必要ナル施設

第四節 地方費

朝鮮ノ國情民度ハ固ヨリ未ダ完全ナル自治制度ヲ施行スルニ適セスト雖地方的公共事業ノ發展ヲ促進スルノ急ナルモノアリ之ヲ舉テ國家ノ施設ニ俟ツハ國家財政ノ許ササル所ナリ仍テ隆熙三年（明治四十二年）四月舊韓國法律第十二號地方費法ヲ發布シ地方費ヲ設定シ各道ヲシテ其ノ經濟ニ依リ

第三章 地方行政

七九

地方適切ノ公共事業ヲ經營セシムルコトセリ

一 管理

地方費ハ韓國時代ニ於テハ内部度支部兩大臣監督ノ下ニ觀察使之ヲ管理シタリシカ併合後ハ總督監督ノ下ニ道長官之ヲ管理スルコト、ナレリ

二 財源

地方費ノ財源ハ地方費、所屬財産收入、地方費事業收入、地方費賦課金、國庫補助金等ニシテ地方費財産收入ハ地方財産ノ整理轉屬ヲ了セサルカ爲、地方費事業收入ハ事業ノ收益ヲ見ルニ至ラサルカ故ニ未ダ官フニ足ルモノナシ賦課金ノ課目課率納期其ノ他賦課ニ關シ必要ナル規定ハ總督ノ認可ヲ得テ道長官之ヲ定ム賦課金ノ種目ハ從來地方ニ於テ徵收シタル賭稅中ヨリ之ヲ選定シ人民ヲシテ新負擔ノ痛苦ヲ加ヘサラシメムコトヲ期セリ
現今地方費賦課金ノ種類ハ地稅附加稅、屠宰稅(屠畜稅)市塲稅、土地家屋所有權取得稅抵當權取得稅ニシテ道ニ依リ其二三ヲ缺クモノアリ

(イ)地稅附加稅ハ國稅タル地稅ニ附加シ平安南北、咸鏡南北ノ四道ハ本稅百分ノ十其ノ他ハ各本稅百分ノ五ヲ本稅ト同時ニ年二期ニ徵收ス

(ロ)屠畜稅(屠畜稅)ハ屠場營業者ニ對シ屠畜數ニ應シテ毎月之ヲ賦課徵收ス一般ニ屠牛ニ對シテノ之ヲ賦課スルモ道ニ由リテハ屠豚、屠羊ニ對シテモ之ヲ賦課セルモノアリ其稅率ハ屠牛一頭ニ付一圓乃至一圓五十錢屠豚一頭ニ付拾錢乃至二拾錢屠羊一頭ニ付貳拾錢ニシテ京畿道中京城府ハ屠場官營ニシテ民般ノモノ存セザリシカ爲屠畜稅トシテ屠殺依頼者ヨリ之ヲ徵收ス課率ハ牛一頭ニ付一圓豚一頭ニ付二十錢ナリ

(ハ)市場稅ハ京畿道京城府區域ハ市場ノ等級ヲ定メ月稅トシテ市場管理者ニ之ヲ賦課シ其ノ他ハ放寬價格百分ノ一ヲ稅率トシ其ノ放寬者ニ賦課シ常設市場ハ月稅常設タラサルモノハ開市毎ニ附時之ヲ賦課ス但シ咸鏡北道ニテハ市場稅ヲ賦課セス

(ニ)土地家屋所有權取得稅
(水)抵當權取得稅

第三章 地方行政



ノ二、京畿道京城府内ニ於テノ賦課スルモノニシテ土地家屋ノ所有權所得稅ハ土地價格ノ千
分ノ四抵當權取得稅ハ債權金額千分ノ二ノ課率トシ所有權抵當權ノ取得者ニ賦課ス

三、事業

地方費ヲ以テ支辨スヘキ事業ハ左ノ如シ

- 一、廳舎ノ建築及修繕ニ關スル經費
 - 二、土木ニ關スル經費
 - 三、衛生病院救恤及慈善ニ關スル經費
 - 四、勸業ニ關スル經費
 - 五、教育及學費ニ關スル經費
- 各號ノ外ニ法令ニ依リテ地方費ノ支辨ニ關スル經費及公共上必要ナル事業ニ關スル補助
(イ)土木
三等道路ノ維持修繕ニ付テハ國費ノ補助ヲ得テ之ヲ施行シ關係部落ノ負擔ヲ以テスル等外道路

ノ維持修繕ニ付テハ地方費ハ之ニ對シテ補助ヲ爲スコトヲ得

(ロ)衛生

衛生ニ關スル事業ハ種痘、種痘認可員ノ講習、清潔法ノ施行、共同井戸、共同便所ノ設置及展
開検査等ナリ

(ハ)救恤

救恤ノ事業ハ災民救助、窮民救助、棄兒ノ收容、行旅病人ノ救護取扱等ニシテ其ノ重ナルモノ
ハ災民救助トス

地方費ノ財源ハ未タ豊富ナラサルヲ以テ救恤事業ノ爲ニ多クノ經費ヲ支出シ能ハスト雖少クト

モ歳入賦課金總額ノ百分ノ一ハ之ヲ豫算ニ計上ス

罹災民ニ對スル救恤ハ普通ノ場合ニ於テハ前記地方費ノ支辨ニ依ルト雖被害ノ程度大ナルカ又

ハ其ノ範圍廣キニ亘レル災害ニ就テハ國費ヨリ之ヲ支辨ス

(ニ)勸業

第三章 地方行政



勸業ハ模範農場(農事試驗場、苗圃、試作田、採種田、模範田)産業講習所(蠶業講習所、蠶業講習所)農事巡回教師ノ設置、農蠶業講話、養蠶機業傳習、米麥種畜牛、漁業ノ改良、貝類繁殖場、水産製造、物産陳列場ノ設置並品評會ノ開催及諸調査等ニシテ國費及臨時恩賜金ノ施設ト相俟テ之ヲ經營ス

(ホ)教育
 教育事業ハ實業學校ノ設置、教育講習會開催等ニシテ實業學校ハ一二ノ道ヲ除クハ悉ク之レカ設クアリ普通學校ハ未タ地方費ノ經營ニ係ルモノナシ

(ハ)補助獎勵
 以上直營事業ノ外補助事業トシテ土木、勸業、教育、衛生、警備、獎勵事業ハ勸業、教育ニシテ即チ府郡面負擔道路ノ改築修理、公私立學校補助等ヲ包含ス

地方費豫算(四)

明治四十四年度

科	目	歳入					歳入總計	歳出總計	歳入超過金	歳入不足金
		賦課金	雑収入	財産収入	合計	臨時収入				
京畿道	北道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
	南道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
全羅道	北道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
	南道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
慶尙道	北道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
	南道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
黄海道	北道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
	南道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
平安道	北道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
	南道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
江原道	北道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
	南道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
咸鏡道	北道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
	南道	1,000,000	500,000	100,000	1,500,000	1,500,000	0	0	0	
合計		10,000,000	5,000,000	1,000,000	15,000,000	15,000,000	0	0	0	

第三章 地方行政

平安南道	平安北道	咸鏡南道	咸鏡北道
十木稅百分ノ			
豚牛	豚牛	豚牛	豚牛
十二圓	十一圓	十一圓	十一圓
二十錢	十五錢	十五錢	十五錢

明治四十四年度地方賦課金負擔表 四十四年十二月十日現在

道名	賦課金	戶數	人口	平均一戸二付	平均一人二付
京畿道	八八、六六六	二九六、五四〇	一、四一六、一〇六	〇・二九六	〇・〇〇六
忠清南道	三三、三一一	一一三、六七三	五八〇、七八九	〇・三三八	〇・〇〇六
忠清北道	六一、九二九	一九五、七六五	八九五、五四六	〇・三一六	〇・〇〇六
全羅南道	四九、八〇三	二〇五、七九九	九六二、五八一	〇・二四〇	〇・〇〇五
全羅北道	六七、六六四	三二九、七五四	一、五八〇、八九一	〇・二〇六	〇・〇〇五
慶尙南道	八五、四七二	三三三、八六三	一、六二四、五六九	〇・二五六	〇・〇〇五
慶尙北道	六五、三三〇	二九七、一〇三	一、四四一、六五一	〇・二二七	〇・〇〇五

道名	賦課金	戶數	人口	平均一戸二付	平均一人二付
黃海道	五二、九三四	二二二、一〇三	九九〇、八八八	〇・二三八	〇・〇五三
平安南道	四四、八九二	一八七、三九二	八九二、三六八	〇・二三九	〇・〇五〇
平安北道	二六、一一一	一八二、一四〇	九七九、六〇二	〇・一四三	〇・〇二六
江原道	一四、四五五	一六六、七三三	八三三、〇七四	〇・八六七	〇・〇一七
咸鏡南道	二一、〇〇〇	一七六、四七一	九一三、五一二	〇・一一八	〇・〇二三
咸鏡北道	一〇、七〇〇	七四、七八一	四二七、六四二	〇・一三九	〇・〇三五
合計	六二二、二七七	二、七九二、一〇五	一三、五三九、二二八	〇・二三三	〇・〇四五

第五節 臨時恩賜金

日韓併合ノ成ルヤ民力ノ休養ト共ニ悲憤撫育ノ聖旨ヲ照ニスル爲國幣一千七百三十九萬八千圓ヲ支出シ之ヲ十三道三百二十有餘ノ府郡ニ配付シ以テ士民ノ授産教育及凶歉ノ救濟ニ充テシム而シテ其ノ配付額ハ京城府百萬圓其ノ他ノ府郡ハ平均五萬圓内ニ萬五千圓ハ平均剩餘額二萬五千圓ハ人口割ヲ以テ之ヲ定ムルコト、シ明治四十三年十月八日告示ヲ以テ公表シ且道府郡ニ對シ臨時恩賜金事業經理ノ方針ヲ訓令シ更ニ府令ヲ以テ之レカ管理規則ヲ發表セリ

第三章 地方行政

臨時恩賜金ハ五分利公債ヲ以テ下賜セラレタルガ故ニ年々五分ノ利子ヲ生シ一年ノ利子總額八十六萬九千九百圓ニ上リ朝鮮金道ノ地方費賦課金總額(四十四年六)ヲ超過スルコト二十五萬五千三百餘圓其ノ地方費賦課金總額一、〇〇〇ニ對スル比例ハ一、四二五餘ニ當レリ而シテ内授産費ニ充ツヘキモノ五十二萬一千九百四十四圓教育費ニ充ツヘキモノ二十六萬九千七百圓凶歉救濟費ニ充ツヘキモノ八萬六千九百九十圓ニシテ之ヲ各道別ニ觀レハ授産費一萬六千六百餘圓乃至七萬九千餘圓教育費八千三百餘圓乃至三萬九千五百餘圓凶歉救濟費二千七百八十圓乃至一萬三千餘圓ナリ左ニ其ノ事業ノ梗概ヲ記スベシ

一 授産事業

授産事業ハ先ツ兩班僑生ノ如キ恒産ナキ者ニ對シ産業ヲ授ケ之ヲ惠恤スルヲ第一ノ目的トシ而シテ其ノ經營又ハ補助スヘキ事業ハ地方ニ於テ既ニ素地アルモノ即チ澆紙及養蠶等ノ如キ經營最モ容易ニシテ勞功確實命令輕微ナルモノト雖據テ以テ糊口ノ資ト爲スニ足ルヘキモノヲ撰擇セシムルノ方針ヲ執レリ玆ニ於テ各道ハ管内各府郡ノ意見ヲ徵シ更ニ之ヲ審查シ且朝鮮總督ノ認可ヲ受クルコト

トセリ今各道ヲ通シ其ノ主要ナルモノニ就キ概括シテ之ヲ舉クレハ養蠶ニ關スル講、傳習所其ノ他百十六箇所、機業傳習所五十六箇所乃至七十四箇所(何箇所乃至何箇所トアルハ認可當時ノ事業經營長官ハ實質上此ノ範圍内ニ於テ適宜安排スヘキモノト)蠶種蠶具、紙、麻等ノ製造傳習所十四箇所以下何箇所乃至何箇所何人乃至何人トアルモノ亦同シ)蠶種蠶具、紙、麻等ノ製造傳習所十四箇所計百八十六箇所乃至二百四箇所、講、傳習ヲ公私ノ施設ニ委託スルモノ蠶業十六箇所、機業六箇所、農業一箇所、蠶具製造二箇所、製紙二箇所、漁業四箇所、海苔製造一箇所計三十二箇所、別ニ傳習所ヲ設ケサルモノ稻拔傳習所一箇所、蠶繭蠶具傳習十九箇所乃至五十七箇所、海苔製造傳習一箇所、乾餾製造法傳習三箇所、造船傳習四箇所計百三十六箇所、種牝牛種豚ノ配付又ハ預託千三十八頭、種苗場、桑園二百二十五箇所、桃圃田監督田ノ指定四十府郡、漁業獎勵四十五府郡等ニシテ其ノ他蠶絲機業、製紙、綠肥、水利事業ノ補助、車輛、蠶種、蠶具、製紙、機織、桑、果樹、楮、桐苗等ノ配付ヲ爲ス以上諸種ノ事業ニ要スル職員(委託傳習)及巡回教師ノ員數合計二百四十四人、講、傳習生及委託講、傳習生ノ數合計五千八百六十九人乃至七千九百人(但シ雜蠶共同)ノ多キニ達ス而シテ之ニ要スル設備及器具、機械ノ費用、職員ノ俸給、旅費及講、傳習生ニ對スル食費補助、

第三章 地方行政

蠶種、桑苗其ノ他修業生ニ給與スル諸器具、原料等ノ費用ヲ積算スルトキハ到底現時ニ於ケル朝鮮人民ノ實力ノミヲ以テシテハ能ク之ヲ支辨シ得ヘキ所ニアラサルナリ

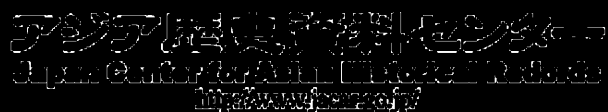
二 教育事業

教育事業ニ在リテハカメテ資金ヲ基礎トシ郷校財産其ノ他ノ收入ヲ加ヘ先ツ普通學校ヲ設立セシメ基礎確實ニシテ永續ノ見込アルモノヲ撰ビ若シ俄カニ此ノ如キ學校ヲ設立シ難キ場合若ハ既設ノ學校アリテ新ニ設立ヲ必要トセサル場合ニ在リテハ他ニ存スル私立學校ヲ補助シ漸次ニ普通學校ト同一ノ程度ニ進マシムルコト、セリ臨時恩賜金ノ補助ヲ與フル學校ハ各道ヲ通シテ總數三百四十四校ニシテ内公立普通學校二百二十校私立普通學校八十九校私立學校二十八校ニシテ公立普通學校中實業補習學校ヲ附設スルモノ七校アリ而シテ道ニ依リ補助費ノ一部ヲ割キ公立普通學校職員ヲ増置シ内若干名ヲ指定シテ巡回教師ト爲シ絶ヘス其ノ府郡内ニ於ケル學校及書房ヲ巡回指導シ以テ之カ改善ノ實ヲ舉ケシムルノ計畫ヲ爲セルモノアリ

三 凶歉救濟事業

凶歉ノ救濟ハ總テ萬已ムテ得サル場合ニ之ヲ行ヒ救濟方法ハカメテ生業ヲ扶助シ成ルヘク其ノ效果ヲ確實ニスルノ方針ヲ擇ヘリ
道ニ依リテハ救濟金支出ノ程度其ノ方法ヲ定メ認可ヲ經テ施行スヘシト定メタルモノアリト雖多クハ豫メ種穀、農具、食糧給與ノ方法ヲ立テ中ニハ醫藥、家屋料ノ給與及被服貸與ノ方途ヲモ定メタルモノアリ

惟フニ朝鮮開發ノ手段トシテ生業ノ扶助及教育ノ普及ヲ圖ルハ其ノ最先ノ急務ニ屬スルヤ勿論ニシテ國費ヲ以テ是等ノ事業ニ投セラルル所ノ經費ハ固ヨリ尠少ニアラスト雖國費事業ハ必シモ細民救濟ニノミ專ナル能ハス臨時恩賜金ノ下付ニ依リ朝鮮ニ於ケル下層人民ハ實ニ枯草雨ニ遇ヒタル感アルヘキハ言フ須非サル所トス而シテ以上ノ事業ハ將來永久ニ繼續サル所ナルヲ以テ臨時恩賜金ノ效果ハ朝鮮ノ將來ニ對シ實ニ測リ知ルヘカワサルモノアリ積年政弊ノ餘孽ヲ受ケテ困頓業ヲ失ヒ流離產ヲ傾ケタル各道地方民衆ハ今ヤ 聖德ノ治キニ感泣シ往年ニ對比シテ當ニ隔世ノ想ヲ爲シツツアリ



朝鮮國ニ於テハ不動産上ノ權利ノ移轉又ハ設定ヲ爲シタル場合ニ於テハ古昔ノ慣習上文記又ハ文券ト稱スル私署證書ノ引渡ニ依リテ之ヲ證明スルノ外他ニ何等ノ方法ヲカリシカ光武十年（明治三十九年）十二月ニ至リ勅令第六十五號ヲ以テ土地家屋證明規則ノ發布ヲ見ルニ至ル之レ蓋シ韓國ニ於ケル不動産上ノ權利ノ移轉、設定、保存行爲ヲ確保スルニ至リタル規定ノ嚆矢ナリ此規定ハ契約當事者ノ申請ニ因リ其双方又一方カ韓國人ナル場合ニ於テ其ノ契約ノ目的タル不動産ノ所在地ヲ管轄スル府尹、郡守ヲシテ其ノ契約事項ヲ確保スルノ方法トシテ其ノ契約書ノ末尾ニ證明ヲ爲サシムルコトトシ其ノ効力トシテハ其ノ證明ヲ受ケタル契約書ハ完全ナル證據トナルモノニシテ例ヘハ典當證明ノ如キハ其ノ債務者カ期限内ニ債務ノ履行ヲ爲サザルトキハ典當執行規則ニ依リ其ノ擔保物件ノ上ニ權利ノ執行ヲ爲スノ特權ヲ有セシメタリ而シテ韓國内ニ於ケル不動産上ノ權利ノ得喪等ニ關シテハ本令ニ依ルモノノ外統監府令ヲ以テ土地建物證明規則、土地建物所有權證明規則、土地建物ノ典當執行ニ關スル規定ヲ發布シ其契約當事者ノ双方カ韓國人ニアラサル場合及其ノ一方カ韓國人ニシテ韓國勅令ニ依リ府尹郡守ノ證明ヲ受ケタルモノノ在證ニ關シ事項ヲ規定シ其ノ證明

手續及典當執行ニ關シテハ韓國勅令ニ依ル證明令規ヲ準用スルコトナセリト雖其ノ職務ハ理事官ノ權限ニ屬セシメタルカ故ニ契約當事者ノ如何ニ依リ其ノ證明機關ヲ異ニセシカ統監府ノ設置ニ依リ理事官廢止ノ結果自然其ノ職務ニ屬セシ證明事務ハ韓國勅令ニ依ル證明事務ト共ニ其ノ目的物件ノ所在地タル府郡ニ新ニ配置セラレタル府尹郡守ノ權限ニ屬シ茲ニ證明機關ノ統一ヲ計ルヲ得タリ證明令規實施後ノ傾向ヲ見ルニ漸次之カ法令ノ周知ト共ニ年月ヲ違ヒ申請件數ノ増加ヲ來タセシカ爾來新思想ノ普及ニ伴ヒ權利觀念ノ向上ヲ來タシ各般ノ權利關係亦漸次複雑トナリ加フルニ併合後著々新政ノ實施ニ依リ内地人トノ關係亦一段ノ密接ヲ加ヘ殊ニ併合後國內一般ニ平靜ニシテ内地人投資者ノ増加ニ連レテ經濟上大ニ活氣ヲ呈スルニ至リタルカ爲本年ニ於ケル證明件數ハ前年ニ比シ頗ル激増シタルヲ見ル今本年上半年ニ於ケル取扱件數ヲ前年同期間中ノ取扱數ニ比較スルニ件數ニ於テ四割六分價格又ハ債權額ニ於テ八割手數料ニ於テ四割七分ノ増加ヲ來タシタルモノニシテ其ノ詳細左表ノ如シ

手 數 料	明治四十三年上半年期		明治四十四年上半年期		增 減 比 率
	價 格 文 ハ 債 權 額	證 明 取 扱 件 數	價 格 文 ハ 債 權 額	證 明 取 扱 件 數	
	四、六八〇	九、五五五、八九〇	六、五三九	一七、〇〇六、〇四九	増
	四、六八〇	九、五五五、八九〇	六、五三九	一七、〇〇六、〇四九	増
	四、六八〇	九、五五五、八九〇	六、五三九	一七、〇〇六、〇四九	増
	四、六八〇	九、五五五、八九〇	六、五三九	一七、〇〇六、〇四九	増
	四、六八〇	九、五五五、八九〇	六、五三九	一七、〇〇六、〇四九	増

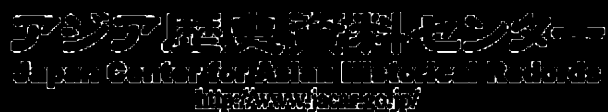
第四章 財政及經濟

第一節 財 政

一 財務機關

明治三十七年八月日韓協約成立ノ結果トシテ舊韓國政府ハ日本政府ノ推薦ニ係ル財務顧問ヲ聘シテ
 財政ノ整理ニ著手シタリシカモ是ヨリ前合法的豫算ナルモノ、編成セラレタルコトナク財務機關ノ設
 備ハ不完全ニシテ宮中ハ國家以外別ニ徵稅官ヲ派シテ各種ノ租稅ヲ徵シ徵稅機關ハ郡守主トシテ徵
 稅ノ局ニ當ルノ外宮内府及中央官廳ノ派遣ニ係ル收稅官アリテ各種ノ徵稅ヲ爲シ其ノ間一定ノ規律
 ナク殊求苛款ノ弊風大ニ行ハレタリ

從來舊韓國政府ニハ度支部ナルモノアリテ財務機關ノ任ニ當レルカ財政顧問ハ先ツ之ヲ廓清シ徵稅
 機關ノ特設ヲ提議シ明治三十九年管稅官官制ヲ制定シ度支部大臣直轄ノ下ニ各道ニ稅務監督ヲ置キ觀
 察使ヲシテ兼務セシメ以テ稅務監督ノ任ニ充テ更ニ樞要ノ地ニ稅務官ヲ配置シ稅務執行機關トシ稅



務主事ヲ各郡ニ派駐シ稅務ノ執行ヲ分掌セシメ又漸次各地ニ財政顧問支部及分廳ヲ設置シ獨リ稅務ノミナラス地方財務ヲ監督シ以テ不正ノ徵求不當ノ支出ヲ防遏シ且地方經濟狀態ノ進捗ニ努メタリ明治三十九年統監府設置セラレ宮中ノ廓清、制度ノ革新、財政ノ整理孰モ一段ノ進捗ヲ告ケ就中財政整理ニ關スル施設ノ要項ヲ擧ケレハ

- 一 通貨ノ回收ヲ實行シ株式會社第一銀行ヲシテ中央銀行ノ事務ヲ執ラシメ兌換券ノ發行ヲ公認シ
- 二 儲銀行ヲ保護助長シ農工銀行、手形組合及金融組合ヲ設立セシメ無利子ヲ以テ之ニ資金ヲ貸與シ
- 三 豫算ノ編成及實行ヲ計リ、第一銀行ヲシテ國庫金ノ出納ヲ掌ラシメ
- 四 徵稅機關ヲ改良シ之ヲ統一シ徵稅ノ方法ヲ公示シ
- 五 從來英國人ブラウオン氏專掌ノ下ニ獨立經營セル關稅事務ヲ統一シ國庫ノ收入トシ更ニ稅關ヲ増設シ保稅倉庫ヲ設置シ

六 皇室有及國有財産ヲ整理シ驛屯土及雜稅ノ處理、紅蔘專賣ノ經營ヲ爲シ

七 財源調査ヲ實行シ

八 港灣ノ修築、燈臺ノ増設及水道ノ施設ヲ企圖シ

九 賭官衙ノ改築ヲ行ハシメ其ノ材料ノ潤澤、低廉ヲ圖ル爲ニ煉瓦製造所ヲ起シ

十 模範事業トシテ印刷局ヲ創設シタリ

又地方財務機關ノ組織ヲ制定シ度支部ヲ管轄ノ下ニ財務監督局ヲ京城、平壤、大邱、全州、元山、公州及光州ノ七ヶ所ニ設置シ其ノ管下ニ財務署ヲ設ケ全國二百三十四ヶ所ニ配置セリ

次テ日韓併合及新官制實施ト共ニ舊韓國政府度支部ヲ移シテ朝鮮總督府ノ管下ニ置き度支部ヲシテ朝鮮ニ於ケル豫算決算、租稅國庫金融ニ關スル事務ヲ掌リ總務部會計局ヲシテ豫算執行ノ任ニ當ラシメ相倚リ以テ朝鮮ニ於ケル財政ヲ掌理スルコト、爲レリ

三 歲 計

從來韓國政府ニ於テハ豫算ノ編成ナカリシガ明治三十八年初メテ之ヲ編成シ爾來累年豫算ノ制定ナ

第四章 財政及經濟



起業公債	同年十二月	一〇〇〇,〇〇〇	六分	五箇年	十五箇年
學堂賜金公債	四十三年六月	二六,〇〇〇	五分		二十箇年
特別會計一時借入金	四十四年三月	二〇九,〇〇〇	五分		二十箇年
事業費借入金	四十四年九月	二,〇〇〇,〇〇〇	五分五厘		二十箇年
總計		三,〇〇〇,〇〇〇			

前表所掲以前ニ於ケル各年末現在高ヲ示セハ左ノ如シ

明治四十三年 二九、二五五、三五五
 同 四十二年 四四、一二六、四五三
 同 四十一年 三六、七四一、四四一
 同 四十年 一五、四九八、〇三二
 同 三十九年 一五、五〇九、二五四
 同 三十八年 九、四五四、〇六四

六 租 稅

國稅ハ地稅、戶稅、家屋稅、酒稅、煙草稅、關稅、噸稅、鹽稅、釐稅、水產稅及雜稅ノ十二種トス
 其ノ主要ナルモノ、稅率ヲ舉ケレハ左ノ如シ

一 地稅 稅率ヲ十三等ニ分テ一結ニ付二十錢以上八圓以下ノ稅ヲ課ス（一結ハ一町步乃至四町步餘ニ至ル）

二 戶稅 一戶毎ニ三十錢ヲ課ス

三 家屋稅 家屋ヲ分テ甲乙ノ二種ト爲シ甲種トハ石造、煉瓦造又ハ瓦葺ノ家屋ヲ總稱シ乙種トハ甲種以下ノモノヲ包含ス更ニ之ヲ家屋ノ間數ニ依リ四等ニ分テ左ノ稅ヲ課ス

等 級	稅 率 標 準 及 稅 率
一 等	三十間以上 甲種 金五圓二五八錢
二 等	十間以上 乙種 金一圓五十四錢
三 等	四間以上 甲種 金八圓五十一錢
	乙種 金五十一錢

第四章 財政及經濟

四酒稅 酒類ヲ三種ニ分チ左ノ區別ニ從ヒ課稅ス
 四間未滿 乙甲種 金金 二六
 三四十 錢錢

第一類 釀成酒

五石 迄 金 一 四
 十石 迄 金 二 四
 二十石 迄 金 四 四
 五十石 迄 金 二十 四
 百石ヲ超過スルモノハ五十石迄ヲ増ス毎ニ金十圓ヲ増ス

第二類 蒸餾酒

一石 迄 金 一 四
 二石 迄 金 二 四
 五石 迄 金 五 四

第三類 湯成酒

五十石ヲ超過スルモノハ三十石迄ヲ増ス毎ニ金三十圓ヲ加フ
 十石 迄 金 十 四
 二十石 迄 金 二十 四
 五十石 迄 金 五十 四
 第三類 湯成酒
 二石 迄 金 六 四
 五石 迄 金 十五 四
 十石 迄 金 三十 四
 二十石 迄 金 六十 四
 五十石 迄 金 百五十 四
 五十石ヲ超過スルモノハ三十石迄ヲ増ス毎ニ金九十圓ヲ加フ

五煙草稅 煙草稅ヲ分チ耕作稅及販賣稅ノ二種ト爲シ煙草耕作稅ハ左ノ種別ニ從ヒ耕作者ヨリ徵

第四章 財政及經濟

收ス
一一八

第一種耕作(植付根數九百以下ノモノ)
 第二種耕作(同上九百ヲ超過スルモノ)
 煙草販賣稅(左ノ種別ニ從ヒ販賣業者ヨリ徵收ス
 第一種販賣(卸賣者)
 第二種販賣(小賣者)
 六關稅 第九章商業中貿易ノ部ニ說明セリ
 七噸稅 一噸ニ付五錢ヲ課ス
 八噸稅 製造者ニ對シ百斤ニ付キ六錢ノ率ヲ以テ賦課ス、百斤ニ滿タサル端數ハ之ヲ百斤トシテ計算ス
 九噸稅 左ノ種別ニヨリ徵收ス
 礦 產 稅 礦產物價格ノ百分ノ一

鑛 區 稅 鑛區一千坪一箇年金五十錢(許可後一箇年ハ半額トス)
 砂金採取稅 鑛區一千坪或ハ河床延長一町毎ニ一箇年金一圓

十水產稅
 第一種第三種第四種及第五種ノ免許漁業 採捕物價格一百圓迄 一圓
 第二種免許漁業 區劃水面一千坪迄 一圓
 第一種許可漁業 曳網類各一漁具 三十圓
 第二種許可漁業 小地曳網類同 四十圓
 汽力ニ依ル底曳網類 噸數百噸以上一艘ニ付 七十五圓
 風力又ハ潮流ニ依ル底曳網類 各一漁具 六圓
 小打瀬網類 同 三圓
 第三種漁業 捲網類 各一漁具 十二圓
 第四種許可漁業 小手網類 同 四圓
 潜水器ニ付 同 五圓
 第四章 財政及經濟 一一九

第五種許可漁業
 第一種届出漁業
 第二種届出漁業
 第三種届出漁業
 其ノ他ノ收入ハ印紙收入、驛屯土收入(國有地小作料)官藥及官有財産收入ノ公債等ノ臨時收入並雜收入ヲ其ノ主ナルモノトス

第一節 朝鮮經營費

明治三十九年統監府設置以來最近數年間ニ帝國政府カ朝鮮經營ノ爲ニ支出シタル經費ハ左ノ如シ

所管	額			
	明治三十五年度	明治三十六年度	明治三十七年度	明治三十八年度
陸軍	五,三三三,八六六	五,八〇〇,〇〇〇	四,二二八,八三三	五,九〇〇,〇〇〇
海軍	一,一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
統監府	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
常經	九,〇〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇

第一種届出漁業 一三〇
 第二種届出漁業 五十
 第三種届出漁業 四十
 其ノ他ノ收入ハ印紙收入、驛屯土收入(國有地小作料)官藥及官有財産收入ノ公債等ノ臨時收入並雜收入ヲ其ノ主ナルモノトス

部	臨時部	特別會計	總計			
			明治三十五年度	明治三十六年度	明治三十七年度	明治三十八年度
陸軍	五,三三三,八六六	五,八〇〇,〇〇〇	四,二二八,八三三	五,九〇〇,〇〇〇	五,三三三,八六六	
海軍	一,一〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	
統監府	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	
特別會計	五,八〇〇,〇〇〇	五,八〇〇,〇〇〇	五,八〇〇,〇〇〇	五,八〇〇,〇〇〇	五,八〇〇,〇〇〇	
總計	一三,二三三,八六六	一三,六〇〇,〇〇〇	一二,〇二八,八三三	一三,七〇〇,〇〇〇	一三,二三三,八六六	

第四章 財政及經濟

軍費	二、八〇三、四四三	〇、五九三、〇〇〇	九、〇三三、七五五	〇、一五五、九四三	一、五三三、九一五	〇、六六六、八八五
行政費	二、三三〇、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	一、五〇三、三三三	〇、八八八、八八八	一、五九九、九九九	〇、七七〇、一五五
其他	二、三三〇、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	一、五〇三、三三三	〇、八八八、八八八	一、五九九、九九九	〇、七七〇、一五五

本表中通信官署及鐵道ニ關スル明治四十三年度經費ハ現計額ニ依ル尙通信官署經費ハ歲出ニ對シ歲入不足額ヲ計上シ四十三年度ハ歲入超過額ヲ便宜上臨時部經費ヨリ控除シタリ但印刷紙收入ハ之ヲ調査セス又々印ヲ附シタルハ舊韓國政府立替金ヲ示シ内書トス

第三節 貨幣

朝鮮ノ幣制ハ從來幾多ノ變遷ヲ重テ明治二十七年ニ至リ漸ク銀本位制ヲ採用シ次テ三十四年金本位制ニ改メシモ尙余ク空文ニ屬シ葉錢舊白銅ハ各地ヲ異ニシテ寡ラ流通シ幣制紊亂ヲ極メタリ依テ明治三十八年貨幣整理ニ着手シ先ッ幣制ヲ改正シ其ノ品位量目ヲ帝國貨幣ト同一トナシ新貨幣ヲ發行シテ其ノ流通普及ニ努メ且第一銀行券ノ流通ヲ公認シ舊白銅貨及葉錢ノ回收ニ努メタリシカ舊白銅貨ハ四十二年十二月限り全ク其通用ヲ禁止シ葉錢ハ漸次引上ノ結果其ノ流通額大ニ減少シ新貨幣モ亦到ル處圓滿ニ流通スルニ到レリ而シテ四十三年八月日韓併合ノ結果朝鮮ノ通貨ハ帝國貨幣ヲ以テ

統一スルノ方針ヲ採リ爾後舊韓國貨幣ハ一切鑄造ヲ停止シ從來發行シタル分ハ漸次帝國貨幣ト交換シテ引上グルコト、セリ今明治三十八年以降每年末貨幣流通額ヲ掲クレハ左表ノ如シ

年次	新視貨	兌換券	舊白銅貨	葉錢	木通	各邦	合計	指數
明治卅八年	八、二五五、五三〇	一、三三三、〇〇〇	五、三三三、〇〇〇	六、五五五、五五五	一、〇〇〇、〇〇〇	二、二二二、二二二	三、三三三、三三三	100
同卅九年	三、三三三、三三三	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	五、五五五、五五五	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	101
同四十年	三、三三三、三三三	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	五、五五五、五五五	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	102
同四十一年	三、三三三、三三三	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	五、五五五、五五五	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	103
同四十二年	三、三三三、三三三	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	五、五五五、五五五	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	104
同四十三年	三、三三三、三三三	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	五、五五五、五五五	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	105
同四十四年九月末	三、三三三、三三三	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	五、五五五、五五五	九、九九九、九九九	三、三三三、三三三	三、三三三、三三三	106

新視貨發行高 (圓) 各年十二月末日

年次	金貨	銀貨	白銅貨	青銅貨	合計	指數
明治三十八年	—	三、四九四、二〇〇	一、一八二、二六〇	—	三、六七六、四六〇	100

第四章 財政及經濟

年次	十圓券	五圓券	四圓券	三圓券	二圓券	一圓券	計
同三十九年	九五五〇〇	一〇七、三六八	九五二、六〇一	一八〇、七五	二、三三七、五五三	五八一	二、三三七、五五三
同四十年	九五五〇〇	三、三九〇、〇〇〇	一、五〇、五〇〇	二〇四、一七五	四、〇〇、一七五	一、一五	四、〇〇、一七五
同四十一年	九五〇、〇〇〇	三、〇三、一五〇〇	九八一、三五〇	一九五、七七五	四、五八、五二五	一、三三	四、五八、五二五
同四十二年	一、四五〇、〇〇〇	三、五九五、〇〇〇	七三六、九〇〇	三四二、五四五	六、二四、四四五	一、六六	六、二四、四四五
同四十三年	一、九五〇、〇〇〇	五、三五八、五〇〇	五七四、七五〇	四三三、五四五	八、二五、七九五	二、三三	八、二五、七九五
同四十四年九月末	五五、〇〇〇	四、二八三、五八九	四八四、四九二	四三三、九二二	五、一九七、五〇三	一、四一	五、一九七、五〇三

兌換券發行高(圓) 各年十二月末日

年次	十圓券	五圓券	四圓券	三圓券	二圓券	一圓券	計
明治三十五年	一、五五〇、〇〇〇	三、五九、九二五	九、九、五五				一、五五〇、〇〇〇
同三十六年	三、四三〇、〇〇〇	四、六、六六	二、七、九				三、四三〇、〇〇〇
同三十七年	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一	一、一、一、一、一				一、一、一、一、一
同三十八年	四、七、七、七、七	三、二、九、九、九	八、〇、〇、〇、〇				四、七、七、七、七
同三十九年	四、七、七、七、七	三、二、九、九、九	八、〇、〇、〇、〇				四、七、七、七、七
同四十年	五、五、五、五、五	三、二、九、九、九	八、〇、〇、〇、〇				五、五、五、五、五
同四十一年	四、七、七、七、七	三、二、九、九、九	八、〇、〇、〇、〇				四、七、七、七、七

年次	同四十二年	同四十三年	同四十四年九月末
同四十二年	九、五〇〇、〇〇〇	三、〇、五、五〇〇	四、八、九、五〇〇
同四十三年	八、四〇〇、〇〇〇	三、九、六、五〇〇	七、五、四、五〇〇
同四十四年九月末	七、六〇〇、〇〇〇	四、九、九、〇〇〇	七、五、四、五〇〇

第四節 金融

從來朝鮮ニハ金融機關ノ設備見ルヘキモノナカリシカ明治卅六年二月第一銀行ノ支店ヲ京城ニ開設スルヤ舊韓國政府ハ之ニ委託スルニ中央金庫事務取扱ヲ以テシ銀行券ノ發行ヲ公認シ日本政府モ亦特ニ勅令ヲ以テ同行ニ於テ銀行券ノ發行ヲ認メ以テ同行ヲシテ中央銀行ノ任務ヲ遂行セシメシカハ明治四十年中ニ至リ同行ハ元山、大邱ヲ初メトシ地方十三箇所ニ支店及出張所ヲ有スルニ至レリ是ヨリ先キ半島内陸ノ發展ニ伴ヒ十八銀行及第五十八銀行等支店ヲ開設セリ明治三十九年三月舊韓國政府ハ銀行條例ヲ發布シ又漢城、天、ノ兩銀行ニ資金ヲ貸與シ其ノ業務ヲ革新セシメ次テ韓一銀行ヲ亦設立セラレ財界漸ク順調ニ向ヒ金融年ヲ遂フテ好況ヲ呈セリ

第四章 財政及經濟

明治三十九年三月農工銀行條例發布セラレ農工業ノ開發及一般金融調和ノ目的ヲ以テ政府ハ各地ニ農工銀行ノ設立ヲ獎勵シ政府借入ノ起業資金中其ノ一部ヲ舉ケテ之ニ補助ヲ與フルコト、セリ、漢湖農工銀行ハ此ノ主旨ニ基キテ設立セラレタルモノ、嚆矢トス次テ大邱、平壤、全州、光州、海州、鏡城及咸興等ニ農工銀行本支店ノ設立ヲ見ルニ至レリ

明治四十二年十月、韓國銀行ハ中央銀行トシテ設立セラレ從來第一銀行京城支店ニ於テ取扱ハレタル金庫事務、銀行券發行等ハ韓國銀行ニ引續カレタリ尙併合後同行ハ朝鮮銀行ト改稱セリ

在朝鮮銀行一斑
四十四年九月末日現在

名	稱	支店及出張所數	資本金及支店元金	設立者	開業年月
朝鮮銀行	朝鮮銀行	一四	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	内地人	四十一年十一月
第一銀行	第一銀行	二	一、八〇〇、〇〇〇	内地人	四十一年五月四日
第十銀行	第十銀行	一	一、五〇〇、〇〇〇	内地人	二十三年一月一日
百三十八銀行	百三十八銀行	七〇〇、〇〇〇	七〇〇、〇〇〇	同	二十五年七月二十日
防三銀行	防三銀行	一	〇〇〇、〇〇〇	同	四十一年七月十八日

密陽	漢陽	慶州	平壤	全州	光州	咸鏡	漢城	朝鮮	韓商	漢城	合
銀行	銀行	銀行	銀行	銀行	銀行	銀行	銀行	銀行	銀行	銀行	銀行
五〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	六四〇、〇〇〇
内地人	朝鮮人	同	同	同	同	同	同	同	同	同	朝鮮人
四十一年三月一日	三十九年六月二日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	三十八年十二月十一日

二 朝鮮銀行

朝鮮ニ於ケル國庫金ノ出納、銀行券ノ發行、其ノ他中央銀行ノ業務ハ從來株式會社第一銀行京城總支店ヲシテ之ヲ取扱ハシメタルカ財政ノ膨脹、經濟ノ發展ニ伴ヒ金融ノ中樞タル中央銀行設置ノ必

第四章 財政及經濟

二二七

要ヲ認メ明治四十二年韓國銀行ヲ設立シ第一銀行ヨリ中央銀行トシテ業務ヲ繼承シ同年十一月ヨリ業務ヲ開始セリ而シテ併合後朝鮮銀行法ノ發布ト共ニ同行ハ朝鮮銀行ト改稱セリ

- 朝鮮銀行ハ資本金ヲ一千萬圓トシ中央銀行トシテ國庫金ノ出納、銀行券ノ發行ヲ爲スノ外
- 一 爲替手形其ノ他商業手形ノ割引
- 二 平常取引スル諸會社銀行又ハ商人ノ爲手形代金ノ取立
- 三 爲替及荷爲替
- 四 確實ナル擔保附貸付
- 五 諸預リ金及當座貸越勘定
- 六 金銀貨實金屬及諸證券ノ保護預リ
- 七 地金銀ノ買及貸幣ノ交換
- 八 尙政府ノ認可ヲ受クルトハ公共團體ニ對シ無擔保貸付ヲ爲スコトヲ得、營業ノ都合ニヨリテハ國債證券、地方債券其ノ他確實ナル有價證券ヲ買入ル、コトヲ得ルモノトス

朝鮮銀行ハ京城ニ本店ヲ有シ支店ヲ大原、仁川、平壤、大邱及元山ノ五ヶ所ニ設ケ出張所ヲ鎮南浦、蔚山、木浦、馬山、咸興、城津、新義州及安東縣ノ八箇所ニ有セリ

(イ) 總況

朝鮮銀行一覽 明治四十四年九月末現在

公稱資本金	10,000,000 ^圓	拂込資本金	5,000,000 ^圓	積立金	1,212,000 ^圓	政府貸下金	100,000,000 ^圓	預金	6,225,100 ^圓	貸付金	8,363,300 ^圓	銀行發行高	3,639,000 ^圓	支店出張所數	14
(ロ) 預金 (四)															
公金預金	1,090,000	定期預金	3,236,332	當座預金	1,258,662	特別當座金	16,510	預金手形	8,510	別股預金	5,000	通知預金	5,983	計	
(ハ) 貸借 (圓)															
(ニ) 借															



朝鮮ニ於ケル普通銀行ハ天、漢城及韓一、ノ三銀行ニシテ孰モ京城ニ本店ヲ有セリ而シテ天一銀
行ハ併合後朝鮮商業銀行ト改稱セリ

朝鮮人設立普通銀行一覽 (四) 明治四十四年九月末現在

銀行名	公稱資本金	拂込資本金	政府貸下金	積立金及前 期繰越金	預金	貸出金
朝鮮商業銀行	500,000	330,000	120,000	87,600	266,000	896,600
漢城銀行	3,000,000	2,500,000	100,000	11,000	1,100,000	1,000,000
三一銀行	500,000	380,000	100,000	8,800	85,000	960,000
計	4,000,000	3,210,000	320,000	107,400	1,251,000	2,856,600

五 農工銀行

蓄積國政府ハ明治三十九年三月農工銀行條例ヲ發布シ翌月ヨリ之カ設立ニ著手シ或ハ政府ニ於テ株
式ヲ引受ケ或ハ無利子貸下金ヲ爲シ全國各道所在地ニ一箇所宛ノ本店ヲ設置セシカ後且經濟交通工
ニ繼ミル所アリ更ニ之カ併合ヲ行ヒ現今全國ヲ通シ本店六ヶ所(京城、平壤、大邱、全州、光州及

光山)ヲ有シ支店、出張所二十九箇所ヲ權要ノ地ニ設置セリ

各農工銀行ノ業務ノ要項ハ

- 一 年賦又ハ定期償還ノ方法ニ依リ不動産擔保貸付ヲ爲スコト
 - 二 法令ヲ以テ組織セラレタル公共團體ニ對シ無擔保ニテ前項ノ貸付ヲ爲スコト
 - 三 二十人以上ノ農業者又ハ工業者連帶責任ニテ借用ヲ申出タルトキハ其ノ信用確實ナルモノニ
限リ五箇年以内ニ於テ定期償還ノ方法ニ依リ無擔保貸付ヲ爲スコト
- ニシテ前三項ノ貸付ハ開墾、排水、灌溉及土地、土質ノ改良、殖林事業等ノ農工業ノ爲ニ使用スル
モノナルコトヲ目的トス尙商業手形割引並爲替預金等普通銀行業務ヲ兼營スルモノアリ

農工銀行一覽 (四) 明治四十四年九月末現在

銀行名	所在地	公稱資本	稱拂 資本	積立金 前期繰越金	預金	貸出金	農工債券 發行高	貸下金	支店 出張所數
漢湖 農工銀行	京城 咸鏡道	500,000	330,000	100,000	200,000	1,000,000	100,000	100,000	七

第四章 財政及經濟

光州、鎮南浦並水原ニ本支所ヲ設置シ手形ノ効力ハ漸ク商人間ニ周知セラル、ニ至レリ

手形組合一覽 各年末現在

年次	組合數	基本金	積立金	前年繰越本年保證金	及本年支拂高	未現在高
明治四十四年六月末	六	三、三〇〇、〇〇〇	七、三二二、〇〇〇	九、四、六七〇	三、二四、八五〇	三、三三、〇〇〇
同 四十三年	六	三、三〇〇、〇〇〇	六、〇八五、〇〇〇	八、四、六五〇	三、六三、一五三	九、四、六七〇
同 四十二年	六	三、三〇〇、〇〇〇	五、六八五、〇〇〇	八、九、九四〇	三、四八、四九〇	八、〇四、六五〇
同 四十一年	六	三、三〇〇、〇〇〇	四、四三〇、〇〇〇	一、〇七、八〇〇	三、九、九〇〇	八、九、九四〇
同 四十年	六	三、三〇〇、〇〇〇	一、八、九三〇	三、七、三、元九	三、四、五、〇六九	一、〇、七、八〇〇
同 三十九年	六	三、三〇〇、〇〇〇	五、五〇〇	一、六、三、三九	八、三、三、七九	五、五、五〇〇

八 地方金融組合

地方金融組合ハ、地方小農民間ノ金融ヲ緩和シ農業發達ヲ企圖スルノ趣旨ヨリ出テシモノニシテ朝鮮ヲ如キ積年ノ秕政ノ下ニ困憊セル細民ヲシテ生計ノ餘裕ヲ得セシメ地方産力ノ増進ヲ圖ルハ經濟

發展上、最急ノ事業ナルヲ以テ舊韓國政府ハ明治四十年五月地方金融組合規則ヲ制定シ次テ各地ニ金融組合ヲ設置セシメ各組合ニ對シテ基本金一萬圓ヲ下付シ理事ヲ推薦シ二三組合兼務ノ農業技手ヲ任キ模範農事ヲ獎勵セリ各組合ハ一郡又ハ二三郡ヲ以テ其ノ區域ト爲シ其ノ區域内ノ農民ヲ以テ組合員トシ、組合員ニハ一人金五十圓ヲ限度トシテ(一)農工業資金ヲ貸與シ(二)生産物ノ委託販賣及必需品ノ共同購入ヲ取扱ヒ(三)貨物集散ノ地ニ在ル組合ハ倉庫ヲ建造シ米穀ヲ擔保トシテ貸付ヲ行ヘリ現今組合總數既ニ百三十箇所ニ達セリ

地方金融組合營業總況 明治四十四年九月調

地方	基本金	組合數	組合員	貸付金
京畿道	一、三〇〇、〇〇〇	一一	三、四七六	一〇一、三五四
忠清南道	一、三〇〇、〇〇〇	一三	四、八八六	一〇、九三三
忠清北道	七〇〇、〇〇〇	一六	二、二七七	五九、三八二
全羅南道	一、五〇〇、〇〇〇	二六	六、〇一七	一四三、四六五
全羅北道	一、三〇〇、〇〇〇	一三	四、九五四	一〇、七〇六

第四章 財政及經濟

地方	未墾地分布表	
	河邊未墾地	山林原野
京畿道	五五、一九六	四〇、〇四〇
忠清北道	四九、九二七	一〇、三三五
忠清南道	三二、七三三	一九、八五七
全羅北道	一六、四〇〇	五一、六三七
全羅南道	八、九四八	九七、二五二
慶尚北道	三七、三八七	四六、三二〇
慶尚南道	三三、八四二	七五、五八五
黃海道	二七、九三〇	三九、八五三
平安北道	四二、二八八	四五、二二四
平安南道	一五、六五三	一三、四七七
江原道	一〇、一四九	四一、四七〇
咸鏡北道	二七、〇六三	五八、七三九
咸鏡南道	一七、八七四	一〇、五七六
合計	三三〇、七九九	六四六、八五三
		二〇七、四六九
		一、八五、一一一

然り而シテ朝鮮ニ於ケル未墾地ハ近年多數内國人ノ移住スルニ隨ヒ漸次開拓セラルルニ至レリト雖
尙到ル處ニ散在セリ從前調査シタル各道別反別左ノ如シ

備考 京城府ハ調査未了ニ付本表中ニ含まス
△印ヲ附シタルハ休閒地及燒畑ナリ

地方	未墾地分布表	
	河邊未墾地	山林原野
京城府	八〇、〇六一	二〇、〇九〇
京畿道	七六、一五九	二〇、〇九〇
忠清北道	三三、四二五	一九、八五七
忠清南道	一一、七四七	五一、六三七
全羅北道	一三、七〇三	九七、二五二
全羅南道	七、七三一	四六、三二〇
慶尚北道	八二、九〇三	七五、五八五
慶尚南道	三二、七三三	三九、八五三
平安北道	三二、〇三三	四五、二二四
平安南道	四七、三八四	一三、四七七
江原道	三三、〇三三	四一、四七〇
咸鏡北道	二四、二七五	五八、七三九
咸鏡南道	八〇、二〇二	一〇、五七六
合計	八四〇、九八三	六四六、八五三
		二〇七、四六九
		一、八五、一一一

前記ノ未墾地方從來開拓セラレサリシ所以ノモ、ハ主トシテ旱水害アリシニ依ルモノハ朝鮮ノ人口稀薄ナルト農民ノ資力及智識ノ程度之ニ伴ハサルト開拓者ニ對スル所有權保護ノ途備ハラサリシニ基因ス依テ明治四十年國有未墾地利用法ヲ發布シ左記ノ趣旨ヲ以テ之カ利用ヲ獎勵セリ

イ 貸付期間ヲ十箇年トシ開墾畝播種ニ付テハ特別ノ事由アルモノノ外事業成功後付與スルコトトシ其ノ他ノ利用ニ付テハ拂下ク

ロ 貸付料ハ一町歩年額五十錢トシ特別ノ事由アルモノニ對シテハ之ヲ減免ス

ハ 事業成功後付與又ハ拂下タル土地ノ稅率ハ其ノ土地所在ノ道ニ於ケル最下級ニ屬スル土地ノ負擔ノ三分ノ一トス

一 未墾地中ニハ一地區ニシテ百町歩以上ノ大面積アルモノ少カラス此等ノ假借調査ハ相當ノ費用ト技術ヲ要シ一般庶民ニ對シ精確ナル調査ヲ望ムヘカラサルノミナラス豫メ官廳ニ於テ之ヲ調査シ確實ナル利用方法ヲ示スハ獎勵上將々處理上其ノ効果少カラサルヲ以テ明治四十四年度ヨリ之カ調査ヲ開始セリ

一 明治四十四年六月末日ニ於ケル國有未墾地ノ貸付ノ狀況ヲ示セハ左表ノ如シ
國有未墾地貸付表 明治四十四年六月末日現在

地方	原野		荒蕪地		草生地		沼澤地		干潟		計
	反別	件數	反別	件數	反別	件數	反別	件數	反別	件數	
京畿道	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	5,000
忠清北道	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	5,000
忠清南道	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	5,000
全羅北道	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	5,000
全羅南道	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	5,000
慶尙北道	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	5,000
慶尙南道	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	1,000	10	5,000
合計	10,000	100	10,000	100	10,000	100	10,000	100	10,000	100	50,000

第五章 農業

便宜ノ爲耕地ノ價格ニ付キテ一付セムニ地價ノ高低ハ地方ニ依リ一様ナラズト雖地味ノ善惡交通ノ便否都市下ノ距離等ニ因リテ定マルハ勿論ニシテ近時朝鮮農事ノ有利ナルヲ見テ内地人ノ争ヒテ土地ヲ買フモノソシタルノ結果價格頓ニ暴騰シタリ左ニ各地ノ地價及收益ノ一般ヲ例示セム

合計	成鏡北道	成鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道
元 八 三 〇	元 八 〇 〇	元 八 〇 〇	元 八 〇 〇	元 八 〇 〇	元 八 〇 〇	元 八 〇 〇
元 三 〇 〇	元 三 〇 〇	元 三 〇 〇	元 三 〇 〇	元 三 〇 〇	元 三 〇 〇	元 三 〇 〇
元 六 〇 〇	元 六 〇 〇	元 六 〇 〇	元 六 〇 〇	元 六 〇 〇	元 六 〇 〇	元 六 〇 〇
元 九 〇 〇	元 九 〇 〇	元 九 〇 〇	元 九 〇 〇	元 九 〇 〇	元 九 〇 〇	元 九 〇 〇
元 一 〇 〇 〇	元 一 〇 〇 〇	元 一 〇 〇 〇	元 一 〇 〇 〇	元 一 〇 〇 〇	元 一 〇 〇 〇	元 一 〇 〇 〇
元 一 一 〇 〇	元 一 一 〇 〇	元 一 一 〇 〇	元 一 一 〇 〇	元 一 一 〇 〇	元 一 一 〇 〇	元 一 一 〇 〇
元 一 二 〇 〇	元 一 二 〇 〇	元 一 二 〇 〇	元 一 二 〇 〇	元 一 二 〇 〇	元 一 二 〇 〇	元 一 二 〇 〇
元 一 三 〇 〇	元 一 三 〇 〇	元 一 三 〇 〇	元 一 三 〇 〇	元 一 三 〇 〇	元 一 三 〇 〇	元 一 三 〇 〇
元 一 四 〇 〇	元 一 四 〇 〇	元 一 四 〇 〇	元 一 四 〇 〇	元 一 四 〇 〇	元 一 四 〇 〇	元 一 四 〇 〇
元 一 五 〇 〇	元 一 五 〇 〇	元 一 五 〇 〇	元 一 五 〇 〇	元 一 五 〇 〇	元 一 五 〇 〇	元 一 五 〇 〇
元 一 六 〇 〇	元 一 六 〇 〇	元 一 六 〇 〇	元 一 六 〇 〇	元 一 六 〇 〇	元 一 六 〇 〇	元 一 六 〇 〇
元 一 七 〇 〇	元 一 七 〇 〇	元 一 七 〇 〇	元 一 七 〇 〇	元 一 七 〇 〇	元 一 七 〇 〇	元 一 七 〇 〇
元 一 八 〇 〇	元 一 八 〇 〇	元 一 八 〇 〇	元 一 八 〇 〇	元 一 八 〇 〇	元 一 八 〇 〇	元 一 八 〇 〇
元 一 九 〇 〇	元 一 九 〇 〇	元 一 九 〇 〇	元 一 九 〇 〇	元 一 九 〇 〇	元 一 九 〇 〇	元 一 九 〇 〇
元 二 〇 〇 〇	元 二 〇 〇 〇	元 二 〇 〇 〇	元 二 〇 〇 〇	元 二 〇 〇 〇	元 二 〇 〇 〇	元 二 〇 〇 〇
元 二 一 〇 〇	元 二 一 〇 〇	元 二 一 〇 〇	元 二 一 〇 〇	元 二 一 〇 〇	元 二 一 〇 〇	元 二 一 〇 〇
元 二 二 〇 〇	元 二 二 〇 〇	元 二 二 〇 〇	元 二 二 〇 〇	元 二 二 〇 〇	元 二 二 〇 〇	元 二 二 〇 〇
元 二 三 〇 〇	元 二 三 〇 〇	元 二 三 〇 〇	元 二 三 〇 〇	元 二 三 〇 〇	元 二 三 〇 〇	元 二 三 〇 〇
元 二 四 〇 〇	元 二 四 〇 〇	元 二 四 〇 〇	元 二 四 〇 〇	元 二 四 〇 〇	元 二 四 〇 〇	元 二 四 〇 〇
元 二 五 〇 〇	元 二 五 〇 〇	元 二 五 〇 〇	元 二 五 〇 〇	元 二 五 〇 〇	元 二 五 〇 〇	元 二 五 〇 〇
元 二 六 〇 〇	元 二 六 〇 〇	元 二 六 〇 〇	元 二 六 〇 〇	元 二 六 〇 〇	元 二 六 〇 〇	元 二 六 〇 〇
元 二 七 〇 〇	元 二 七 〇 〇	元 二 七 〇 〇	元 二 七 〇 〇	元 二 七 〇 〇	元 二 七 〇 〇	元 二 七 〇 〇
元 二 八 〇 〇	元 二 八 〇 〇	元 二 八 〇 〇	元 二 八 〇 〇	元 二 八 〇 〇	元 二 八 〇 〇	元 二 八 〇 〇
元 二 九 〇 〇	元 二 九 〇 〇	元 二 九 〇 〇	元 二 九 〇 〇	元 二 九 〇 〇	元 二 九 〇 〇	元 二 九 〇 〇
元 三 〇 〇 〇	元 三 〇 〇 〇	元 三 〇 〇 〇	元 三 〇 〇 〇	元 三 〇 〇 〇	元 三 〇 〇 〇	元 三 〇 〇 〇
元 三 一 〇 〇	元 三 一 〇 〇	元 三 一 〇 〇	元 三 一 〇 〇	元 三 一 〇 〇	元 三 一 〇 〇	元 三 一 〇 〇
元 三 二 〇 〇	元 三 二 〇 〇	元 三 二 〇 〇	元 三 二 〇 〇	元 三 二 〇 〇	元 三 二 〇 〇	元 三 二 〇 〇
元 三 三 〇 〇	元 三 三 〇 〇	元 三 三 〇 〇	元 三 三 〇 〇	元 三 三 〇 〇	元 三 三 〇 〇	元 三 三 〇 〇
元 三 四 〇 〇	元 三 四 〇 〇	元 三 四 〇 〇	元 三 四 〇 〇	元 三 四 〇 〇	元 三 四 〇 〇	元 三 四 〇 〇
元 三 五 〇 〇	元 三 五 〇 〇	元 三 五 〇 〇	元 三 五 〇 〇	元 三 五 〇 〇	元 三 五 〇 〇	元 三 五 〇 〇
元 三 六 〇 〇	元 三 六 〇 〇	元 三 六 〇 〇	元 三 六 〇 〇	元 三 六 〇 〇	元 三 六 〇 〇	元 三 六 〇 〇
元 三 七 〇 〇	元 三 七 〇 〇	元 三 七 〇 〇	元 三 七 〇 〇	元 三 七 〇 〇	元 三 七 〇 〇	元 三 七 〇 〇
元 三 八 〇 〇	元 三 八 〇 〇	元 三 八 〇 〇	元 三 八 〇 〇	元 三 八 〇 〇	元 三 八 〇 〇	元 三 八 〇 〇
元 三 九 〇 〇	元 三 九 〇 〇	元 三 九 〇 〇	元 三 九 〇 〇	元 三 九 〇 〇	元 三 九 〇 〇	元 三 九 〇 〇
元 四 〇 〇 〇	元 四 〇 〇 〇	元 四 〇 〇 〇	元 四 〇 〇 〇	元 四 〇 〇 〇	元 四 〇 〇 〇	元 四 〇 〇 〇

田、畑一反歩平均價格 (明治四十三年)

地方	田			畑		
	上	中	下	上	中	下
京畿	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
忠清南道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
忠清北道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
全羅南道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
全羅北道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
慶尚南道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
慶尚北道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
黃海道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
平安南道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
平安北道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
江原道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
咸鏡南道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇
咸鏡北道	四三〇〇	三三〇〇	一七五〇	三〇〇〇	一七五〇	七〇〇

第五章 農業



第五章 農業

二四九

支	入 收		種 別	差 引 益 金	出				
	肥 種	合 麥 小			地 合	調 取 及 運	施 肥 管 理	播 種	種 理
料 子	計 程 麥	計 程 麥	木原附近	一・二六〇	四・六六〇	〇・一〇〇	〇・六五〇	〇・四〇〇	〇・五二五
			水浦附近	一・〇七五	五・六〇〇	〇・二〇〇	〇・六〇〇	〇・四五〇	〇・四七五
			光州附近	〇・五二五	五・〇三〇	〇・二二五	〇・五〇〇	〇・三七五	〇・三七五
			平壤附近						
			大邱附近	(世) 〇・五二五	五・二六五		〇・二三五		二・二五〇

支	入 收		種 別	差 引 益 金	出				
	整 肥 種	合 麥 麥			地 合	調 取 及 運	施 肥 管 理	播 種	種 理
地 料 子	計 程	計 程	水原附近	四・四八五	二・二一五	〇・一〇〇	〇・三〇〇	〇・六二五	〇・六二五
			水浦附近	〇・二七二	三・五五八	〇・二〇〇	〇・四五〇	一・二〇〇	〇・四七五
			光州附近	一・〇二一	二・六八九	〇・二三五	〇・三七五	〇・七三〇	〇・三七五
			平壤附近	二・二四七	四・六五三	〇・二〇八	〇・七〇〇	〇・六六〇	一・三〇〇
			大邱附近	〇・五二五	三・八七九		〇・三二五	二・七五〇	二・七五〇

朝鮮ニ於ケル耕地ノ大部分ハ大地主(王族、閥族、兩班)ノ所有ニ係レリ而シテ鮮人ノ多クハ農事ヲ樂トシ他人ノ田畑ヲ耕作シ一生小作ニテ甘ニスルモノ比々トシテ皆然リ而シテ大地主ノ多クハ都會ニ住居シ悠々自適田邑ニハ代理人ヲ置テ小作地ヲ整理シ小作人ヲ監督セシム小作ニハ三種ノ法アリ(一)地主土地ヲ貸與シ小作人ハ自ラ地租及種子ヲ出シテ耕作シ收穫ノ三分ノ一ヲ地主ニ納ムルモノト(二)地主地租及種子ヲ負擔シ其ノ收穫ヲ折半スルモノト(三)毎年豐凶ニ拘ラス小作料ノ一定セルモノトアリ、而シテ一航ニ行ハルハ(一)ノ三分ノ一法及(二)ノ折半法ニシテ(三)ノ定額法ハ至テ稀ナリ、而シテ小作ヲ約スルニハ成文ノ契約アルニハ非ス年限ノ定アルニモアラズ唯口約ヲ以テ之ヲ定ムルノミ又小作人ハ地主ニ對シテ意納チ爲スコト稀ナリ嘗ニ朝鮮人地主ニ對シテノミナラス内地人地主ニ對シテモ從來舊約ニ違フシ事ナク寧ロ安シテ長ク小作人タラシコトヲ希フモノ、如シ故ニ内地人ノ農業經營者ハ意外ニ便利ヲ感シツアリト云フ

農業者數一覽

四十三年六月末日調

地方	内地人		朝鮮人		清國人		其他外國人	
	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口	戶數	人口
京畿道	三九五	一、二六四	二二、六〇〇	九一七、六六五	二〇六	八七四		
忠清道	五三	一九三	一、〇六一	四八、五三四	四	九		
忠清南道	一六五	五〇三	一、七四、三三三	七七八、四六四	二〇	六七		
全羅道	二七三	八九九	一、七二、〇五九	七六五、七八八	一九	五七		
全羅南道	二九三	九一〇	二、七二、一六〇	一、二八八、二四七	八	二二		
慶尚道	二八〇	九〇五	二、九〇、九四五	一、三三三、三五九	三	六		
慶尚南道	四九八	一、六七六	三、五九、七八一	一、〇九九、三〇〇	三	七		
慶尚北道	四八	一、四一	一、八六、一四八	七三三、三四一	九	一五		
平安道	四四	一、四一	一、六四、〇三五	六六一、〇五九	四	一六		
平安南道	一七	六四	一、五五、七八二	七八八、六四二	三	一五		
江原道	二五	七二	一、四四、〇三六	五九四、七四〇	二	四		
咸鏡道	一九	五六	一、二七、三七五	六五六、九一二	九	二四		
咸鏡北道	三三	九二	六四、〇四八	三三三、七二〇	一〇	三		
合計	三、三三三	一、〇、八八三	三、三三三、八一四	一、〇、四一、八八〇	三六四	一、四〇五	一〇	三三

本表中京畿道京城府ハ調査未了ニ付掲上セズ

第五章 農業



前述セルカ如ク朝鮮農業ノ有界ナルニ鑑ミ内地人ノ經營者頗ル増加シ各道之ヲ見サルナキニ至レリ
 今四十三年末ニ於ケル狀況ヲ調査スルニ經營者二千二百五十四人、投資額一千三百七十三萬六千五
 百六十七圓、所有地面積田四萬二千五百八十五町四反步、加三萬六千七百二十七町步山林原野一萬
 三千八百六十七町其他三千七百七十二町七反步合計八萬六千九百五十二町三反步ニシテ内投資額一
 萬圓以上ノ經營者ハ百七十二人、其ノ投資額九百五十六萬四千七百八十七圓、所有地合計五萬八千
 九百四十三町六反步ナリ次ニ投資額一萬圓以下ノ經營者ハ二千八百八十二人、其ノ投資額四百十七萬一
 千七百八十圓、所有地合計二萬八千八百七反步ナリ而シテ之等農業經營者ノ營業種別並其ノ經營方
 法ヲ見ルニ營業種別ハ普通農事果樹蔬菜ノ栽培、桑園、造林等ニシテ經營方法ハ投資額一萬圓以上
 ノ經營者ハ大部分小作經營ニシテ其ノ自作地ハ小作地ノ僅ニ一分八厘ニ過キス左ニ各道別内地人農
 事經營表並所有田、加合計百町步以上ノ經營者七十人ノ各經營狀況ヲ掲ク

内地人農事經營表

(明治四十三年十二月末日現在)

地方	投資別者數	投資額	所有地面積			自作地		小作地	
			田	山林原野	其他	田	計	田	計
京畿道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
忠清北道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
忠清南道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
全羅北道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
全羅南道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
慶尙北道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
慶尙南道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
黃海道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
平安南道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
平安北道	1,000以上	1,000,000	100	100	100	100	100	100	
合計									

第五章 農業

第五章 農業

(慶南)馬山、固城、各府郡内	108,300	18,600	26,600	35,500	普通農事	同三十九年	慶南馬山中農場
(慶南)金海郡内	25,000			25,000	普通農事	同三十九年	慶南金海(郁太郎)農場
(平南)平海府内	22,000	25,500		25,500	普通農事	同三十九年	平南平海(寅太郎)農場
(全北)益山、臨慶、咸悅各府郡内	19,700	50,500	33,000	24,800	普通農事	同三十九年	全北益山(森谷)農場
(忠清)恩津、扶餘、林川、石城、龍仁(全北)彌山、各府郡内	17,300	44,500	26,800	24,400	普通農事	同三十九年	忠清恩津(室原)農場
(全南)木浦府内	28,300	6,600	25,500	25,500	普通農事	同三十九年	全南木浦(高力)農場
(黃海)黃州郡内	100,000	50,000	50,000	50,000	普通農事	同三十九年	黃海黃州(片倉)農場
(慶南)晉州、泗川、各府郡内	20,500	20,000	40,000	37,900	普通農事	同三十九年	慶南晉州(韓國勸業株式會社)農場

(全南)木浦、南平、南平、各府郡内	23,300	6,600		23,300	普通農事	同三十九年	全南木浦(香川)農場
(全北)萬頃郡内	25,000	25,000	10,000	25,000	普通農事	同三十九年	全北萬頃(中柴)農場
(全北)臨慶、益山、各府郡内	23,000	25,000		23,000	普通農事	同三十九年	全北臨慶(楠田)農場
(全北)金堤、金堤、泰仁各府郡内	25,000	25,000	20,000	25,000	普通農事	同三十九年	全北金堤(樹富)農場
(全北)金堤、全州、萬頃各府郡内	27,500	25,000	100,000	25,000	普通農事	同三十九年	全北金堤(木庭)農場
(忠清)恩津、石城、林川各府郡内	25,000	10,000		25,000	普通農事	同三十九年	忠清恩津(號谷)農場
(全北)彌山、各府郡内	25,000	18,800	20,000	25,000	普通農事	同三十九年	全北彌山(全南藥山浦)農場
(全南)南平、羅州、綾州各府郡内	25,000	20,000	20,000	25,000	普通農事	同三十九年	全南南平(大田)農場
(黃海)黃州郡内	25,000	100,000	100,000	25,000	普通農事	同三十九年	黃海黃州(大田)農場
(慶南)靈山郡内	25,000	25,000	6,600	25,000	普通農事	同三十九年	慶南靈山(開城)農場
(忠清)龍仁、各府郡内	18,500	25,000	25,000	25,000	普通農事	同三十九年	忠清龍仁(小倉)農場

忠清道	忠清道	全羅道	全羅道	慶尚道	慶尚道	黃海道	平壤道	平壤道	江原道	咸鏡道	咸鏡道
北	南	北	南	北	南	北	南	北	南	北	南
五〇、〇〇〇	四七、〇〇〇	六二、〇〇〇	四七、〇〇〇	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	三七、八〇〇	四三、五〇〇	六一、一五〇	六一、〇〇〇	四四、四三〇
三二、〇〇〇	三〇、〇〇〇	三九、六〇〇	三五、五〇〇	四〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	二六、七〇〇	二九、七〇〇	五一、八〇〇	三七、五〇〇	
三三	三四	三一	三二	三四	三五	三二	三三	三三	三三	三〇	
二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	

朝鮮人ハ耕地面積ノ廣狹ヲ表章スルニ單ニ作物收穫高或ハ耕働ノ功程又ハ播種量等ニヨリ結、耕、落ノ名稱ヲ用フ一結ト云フハ收税上ノ便宜ニ依ル名稱ニシテ普通民間ニ於テハ一斗落、一日耕等ヲ以テ面積ヲ表ハス單位トス即チ一斗落トハ概一斗ヲ播下スヘキ地積ヲ云ヒ一日耕トハ一畝ノ牛ト一

人ノ壯丁トニ依リテ一日ニ耕耘シ得ラルヘキ地積ヲ云フ從ヒテ一日耕ト云ヒ一斗落ト云フモ場所ニ於テ異ナリ人ニ依リテ差アルカ故ニ一概ナラス朝鮮人カ犁耕ヲ爲スニ特ニ耕、落ヲ限リテ之レヲ稱合ハシムルコトアリ人ト牛トヲ借リテ之ヲ耕サシムルコトアリ、單ニ牛ヲ與ヘテ人ニ耕サシムル等種々アリト雖モ耕牛ノ賃錢ハ大要左ノ如シ

- 一、飼料ヲ與フレハ牛一頭 日給 金貳拾錢
- 一、飼料ヲ與ヘサレハ牛一頭 同 金四拾錢
- 一、耕夫付牛一頭 同
- 一、耕牛一頭ハ耕夫二日ニテ代償ス

三 農産物

一、米 朝鮮農産物中第一ニ位スル重要品ニシテ朝鮮人カ日常ノ糧食トシテ消費スル高ハ英大ナリト雖而カモ尙輸出スル高モ亦第一位ニ在リ慶尙、全羅ノ南鮮ノ地産出最多ク黃海、忠清、京畿ノ中部ノ地之ニ亞キ北鮮ハ頗ル少シ明治四十三年度ニ於ケル輸出高ハ七十七萬六千四百二十二石



ニシテ其價額六百二十七萬七千七百五十二圓三及ハ、
 二大豆 其輸移出額ニ於テ米ニ並ク各道到ル所其ノ栽培ヲ見サルナク明治四十三年度ニ於ケル輸移
 出高八十萬七千五百十三石其價格五百二十一萬七千二百四十六圓ナリ
 三麥 大麥、小麥ヲ主トシ燕麥之ニ次キ裸麥ハ甚タ少シ大麥ニハ、春麥、秋麥アリテ京城以北ハ春
 麥多ク以南ハ秋麥多シ、小麥ハ秋麥トス燕麥ハ春麥多ク山間狹隘ノ地ニ栽培スルモノ多シ

米、麥、大豆産額表

明治四十三年

地方	作付反別(町)		收穫高(石)		一段歩平均收穫高(石)	
	米	大豆	米	大豆	米	大豆
京畿道	〇三、五七五	七、〇〇〇	一、八〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	〇・四八〇	〇・九七〇
忠清北道	七、〇〇〇	三、〇〇〇	三、七三六	六、〇〇〇	〇・九七〇	〇・七四〇
忠清南道	九、六〇七	三、三九九	三、九〇八	九、〇〇〇	〇・九七〇	〇・六六〇
全羅北道	七、三三三	一、六〇四	九、一四三	六、三三〇	〇・九七〇	〇・九七〇
全羅南道	二、七〇八	〇、〇〇〇	七、七三三	六、九四三	〇・九七〇	〇・八八〇
慶尙北道	二、二〇〇	六、九〇〇	三、四三三	三、八六三	一・一七〇	〇・四七〇

慶尙南道	八、五五四	五、〇二八	三、九六六	四、四九〇	一・七五二	〇・九七〇
黄海道	六、九六一	四、七九八	三、七四七	六、〇七四	一・四三六	〇・九七〇
平安南道	四、六二四	三、四三〇	三、九四三	一、三六五	一・五五三	〇・九七〇
平安北道	四、三三〇	六、六六七	五、〇八六	四、〇〇七	一・六六七	〇・九七〇
江原道	三、四四〇	三、四七三	一、九四八	一、〇〇〇	一・七〇〇	〇・五三三
咸鏡南道	三、四四〇	三、九〇〇	一、八七〇	一、〇〇〇	一、五九六	〇・四三三
咸鏡北道	七、〇五九	三、八三九	三、三〇〇	一、四〇〇	一、五三九	〇・五三三
合 計	八〇、八七五	四、六八七	四、八五五	一、八六二	一・一〇六	〇・七九七

本表中京畿道京城府ノ米、麥、大豆及咸鏡北道慶源郡ノ麥ハ共ニ調査未了ニ付掲上セズ

四棉花 棉ハ江原道ノ東清岸及咸鏡南道ヲ除クノ外各地殆ト之ヲ栽培セサルナキモ全羅慶尙ノ兩道

ハ其ノ主産地ニシテ忠清南北兩道之ニ並ク棉質纖維長クシテ彈力ニ富ミ各種ノ用途ニ適セリ從來

朝鮮人ハ衣料ニ供スヘキ本綿ヲ製スルニ自ラ棉種ヲ育キ自ラ紡出シ自ラ製織シテ需用ニ供スル慣

習ナリシモ近來日本ヨリ精練ナル紡績糸ノ移入セラル、ヤ棉花ノ紡出漸ク減セラレシト同時ニ明

治三十五年朝鮮産棉花ハ内地ニ移出スルノ途閉ク販路擴張セラレテ漸次好況ヲ示スニ至レリ然レ



トモ其品質優其ナラサルヲ以テ明治三十九年政府保護ノ下ニ收量繰歩合共ニ多ク纖維ノ細長ニシテ紡績原料ニ好適セル米國種陸地棉ノ栽培ヲ獎勵セシニ成績良好ナルヲ以テ年々栽培反別ヲ増加シ明治三十九年ニ於ケル陸地棉作付反別四十五町步其栽培者僅ニ三百餘名ヲ出テサリシニ明治四十四年ニ至リ約二千八百町步其栽培者實ニ四萬餘人ノ多キニ達セリ勸業模範場木浦支場ニ於ケル陸地棉及在來棉ノ比較試驗成績ニ依ルトキハ朝鮮在來棉一反步收獲高ハ百六十六斤ニシテ陸地棉ハ二百六十六斤ナリ之レ陸地棉在來棉ノ共ニ優良ナルモノ、比較ナルヲ以テ爾棉優劣ノ如何ヲ窺フニ足ルヘシ而シテ明治三十九年ノ棉花移出額ハ僅ニ九萬圓餘ニ過キサリシモノ昨四十三年ニ於テハ三十萬四千餘圓ニ達セリ之レ等移出額ノ内其ノ在來棉ト陸地棉トノ數量ハ明白ニ區別スルコト能ハサルモ年々移出増加額中ニ於ケル陸地棉増加歩合ノ極メテ多大ナルコトハ疑フヘカウサルノ事實ナリ

五 煙草 朝鮮ニ於ケル特殊農産物ノ最モ重要ナルモノニシテ全道到ル所其ノ栽培ヲ見サルハナク京畿道龍仁、廣州、陽智、長湍、平安南道成川、陽德、江原道寧越、旌善、平昌、忠清北道清州、

忠州、清安、槐山、報恩、懷仁、全羅北道高山、珍山、錦山、全州、任實、鎮安、茂朱、慶尙南道河東、居昌黃海道谷山、新溪ノ各郡ハ何レモ主産地ニ屬シ殊ニ龍仁、廣州、成川、寧越ノ煙草ハ古來銘菓ヲ以テ稱セラル煙草ニ關スル調査ハ明治三十九年以來之ヲ繼續シ四十四年ニ至リテ大體ノ調査ヲ完結セリ又客年來前記ノ主産地ニ專門ノ技術官吏ヲ派遣シ耕作ノ改良、産地ノ發展ヲ獎勵シ其成績見ルヘキモノアリ其他慶尙北道大邱及忠清南道大田ニ設置セル煙草試作場ニ於テハ各種煙草ノ試作並ニ調理上ノ試驗ヲ經營シ其成績ハ毎年刊行シテ營業者ニ頒布セリ近來内地人ノ煙草ヲ栽培スルモノ漸ク多キナ加ヘ慶尙北道大邱、東村、慶尙南道密陽、三浪津、靈山、馬山等ノ各地ニ涉リ三百餘丁歩ノ耕地ヲ見ルニ至レリ左ニ朝鮮全道ニ於ケル煙草ノ産額ヲ表示ス

煙草栽培 (朝鮮種)

道名	耕作戸數	耕作反別	收穫量日	同上價格	耕作反別收穫量日	一貫當	一貫當價格
京畿道	三、八〇〇	一、三三三	二七七〇	一三八五三	六〇三	一一	五〇〇
忠清北道	一五、七五五	二、二六七	四七六一	二五九、〇六六	一四一三	一一	五〇〇

第五章 農業



忠清南道	全羅南道	全羅北道	慶尙南道	慶尙北道	黃海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道
一〇、六八二	一〇、五四七	三六、二八四	四一、五二〇	四五、〇二〇	三六、二八九	三六、二七〇	五七、三〇〇	二一、七七九	二九、〇九一	一四、五五九
四、五〇五	七、一九八	一、八一四	九、五五九	七、三二五	三、〇五五	三、六二七	一、六五二	三、三二六	二、六四四	一、〇五四
九、〇〇〇	一、四三九	三、六五五	一、九一八	一、四四一	四、一六〇	六、五二八	三、三〇四	五、七九八	六、三九五	二、〇九〇
五、四〇六	八、六三七	一、六三二	九、五五九	一、〇一一	二、〇五八	二、六一一	一、六五二	三、一九七	三、一九七	一、〇五四
四、〇七	六、二五	五、〇〇	三、〇九	一一八	五、三〇	一、四三	三、二七	一、四三	九、〇五	七、〇六
二〇	二〇	一八	三〇	二〇	二〇	一八	二〇	一八	二〇	一九
六〇〇	六〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇	五〇〇

右ノ外朝鮮ニ於ケル内地人煙草栽培ノ概況ヲ表示スルハ左ノ如シ

内地人煙草栽培

地方	耕作戸數	耕作反別	收穫量目	同上價額	耕作反別	收穫量目	同上價額
慶尙北道	七四	八、一〇〇	二、四三〇	四、八〇〇	一、〇九一	三、〇〇〇	三、〇〇〇
慶尙南道	三五	三、五〇〇	一、一五〇	三、一〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
東道	三	四〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、三三〇	二、五〇〇	一、八〇〇
南道	三	三、三〇〇	一、〇三〇	二、〇四〇	二、五三三	三、一〇〇	二、〇〇〇
上道	二	一、〇八〇	三〇、二四〇	六〇、四八〇	八、三〇三	二、八〇〇	三、〇〇〇
三道	四	三、〇〇〇	七、五〇〇	一、三五〇	七、五〇〇	二、五〇〇	一、八〇〇
畿道	四	三、〇〇〇	七、五〇〇	一、三五〇	七、五〇〇	二、五〇〇	一、八〇〇
馬山府	九	一、三〇〇	三、九〇〇	七、八〇〇	一、四四一	三、〇〇〇	一、八〇〇
同内府	一	一、五〇〇	四三〇	七、一四〇	一、五〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇
同外府	一	五、二〇〇	一、三〇〇	二、四七〇	三、〇一八	二、五〇〇	一、九〇〇

第五章 農業

一七五

一七四

同	廿	廿	廿	廿	廿
同	三三	三三〇	五、二八〇	九、五〇〇	二、八〇〇
廿	一九五	三三五、七	九六四七〇	一八九、七七八	一、七三〇五
					二八、七〇〇
					一、九六七

六人蔘 人蔘ハ朝鮮到ル所多少産セサルナシト雖モ古來高麗蔘ト稱シ世ニ珍ナル、ハ京畿道開城府近ニ産スルモノニ限レリ故ニ此ノ地方ハ古クヨリ人蔘栽培盛ニ行ハレ從テ耕作法モ亦大ニ進歩セリ其ノ栽培ノ最モ盛ナリシハ明治三十五年ノ頃ニシテ拾萬斤以上ノ收穫ヲ得シコトアリ然ルニ十數年前ヨリ人蔘ニ赤病ト稱スル病蔓延シ蔘葉萎廢ノ徵漸ク顯ハレ來リシモ官民共ニ之ヲ放任シ致テ救濟ノ道ヲ闢セザリシヲ以テ病益益勢ヲ逞フシ左表ノ如ク半チ遂テ人蔘産額減少シ斯業ハ遂ニ荒廢ニ歸セムトスルニ至レリ

年	度	收穫 間數	收納 水蔘	紅蔘 製造 高
同	明治三十五年	二二〇、二二七	一三八、一三九	四七、一九五
同	三十六年	一五三、四八一	一〇〇、六〇四	二六、七四六

同	三十七年	三一八、四九八	一九六、六〇〇	六七、〇〇〇
同	三十八年	二二〇、七四三	四六、八二二	一五、九〇五
同	三十九年	五五、二七二	四三、一九	一四、六五〇
同	四十年	七五、二三四	三五、六八六	一一、八六三
同	四十一年	四〇、三三三	一三、二四二	四、一七三
同	四十二年	二二、五一四	七、九〇三	二、三九四
同	四十三年	七、三五六	二、七七二	八九四

是ニ於テ明治四十一年參政事務ノ度支部所管ニ移リ尋テ紅蔘專賣法ヲ施行シテ以來當局者ハ蔘政ノ改善ヲ圖ルト共ニ種力萎弱ノ撲滅ニ努メ一面諸種ノ獎勵法、資金融通ノ道ヲ闢スル等獎勵セラル蔘業ノ興復ヲ圖リシ結果遂ニ其功ヲ奏シ近年俄ニ斯業ノ勃興ヲ見ルニ至レリ然レトモ人蔘ハ一般作物ト異リ播種ヨリ六七年ノ星霜ヲ經ルニアラサレハ收穫スルヲ得サルカ故ニ當年獎勵ノ結果ハ漸ク數年以後ニ於テ收メ得ヘキモノナリトス今明治四十五年以降ニ於ケル人蔘ノ生産額及收入ヲ豫算スレハ實ニ左表ノ如クニシテ再ヒ往時ノ盛況ヲ見ルニ至ルヘキヤ必セリ

第五章 農業

年 度	收穫間數	收納斤數	紅 蔘 製 造 高 格
明治四十五年	四三、五〇〇	一七、〇〇〇	五、七〇〇
同 四十六年	九一、〇〇〇	三六、〇〇〇	一二、〇〇〇
同 四十七年	二一〇、〇〇〇	八四、〇〇〇	二八、〇〇〇
同 四十八年	三二〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇	三九、六〇〇

備考 間トハ蔘圃地積ノ單位ニシテ約壹坪トス

人蔘ハ其製法ニ依リ紅蔘、白蔘ノ二種ニ區別ス紅蔘ハ水蔘(生蔘)ヲ蒸シテ日光及火熱ニ依リ乾燥セシメテ製シ白蔘ハ單ニ日光ニ乾カシテ製ス前者ハ價貴ク後者ハ廉ニシテ兩者共ニ形體ノ大ナルヲ尚フ而シテ紅蔘ハ專ラ清國ニ輸出スルモノニシテ同國ニ在テハ古來上下共ニ人蔘ヲ愛用シ萬能ノ靈藥トシテ用フルノ外附答用トシテ富饒大官ノ間ニ尊重セリ日本、米國等又人蔘ヲ産ストモ朝鮮蔘ハ品質形體共ニ類ナシト賞セラル最近ノ調査ニヨレハ昨年香港、上海、營口ヲ經テ彼ノ地へ輸入及移入シタル各國人蔘ノ數量約左ノ如シ

産 地	道	種	數	量	平均一斤ノ小賣價格
米 國	花 旗	蔘	八〇、〇〇〇	斤	二〇圓内外
日 本	東 洋	蔘	四〇、〇〇〇	斤	五圓
朝 鮮	高 麗	蔘	二〇、〇〇〇	斤	一五〇圓
滿 洲	東 蔘	蔘	一六〇、〇〇〇	斤	八圓

七家畜

(イ)牛 農耕ニ使用セラレ運搬用ヲ兼テ肉用トシテ需用極メテ大ニ稀ニ乳牛ニ用ヅ到ル所使用セラルルナルシテ體格偉大體質強健ニシテ而カモ性質温順ナルヲ以テ十歳ノ兒童モ能ク之ヲ牧御シ得ヘク其ノ價廉ニシテ且使役及肉用ニ適スルヲ以テ内地ニ移出シ露領浦羅斯德及清國ニ輸出セラルルモノ多シ四十二年ニ於ケル生牛及牛皮ノ輸出額ハ百六十三萬圓ニ上レリ、一頭ノ價約三十五圓内外ナリ先年成鏡北道ノ北邊ニハ牛疫發生セシモ近來絶テナシ

(ロ)馬 對州馬ノ如ク體軀矮小ナレトモ比較的力強ク能ク險路峻阪ノ跋涉ニ耐ヘ主トシテ運搬ニ

使用セラレ又乗用ニ供セラルルモ耕耘ニ用ヒラルルコトナシ性質順良ニシテ御シ易シ道路小童ノ二三ノ駄馬ヲ連牽シテ行クヲ見ル一頭ノ價約三四十圓ナリ

(ハ)驢 乘駄兩用ニ併セラルルモ其ノ數少ナク一頭ノ價二十圓内外ナリ

(ニ)豚 普ク飼養セラレト同シク到ル處見サルハナシ其ノ生産牛ニ次ク體軀矮小晩熟ニシテ品種優良ナラス多クハ冬時ノ食用ニ供ス鮮人ハ剥皮スルコトナク熱湯ヲ注キ毛ヲ去リテ食ス一頭ノ價二圓五十錢内外ナリ

(ホ)山羊 黒色小軀ニシテ其ノ生産少ナシ皮ハ防寒ニ用非肉ハ食用ニ供スレトモ乳ヲ取ルモノナシ朝鮮人ハ羊肉ヲ以テ最上ノ美食ト爲ス一頭ノ價二圓乃至五圓ナリ

(ヘ)家禽 鶏多數ヲ占メ鶉及鶩ハ其ノ數甚タ少ナシ、鶏ハ農家ニシテ之ヲ飼養セサルナク内地ノ地鶏ニ酷似スト雖稍小形ニシテ一層野生的ナリ卵小ニシテ豐産ナラス一羽二十五錢乃至三十五錢ニシテ卵十個十錢ヨリ十七八錢ナリ近年在留内地人ノ間ニ改良鶏ノ飼育漸次盛トナレリ

(ト)天 數ノ多キコト遠ニ内地ニ超エ其ノ體軀日本在來種ニ酷似スレトモ氣勢ナシ主トシテ夏期

ニ於テ豚ニ上ス爲飼養セララル一頭ノ價一圓乃至二圓ナリ
明治四十三年十二月末自現在

家畜數

道名	種別	牛	馬	驢	騾	豚	山羊	鶏
京畿道		五、〇三三	九、三三一	三、四一	一、三	三、七〇一〇	一一、九	一、九八、八五四
忠清北道		一、九六〇四	三、六四	九二	四	二、六、二七六	一〇、九九	二、七、三三七
忠清南道		三、三、九六八	四、一四	一、三、七	三、三	三、三、三、四三	九五〇	一、四〇、四四六
全羅北道		一、九、三、七五	三、八五	一、三、七	一、四	三、四、七〇〇	八〇四	一、二、四、六四八
全羅南道		四、八、七、五五	一、一、二、七九	八二	五	六、二、二八五	四、九六	二、四、一、五三三
慶尙北道		一、〇、三、二五〇	三、二、二七	一、七、七	二、九	二、八、六、六五	一、七、九八	三、八、三、八八五
慶尙南道		七、五、〇、三三	一、一、八八	一、四、五	一、〇、七	二、八、九、五三	一、六、三〇	一、七〇、六、一一
黃海道		五、三、四、九八	一、九、五、八	七、三二	三、三〇	七、八、九、九〇	九四	三、一、〇、三三
平安南道		四、三、七、七〇	三、〇、六九	一、七、五、四	一、九、五	五、〇、八、七九	三、三、八	二、八、九、九、五八
平安北道		七、〇、三、三、七	三、一、九、八	二、二、五、二	二、六、四	六、二、七、五〇	一一	四、一、六、五、七八
江原道		六、三、四、一三	三、七、〇	三、四、〇	七	三、八、五、一八	八、九	一、五、九、六、二六
咸鏡南道		八、〇、九、一七	六、七、〇、三	二、四、一	八	五、三、三、三〇	一、九	一、九、一、三、五五

第五章 農業

ノアリ近來京城開城三浪津等ヨリ改良セラレタル其果ヲ產出ス

(水) 梨果 在來林檎ハ產額少ク小形ニシテ品質劣等ナリ洋種梨果ハ結果極メテ良好ニシテ漸次產出増加シツ、アリ

(ハ) 梨 在來梨ノ產出少カラサルモ味佳ト云フヘカラス内地種ハ能ク其果ヲ結ヒ栽培日ニ増加セリ又洋種ノ結果ハ内地ニ比シ著シク優レリ

(ト) 葡萄 風土能ク洋種葡萄ニ適シ内地ニ於テ栽培困難ナル其種モ容易ニ結果ス

十一 蠶業 家蠶業ハ從來各地ニ普及セラレタリト雖各戸飼育ノ蠶種極メテ少ク蠶種ハ黃白綠混濁繭質不同繭層薄キ三眠蠶ニシテ桑樹ハ湖畔宅地又ハ堤塘ニ散在シ塔モ培養セズシテ自然ノ生育ニ放任セルカ故ニ野生桑ニ等シク蠶室ハ矮小ナル温突ヲ用ヒ蠶具ハ家具ヲ代用シ繰糸ニハ器械ヲ使用スルコト稀ニシテ多クハ赤手ヲ以テ抽出シ抽トシテ自家用ヲ滿スニ過キサルカ如キ状態ニ在リシカ明治三十九年以來桑樹及蠶種ヲ始メトシテ其他各般ノ改良ニ努メタル結果近時漸ク其效現ハレ栽桑蠶繭製系ノ如キ技術ハ著シク改良セラレ生産品ノ品質亦向上シ今ヤ朝鮮ノ蠶業ハ在來ノ面目

チ一新スルニ至レリ明治四十三年ニ於ケル桑園反別ハ三千九百五十四町九反少ニシテ養蠶戸數七萬七千八百十三戸ニ過キスト雖風土能ク蠶業ニ適シ社會ノ各種階級ヲ通シテ簡易適切ナル副業ナルヲ以テ將來格段ノ發達ヲ爲スヲ疑ハス

柞蠶業ハ從來殆ント經營スル者ナカリシカ明治三十九年以來之カ獎勵ニ努メタル結果今ヤ中部以北ノ地ニハ多數ノ飼育者ヲ見ルニ至レリ明治四十三年ノ繭產額ハ三千五百七十五萬九千餘個ニ過キカリシカ明治四十四年ニハ一億萬個以上ノ產額ヲ見ルヘキ豫想ニシテ將來ハ更ニ著シキ發達ヲ爲スニ至ラン

左ニ明治四十三年ノ蠶業ニ關スル統計ヲ掲グ

地方	桑園反別(町)		收繭高(石)		飼蠶戶數		柞蠶戶數	
	桑園反別	計	桑園反別	計	飼蠶戶數	柞蠶戶數	飼蠶戶數	柞蠶戶數
京畿道	四、八〇〇	三、七六〇	四、八〇〇	二、〇〇〇	八、三三三	四、七五〇	四、二〇〇	二、四〇〇
忠清北道	四、九七〇	三、三三〇	四、九七〇	一、五五〇	五、四九三	四、二〇〇	四、七〇〇	二、四〇〇
忠清南道	四、八〇〇	三、三三〇	四、八〇〇	一、五五〇	五、四九三	四、二〇〇	四、七〇〇	二、四〇〇
第五 農業	一、五八〇	一、五八〇	一、五八〇	一、五八〇	一、五八〇	一、五八〇	一、五八〇	一、五八〇



道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	黃海道	平安南道	平安北道	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	總計
明治四十三年	4,611	3,517	3,910	3,411	4,411	4,411	4,411	4,411	4,411	4,411	4,411
明治四十二年	4,511	3,411	3,811	3,311	4,311	4,311	4,311	4,311	4,311	4,311	4,311
明治四十一年	4,411	3,311	3,711	3,211	4,211	4,211	4,211	4,211	4,211	4,211	4,211
明治四十年	4,311	3,211	3,611	3,111	4,111	4,111	4,111	4,111	4,111	4,111	4,111
明治三十九年	4,211	3,111	3,511	3,011	4,011	4,011	4,011	4,011	4,011	4,011	4,011
明治三十八年	4,111	3,011	3,411	2,911	3,911	3,911	3,911	3,911	3,911	3,911	3,911
明治三十七年	4,011	2,911	3,311	2,811	3,811	3,811	3,811	3,811	3,811	3,811	3,811
明治三十六年	3,911	2,811	3,211	2,711	3,711	3,711	3,711	3,711	3,711	3,711	3,711
明治三十五年	3,811	2,711	3,111	2,611	3,611	3,611	3,611	3,611	3,611	3,611	3,611
明治三十四年	3,711	2,611	3,011	2,511	3,511	3,511	3,511	3,511	3,511	3,511	3,511
明治三十三年	3,611	2,511	2,911	2,411	3,411	3,411	3,411	3,411	3,411	3,411	3,411
明治三十二年	3,511	2,411	2,811	2,311	3,311	3,311	3,311	3,311	3,311	3,311	3,311
明治三十一年	3,411	2,311	2,711	2,211	3,211	3,211	3,211	3,211	3,211	3,211	3,211
明治三十年	3,311	2,211	2,611	2,111	3,111	3,111	3,111	3,111	3,111	3,111	3,111
明治二十九年	3,211	2,111	2,511	2,011	3,011	3,011	3,011	3,011	3,011	3,011	3,011
明治二十八年	3,111	2,011	2,411	1,911	2,911	2,911	2,911	2,911	2,911	2,911	2,911
明治二十七年	3,011	1,911	2,311	1,811	2,811	2,811	2,811	2,811	2,811	2,811	2,811
明治二十六年	2,911	1,811	2,211	1,711	2,711	2,711	2,711	2,711	2,711	2,711	2,711
明治二十五年	2,811	1,711	2,111	1,611	2,611	2,611	2,611	2,611	2,611	2,611	2,611
明治二十四年	2,711	1,611	2,011	1,511	2,511	2,511	2,511	2,511	2,511	2,511	2,511
明治二十三年	2,611	1,511	1,911	1,411	2,411	2,411	2,411	2,411	2,411	2,411	2,411
明治二十二年	2,511	1,411	1,811	1,311	2,311	2,311	2,311	2,311	2,311	2,311	2,311
明治二十一年	2,411	1,311	1,711	1,211	2,211	2,211	2,211	2,211	2,211	2,211	2,211
明治二十年	2,311	1,211	1,611	1,111	2,111	2,111	2,111	2,111	2,111	2,111	2,111
明治十九年	2,211	1,111	1,511	1,011	2,011	2,011	2,011	2,011	2,011	2,011	2,011
明治十八年	2,111	1,011	1,411	911	1,911	1,911	1,911	1,911	1,911	1,911	1,911
明治十七年	2,011	911	1,311	811	1,811	1,811	1,811	1,811	1,811	1,811	1,811
明治十六年	1,911	811	1,211	711	1,711	1,711	1,711	1,711	1,711	1,711	1,711
明治十五年	1,811	711	1,111	611	1,611	1,611	1,611	1,611	1,611	1,611	1,611
明治十四年	1,711	611	1,011	511	1,511	1,511	1,511	1,511	1,511	1,511	1,511
明治十三年	1,611	511	911	411	1,411	1,411	1,411	1,411	1,411	1,411	1,411
明治十二年	1,511	411	811	311	1,311	1,311	1,311	1,311	1,311	1,311	1,311
明治十一年	1,411	311	711	211	1,211	1,211	1,211	1,211	1,211	1,211	1,211
明治十年	1,311	211	611	111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111	1,111
明治九年	1,211	111	511	11	1,011	1,011	1,011	1,011	1,011	1,011	1,011
明治八年	1,111	11	411	1	911	911	911	911	911	911	911
明治七年	1,011	1	311	1	811	811	811	811	811	811	811
明治六年	911	1	211	1	711	711	711	711	711	711	711
明治五年	811	1	111	1	611	611	611	611	611	611	611
明治四年	711	1	11	1	511	511	511	511	511	511	511
明治三年	611	1	1	1	411	411	411	411	411	411	411
明治二年	511	1	1	1	311	311	311	311	311	311	311
明治元年	411	1	1	1	211	211	211	211	211	211	211

本表中桑畑見積段別ハ混植又ハ埔邊畦畔等ニ散在スル桑樹ニ對スル見積面積ヲ示ス
 明治四十三年及四十二年京城道中京城府ハ調査未了ニ付掲上セス尙四十二年ニ調査未詳ノモノ
 咸鏡北道中一郡アリ

四 勸業機關

農業ハ朝鮮ノ産業中最重要ノ位置ヲ占メ國民ノ經濟ハ一ニ係リテ農業ニ在ルカ故ニ改良指導ノ途ヲ
 講スルカ爲勸業機關ヲ設クルコト左ノ如シ

一 勸業模範場 明治三十九年日本政府之ヲ京城道水原ニ設置シ産業ノ改良發達上ニ資スル調査、賦
 驗、講習、購置、種苗、蠶種、種禽、種豚ノ配付及農事ノ模範實地指導ヲ主要ノ目的トシ其ノ出
 張所ヲ平壤大邱ニ設ケタリシカ明治四十年三月之ヲ蕙韓國政府ニ譲リ爾來一年ニ模範ノ實ヲ舉
 クルニ至リシカ日韓併合ノ結果總督府ノ管轄ニ歸シ水原ヲ木場トシ大邱、平壤、龍山、木浦及蠶
 島ニ支場ヲ設ケタリ

二 勸業模範場大邱支場 慶尙北道大邱ニ在リ明治四十一年四月勸業模範場大邱出張所トシテ設置シ
 タリシカ明治四十三年十月現今ノ名稱ニ更メタリ勸業模範場ノ業務中主トシテ南朝鮮地方ニ關ス
 ル事項ヲ分掌セリ

三 勸業模範場平壤支場 平安南道平壤ニ在リ明治四十一年一月勸業模範場平壤出張所トシテ設置シ

第五章 農業

タリシカ明治四十三年十月現今ノ名稱ニ更メタリ勸業模範場ノ業務中主トシテ四朝鮮地方ニ關スル事項ヲ分掌セリ

四勸業模範場龍山支場 京城府龍山ニ在リ從來女子蠶業講習所ト稱セシカ明治四十三年十月以來勸業模範場龍山支場ト改稱セリ明治三十八年七月大韓婦人會ノ設立セラレ、ヤ其事業トシテ蠶業所ヲ茲ニ設ケタルニ始マリ明治四十三年官立トナリシカ朝鮮婦女子ノ一定ノ職業ナク徒食ニ流ル、弊ニ鑑ミ之ニ授産ノ途ヲ講セントスルノ目的ニ出ツ同年四月一日二十名ノ生徒ヲ募集セシニ志願者九十三名ノ多キニ及ヒ試験ノ上定員ヲ採用シ同十一月第一回卒業生ヲ出セリ

五勸業模範場木浦支場 全羅南道木浦ニアリ明治三十八年朝鮮ノ有志相謀リテ棉花ノ栽培協會ヲ設立シ紡績原料ニ適セル陸地棉ヲ朝鮮南部一帶ニ普及セシムコトヲ企圖シ之レカ經營ノ實行ニ就キ當時ノ日韓兩國政府ニ請願スル所アリ當局ハ其請ヲ容レ當時ノ勸業模範場木浦出張所ヲシテ陸地棉ノ試験ヲ行ヒ仿其ノ普及ニ努力セシムルト同時ニ綿織工場ヲ建設シテ種子ノ蒐集ニ勉メシムル等幾多施設ノ結果ハ期待セル成績ヲ得タルニヨリ明治四十一年之レカ栽培ノ獎勵機關トシテ臨時

棉花栽培所ヲ置キ益陸地棉ノ普及ヲ圖リ來リシカ明治四十三年十月勸業模範場ノ所轄ニ移セリ現在附屬棉種圃二十ヶ所アリ明治四十四年ニ於ケル陸地棉栽培面積ハ約二千八百町歩ニシテ其ノ産額ハ二百萬斤以上ノ見込ナリ

六勸業模範場蘆島支場 京城府蘆島ニ在リ園藝模範場ト稱シ明治三十九年八月ノ創立ニ係リシカ明治四十四年十月移シテ勸業模範場支場ト爲セリ園藝ニ關スル試験及模範的栽培ヲ爲シ廣ク公衆ノ觀覽ニ供セリ

附

農林學校 京城道水原ニ在リ勸業模範場ニ附屬ス明治三十九年八月ノ創立ニ係リ農林業ニ必要ナル智能藝術ノ普及ヲ謀リ兼テ徳性涵養ノ目的ニ出テタルモノニシテ木科ヲ三箇年、速成科ヲ一箇年トス但シ速成科ノ生徒ハ當分募集セズ

朝鮮農會 明治三十九年ノ創立ニ係リ朝鮮ニ於ケル農林業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ本會ヲ京城ニ置キ水原開城清州公州全州祥山光州大邱三浪津晉州黃州平壤鎮南浦蕭川蔚州ノ十五箇所ニ

第五章 農業



支會ヲ設ク其ノ事業トシテ毎月一回會報ヲ發刊シ其ノ他圖書ノ編輯出版質問應答農事ノ講習、講
話傳習會品評會ノ開催畜牛鶏種ノ改良模範果園蠶業傳習所ノ設置種苗ノ育成配付又ハ其ノ供給ノ
仲介ヲナス等官民ノ間ニ介立シテ直接間接ニ指導勸奨ニ努メツ、アリ

第六章 拓殖事業

渡ニ日韓兩國政府ハ明治四十一年八月東洋拓殖株式會社ヲ發布シ東洋拓殖株式會社ヲ與シ共同指
導ノ下ニ拓殖事業ニ從事セシムルコトトセリ朝鮮ニ於ケル拓殖ハ獨リ同會社ノミナラス他ニ幾多ノ
經營者アリト雖本章ハ特ニ該會社カ拓殖事業ニ於ケル最近ノ概況ヲ舉ケテ一斑ヲ示サント欲ス
同會社ノ經營スル事業ノ種類ハ

- 一 農業
- 二 拓殖ニ必要ナル土地ノ買取及賃借
- 三 同土地ノ經營及管理
- 四 同建築物ノ築造買取及賃借
- 五 同移民ノ募集及分配
- 六 同資金ノ供給

七 移民及朝鮮農業者ニ物品ノ供給并其生産又ハ獲得シタル物品ノ分配

ニシテ本社ノ京城ニ置ク別ニ出張所及派出所ノ主産地ニ置キ以テ其事業ヲ管轄セシメタリ
 會社ノ資本金ハ壹千萬圓ニシテ總株數貳拾萬株一株額面五拾圓拂込高チ拾貳圓五拾錢トス株式ハ總
 ナ記名式ニシテ日鮮人ニ限リ之ヲ所有スルコトセリ左ニ土地ノ管轄區域及會社ノ概況ヲ擧クヘシ

名稱	所在	管轄區域	創業年月日
本 社	朝鮮 京城府		四、三、一六
蘇島出張所	京城府蘇島	京城府、楊州、高陽、廣州、交河郡	四、八、七
水原出張所	京城府水原	京城府、龍仁、始興、安山、南陽、利川、驪州、陰竹、竹山、安城、陽城、咸興郡、平海、稷山、天安、木川、全義、泗陽、牙山、新昌、禮山、德山、河川、唐津、瑞山、泰安、海美郡	四、五、二四

土地管轄區域

大邱出張所	慶尙北道大邱府	慶尙北道 一四	四、七、二四
馬山出張所	慶尙南道馬山府	慶尙南道 一四	四、二、一〇
泗川出張所	同道泗川郡泗川	(内同道)泗川、河東、晉州、昆陽郡	四、三、一〇
榮山浦出張所	全羅南道榮山浦郡	全羅南道 一四	四、三、二五
江景出張所	忠清南道忠清郡江景	忠清北道 一四(陰城、忠州郡ヲ除ク)	四、七、二五
(金堤出張所)	全羅北道金堤郡金堤	忠清南道 一四(平海、羅州、天安、木川、全義、泗陽、牙山、新昌、禮山、德山、河川、唐津、瑞山、泰安、海美郡ヲ除ク)	四、七、二五
沙里院出張所	黃海道鳳山郡沙里院	平安南道 一四(金川、白川、延安、海州郡ヲ除ク)	四、二、一〇
開城出張所	京畿道開城郡開城	京畿道 一四(金川、白川、延安、海州郡ヲ除ク)	四、三、一〇

會社ノ概況
 第六章 拓殖事業

年 度	資本金	拂込資本金	準備金	損益勘定	配當金	金銀	職 員 數
四十三年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
四十二年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
四十一年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
四十年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十九年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十八年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十七年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十六年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十五年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十四年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十三年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十二年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十一年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三十年度	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十九年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十八年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十七年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十六年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十五年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十四年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十三年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十二年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十一年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二十年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十九年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十八年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十七年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十六年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十五年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十四年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十三年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十二年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十一年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
十年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
九年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
八年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
七年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
六年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
五年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
四年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
三年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
二年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1
一年	10,000,000	10,000,000	3,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1

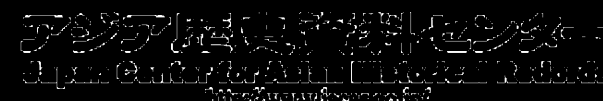
一土地ノ經營 會社ノ經營セル土地ハ三種類ヨリ成レリ即チ出資地、貸借地、買收地ノ三是ナリ出資地ハ舊韓國政府ノ引受株式六萬株ニ對シ拂込ニ代ヘ提供スル土地ヲ謂フ前表ニ掲記セル七十五萬圓ハ舊韓國政府カ既ニ引受ヲ了シタル第一回ノ拂込ニシテ引受株式ノ四分ノ一ニ相當スル土地ヲ供給シタルモノナリ貸借地ハ將來政府カ引受株式ノ四分ノ三拂込ニ充當スヘキ土地ニシテ會社カ自己ノ利益上政府ト協議シ之ヲ豫定シ賃借經營セルモノヲ謂フ買收地ハ前二者ノ土地ニ接近シテ管理上便宜ナルト將來發展ノ見込アル都府ノ附近及農民ノ移住ニ適當ナル土地ヲ選定シ會社自ラ之ヲ買收スルモノヲ謂フ會社ハ之等ノ土地ニ對シ改良施設ヲ加ヘ灌溉水路ノ開鑿耕地ノ整理堤防ノ改築ヲ爲シ又直營農場ヲ設ケテ農事ノ模範ヲ示スト同時ニ種苗ノ改良果樹蔬菜ノ普及ヲ謀レリ蠶桑ニ於ケル

直營農場ノ如キハ其ノ一ニシテ現今三十五町歩ヲ割シ主トシテ果樹ノ栽培ヲ爲シ傍ラ開作トシテ蔬菜ノ栽培ヲ營メリ尙ホ稻木ハ其種ノ接木ヲ行ヒ廣ク一般公衆ニ配布シテ改良種ノ普及ヲ圖ラントスルノ計畫ヲ爲セリ開作蔬菜モ其種子ヲ豫定シ各種ノ方法ニ依リテ栽培シ地方作物ノ改善ニ資セムトシツアリ

東洋拓殖株式會社出資地及貸借地面積 明治四十四年三月末日現在

道	出 資 地		貸 借 地	
	町	畝	町	畝
京城府	四八五、四四	四一四、一八	三六六、六三	七四〇、八一
陽州郡	一七二、六一	二四一、三八	二四一、三八	四二二、九九
水原郡	四八四、一〇	一八三、七三	一八三、七三	六六七、八三
廣州郡	二二一、五一	二二一、六八	二二一、六八	四三三、一九
開城郡	八三三、三三	五八、七二	五八、七二	一四〇、九五
龍仁郡	一〇二、〇八	五九、七九	五九、七九	一六一、八七
高陽郡	三五六、五三	一一八、七一	一一八、七一	三九五、三四
計	四八五、四四	四八五、四四	一、七三三、三四	一、二〇〇、六四

第六章 拓殖事業



總計	黃海道		
	延安郡	松木郡	安岳郡
	五三、三三	一三、三三	六八、九九
	三九、三三	一五、五二	一〇四、四一
	九三、三五	九三、二八	一〇三、六九
	三、六三	三、六三	三、六三
	一、〇一	一、〇一	一、〇一
	一四、六三	一四、六三	一四、六三
	九、三五	九、三五	九、三五
	一〇一、六	一〇一、六	一〇一、六
	二九、九八	二九、九八	二九、九八
	四九、五〇	四九、五〇	四九、五〇
總計	一、六九五、三五	九、一〇〇	八、五九九、五八

二 殖林經營

(イ) 苗圃 殖林經營上最要ナル苗木ノ養成ニ着手シ明治四十二年以來苗圃ヲ龍山水原嶺島ノ三箇所ニ設定シ面積六千五百餘坪ニ植ツルニ苗木百萬本ヲ以テセリ本年度ニ於テハ香堂里ニ約十五

町少サトシ之ニ移植スルニ苗木ヲ以テシ漸次苗圃ノ擴張ヲ計レリ

(ロ) 殖林 柞樹養成及其ノ他ノ用途ニ充ツル爲メニ殖林地ヲ選定シ黃州、鳳山、平山、金川、延安ノ五箇所ニ於テ國有林約一萬町歩ヲ借り入レ以テ造林ニ着手セリ之ニ移植スルニ前述ノ苗木ヲ以テシ又現存種樹ハ努メテ撫育ヲ計レリ

三 移民事業 本會社ハ移民ニ關シ明治四十三年九月政府ノ認可ヲ得テ移住規則ヲ定メ同年十一月末日迄第一回移住申込期限ト爲シ該期間ニ於テ其申込ヲ爲シタル者千二百三十五戸ニシテ承認シタルモノ百五十戸ナリ之ヲ地方ニ分布シタル狀況左表ノ如シ表中甲種移民トハ會社ヨリ借受ケタル土地ノ代價二年六分ノ利子ヲ附シ二十五年以内ノ年賦ニ貸付ケ其代價ヲ支拂ヒタル後ハ該地ノ地主タルヘキモノチ云ヒ乙種移民トハ會社ヨリ借受ケタル土地ノ小作料ヲ納メテ小作スルモノヲ謂フ

甲種移民 明治四十四年一月一日現在



貸付金一覽表

種 類	四十三年度末		四十二年度末		四十一年度末	
	口數	金額	口數	金額	口數	金額
定期償還	内地人 三八	二五四、二五〇	内地人 一〇	一六三、〇〇〇		
年賦償還	内地人 八八	一七五、四八〇	内地人 七	五八、九〇〇		
	朝鮮人 五八	一六五、六〇〇				
合 計	内地人 一四六	四一九、八五〇	内地人 一七	二二二、九〇〇		
	朝鮮人 一八四	一七五、四八〇	朝鮮人 七	五八、九〇〇		
		五九五、三三〇		二八一、八〇〇		

五漁業經營 該會社ハ附帯事業トシテ漁業ヲ經營シ清國安東縣ニ事務所ヲ設置シ龍岩浦、圓島、大和島、艾島、雲霧島、何日里浦等重要地點ニ派出所ヲ設ケ漁業上ノ事務並作業ニ従事セシメ安東縣、龍岩浦ノ海魚市場ヲ會社關係ノ買取者ニ經營セシメ尙圓島、大和島等ニモ取引所ヲ設ケ従前ノ如ク單ニ港取引ニ止マラス更ニ漁場取引ヲモ開始シ且經營者ニ對シテ一手買受ノ義務ヲ負ハシ

メ以テ漁業者ノ利便ヲ謀リ更ニ十五噸積運送船十隻ヲ新造シ艫船用汽船二隻ヲ用ヒ絶エス、漁獲物ノ集裝運搬ニ當リシメ尙漁況ニ應ジテ臨時多數ノ雇船ヲ爲シ不時ニ備ヘリ而シテ漁獲物ノ處理保存ヲ爲スハ販賣上最必要ナルヲ以テ五噸入鹽藏槽百區ヲ新造シ尙運搬船ヲモ漁場處理ヲ爲スニ適當ナル構造ト爲シ之ヲ營業者ニ貸付ク使用セシメタリ
更ニ保護的ノ設備ヲ爲シ耳湖浦龍岩浦ニ漁業用電話ヲ特設シ其ノ他飲料水ノ供給醫藥治療、衛生ノ取締、通信貯金爲替ノ代辦等總テ漁業者ノ利便ヲ計レリ
平安北道ノ漁場ハ之ヲ大和島附近トナシ漁期ハ晩春ヨリ早秋ニ至リ盛漁期ハ春夏ノ交ニ當リ明治四十三年度ノ如キ内地漁業者ノ出漁スル者頗ル多ク熊木、佐賀、長崎、福岡ノ四縣ヲ主トシ其ノ他十縣ニ涉リ漁船總數三百五十餘隻ニ達シ第一期間五月一日ヨリ七月十五日ニ至ル二箇月半ニ於ケル漁獲高ハ約十三萬圓ニシテ而カモ例年ニ比セハ六分漁ニ過キス該會社ハ上述ノ施設ニ依リテ之ニ援助ヲ興ヘ漁獲物ノ委託販賣ヲ爲シ漁業者ニ必需品ヲ供給シ鹽藏品ノ保管預ヲ爲シ委託漁獲物ノ輸送及給水等ノ便ヲ資助セリ

第六章 拓殖事業

總計	鐵業		總計	鐵業	
	外	内		外	内
	合	計	合	計	
三〇	一四	一六	一八二	七四	一一五
一八二	七四	一一五	一六五	三三	二八
二一四	三三	二八	三〇五	六三	四一
	六三	四一	二八九	七一	一七

(イ) 金 金ハ朝鮮ニ於ケル主要ナル礦産物ニシテ其ノ産額約一千萬圓ニ達ス之ニ次クモノハ鐵、石炭、黒鉛、銅、銀母ナリ金ノ産地トシテ最モ顯著ナルハ雲山金坑ナリ該坑ハ米國人ノ設立セルカリエンタル、コンソリヂテット、マイニングカンパニー (Oriental Consolidated Mining Company) ノ經營ニ係リ其ノ礦區ノ廣キ平安南道雲山郡全部ヲ包括シ七掘坑ヲ有ス最近一箇年間ニ於ケル産額ハ三百餘萬圓ニ及ヘリ其ノ他遂安、稷山、朔州、昌城、宣川、遂安モ近時探礦セラレ相應ノ産額ヲ舉グルニ至レリ砂金ノ分布ハ汎ク牛島全部ニ亘リ特ニ順安ハ砂金ノ産地トシテ知ラレ全滿、木川、文義ノ各郡モ亦砂金ノ産地トシテ名アリ

(ロ) 鐵礦 朝鮮ハ鐵礦ニ富ミ各道到ル處發見セラレツ、アリ別チテ鐵鐵礦、赤鐵礦、褐鐵礦、砂鐵

等アレトモ就中褐鐵礦ノ産出最多シ黃州及黑橋驛附近ヨリ四兼三浦ニ到ル間ニ見出サル、モノハ褐鐵礦ニシテ鐵質、炭素、炭素ノ鐵山モ亦此ノ類ナリ而シテ褐鐵礦ニ重キ産出ノ多キハ赤鐵礦ニシテ安岳鐵山ハ即チ是レナリ磁鐵礦モ各所ニ見出サレザルニ非スト雖探掘未タ盛ナラス砂鐵モ濼積鐵床カ爲シ河海ノ沿岸ニ産出スレバ産量少ナシ鐵礦ノ多クハ探掘ノ儘直チニ内地ニ輸送シ内地ノ製鐵所ニ於テ精製ス尙現場ニ於テ小規模ノ設備ニ基キ農具、鍋、釜ノ鑄造ヲ爲シ移出スルモノアレトモ極メテ少量ナリ鐵礦中最モ産出ノ多キモノチ鐵質、炭素、炭素ノ鐵山ニ在リ從來滿洲國政府ノ經營ニ係リ明治四十一年ヨリ探掘ヲ開始シタリシカ四十二年一月農商務省ノ所管ニ移レリ而シテ明治四十一年中ノ産額ハ兩鐵合シテ五萬二千噸十五萬六千噸ニ達シ翌四十二年ニハ五萬五千噸十六萬五千噸、四十三年ニハ七萬二千噸二十一萬六千噸ニ上レリ其ノ他安岳鐵山ハ近時五萬噸ノ産額アリ其ノ品質前二鐵ニ劣ルト雖一噸約五圓ヲ價セリ其ノ他兼三浦、黑橋驛附近ノ鐵山ハ近時探掘ヲ開始シタルモノナレトモ鐵量豐富ニシテ有望ナリ

(ハ) 石炭 平壤無煙炭ノ名ハ漸ク世人ノ知ル所トナレリ明治四十年以降官營トナリ政府ハ此處ニ平



礦業所チ設置シ平壤、江東ノ二郡ヲ礦區トナシテ採掘セリ目下四坑アリ礦量頗ル豐饒ニシテ品質優良ナリ其ノ百分中ニ於ケル主成分ハ揮發分七乃至二〇、骸炭七〇乃至九〇、灰分四乃至一五ニシテ流質ヲ含ムコト甚タ少ナシ開採以來ノ產額左ノ如シ

年 度	採 掘 量	販 賣 量	販 賣 高
明治四十年	二、五〇〇	七〇〇	五、七〇〇
同 四十二年	四六〇〇	一、三〇〇	五、七〇〇
同 四十二年	五三、四九三	五、二六四	二八四、九八七
同 四十三年	七八、八三五	八九、七〇九	六六六、三五八

採掘ハ從來軌道ニ依リテ採掘場ヨリ平壤驛ニ出テ兼二浦ニ送リテ積出セラレタリシカ今ヤ平南線ノ開通ヲ見積込場ノ設備成リタルヲ以テ全部鎮南浦ヨリ積出スコトナレリ
 長峰炭坑ハ慶尙北道ノ東岸迎日灣ノ南方ニアリ褐炭ヲ産ス品質中位ニ在リ主成分百分中揮發分二九、骸炭四〇、灰分二四、流質ニナリ採掘後直ニ釜山ニ輸送ス釜山ニ於ケル相場ハ二萬斤三十五六圓ヲ採掘ハ未タ初期ニ屬スルヲ以テ明治四十二年中ノ產額ハ僅ニ三十三萬斤ニ過キス其ノ他慶尙北道

及咸鏡北道ニ褐炭坑アリ

(二) 黒鉛、鱗狀、纖維狀、葉理狀、土狀等ノ種類アリ鱗狀、纖維狀ノ眞實ノモノハ主成分百分中九〇以上ノ炭素ヲ含有シ多ク咸鏡南道平安北道ニ産シ葉理狀及土狀ノ品位ノ稍々劣レルモノハ南朝鮮ニ産出ス平安北道龜城、昌城、蔚州附近ヨリ産出スルモノハ鱗狀ヲナシテ品質優良ナリ現今朝鮮黒鉛商會ノ採掘セル坑場ハ忠清北道青山郡ヨリ慶尙北道尙州郡地方ニ亘ル一帯ノ地ニアリ鑛床連續シ鑛量多シト雖鑛質稍々劣ル

(ホ) 銅 銅鑛ノ既知ノモノヲ舉ケレハ咸鏡北道ノ甲山及慶尙北道ノ昌原ニ指テ用スベシ近時又平安北道ノ厚昌モ探鑛セラレツ、アリ甲山ハ米國人ノ經營ニ係リ尙產額多カラス
 (ハ) 雲母 雲母ハ所々ニ之ヲ産出ス近時電氣工業ノ發展ニ伴ヒ需要頗ル増加シタリシカハ之カ採掘ヲ試ムルモノ多シ日韓雲母株式會社(資本金三十萬圓)ノ雲母坑山ハ咸鏡南道端川郡附近ニ在リ城津港ヲ去ル北西十二里ニシテ明治四十二年中ニ着手セリ鑛質佳良ニシテ鑛量亦多シ
 左ニ最近數年間ニ於ケル重要輸山產物ノ價額ヲ掲グ



品目	朝鮮鑛產地一覽表			
	明治四十三年	同四十二年	同四十一年	同四十年
金貨及金塊	八八三三六三九	六一二二六七六	四七七一三二六	四六一七〇五〇
銅及銅	三〇三五九	三〇三五九	六四、九九七	九二、六七二
鐵鑛及鐵	三三九、八六一	二八二、九八六	一六三、八八三	五二、七五六
錫	五二七、四三二	七三、二二三	四四、六七四	三、〇〇六
鉛	三六三、四一九	二二二、五七七	四四、三三六	一五、九六八
炭	一一四、二〇六	一五〇、五七五	九六、九三五	一九、三八九
計	一〇、一六七、五四六	六、八七二、九七六	五、一八六、〇四一	四、八一七、八四〇

地方	鑛種
京城	銅、鐵、銀、銅、黑鉛
江華郡	金、銀、銅、鉛
始興郡	銅、鐵、銀、銅
開城郡	銅、鐵、銀、銅
贊皇郡	銅、鐵、銀、銅
鐵	陽智郡 同、砂金
地方	同、砂金

道	忠清南道	忠清北道	慶尙道	
忠清南道	陽城郡 同、砂金 驪州郡 同、砂金 天安郡 砂金、銀、砂金 木川郡 砂金、銀、砂金 懷德郡 砂金、銀、砂金 公州郡 砂金、銀、砂金 海美郡 銀、砂金 定山郡 銀、砂金 背陽郡 砂金、銀、砂金 全義郡 砂金、銀、砂金 新島郡 砂金、銀、砂金 嶺山郡 砂金、銀、砂金	清風郡 同、砂金 陰城郡 同、砂金 文德郡 砂金、銀、砂金 報恩郡 砂金、銀、砂金 永同郡 砂金、銀、砂金 沃川郡 砂金、銀、砂金 懷仁郡 同、砂金 丹陽郡 同、砂金	全羅南道 同、砂金 任實郡 同、砂金 南原郡 同、砂金 金海郡 同、砂金 海南郡 同、砂金 莞島郡 同、砂金 和順郡 同、砂金	慶尙道 同、砂金 巨濟郡 同、砂金 龍南郡 同、砂金 密陽郡 同、砂金

第七章 鑛業

第八章 水産業

一 漁場

一、日本海方面 豆満江口ヨリ釜山港ニ至ル日本海方面沿岸ハ東朝鮮海灣ヲ中心トシテ之字形ニ突入シ沙灘險崖相連リテ好箇ノ沿岸漁場ヲ形成セリ湖沙ノ干満ハ微少ナレド水深ク各種水産ノ滯溜ニ適シ而モ「リマン」海流ハ北ヨリシテ寒帯性水産ヲ輸送シ對馬海流ハ南ヨリシテ暖帯性水産ヲ滯溜ニシテ共ニ水産ノ分布ヲ濃厚ナラシメ捕魚ノ利無盡蔵ト稱セラル唯々此ノ北部ニ於ケル沿海一帯ノ地方ハ大關嶺ノ背部ニ當リ地勢急峻ニシテ交通ノ便宜ヲ缺キ地方漁業ノ發達ニ緊要ナル需給ノ便ニ乏シク日韓人ノ漁業未ダ充分ナラズト雖尙ホ朝鮮人ノ經營ニ係ル成鏡道ノ明太魚、鮭、江原道ノ鱈、慶尙道ノ鱈、嶺南等ノ如キ又内地人ノ經營ニ係ル捕鯨業及鱈、鱈、鱈、等ノ漁業ハ此地方屈指ノ大漁業トシテ推獎スルニ足ル

二、多島海方面 釜山港ヨリ木浦附近ニ至ル沿海ハ大小ノ島嶼棋布散點シ多島海ノ稱アリ此ノ沿岸

第八章 水産業

二二三

安	北	道	成
釜山郡 金、砂金、 龜城郡 金、黑鉛、砂金、 江界郡 金、銀、銅、鉛、鐵、黑鉛、 龍川郡 黑鉛、 厚昌郡 銅、 碧流郡 金、銀、銅、鐵、砂金、 寧邊郡 砂金、 義州郡 同、 郭山郡 金、黑鉛、 朔州郡 砂金、 昌城郡 金、黑鉛、 慈城郡 金、銀、鐵、黑鉛、 甲山郡 銅、 定平郡 金、黑鉛、 永興郡 金、銀、鉛、黑鉛、砂金、 咸興郡 金、銀、銅、石炭、			

鏡	南	道	鏡	北	道
德源郡 金、銀、 安邊郡 金、銅、 文川郡 鐵、 端川郡 銀、 長津郡 銅、 洪原郡 砂金、 富寧郡 金、銅、砂金、 慶興郡 石炭、 慶源郡 同、 咸津郡 金、 會寧郡 石炭、					

二二三

ハ大牙加山シテ半島郵灣相交リ廣漠タル海域ヲ占メ水深概テ八十尋内外ニシテ漁具ノ使用ニ便ナルノミナラス寒暖兩海流ノ影響ヲ受ケ水産ノ分布豐カニシテ而モ深大ナル平野ニ接シ市場、大河、港灣ニ富ミ九州中國方面ノ連絡容易ナルカ故ニ漁獲物ノ集散便ニシテ日鮮人ノ漁業共ニ進歩シ釜山馬山近海ニ於ケル鰹、鯖漁業ノ如キ鎮海灣附近ノ鰹漁業ノ如キ欲知、青山、巨文ノ各島及安島近海ノ鰹漁業ノ如キ濟州島沖ニ於ケル鱈漁業汝自灣ニ於ケル鰹漁業等ノ如キ稍々著明ナルモノナリ

三、黃海方面 木浦附近ヨリ鴨綠江口ニ至ル黃海方面ノ沿岸ハ四朝鮮海灣及仁川近海群山近海等ニ山リテ乃チ狀ニ加山シ河口、潞灣、瀋洲、礁脈、淺灘及孤島群嶼相食ミテ海岸線ノ錯綜名狀スヘカラス海底ハ淺淺ヲシテ黃海ノ中心ニ至ルモ水深五十尋ヲ超ヘサルヲ以テ寒冷ノ候峻海性水族ノ溜溜ニ適セスト雖モ暖潮ノ影響ヲ受ケ朝夕ノ進退強度ナルヲ以テ春季八十八夜前後約五十日間ニ至ルハ石首魚、鰻、鱈其他産卵ノ爲ニ群集スルモノ二十尋以内ノ淺所ニ到リテ日鮮漁船ノ輻輳實ニ壯觀ヲ極ム就中全羅道ノ七山灘、忠清道ノ煙島近海、黃海道ノ延平灘及平安道ノ魚泳島近海ニ於ケル石首魚、漁業ノ如キハ咸南ノ明大魚慶南ノ鰹漁業ト共ニ朝鮮海ノ三大漁業ト稱セラル尙此ノ

方面ニ於テハ介藻類ノ養殖ニ適當ノ場所多キニ拘ラス從來日鮮漁民ノ未タ嘗ク之ヲ利用スルニ至ラサルノ狀アリ

上述ノ如ク朝鮮沿岸ハ其ノ海勢ヲ異ニシ其ノ漁業モ亦各地異否ノ別アリト雖極シテ將來有望ノ漁場トシテ進歩發展ノ餘地アルヲ見ル試ニ最近明治四十二年及四十三年ニ於ケル就業船數人員漁獲高等ヲ比較スレハ左ノ如クニシテ年々増進ノ光景ヲ示セリ

年次	内地人		朝鮮人		合計	
	船數	人員	船數	人員	船數	人員
四十二年	3,511	15,499	3,511	15,499	7,022	30,998
四十三年	3,919	16,813	3,919	16,813	7,838	33,626

備考 前表中内地人ノ部ニハ捕鯨ニ關スル船數人員漁獲高ヲ計上セス

二 朝鮮人ノ漁業

從來沿海ノ漁業ニ對シテ舊韓國政府ハ何等ノ施設ヲ與ヘタルコトナク保護、獎勵、監督等ノ道殆ト



備ハラス加フルニ半島民ノ漁獲ノ技具頗ル拙劣ニシテ多クハ蓄積ヲ墨守スルニ過キサリシカハ魚族ノ豐饒ナルニ比シ漁獲頗ル擧ラサリキ、蓋シ一ハ國民ノ牛鶏ニ飽キテ嗜好ノ魚肉ニ傾カサリシト一ハ魚族ニ饒多ニシテ拙劣ナル漁法ヲ以テモ尙ホ能ク需要ヲ充タシ得タリシトニ由ラスンハアラス

漁具トシテ見ルニ是ルヘキモノハ江原道ノ地曳網（アヒクムネ）、慶尙道ノ囊網（オシキ）、忠清、京畿、黃海三道ヲ中心トシテ使用セラルル船（ハルハイ）、中船（アヒクムネ）、叉手網（オシキ）等ニシテ漁舟ハ遊ルニ飽キ施サス鉄釘ヲ用ヒス悉ク木釘ヲ以テス從ヒテ脆弱ヲ免レス、構造粗笨操縦遲鈍ニシテ遠洋ノ漁業ニ適セス

一明太魚漁 明太魚ハ咸鏡道ノ特産ニシテ北ハ豆滿江口ヨリ南ハ咸興附近ニ到ル一帯ノ沿岸ニ産シ少ナカラス産卵ヲ終レハ沿岸各所ニ散逸シ水上ニ浮游ス漁期ハ毎年十月ニ始マリ翌年三月ニ至ル朝鮮人ハ手繰網、舉網、刺網、延繩ノ方法ニテ漁獲ス漁期ニ至レハ漁舟ノ遊戈スルモノ八百艘ハ及ヒ一艘ノ漁獲高百駄乃至二百駄ニ及ヒ其ノ總價格、七八十萬圓乃至百萬圓ニ及フ特ニ明太魚ハ朝鮮人ノ冠婚葬祭ニハ缺クヘカラサルモノナルカ故ニ其販路全國ニ亘レリ

二石首魚漁 明太魚ニ比スヘキ頗ル盛ナル魚流ニシテ慶尙南道馬山浦ノ西北ヨリ平安道ニ至ル沿岸ニ行ハレ全羅道七山灘黃海道延平列島附近最多ク産出ス漁期ハ區域ニ依リテ差アリ七山灘附近ハ毎年二月中旬ニ初マリ四月上旬ニ終リ、慶尙全羅道ノ沿岸ハ六月ヨリ九月ニ及フ主トシテ網船、中船、縱船、駐木等ノ方法ニヨリ流ス若夫レ漁期ニ至レハ各道ノ漁舟茲ニ輻輳シ流スル者魚ヲ買フ者帆影扼楫入り亂レテ海上異彩ヲ放ツ其ノ收穫ハ天候ノ異同ニ因リ凶豊ノ差アリト雖例年四五十萬圓ニ及フ石首魚モ亦特ニ朝鮮人ノ最嗜好スルモノニシテ冠婚葬祭ニハ必須ノモノナレハ販路頗ル廣ク都鄙到ル處之カ販賣ヲ見サルハ無シ最近内地人ノ出流スル者漸ク増加シ清國人ノ出流スル者モ亦少カラス

三鱈漁 慶尙道ニ於ケル朝鮮人漁業ノ第一位ニアル盛大ノモノニシテ毎年十月ヨリ二月マテサ漁期トス、十、十一月最盛ニシテ釜山灣以南ノ沿岸ヲ中心トス、魚張及延繩ヲ用ヒ毎年三四百ノ漁舟集合シ頗ル盛況ヲ極ム收穫高二三十萬圓ニ及フ

四鱈漁 前述鱈下漁期チ同クシ永興灣通川灣長節灣迎日灣蔚山灣チ以テ主要漁場ト爲シ其ノ他咸鏡



道沿岸ニモ産出スル所アリ孰モ北海道沿岸ニ於ケルヨリモ體形稍々小ニシテ群集モ此ノ如ク濃密ナラス生鮮又ハ鹽魚トシテ半島各地ニ需要セラル朝鮮人ハ生鮮ノ鱈ヲ珍重シ正月其ノ他嘉儀ニハ欲クヘカラサルモノト爲ス一年ノ漁獲高二三十萬圓ニシテ鱈ト伯仲ノ間ニアリ

五鱈派 春秋ノ二期アリ江原道沿岸ヨリ咸鏡道元山近海ニ及フ漁獲ハ凶豊ノ差アリト雖毎年四萬斤ノ漁獲アルヲ常トス

其ノ他鯛、鰯、鱈等ハ重要ノ漁業ニシテ全羅南道各島嶼ニ於ケル海藻類貝類モ産出額約三十萬圓ニ上ル此ノ如クシテ朝鮮人ノ漁業モ漁獲高三百萬圓ノ多キニ上リ而カモ近時内地人ノ漁業ノ巧妙ナルヲ目撃シ其漸ク舊態ヲ改メ漁區販路共ニ擴張セラル、ニ至リシヲ以テ漸次發展ノ域ニ進ムヘキヤ必セリ

朝鮮人漁業概況一覽

漁業	別	船數	人員	漁場	主タル漁魚	資本金額	漁獲高	販賣先
朝鮮名稱	日本名稱							
忽致網	手繰網	400	4000	慶尙道	明太魚、鰈、雜魚	10000	10000	朝鮮

網船	底刺網	地曳網	壑網	鰻網	鮫網	中船	可船	釣注乙釣	捕介探藻	其他	總計
200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
羅道	羅道	羅道	羅道	羅道	羅道	羅道	羅道	羅道	羅道	羅道	羅道
明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首	明太魚、石首
10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000	10000
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
内地及	内地及	内地及	内地及	内地及	内地及	内地及	内地及	内地及	内地及	内地及	内地及

内地人ノ漁業

朝鮮ニ於ケル内地人ノ漁業權ハ明治四十一年日韓兩國漁業協定書ノ締結ニ由リテ從來兩國間ニ存在

セシ通漁規則ヲ全廢シ韓國漁業法ニ依リ韓國人ト等シク漁業權ヲ享有行使シ及處分スルコトヲ得ルニ至リシカ甘肅併合ノ實ヲ見ルニ至リ從來ノ漁業法ニ不備ノ點アルト共ニ進テ朝鮮人ノ生業ヲ扶助發達セシメ又内地漁民ノ移住の經營ニ依リテ未開ヲ啓發セシムル必要アルヲ以テ四十四年六月更ニ漁業令ヲ制定セラレタリ同令ハ舊漁業法ニ代テ近ク其ノ實施ヲ見ルニ至ルヘシ

近時朝鮮海ノ漁業ノ有様ナルニ鑑ミ漁業者ノ數ハ逐年著シク増加ヲ示セリ左ニ内地人ノ朝鮮海ニ於ケル概況ヲ示スヘシ

一、最近十ヶ年ニ於ケル出漁船數人員統計

年次	船數	人員	漁獲概算高	平均漁獲高
明治三十四年	一、四二二隻	六、一八七人	一、六八五、三〇〇圓	一、一九四圓
同三十五年	一、三九四隻	六、一三二	一、四三二、二〇〇	八一九
同三十六年	一、五八九隻	七、一八七	一、四三九、九五〇	九〇六
同三十七年	一、五八一隻	六、九七五	一、四九九、八〇〇	九四九
同三十八年	二、四四九隻	一〇、八五三	一、八五四、四五〇	七五七

二、最近十ヶ年ニ於ケル出漁人員地方別

年次	長崎	廣島	山口	香川	熊本	鹿兒島	愛媛	朝鮮	其他	計
明治三十九年	八八四	八八四	六〇五	六〇五	六五二	五八二	六四二	七三三	一、六九五	一、六九五
同四十年	一、五〇六	一、五〇六	五五五	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七
同四十一年	一、五〇六	一、五〇六	四三〇	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七
同四十二年	一、五〇六	一、五〇六	四三〇	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七
同四十三年	一、五〇六	一、五〇六	四三〇	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七

第八章 水産業

年次	長崎	廣島	山口	香川	熊本	鹿兒島	愛媛	朝鮮	其他	計
明治三十四年	八八四	八八四	六〇五	六〇五	六五二	五八二	六四二	七三三	一、六九五	一、六九五
同三十五年	一、五〇六	一、五〇六	五五五	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七
同三十六年	一、五〇六	一、五〇六	四三〇	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七
同三十七年	一、五〇六	一、五〇六	四三〇	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七
同三十八年	一、五〇六	一、五〇六	四三〇	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七
同三十九年	一、五〇六	一、五〇六	四三〇	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七
同四十年	一、五〇六	一、五〇六	四三〇	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七
同四十一年	一、五〇六	一、五〇六	四三〇	四三〇	六二二	六二二	六一七	一、五七七	一、五七七	一、五七七



明治四十二年	一、八五八	二、三九八	一、八〇三	一、四九五	一、〇三六	一、二九一	四四七	四、八三三	一、五七四
同四十二年	二、五五八	一、九五三	一、八一四	一、四〇六	一、三三〇	一、〇八〇	八四	五、一五三	一、六四九
明治四十三年	二、五五八	一、九五三	一、八一四	一、四〇六	一、三三〇	一、〇八〇	八四	五、一五三	一、六四九

三、漁業經營狀況(明治四十三年)

漁業種別	船數	人員	漁獲高	營業費	固定資金	漁場	主ナル物	主ナル販路
中ノ旋網其	三五	一、五五	八、六三〇	五、五〇〇	一、七〇〇	慶尙、慶尙、全羅	鱈、鱈、鱈	朝鮮
他ノ旋網	三〇	一、〇〇	五、〇〇〇	四、〇〇〇	一、五〇〇	江原、慶尙、全羅	鱈、鱈、鱈	朝鮮
大敷網其他ノ	一〇	五〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五〇〇	咸鏡、慶尙、全羅	鱈、鱈、鱈	同
定置漁業	五	二五	五〇〇	五〇〇	二〇〇	全羅、忠清、京畿	鱈、鱈、鱈	同
鉸網	五	二五	五〇〇	五〇〇	二〇〇	慶尙、平安、京畿	鱈、鱈、鱈	同
鮫網	五	二五	五〇〇	五〇〇	二〇〇	慶尙、其他全沿岸	鱈、鱈、鱈	同
手繰網及網	五	二五	五〇〇	五〇〇	二〇〇	慶尙	鱈、鱈、鱈	支那地

延繩	一本釣	潜水業	其他	運搬船	計	延繩	一本釣	潜水業	其他	運搬船	計
二六	二六	五五	五五	五五	二一七	二六	二六	五五	五五	五五	二一七
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	五、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇
五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽	朝鮮海峽
鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈	鱈、鱈、鱈
支那地	支那地	支那地	支那地	支那地	支那地	支那地	支那地	支那地	支那地	支那地	支那地

四、捕鯨業
 明治三十七年以來内地人獨占ノ事業ニ屬シ年毎ニ發展ヲ加ヘツ、アリ現時斯業ニ従事スルモノハ東洋捕鯨株式會社、日韓捕鯨會社ニシテ前者ハ馬養島長箭灣及蔚山灣ノ三ヶ所ニ根據地ヲ置き後者ハ蔚山灣及巨濟島ノ知世浦ヲ基地トシテ捕鯨ニ従事セリ今明治三十六年以來ニ於ケル捕鯨業

第八章 水産業

統計ノ左ニ舉クヘシ

年次	捕鯨船數	捕鯨頭數	捕鯨價格	捕鯨頭平均	價一頭平均
明治三十六年	三	一〇	一四六、六八四	三四〇〇	一、四五三
三十七年	三	一〇	四四四、五七五	一、〇〇〇	一、三三三
三十八年	六	三五八	五五〇、八〇六	五、〇〇〇	一、五三八
三十九年	七	三九七	六四五、八五六	四、四一一	一、六二七
四十年	八	二四三	三三二、八一	二〇、五六	一、四五八
四十一年	九	二四七	三三二、七九四	四、八三三	一、三八七
四十二年	九	四一五	四七五、三九四	四、八三三	一、四四五
四十三年	九	三三六	二六八、六六三	二、四〇〇	七、九九

四 朝鮮海漁業ニ關シ諸府縣ノ保護獎勵

府縣別	府縣費支出額	保護獎勵方法ノ概要
長崎縣	三十七年度以來一、四四〇圓乃至三一、二九四圓	通漁獎勵及移住漁村經營ノ爲メ選洋漁業團補助
府縣	四十二年度以前四十一年度	保護獎勵方法ノ概要
府縣	八、〇八〇圓	通漁獎勵及移住漁村經營ノ爲メ選洋漁業團補助

府縣別	府縣費支出額	保護獎勵方法ノ概要
佐賀縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	移住漁村經營ノ爲メ水産組合費補助
熊本縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	通漁獎勵及移住漁村經營ノ爲メ水産組合費補助
鹿兒島縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	通漁獎勵及漁業根據地經營補助
宮崎縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	通漁獎勵漁船漁具改良補助
大分縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	漁船改良及移住漁業獎勵
福岡縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	通漁獎勵及移住漁村經營ノ爲メ漁業獎勵協會及水産組合補助
愛媛縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	移住漁村經營ノ爲メ選洋漁業團へ補助
香川縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	通漁獎勵及移住漁村經營ノ爲メ水産組合費補助
德島縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	通漁獎勵及漁業者補助
山口縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	通漁及魚類運搬獎勵、土地購入及移住家屋建築費補助
廣島縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	通漁業者保護費
岡山縣	三十七年度以來一、〇〇〇圓乃至三、〇〇〇圓	移住漁業及特殊漁業獎勵

第八章 水産業

兵庫縣	四十年以來六五〇圓乃至八〇〇圓宛	一、八〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
島根縣	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
島取縣	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
京都府	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
大阪府	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
和歌山縣	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
高知縣	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
愛知縣	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
千葉縣	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
石川縣	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
富山縣	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助
福井縣	三十九年以來一、〇〇〇圓宛	五、〇〇〇	團體出漁、漁類運搬獎勵及移住漁村經營補助

五 漁業者移住一覽

位 置	沿革 概要	主要 水産業	明治四十二年 明治四十三年
			戸數 人口 戸數 人口
慶尚南道釜山府	通流以來任意移住	各種ノ水産業	二五三 六三三
同道府 釜山	自治三十六年頃ヨリ	各種ノ漁業、製造、運搬業	三二二 九八六
同道府 龍影島	自然發展	延網、手練網、鹽地真網及煮干製法	三〇九 九〇九
同道府 慶南洞	四十二年德島縣水産組合設立	延網、手練網、鹽地真網及煮干製法	六 六
同道府 多太浦	三十九年福岡縣設立	煮干製法、鹽地真網、鹽地真網、鹽地真網	三三 六八
同道府 下端	日露戰役後自然發展	延網、手練網、鹽地真網、煮干製法	三〇 四三
同道府 龍塘	四十一年山口縣設立	延網、手練網、鹽地真網、煮干製法	二六 四七
同道府 大邊浦	四十一年以來福岡縣	延網、手練網、鹽地真網、煮干製法	二 二四
同道府 細竹浦	三十六年頃ヨリ任意移住	延網、手練網、鹽地真網、煮干製法	二 二四

第八章 水産業

二二七

二二六

慶尚南道蔚山郡	日露役後自然發展	潜水、延繩、籠網、籠時、寶	三三八
同道同郡 內海	三十三年捕鯨船根據	干製製造、魚類販賣	三〇〇
同道同郡 長生浦	以來自然發展	籠網、地曳網、香干製製造	三〇〇
同道同郡 力魚津	自然發展四十二年	網、潜水、籠網、地曳、流	一〇〇
同道同郡 日山津	岡縣漁村股定	延繩、地曳網、及籠製造	三〇〇
同道同郡 日山津	四十二年以來島根縣	延繩、地曳網、及籠製造	三〇〇
同道同郡 山下浦	四十二年以來島根縣	延繩、地曳網、及籠製造	三〇〇
同道同郡 栗九味	開港以來自然發展	各種漁業及販賣業	三〇〇
同道同郡 馬山	開港以來自然發展	各種漁業及販賣業	三〇〇
同道同郡 釜山	開港以來自然發展	各種漁業及販賣業	三〇〇
同道同郡 牛頭浦	三十年頃ヨリ任意移	地曳網、手練、延繩、漁業、水	三〇〇
同道龍南郡 營	同	地曳網、手練、延繩、漁業、水	三〇〇

同道同郡 南浦	三十八年岡山縣漁村	同 前	三三八
同道同郡 欲知島	任意移住	地曳網、延繩、潜水器漁業	三〇〇
同道同郡 三干浦	早頃ヨリ自然發展四	延繩、手練網、魚類運搬販	三〇〇
同道同郡 新樹島	五年来愛媛縣總營	寶業	三〇〇
同道同郡 彌助島	四十二年大分縣漁村	延繩、手練網	三〇〇
同道同郡 彌助島	四十二年佐賀縣漁村	延繩	三〇〇
同道同郡 漆川島	愛媛縣民任意移住	地曳網、手練網、延繩及香	三〇〇
同道同郡 長承浦	三十七年朝鮮海水產	各種水産業	三〇〇
同道同郡 知世浦	組合漁村創設	延繩、手練網、地曳網、及	三〇〇
同道同郡 舊助羅	四十年香川縣漁村股	香干製製造	三〇〇
同道同郡 慶尚北道延日郡	愛媛縣人其他任意移	手練網、大敷網、巾着網及	三〇〇
同道同郡 延日郡	住	籠製造	三〇〇
同道同郡 延日郡	賀南縣ニテ經營	地曳網、籠網、手練網、延	三〇〇
同道同郡 延日郡	賀南縣ニテ經營	籠製造、運搬、販賣	三〇〇

二二九

二三八

六 製鹽業

中島ノ沿岸到ル處トシテ製鹽業ノ行ハレサルハナシ其ノ製鹽ハ渾テ蒸法ニ依リ海水ヲ直ニ煎蒸シ若ハ海水ヲ鹽田ニ導キ撒砂ニ依リテ濃厚ナル鹼水ヲ採リ之ヲ煎蒸シテ製鹽スルモノナリト雖其ノ方法頗ル粗糲幼稚ニシテ價格高ク産額モ亦多カラズ

元來朝鮮ハ一般ニ降雨少ク空氣乾燥シ最モ製鹽ニ適當ス加フルニ沿岸一帯ノ地形ハ製鹽場ヲ作ルニ適當セル所ナリトス而シテ現今中島内ノ製鹽事業ハ次表ニ示ス如ク鹽田面積三千七百餘町歩鹽ノ生産力二億八千萬斤ナリトス

鹽業調査成績表

自明治四十年
至同四十四年 調査

道名	製造者數	小作人數	從業者數	鹽田段別	鹽生産力	鹽井數	釜屋數	備考
京畿道	一、七二	六、七	九、七三	鹽田 〇段 鹽井 〇段	三、七、五、四、九、九、四斤	三、七、三	八、二九	
忠清南道	四、五	一、九	一、九	鹽田 〇段 鹽井 〇段	三、七、六、三、六	七、四	四、七四	
全羅北道	一〇一	四、三	四、三	鹽田 〇段 鹽井 〇段	九、〇、〇、五、四	二、七〇	一〇一	

全羅南道	三、九	三、九	三、九	鹽田 〇段 鹽井 〇段	二、四、二、〇、五、〇	三、三、六、三	一、〇、六、五	
慶尙北道	三、三	三、三	三、三	鹽田 〇段 鹽井 〇段	七、〇、〇、六、三	一、八、五、〇	三、〇	
慶尙南道	九、九	九、九	九、九	鹽田 〇段 鹽井 〇段	六、九、三、四、八、三	八、六、四、七	四、四、三	
江原道	三、六	三、六	三、六	鹽田 〇段 鹽井 〇段	七、七、〇、三、七	三、三、七	一、七、八	
黃海道	三、八	三、八	三、八	鹽田 〇段 鹽井 〇段	八、〇、四、四、〇	九、九、七	一〇、三	
平安南道	三、五	三、五	三、五	鹽田 〇段 鹽井 〇段	〇、三、五、五、九、九	三、三、三	三、天	
平安北道	六、七	六、七	六、七	鹽田 〇段 鹽井 〇段	九、八、四、七、五	二、九、六	六、	
咸鏡北道	三、九	三、九	三、九	鹽田 〇段 鹽井 〇段	三、一、一、〇、三、一	九、六、一	三、四	
咸鏡南道	三、七	三、七	三、七	鹽田 〇段 鹽井 〇段	三、〇、〇、〇、〇	六、〇、〇	三、四	
合計	八、〇、五	四、〇、七	四、〇、七		二、〇、〇、〇、〇、〇	六、七、七、九	四、三、〇、〇	

備考 鹽ノ生産力ハ前表ノ如ク二億八千二百萬斤ナルモ實際毎年生産ノ豫想數ハ約二億斤内

外トス

朝鮮ニ於ケル鹽ノ總需用量ハ約三億斤ニシテ内二億斤ハ前表朝鮮ノ鹽田ヨリ生産供給セラレ一億斤ハ輸入鹽ニ依リテ供給セラル然ルニ朝鮮鹽ハ勢力ト燃料ト費スコト多ク隨テ其生産費百斤當リ平均産額拾錢ナルコト比シ清國天目鹽ハ仁川ニ於テ高價ノ時ニ於テ百斤七八十錢ニシテ低價ノ場合ハ

四拾餘内外ヲ以テ供給セラル此故ニ清國鹽ハ年々其輸入ヲ増シ漸次朝鮮鹽ヲ壓倒セムトスルノ勢ヲ示シ朝鮮ノ鹽業ハ輸入ノ増加ト同比例ヲ以テ減退スルノ情勢ニシテ就中平安道黃海道ノ如キハ廢棄鹽田ノ年々増加セルヲ見ル今最近輸入額ノ狀況ヲ擧ケレハ左ノ如シ

最近數年間輸入高及價格

年次	區別		内地鹽	臺灣鹽	清國鹽	其他		計
	數量	價格				數量	價格	
明治四十一年	四六五、八〇〇斤	五、三三、五〇〇	一五、三三、五〇〇	一、七〇、〇〇〇	二七〇、七五八斤	四、四〇、〇〇〇	四、五〇、〇〇〇	七四、五九六、四〇〇斤
同 四十二年	四、五九、〇〇〇	五、五八、〇〇〇	八、四九、〇〇〇	四、六〇、〇〇〇	三、七五、〇〇〇	三、七五、〇〇〇	五、七五、〇〇〇	四七、六六八、四〇〇斤
同 四十三年	四、二六、〇〇〇	四、九四、〇〇〇	四、六〇、〇〇〇	三、二九、〇〇〇	三、二九、〇〇〇	五、四七、〇〇〇	八、〇〇、〇〇〇	四九、三三六、四〇〇斤
同 四十四年	四、〇〇、〇〇〇	四、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	四七、八三六、〇〇〇斤
(自一四一四年一月至一四一四年一月)	四、〇〇、〇〇〇	四、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	三、〇〇、〇〇〇	四七、八三六、〇〇〇斤

輸入移入ノ狀況ノ如シ若シ此ノ趨勢ニ放任セシカ朝鮮ノ鹽業ハ遂ニ全ク廢滅ニ歸スルニ至ルヘク其ノ結果正貨ノ流通ヲ促シ經濟上及財政上ニ影響スル虞尠カラス茲ニ於テ舊韓國政府ハ明治四十年中地ヲ京畿道仁川府朱安府ニトシ面積尠少ノ天日製鹽試驗場ヲ設ケ試驗ノ結果朝鮮ニ於テ天日製鹽ハ確實ニ成立スヘク其ノ產額ハ豐饒ニシテ而モ其ノ品質ハ清國鹽ニ比シ遙ニ優越シ臺灣鹽ニ西敵シ一等鹽ノ如キハ煎蒸鹽ニ比シ遙ニ遜色ヲ見ス其ノ化學的成分ニ至リテハ前記各種鹽ニ比シ優越シ純食鹽分ハ九〇%ヲ越エ日本内地ノ一等鹽ニ相當スルモノヲ得ルノ好結果ヲ得タリ此ノ結果ニヨリ天日製鹽ヲ官營トスルコト、シ先ツ第一期事業トシテ面積一千町少ノ天日製鹽田ヲ築造スルコトニ決シ明治四十二年度ヨリ着手シ四十四年度以内ニ竣成ノ管ナリ其ノ確定セル鹽田ノ總面積左ノ如シ

- 朱安(京畿道仁川府) 鹽田面積九十七町五反一畝四步
- 廣梁灣(平安南道鎮南浦府) 同 九百三十三町一反八畝十六步
- 令冊 壹千三十町六反九畝二十步

前記鹽田ニ於テ工事進行中傍ラ鹽ノ製造ヲ爲シタル數量左ノ如シ

第八章 水産業



天日製鹽製造高表

年次	宋		安		廣		梁		合	
	鹽田面積	製鹽高	鹽田面積	製鹽高	鹽田面積	製鹽高	鹽田面積	製鹽高	鹽田面積	製鹽高
明治四十二年	一〇〇〇〇	一三三三	一〇〇〇〇	一三三三	一〇〇〇〇	一三三三	一〇〇〇〇	一三三三	一〇〇〇〇	一三三三
同 四十三年	五五八〇	三〇二〇	五五八〇	三〇二〇	五五八〇	三〇二〇	五五八〇	三〇二〇	五五八〇	三〇二〇
同 四十四年	九七五〇	一五〇六	九七五〇	一五〇六	九七五〇	一五〇六	九七五〇	一五〇六	九七五〇	一五〇六

右生産額ハ鹽田築造工事中一部分ノ鹽田ニ於テ生産シタルモノナルカ故ニ其ノ産額尠キモ工事竣成ト同時ニ一方鹽田ノ老熟スルニ隨ヒ漸次其ノ産額ヲ増加シ鹽三巨額ノ生産ヲ觀ルニ至ルヘシ

第九章 林業

一 森林

朝鮮ニ於ケル林野ノ總面積ハ約一千六百萬町歩ヲ算シ全土ノ七割三分ヲ占メ世界ニ稀ナル山國ナルニ拘ラス古來林政不備ニシテ禁令冷カラス人民ノ自由樵採ヲ默認シテ顧ミサリシヲ以テ到ル處濫伐暴採ヲ肆ニシ或ハ火田ヲ起シ或ハ急傾地ヲ開墾シテ墾モ殖載ヲ意トスル者ナク爲ニ林野ノ大部分ハ荒廢ヲ極メ僅ニ北鮮ニ於ケル鴨綠、豆滿兩江ノ流域及陵園附屬ノ森林ニ於テ見ルニ足ルノ林相ヲ保ツニ適キス兎山荒野起伏シテ滿日荒涼ヲ極メ延テ産業ノ發達ヲ碍ケ國土ノ保安ヲ害シ其ノ災禍擧テ録フヘカラス之カ復舊改善ノ策ヲ講スルハ洵ニ焦眉ノ急務ニ屬セリ蓋シ三韓政府ハ森林法ヲ發布シ一般山野ノ保護、整理、増殖ヲ謀リ盛ニ植林ヲ獎勵シタリシカ半島ノ民情ニ適セサル點少カラサルヲ以テ明治四十四年六月朝鮮總督府ハ新ニ森林令ヲ布キ從來ノ森林法ヲ廢シテ國土ノ保安、危害ノ防止、水源ノ涵養、公衆ノ衛生、魚附又ハ風致ノ爲必要アリト認ムルモノハ之ヲ保安林ニ編入

シ伐採、閉塞若ハ放牧ヲ爲スコトヲ得サラシメ以テ刻下ノ急務ニ應ゼシム
最近ノ調査ニ係ル朝鮮各道ニ於ケル林野ノ面積ヲ擧グレハ左ノ如シ
森林面積表

道名	成林地	雑種地	無立木地	計	全面積ニ對スル林野ノ割合
京畿道	一七、二六三	二九七、三一九	二九、五三〇	七、四、一、二二	五、八
忠清北道	八六、〇二七	三五一、六九三	一九四、九三〇	五三三、六四九	七、〇
忠清南道	九、九七七	一八五、四八二	一九、二三三	四六八、六九三	五、五
全羅北道	二六七、〇五〇	二一三、三四二	四七、〇七四	五二七、四六六	六、三
全羅南道	八五、二六四	六七三、二四九	二二四、一五	九八三、六二八	七、八
慶尙北道	一七四、四二八	七五八、九三六	三七五、九一〇	一、三〇九、二七四	六、九
慶尙南道	一三五、八二六	四六六、七二二	二九四、六四六	八八七、一九五	七、〇
黃海道	一〇、四六九	七三六、九四七	一五七、四二二	一、〇〇四、八三九	六、三
平安北道	三三六、四九七	六〇五、九七五	一五六、八二〇	九九九、二九三	六、五
平安南道	八七八、八九三	八〇七、七七九	七〇八、六四五	二、三九五、三二六	八、〇
江原道	六七二、四四四	九五二、九八一	二八五、二一九	一、九一〇、三三四	七、六

道名	成林地	雑種地	無立木地	計	全面積ニ對スル林野ノ割合
咸鏡南道	一、四五八、八一八	五二一、三五三	五三七、六八〇	二、五二七、八五一	八、二
咸鏡北道	八一八、〇三〇	一四七、六九五	六三四、二三六	一、五九九、九六一	八、三
計	五、二二二、六八五	六、六一九、四七三	四、一〇七、四六一	一五、八四九、六一九	七、三

即チ全面積約一千六百萬町歩ノ内成林及疎生又ハ散生地ハ約三分ノ一ニ止マリ殘地ノ内約三分ノ二ハ天然生種樹ノ發生地ニシテ殘三分ノ一ハ草地又ハ禿裸地ニ屬セリ
半島ノ氣候ハ南北ニ於テ差等アリ隨テ北寒帶ヨリ南溫帶ニ到ル迄各種ノ樹木ヲ生シ其ノ分布亦地方ニヨリ同シカラス北部鴨綠江及豆滿江ノ兩流域上流地方其ノ他ノ高山ニ於テハタウヒ、カラマツ、エゾマツ、モミ、テリセングソフマツ、カバ、ナマナラシ等ヲ主トシテ鬱蒼タル樹林ヲ形成シ南部ニアリテハ到ル處アカマツヲ生シナラ、クヌギ、クサヤキ、エノキ、ムクノキ、ハンノキ、クルミ、ハルニレ、クリ等ヲ生シ最南部ニ至レハカシ、シヒ等ノ常綠樹及竹林ノ存在スルヲ見ル
又各道ニ於テ一割地五千町歩以上ニ至ル固有林野ノ面積及其ノ材積ヲ擧グレハ左ノ如シ

既往ニ於ケル民間殖林事業ハ未タ大ニ見ルヘキモノ無シト雖東洋殖産會社、釜山民間等ヲ主トシ近
時ニ至リテハ三井會社等社ニ於テモ大規模ノ造林計劃ヲ立テ漸次實行者增加ノ趨勢ヲ呈セリ
朝鮮ニ於ケル造林植樹ハ北ハ寒帯ヨリ南ハ暖帯ニ至ル迄其ノ數少ナカラスト雖比較的造林容易ニシ
テ生長速リナル經濟的樹種ノ主要ナルモノヲ擧ケレハ概テ左ノ如シ

ニセアカシヤ 適地汎ク就中荒廢地ノ地方恢復ヲ目的トスル造林ニ適シ喬林、中林及矮林作業ノ
何レニモ好適シ種苗廉價造林容易ニシテ土地及氣候ニ對スル適應力強ク生長力旺盛ナリ

植付後三四年目頃ヨリ薪炭材トナリ十年乃至二十年目頃ヨリ用材ヲ産シ鐵道枕木、礦坑支柱、
土工若ハ建築用材等ニ用セラル

アカマツ 殆ント造林ニ適セサル地ナク生長中等ニシテ適應力強シ

植付後十年目頃ヨリ小丸木ヲ産シ四五十年目ヨリ各種建築及土工用材、礦坑支柱ヲ産シ其ノ枝
條ハ薪材ニ適ス

白楊樹類 住宅附近、耕地内外、河川溪流ノ沿岸浸水地帯ニ植ユレハ生長最旺盛ニシテ其ノ利益

多大ナリ

矮林作業ニ好適シ苗ハ挿條法ニ依リ一箇年マテ容易ニ養成スルコトヲ得

植付後三四年目頃ヨリ薪炭材トナリ七八年目頃ヨリ用材ヲ産シ小丸木、朝鮮式建築材、器具材、
經木ノ原料、燐寸軸木、製紙原料等ニ好適ス

クヌギ 概テ山ノ中腹以下ノ潤地ニ適生シ又逐年生長力ヲ漸増ス矮林作業ニ依リ植付後約十年
乃至十五年目頃ニ第一回ノ伐採ヲ行ヒ而後約五年乃至十五年毎ニ萌芽幹ヲ伐採スルニ適ス材ハ
上等ノ薪炭トナリ葉ハ榨糖飼料ニ好適スル有用ノ樹木ナリ

クリ 潤潤ニシテ排水甚キ中腹以下ノ山地又ハ家敷廻リ等ニ適生シ其ノ生長中等ナリ植付後四五
年目ヨリ結實シ四五十年ニ至リ其ノ最も多量ヲ産ス材ハ枕木、鐵坑用材、家具、船具、燃料及
木炭トナリ樹皮ハシロニ原料及染料トナル今植林事業ニ關スル概況ヲ述ブレハ左ノ如シ

(1) 苗圃事業

(イ) 國營苗圃ハ明治四十年水原、平壤、大邱ノ三箇所ニ、同四十二年京城、水浦、鐵城ノ三箇所



二同四十四年ニ於テハ更ニ清州、晉州、全州、海州、咸興、公州ノ七箇所ニ新設シ尙四十四年度内ニ一箇所シ散クルコト、シ以テ各道ニ一箇所(京畿道ハ二箇所)ツ、ナ置ク豫定ニシテ養成樹種ハクヌギ、ニセアカシヤ、アカマツ、ヒラミツドヤマナラシ等ヲ主トセリ、苗圃ノ個所面積及事業ノ成績左ノ如シ

國費苗圃一覽表

苗圃名	所在地	面積	養成樹種數				四十四年度播種及種苗數
			四十年度	四十一年度	四十二年度	四十三年度	
京城	京城畿道	一四、四〇〇	—	—	一、九八〇	—	
水原	水原郡	一七、六三三	—	—	—	—	
清州	清州郡	五、六〇九	—	—	—	—	
公州	公州郡	二、一〇六	—	—	—	—	
合計			—	—	一、九八〇	—	

苗圃名	所在地	面積	養成樹種數				四十四年度播種及種苗數
			四十年度	四十一年度	四十二年度	四十三年度	
大邱	大邱府	八、四四四	—	—	—	—	
晉州	晉州郡	七、五五五	—	—	—	—	
全州	全州郡	五、二五三	—	—	—	—	
海州	海州府	八、五〇七	—	—	—	—	
咸興	咸興郡	六、二二五	—	—	—	—	
平壤	平安北道	七、九二二	—	—	—	—	
咸興	咸興郡	三、六〇六	—	—	—	—	
咸興	咸興郡	四、五五〇	—	—	—	—	
鏡城	鏡城郡	五、四〇〇	—	—	—	—	
計	(一箇所)	九、八四六	—	—	—	—	

(ロ)地方費ノ經營ニ屬スル苗圃ハ明治四十四年度ニ於テ始テ開設シタル地ニシテ全羅北道及黃海道ヲ除クノ外各道ニ之カ設置ヲ見其ノ數七十六箇所ニ上リ養成樹種ハクヌギ、クリ、ニセアガシヤ、アカマツ、ヒラミツドヤマナラシ及ドロノキ等ヲ主トセリ苗圃ノ個所面積及事業ノ成績左ノ如シ

地方費苗圃一覽表

道名	苗圃箇所數	面積	播種數量	養苗數量
京畿道	三八	一、七八二四	九〇八	七二、七〇四
忠清北道	一七	一六、九三一九	一一〇四	一一三、二〇七
忠清南道	一七	六、九八二六	三〇、四三	
全羅南道	一	〇、八八〇〇	一、二二	
全羅北道	一	一〇、三七一七		
慶尙南道	一	一〇、三三二二		
慶尙北道	一	〇、三〇二八		四〇〇
平安南道				
平安北道				

道名	苗圃箇所數	面積	播種數量	養苗數量
平安北道	一一	一、二四一七	〇、七二	九、四〇〇
江原道	一一	一、五六〇八		
咸鏡南道	一一	一、八七二四	一、一〇	
咸鏡北道	二	二、二四一〇		
計	七六	四五、四四一五	五三、五九	一九五、七一

(ハ)恩賜金經營ニ屬スル苗圃ハ地方費苗圃ト同シク明治四十四年度ニ於テ始テ開設シタル地ニシテ管内六道ニ於テ設置シタル箇所四十四箇所ニ上リ養成樹種ハ略地方費苗圃ニ同シ苗圃ノ個所面積及事業ノ成績左ノ如シ

恩賜金苗圃一覽表

道名	苗圃箇所數	面積	播種數量	養苗數量
全羅北道	三	一一、六四二三	二四、七九	一〇、一三五
黃海道	九	八、七九〇二		

道名	平南道	平安道	江原道	咸鏡南道	計
内地人	一〇	一〇	一〇	一〇	四〇
朝鮮人	一〇	一〇	一〇	一〇	四〇
計	二〇	二〇	二〇	二〇	八〇
生	二,四七〇,四〇〇	二,四七〇,四〇〇	二,四七〇,四〇〇	二,四七〇,四〇〇	九,740,800
産	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	4,580,000
成	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	4,580,000
苗	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	4,580,000
概	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	4,580,000
數	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	一,一三五〇,〇〇〇	4,580,000

(二)又民間ニ於ケル苗木培養者ノ數ハ三百餘人ニ上リ自家用植樹ノ爲又ハ販賣ノ目的ヲ以テアカマツ、クロマツ、テウセンゴゴマツ、カラマツ、クヌギ、ニセアカシヤ、クリ、白楊類等ヲ養成シツツアリ其道別培養者及事業ノ成績左ノ如シ

道名	京畿道	忠清北道	忠清南道	計
内地人	四	三	三	一〇
朝鮮人	四	三	三	一〇
計	八	六	六	二〇
生	六,六七五,二五〇	三,三二五,〇〇〇	五,二五〇,〇〇〇	一五,二五〇,〇〇〇
産	二,二六,二五一	一,七八〇,〇〇〇	五,三,四二〇	九,三〇,六三一
成	二,二六,二五一	一,七八〇,〇〇〇	五,三,四二〇	九,三〇,六三一
苗	二,二六,二五一	一,七八〇,〇〇〇	五,三,四二〇	九,三〇,六三一
概	二,二六,二五一	一,七八〇,〇〇〇	五,三,四二〇	九,三〇,六三一
數	二,二六,二五一	一,七八〇,〇〇〇	五,三,四二〇	九,三〇,六三一

私營養苗一覽表

道名	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	黃海道	平安南道	江原道	計
内地人	七	二	九	四	三	三	三〇	六〇
朝鮮人	七	二	九	四	三	三	三〇	六〇
計	一四	四	一八	八	六	六	六〇	一二〇
生	一〇,八〇〇,〇〇〇	五,〇,四四六	九,八〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇,〇〇〇
産	一,四一,〇〇〇	六〇,一四八	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇
成	一,四一,〇〇〇	六〇,一四八	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇
苗	一,四一,〇〇〇	六〇,一四八	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇
概	一,四一,〇〇〇	六〇,一四八	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇
數	一,四一,〇〇〇	六〇,一四八	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇

(三)植栽事業

(イ)國費事業トシテハ造林ノ模範ヲ示シ風致ノ増加ヲ計リ且植栽ニ關スル試驗ヲ行フヲ目的トシ明治四十年京城白雲洞及平壤牡丹臺ノ二箇所ニ殖林ヲ開始シ爾後水原、大邱、開城地方ニモ造林ヲ行ヒタリ植栽樹種ハアカマツ、ニセアカシヤ、クヌギ等ヲ主トシ又クヌギノ播種ヲモ施行セリ明治四十年以降同四十四年(十一月マテ)ニ至ル五箇年間ノ事業左ノ如シ

國費植栽一覽表



植栽地方	面積	植栽種苗數		植栽施行年度
		播種數	石	
京畿道京城	八五、九二五	一、九六九、五三三	三、七五	自四十年至四十四年
同 水原	二八、五〇〇	六六、六〇〇	三、〇〇	四十二年
京畿道開城	三〇、〇〇〇	九七、五八〇	五、〇〇	四十二年
慶尚北道大邱	一五〇、〇〇〇	五三三、〇〇〇	六、〇〇	四十一年、四十二年
平安南道平壤	一、二八、二六三	四四九、一〇〇	五、〇〇	自四十年至四十二年
計	一、七二、六〇七	三、一一四、八三三	一九、七五	三箇年

(日)地方役經營事業トシテハ日尙淺キヲ以テ特記スルニ足ラズト雖明治四十四年中江原道ニ於テ植栽ヲ開始シヤマナラシ、カシロ、ニセアカシヤ等ヲ植栽セリ

地方役植栽一覽表

植栽地方	面積	植栽種苗數	播種數	植栽施行年度
江原道	五、〇〇〇	一五、三〇〇	石	四十四年
奉天				一箇年

(イ)民間ニ於ケル植栽經營者申益山居留民團ニ於テハ益山ノ水源涵養及造林ヨリ生スル收益ニ依リ學校基本財産並民間基本財産ノ増殖ヲ圖リ三十七年以降アカマツ、クロマツ、クヌギ等ヲ植栽シツアリ事業ノ成績左ノ如シ

年 度	植付面積	植栽種苗數		其ノ他	計	總 費
		アカマツ、クロマツ	クヌギ			
明治三十七年度	四、五〇〇	二一、五〇〇	二二、七〇〇	四三、二〇〇	三、三九七	
同 三十八年度	一九	三五、五〇〇	一一九、一〇〇	一八〇、六〇〇	九六一	
同 三十九年度	九	三三、〇〇〇	三七、四三〇	二一八、四七〇	一一六八	
同 四十年度	一九	九三、五三〇	六六、七〇〇	二六八、六七〇	二、〇三八	
同 四十一年度	五九	七二〇、〇〇〇	一七、一三〇	七八六、七三〇	三、三三一	
同 四十二年度	一一九	一、七三六、五〇〇	一七、三六〇	一、七五三、八六〇	二、七九〇	
同 四十三年度	二七	七八四、二五〇	七、六四〇	七八一、八九〇	七、四四二	
同 四十四年度	六七	三、八九七、〇〇〇	三、八七〇	三、九〇〇、八七〇	三、九〇〇	
計	四、四	三、七六一、四八〇	二四二、四〇〇	三、〇三、八一〇	四、三〇七、六九〇	

(ニ)又東洋拓殖株式會社ニ於テハ明治四十二年以來苗木ノ養成ニ著手シ龍山、水原、蘇島及杏堂



落、附近ノ國有又ハ公有地等ニ植付ケ一部ノ地方ニ偏スルコトナク郡縣ノ別ヲ論セス普ク施行セラルルニ至レリ又植樹ノ實行者ハ官公衙學校ノ職員、生徒、守備隊、憲兵、面長、里長、洞長及金礦組合員、農林業篤志者ハ勿論一般人民ニ至ル迄内地人タルト朝鮮人タルトノ別ナク植栽ニ従事シタリ植付木數ヲ道別ニ舉ケレハ左ノ如シ

紀念植樹一覽表

道別	植付木數	道別	植付木數
京畿道	三一四、四八一	江原道	四六、七六〇
忠清北道	三五、六〇八	咸鏡北道	一〇、二、九六七
忠清南道	三〇、四八一	咸鏡南道	一七、九、五三六
全羅北道	二五、二、四二九	計	一七、九、五三六
全羅南道	二九、〇、六二〇		四、六、五二、四四七
慶尙北道	六〇八、三、四〇〇		
慶尙南道	四三、六、五七〇		
平安北道	一三、八、八〇〇		
平安南道	四一、七、六三二		
	二九、八、九〇〇		

三 部分林

義ニ道韓國政府ハ部分林規則ヲ發布シ國有山林ヲ無料ニテ民間ニ提供シ之ニ植林セシメ伐採期ニ際シ利益ヲ分收スルノ法ヲ講シテ大ニ部分林ヲ獎勵シ官民協力以テ植林ノ企圖ニ最メタリシカ明治四十四年六月森林令ノ發布ト共ニ部分林規則ヲ廢シ從來ノ股定ニ係ル部分林ニ關シテ依然同一ノ取扱ヲ爲スコトトセリ

部分林股定一覽 (自明治四十一年三月開始至同四十四年八月廢止)

部分林股定	許可件數		面積		積
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	
	二	二	三三	五八四一町	一五八二町
					七、四二三町

四 營林廠

營林廠ハ明治四十四年四月ノ設置ニ係リ曾テ統監府ノ所屬官署タリシカ韓國併合ト同時ニ總督府ノ所管ト爲リ本廠ヲ平安北道新義州ニ置キ出張所ヲ咸鏡北道會寧ニ設ケ鴨綠江及豆滿江兩流域一帯ノ國有森林ヲ管理シ兩流域ノ流下材ヲ以テ製材シ若ハ販賣シ廣ク需要ニ應セムコトヲ期セリ從來ハ主

トシテ官衙建築用材ノ供給ニ充テタリシカ四十三年度ヨリ民間ノ需要ニ應スルコトヲ得ルニ至レリ
 鴨綠江材ハ威鏡南道及平安北道ノ同江流域森林ヨリ伐採シ獲ニ依リテ新義州、安東縣ニ流下シカラ
 イツ、ハニマツ(俗稱テウセン、ゴノマツ)、スギマツ(シラベ、トウロ、中マツ等)俗稱アリ)

鴨綠江流域森林面積及材積
 一 國有林全面積及總蓄積量表(大縮)

全面積	五葉松	落葉松	唐檜、白檜	赤松	雜木	計
一、九二九、〇五七 <small>尺²</small>	二、〇八八、七二六 <small>尺²</small>	三、三六八、四〇五 <small>尺²</small>	一、〇九八、〇七五 <small>尺²</small>	五九、〇〇〇 <small>尺²</small>	一、九一八、〇三二 <small>尺²</small>	三、〇〇〇、〇〇〇 <small>尺²</small>
八、五九六、九九四 <small>尺³</small>	四、四二二、四三三 <small>尺³</small>	三、九〇五、七七一 <small>尺³</small>	一、九一四、四七八 <small>尺³</small>	一、三九六、三三〇 <small>尺³</small>	六、三三四、四三八 <small>尺³</small>	一、〇〇〇、〇〇〇 <small>尺³</small>
二二	三三	三三	三三	三三	三三	三三
平均林齡	平均林齡	平均林齡	平均林齡	平均林齡	平均林齡	平均林齡

二 利用見込箇所主要樹種面積材積表

樹種別	面積	材積	利用率	利用材積	平均林齡
五葉松	一、八三三、五〇五 <small>尺²</small>	八、五九六、九九四 <small>尺³</small>	二二	一、九一四、四七八 <small>尺³</small>	三三
落葉松	三、三六八、四〇五 <small>尺²</small>	四、四二二、四三三 <small>尺³</small>	三三	一、三九六、三三〇 <small>尺³</small>	三三
唐檜、白檜	一、〇九八、〇七五 <small>尺²</small>	三、九〇五、七七一 <small>尺³</small>	三三	一、九一四、四七八 <small>尺³</small>	三三
計	八、二八一〇 <small>尺²</small>	一、〇五二、九六〇 <small>尺³</small>	二二	一、四、五九五 <small>尺³</small>	六〇

備考 一、利用率ハ各地ニ依リ異ナルヲ以テ本表ニハ掲記シ難シ依テ利用材積ニ基キ算出セシ
 モノナリ

二、檀木ハ雜木中ニ混生シアル以テ面積ハ其ノ區域ヲ示シタルモノナリ
 豆滿江材ハ威鏡北道ノ同江流域森林ヨリ會寧ニ流下スルモノニシテ伐木及運輸不便ノ爲一時事業ヲ
 休止シツツアリ

豆滿江流域森林面積及材積表

名稱	面積	材積	利用率	利用材積	平均林齡	備考
西頭水流域	七、三二六 <small>尺²</small>	四、七〇七、七〇〇 <small>尺³</small>	二〇	一、〇四四、三二六 <small>尺³</small>	二〇	樹種ハ落葉松ニ分
延面水流域	三、八八八 <small>尺²</small>	一、七三三、七〇〇 <small>尺³</small>	一〇	六、九三〇、八八八 <small>尺³</small>	一〇	唐檜二分ナリ
計	一〇、二一四 <small>尺²</small>	六、四四一、四〇〇 <small>尺³</small>	一五	一、七、三七五、二一四 <small>尺³</small>	一五	

右兩流域ノ伐採期ハ主トシテ夏季及秋季ニ於テ之ヲ行ヒ冬季地上及河水凍結ニ乘シ集材及運材ニ着手シ融氷ノ期ニ際シ或ハ溪谷ヲ利用シテ管流シ或ハ牛挽或ハ橈挽ト爲シ以テ江岸ニ運ビ結梓シテ雨季ノ到ルヲ待テ江水ノ漲溢ニ際シテ流下ス今四十三年度及四十四年度四月ヨリ八月ニ至ル迄ノ事業ノ概況ヲ舉クレハ左ノ如シ

(イ)伐木作業 直營伐木、購買伐木及個人伐木ノ三種ノ方法ニ依リテ行ヒ個人伐木ハ規定ノ價格ヲ以テ買取スルモノトス

直營及購買伐木材積ハ

年 度	丸 角 材	電 柱	特 種 丸 太	雜 丸 太	計
四十三年度	一三六、七九三	二、七三五	三、三三三	五、〇〇〇	一三六、七九三
四十四年度	二一、三八八	四、九〇八	一四一		二一、三八八
自四月至九月					二一、三八八

ニシテ個人伐木ノ原木料ハ左ノ如シ

年 度	車 輛	車 柱	丸 材	角 材	銃 床 材	其 他	計
四十三年度	六、三六八	一、四七九	一、九七一	一、〇五三	五、五九	一、九二	二四、四二〇
四十四年度	一三、〇八八	一、五六六	一、三三二	四四一	四八七	三〇六	三二、三〇九
自四月至九月							三二、三〇九

(ロ)運材 山地ニ於ケル運材ハ主トシテ輕便鐵道、木馬道又ハ牛曳運材ヲ行ヒ工場ヨリ貯木場迄ノ運材ハ流筏作業ニ依リテ流筏ノ成績左ノ如シ

種 別	四十三年度		四十四年度	
	發 筏 數	貯木所着筏數	發 筏 數	貯木所着筏數
丸 及 角 材	一五五、七六〇	一五五、九三四	一六八、七四一	一六七、八二四
電 柱	二八、二四五	二五、一〇七	六、〇九五	五、七二四
雜 丸 太	四、一七六	一、四〇〇	一、五〇三	一、七五〇
築 港 用 丸 太			三、九六九	五、一八一
床 柱	一五五、七六〇	一五五、九三四	一六八、七四一	一七〇、四七九
計	一五五、七六〇	一五五、九三四	一六八、七四一	一六七、八二四



豆満江				
品	製材		材丸角	
	金額	數量	金額	數量
金額	三、二六五〇〇	一、五九六、九一七	六〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
數量	八三、二〇〇	二、一八〇、〇〇〇	一七、六七七	六、三五八
金額	三、二六五〇〇	一、五九六、九一七	二、三九八	一、七九八
數量	三三、九八四	二六、八九一	一、七九八	一、七九八
金額	九、九六二	九、六二二	九、九六二	九、六二二
數量	三、七二〇	三、七二〇	三、七二〇	三、七二〇
金額	三、七二〇	三、七二〇	三、七二〇	三、七二〇
數量	三、七二〇	三、七二〇	三、七二〇	三、七二〇

五 朝鮮ノ木材

鴨綠豆満兩江流域ノ產木材ハ一部ハ清國等ニ輸出セラレ一部ハ朝鮮内地ノ需要ニ充テラル而シテ右兩江流域以外ノ森林ニ於テモ多少木材ノ產出ナキニ非サレトモ其ノ材質一般ニ粗悪ニシテ各種ノ需要ヲ充テ難ク加フルニ朝鮮内地ノ發展ニ伴ヒ主トシテ内地人家屋用材ノ需要増加シタル爲内地及外

國產木材ノ供給ヲ仰グコト尠カラス
今最近三箇年ノ輸移出及輸移入價格ヲ示セハ左ノ如シ
輸出及移出價額

種類	木材及板		薪材		木炭	
	金額	數量	金額	數量	金額	數量
輸移出先	四、二〇五	一、四八八	一、〇九八	一、〇九八	二、五七八	二、五七八
明治四十一年	四、二〇五	一、四八八	一、〇九八	一、〇九八	二、五七八	二、五七八
明治四十二年	四、二〇五	一、四八八	一、〇九八	一、〇九八	二、五七八	二、五七八
明治四十三年	四、二〇五	一、四八八	一、〇九八	一、〇九八	二、五七八	二、五七八

第九章 林業

合 計	木 炭	
	清 日	清 日
其 他 國 木	其 他 國 木	其 他 國 木
一八、一五六五七	一、三三一、三八五	九七、八六〇
一〇、九五八五一	四七、一五九二	七、七
	三三、六八〇	九七、九三七
		八四
		七二、九九七
		八二、九八五九
		二四三、五四三
		二、二三四
		一、三三六
		一、〇三五、九八七
		七三、〇五九
		七、九〇四
		二、五五九
		一、八五、五〇四

種 類	木 材 及 板		輸 移 入 先
	清 日	其 他 國 木	
輸 入 及 移 入 價 額	明 治 四 十 一 年		一、六八、三五二
	明 治 四 十 二 年		七、六、一〇〇
	明 治 四 十 三 年		九、五、八五三
輸 入 及 移 入 價 額	明 治 四 十 一 年		四、七〇、三五七
	明 治 四 十 二 年		二、四三、二〇三
	明 治 四 十 三 年		七、七、九〇〇
輸 入 及 移 入 價 額	明 治 四 十 一 年		三、三、六八〇
	明 治 四 十 二 年		二、二、二四
	明 治 四 十 三 年		七、三、九〇四
輸 入 及 移 入 價 額	明 治 四 十 一 年		一、六七、三三八
	明 治 四 十 二 年		九八、七、五三
	明 治 四 十 三 年		一、〇六、五、二二
輸 入 及 移 入 價 額	明 治 四 十 一 年		四、五、一七四
	明 治 四 十 二 年		四、八、四六
	明 治 四 十 三 年		四、八、〇五四
輸 入 及 移 入 價 額	明 治 四 十 一 年		一、一、五八
	明 治 四 十 二 年		三、五五
	明 治 四 十 三 年		四、八、〇八三
輸 入 及 移 入 價 額	明 治 四 十 一 年		四、六、三三三
	明 治 四 十 二 年		四、一、〇一一
	明 治 四 十 三 年		四、八、〇八三

第十章 商業

一 外國貿易

朝鮮ノ貿易ハ年ニ多少ノ消長アリト雖殿殿トシテ増進シ明治四十三年度ノ如キ貿易總額約六千萬圓ノ多キニ達シ四十四年度ニ至リテハ一躍八千萬圓ニ上リ未曾有ノ膨脹ヲ示セリ蓋其ノ歸スル所ハ韓國併合ノ結果内地人ノ移住増加シ消費及生産力ヲ激増シ加フルニ輓近諸般ノ施設改善ニ伴ヒ需用供給ノ關係益繁多ト爲リシニ因ル之ヲ十數年以前ノ貿易額ニ比スレハ約十倍ニ上騰セリ

朝鮮外國貿易價額一覽表

年次	輸出入		合計	金銀輸出入	
	輸出	輸入		輸出	輸入
明治四十三年	一八八五、九五五	五、四〇、八七六	七、二、九四、六三二	一、二八、五七〇	四、七三、九二四
同 四十四年	一九九一、八四三	三、九七、八二七	五、九、九六、六七〇	九、一八、三六七	一、八七、六一〇
同 四十二年	一六、三、四八、八八八	三、六、四八、七七〇	五、三、八、九七、六五八	六、九、五九、三、四九	九、三〇、九八〇

年次	輸出入		合計	金銀輸出入	
	輸出	輸入		輸出	輸入
同 四十一年	一四、一、三、三、三〇	四、一、〇、五、五、三三	五、五、一、三、八、八三三	五、〇、一、六、六、八六	三、二、四、七、八八一
同 四十年	一六、九、七、三、五七四	四、一、三、八、七、五四〇	五、八、三、六、一、一一四	五、五、四、七、二、四三	一、九、九、二、一、八六
同 三十九年	八、九、〇、二、三、八七	三、〇、一、九、一、四、四、四五	三、九、一、九、三、八、三三	六、〇、五、七、五、五三	一、三、九、六、四、三
同 三十八年	七、九、一、六、五、七二	三、三、九、七、一、八、五三	四、〇、八、八、八、四、二三	五、五、一、五、九、六、七	一、一、五、一、三、三、二
同 三十七年	七、五、三、〇、七、一五	二、七、四、〇、二、五、九	三、四、九、三、三、〇、六	五、〇、七、六、四、二、五	四、一、四、三、五、一
同 三十六年	九、六、六、九、一、三二	一、八、四、〇、七、一	二、八、〇、七、九、八、四三	五、六、一、二、六、一、五	三、八、〇、七、四、三
同 三十五年	八、四、六、八、五、〇三	一、三、六、二、九、八、四三	二、二、一、六、一、三、四、五	五、六、一、一、六、九	九、六、五、五、〇

備考 便宜上内地移出入モ輸出入ノ中ニ包含セシメタリ尙以下ノ記述ニ於テモ然リ

「輸出」ハ明治四十年ニ於テ急ニ増加シ翌四十一年ハ稍々停滞ヲ示シタルモ四十二年ニ至リテ漸ク回復シ四十二年ニ入りテハ空前ノ盛況ヲ呈セリ蓋農事ノ改良發展ニ伴ヒ米穀其ノ他農産物ノ著シク増加シタルト航運ノ發達ニ伴ヒ沿岸貿易ノ増進シ加フルニ輸出品種年々逐ヒテ増シ海外販路ノ著シク擴張セラレタルニ因ラスムハアラス日清戰爭以前ニ在リテハ輸出品額二百萬圓上下シタルニ過キサリシカ日露戰爭前後ニ於テハ七八百萬圓ニ上リ四十年以來倍加シテ千六百萬圓ニ達セリ而シテ「輸入」ノ輸出ヲ超エ年々逐ヒ著シク増加シタル所以ハ朝鮮内ノ發展ニ伴ヒ内地人ノ移住増加シ加フ

ルニ交通機關ノ發達ニ因リ海外貨物ノ需用範圍擴張シ輸入品ノ増大ヲ來セルト朝鮮人生活狀態ノ上進シ海外貨物ノ需要増加シタルニ起因ス日清戰爭以前ニ在リテハ輸入額五百萬圓ヲ越セザリシカ日清戰爭前後ニ於テハ三千萬圓ヲ上下スルニ至リ四十年ニハ四千餘萬圓ニ昇騰シタリ

(一)輸出 輸出重要品比較一覽表 (圓)

品名	明治四十四年	同四十三年	同四十二年	同四十一年	同四十年	同三十九年
米	五,二八三,六七三	四,七七七,七五三	五,三三三,五五七	四,八四四,八三三	七,五五八,五〇五	六,〇三三,六四八
大豆	九,九四四,九	三六,一,二九三	七二,一,二八	五八,七,一三	一七,五二二,四	一八,〇三
小豆	四,六三〇,〇七三	七,七六,〇八二	三,五三三,七五三	一,〇八,〇四一	三,八,四五五	一,九六,六〇二
麥	一三三,七七七	一七三,九二九	一四六,八四九	一四一,九四	三三,二二	八六,二五二
鮮魚	一四八,八〇一	一四三,五三三	七三,九三六	七六,六一	九一,九二七	九五,九五二
海魚	二五三,三〇九	三〇四,八六四	八九,一五	六八,五四八	二四,五八四	三三,七五八
鮮魚			二七三,〇九五	一〇三,五〇七	六三,四五三	九〇,三〇七

品名	明治四十四年	同四十三年	同四十二年	同四十一年	同四十年	同三十九年
牛	一,〇六八,八五七	一,〇四七,三五五	八一五,二九〇	五二八,九三三	六七六,五二七	六五八,八一八
鐵	一三三,二五七	一一四,二〇六	二八三,九八六	七七二,六五七	五八,三三六	三七,〇七四
鑛	五,〇四八,五	四〇九,五〇四	一五〇,五七五	九六,九三三	一九,三八九	
肥料	七〇,〇二四	一七九,八〇四	三六三,五三二	二六〇,五三三	三〇四,六三三	二四一,一五三
生人	七〇三,五八一	六三三,〇八一	八五四,七九八	一,七五九	一,二〇二,九六三	一三,四六二
牛			四二六,二四九	七二〇,五四	七七五,二二〇	五二一,六〇三

備考 本表中生牛ノ明治三十八、九兩年ハ家畜類ヲ含ム

(イ)米 表中示スカ如ク米ハ輸出品中第一位ヲ占メタリ明治三十九年以前ニ在リテハ米ノ輸出頗ル振ハリシカ明治四十年ニ至リ一躍七百五十五萬圓餘ニ上レリ之レニ内地人カ農事ヲ獎勵シ田畑ノ開拓發展ニ努メタルニ因ルモノニシテ米産ノ中心タル慶尙道、全羅道ヲ始メトシテ忠清道、黃海道等産出多キ方面ニ本邦移住農業者最モ多シ全道米ノ産額八百萬石中輸出セラルルモノハ約五十萬石ニシテ其ノ大部分ハ内地ニ販路ヲ有セシカ概近滿洲地方へ輸出セラルルモノ増加シ又浦鹽其ノ他海外諸國ニ輸出スルコト少カラス四十四年ニ於ケル各道ノ米作ハ頗ル豐饒ニシテ九百八



織シテ之ヲ衣料ニ供スル習慣ヲ有シタルヲ以テ到ル處棉花ノ栽培ヲ見サルナカリシカ近來紡績糸ノ輸入セラルルヤ棉花ノ紡出漸ク其ノ跡ヲ絶タムトスルニ至リ次テ内地ヨリ白木綿、キヤラコノ移入セラルルヤ嗜好之ニ傾キ棉花ノ自ラ海外ニ輸出セサルヘカラサルニ至レリ是レ四十二年以來著シク輸出ノ増加シタル所以ナリ四十二年ハ棉花不作ノ爲稍々振ハサリシモ尙三十萬圓ノ輸出ヲ見、四十四年ハ棉花ノ生育開繁頗ル良好ニシテ四百十餘萬貫ノ收穫ヲ得前年ニ比シ約二倍ノ增收アリシカハ從テ輸出モ多カリキ

(C) 牛皮 牛皮ハ生牛ト相俟テテ輸出品中重要ナル地位ヲ占メ其ノ過半ハ内地ニ移出セラレ革、製靴、背囊、馬具等ノ需要ヲ充シ他ハ清國ニ輸出セラレ支那靴ノ裏皮、臥暖爐ノ被覆等ニ供セラル四十二年ニハ稍々停滯ノ狀ヲ呈シ輸出五十一萬圓餘ナリシカ四十二年ニハ八十一萬圓ニ上リ四十二年ニハ一躍一百萬圓ニ達シ四十四年ニハ一、百六萬圓ニ至レリ

(D) 生牛 生牛ノ輸出モ内地向其ノ過半ヲ占メ他ハ清國及露領ニ屬ス内地ニ輸送セラレルモノハ多クハ耕牛ト爲スモノニシテ内地ニ於ケル其牛肉ノ需要増大シタル爲耕牛ニ不足ヲ生ジタルヲ結果

比較的ニ廉價ニシテ而カモ耐忍力ニ富メル朝鮮牛ハ交通ノ便利ナル九州、四國、山陽道地方ニ分布セラレ爲ニ四十年、四十一年ニ於テハ各七十餘萬圓ノ輸出ヲ見ルニ至リシナリ然ルニ四十一年夏内地ニ牛疫ノ流行スルヤ病源ハ朝鮮及清國ヨリ輸入セラレタルモノニアリトシ一時輸入禁止脫ノ唱ヘラルルサヘアリシカハ四十二年ニハ著シク減少シ四十二萬圓トナリシカ四十二年ニハ六十三萬圓ニ上リ四十四年ニハ七十萬圓ニ達セリ

(チ) 鐵鑽 鐵鑽ハ戰艦、艦艇及安插ヨリ産出シ鐵南浦ヨリ内地ニ移出セララルモノニシテ四十一年來激増シ同年ニハ十六萬圓移出セラレタリ鐵鑽ハ枝光鐵工場ニ仕向ケラレ同所ニ於テ精製セララル尙近來所所ニ鐵山發見セラレ探掘ニ着手シツツアリ

(リ) 黑鉛 黑鉛ノ輸出ヲ見ルニ至リシハ明治三十九年以來ノ事ニシテ同年及四十年ハ僅少ニ過キサリシカ四十二年ニハ釜山ヨリ輸出シタルモノノミ八萬二千餘擔ニ達シ輸出總額九萬六千餘圓ニ及ヒ四十二年ニハ元山ヨリノ輸出頗ル多ク輸出總額十五萬餘圓ニ達シ四十二年ニハ十二萬餘圓トナリシモ四十四年ニハ約十五萬圓ニ上リ近來工務上ノ需要増加シタルヲ以テ將來一層ノ増額ヲ見ル



ヘキ運命ニ在リ

(ヌ)肥料 輸出肥料ハ九州、中國地方ニ入ルモノ多ク四十一年ニハ雨天ノ爲産出少ク二十六萬餘
圓ナリシカ四十二年ニハ流氷ノ多カリシニ加フルニ天候好ク肥料ノ乾燥充分ナリシニ反シ北海道
ノ鯨流不況ナリシカハ市場ノ相場外騰シ三十六萬二千餘圓ノ移出ヲ見タリ四十二年ハ四十一萬圓
ニ上リ四十四年ハ五十萬圓ニ達シタリシカ四十四年ニ於ケル輸出増加ハ主トシテ薩州ニ於ケル酒
精ノ内地ニ移送セラレシニ因レリ

(ル)入蔘 開城附近ノ産ヲ最トシ清國ニ輸出スルモノナリ清國人ハ補血與膏劑トシテ珍重ス近年人
蔘ノ虫害甚シク産出消長ヲ免レズト雖從來清國ニ輸出セラルルモノ年百萬圓内外ニ達シ四十年
ニハ百二十萬圓餘輸出シタリシニ反シ四十一年ノ如キ清國財界不振ト人蔘ノ虫害ニ基ク蔘價トノ
爲僅ニ千七百餘圓ヲ輸出セシニ過サリシカ四十二年ニハ一躍八十五萬四千圓ニ達シ四十二年ニハ
又約十八萬圓ニ下リ四十四年ニハ亦振ハス僅ニ八萬圓ニキス其ノ他輸出品ノ主ナルモノハ石
炭、木材、及紙等ニシテ孰モ年々増長ノ勢ヲ示セリ

(二)輸入 輸入重要品比較一覽表 (四)

品名	明治四十四年	同四十三年	同四十二年	同四十一年	同四十年	同卅九年
小麦	六五四、二七三	三三三、四六九	三三三、五〇六	三八四、八二二	三三二、四〇三	三二八、四七一
食鹽	五八一、四三三	三九四、五一六	三〇三、六四三	四一七、一三〇	三六三、一三九	三〇九、九二二
醬油及味噌	三六八、九三二	三〇〇、九九一	三〇七、七六〇	一七四、九六一	一九〇、七三九	二〇八、七八八
干果乾果及鹹果	七九七、九五四	七三五、六〇七	七五九、二〇七	三三三、〇三六	三三五、六八九	二四一、七六一
清酒	三三三、一〇五	二八七、六三五	七五九、二〇七	七〇〇、四七〇	七二六、八三六	七九九、五三三
麥酒及啤酒	一一〇、七九〇	八六三、三三八	八三三、二一九	三三三、四三九	三二二、九六八	一九九、〇三三
精糖及砂糖	五、七七三、三二八	四、八八六、二八九	一、三五、〇〇九	三、六五、〇一三	八、六八九、五八一	六、七六、三六三
生金	一、八一六、九八四	一、六七六、〇九八	一、四九三、六九八	一、五七四、三六九	一、八一、六三七	七、六五、〇三三
晒金	一、七三三、三〇六	一、四四八、三〇〇	一、三三一、一七一	一、六二五、八六四	一、六二九、七三二	七、四九、〇〇三
白木綿及日本木綿	一、四〇二、七四〇	九〇六、〇八五	一、五二五、三九八	一、六四九、九〇五	九、九五、七八九	八、一七、三三八
布	一、〇八五、四七四	一、二四四、七六二	一、四四二、七六二	一、四七二、五四五	一、三七一、五八七	八〇八、〇三五
陶器及磁器	四八三、四八三	三三八、四九九	二五三、八六二	二七五、三三二	二九四、四三六	二三五、二二七

品名	單位	明治三十九年	明治四十年	明治四十一年	明治四十二年	明治四十三年	明治四十四年
煙草	箱	八九四、九四三	九三五、三六四	二六八、二七六	一、七八、四六五	三、四一、三〇九	一、六六、二四五
木炭	噸	一、四三六、一五三	一、二六二、七六〇	七二、九九七	九七、九三七	七、二四三	六三、二〇五
石油	噸	四、四六、九七五	三、九九、一三〇	三、三九、四七四	三、九一、七二四	三、四九、三三〇	三、二八、〇五七
石炭	噸	一、三三、四九三	七、九四、九三七	八、八二、六四二	一、三、七、〇、五八〇	八〇、三、五八七	六八、八、〇、三
木材	噸	一、九四、八、四六	六、八〇、九三三	二、八七、二六三	一、八、九、七、一、七六	一、八、三、八、三、五、三	一、五、五、三、九、三
板及打	噸	四、六、九、一、六四	三、六、八、二、一〇	三、九、二、七、〇	四、〇、五、一、八一	三、一、三、三、三、三	三、一、三、三、三、三
綿織	噸	一、二、三、八、二、七	一、八〇、一、三、九、三	二、八、五、〇、一、四	三、〇、三、六、二、九	六、七、〇、八、二、九	五、八、三、五、〇、四
絲織	噸	九、一、六、五、九	五、三、一、七、三、五	四、八、六、五、三、三	四、五、六、二、三、五	四、四、六、〇、七、八	四、四、六、〇、七、八
熟鐵	噸	九、九、五、二、九	七、〇、三、四、五、五	六、〇、〇、八、二、〇	二、四、二、三、三、九	二、五、六、五、〇、〇	二、七、六、三、五、九
電板	噸	二、八、四、三、九	三、〇、三、二、八	二、五、九、六、六	一、七、一、二、六、八	一、九、八、八、五、八	一、九、八、八、五、八
紙類	噸	二、八、四、三、九	三、〇、三、二、八	二、五、九、六、六	一、七、一、二、六、八	一、九、八、八、五、八	一、九、八、八、五、八
文具	噸	二、八、四、三、九	三、〇、三、二、八	二、五、九、六、六	一、七、一、二、六、八	一、九、八、八、五、八	一、九、八、八、五、八

二八八

備考 木炭中石炭ノ明治三十九年ハ「コークス」ヲ含ム

(イ)小麦粉 北米合衆國ノ輸入ニ係リ近時朝鮮ニ於ケル内地人ノ移住増加ニ伴ヒ其ノ輸入著シク激増シ毎年三十餘萬圓ニ上レリ四十二年ノ如キ三十八萬四千餘圓ニ達セシカ四十二年ニハ三十二

萬圓ニ下レリ蓋供給國北米合衆國ノ小麦凶作ノ結果日本ノ需要ヲモ充ス能ハス却テ朝鮮ノ小麦カ内地ニ移入セラレシ有様ナリシカハ減額ヲ見タル所以ナリ四十二年ハ三十三萬餘圓ニ過キザリシカ越テ四十四年ニハ一躍六十萬圓ニ昇騰セリ

(ロ)食鹽 從來清國ノ輸入過半ヲ占メタリシカ内地人ノ移入ニ伴ヒ味噌、醬油、漬物等ニ要スル食鹽ノ需要激増シ内地及臺灣製鹽ノ輸入モ漸次増加セリ朝鮮製鹽ハ從來煮熱法ニ依ルモノニシテ生産費頗ル高價ナルヲ以テ廉價ナル外國食鹽ノ輸入セラルルニ至リ頓ニ朝鮮ノ製鹽業衰退シ三十九年ニ三十萬圓餘ノ輸入アリシヲ始メトシ四十二年ニハ三十六萬圓、四十一年ニハ四十一萬七千圓ト逐年増加シ示セリ然ルニ四十二年ニハ三十萬圓ニ減退シ前年ニ比スレハ十一萬圓ノ減額ヲ生シタルモノ一ハ前年度後半期ニ於ケル輸入過大ノ結果、持越アリシニ起因シ他ハ朝鮮ノ製鹽業漸ク面目ヲ改メ天日製鹽場及内地式採鹹法漸ク好果ヲ擧グルニ至リ四十二年度ニハ產額増加シタルニ出ルナリ四十二年度ニ至リテ更ニ四十萬圓四十四年ニ至リ五十萬圓ニ増加ヲ示シタルハ移住者ノ激増ニ原因セリ



(ハ) 糖油及味噌 輸入先ハ内地ナリ明治四十年以後ニ在リテハ毎年二十萬圓チ上下セル輸入アリシカ近年内地人ノ釜山、仁川、大邱、京城等ニ於テ輸入品ニ劣ラサル精製品ヲ製出スルアリ而カモ逐次其ノ製造高ハ膨脹シ來リ輸入品ヲ壓倒セムトスルノ傾向ヲ示セリ四十二年ニハ其ノ輸入十七萬餘圓ニ減少シ四十二年ニハ稍増スアリシモ蓋前年ノ冬朝鮮最大釀造所タル仁川ノ日本糖油會社ノ罹災アリタル結果ナリ附近内地人ノ駿駛トシテ移住ノ増加スルニ從ヒ朝鮮内ノ需要ノ増加ニ伴ヒ製造高モ漸次増加セリ四十四年ノ移入額ハ約十五萬圓ナリ

(ニ) 生果、乾果及鹹果 輸入ハ數年以來漸次増加シ三十餘萬圓ニ及ヘリ多クハ柑橘類、林檎、梨、梅等ニシテ内地人ノ移住増加スルニ反シ半島内ニ之カ生産少キト朝鮮人ノ嗜好之ニ傾ケルトニ起因ス四十四年ニハ三十餘萬圓ニ及ヘリ

(ホ) 清酒 輸入ハ毎年七十餘萬圓ニ及フ需用者ハ内地人ナリ近時朝鮮内ニテ清酒ノ釀造セララルルアリ毎年二萬石ヲ釀出シ輸入額ノ七八割ヲ占ムルニ至リシカハ四十年、四十一年ニハ遞次輸入減少ヲ示セリ四十二年ニ稍輸入増加ヲ見タルハ釀造家ノ増稅ヲ見越シテ多クノ仕入ヲ爲シタルニ起因

ス四十五年ニ於テハ七十三萬五千圓ノ輸入アリ四十四年ニ於テハ七十九萬八千圓ノ輸入アリ漸次内地人移住ノ増加ト半島風土ノ釀造ニ最適セラルヨリ輸入増加ノ傾向ヲ示セリ

(ヘ) 麥酒及黑麥酒 亦多クハ内地人向ニシテ輸入先キモ亦内地ナリ近年漸次需要増加シ四十二年ニハ三十七萬三千餘圓輸入アリシニ四十二年ニハ三十一萬二千圓ニ減シ約六萬圓ノ減少ヲ見ルニ至リシハ畢竟本品ノ最賣行莫キ期節ニ京仁地方内地人周密ノ地ニ虎疫ノ猖獗シタルニ因ル四十二年ノ輸入ハ二十八萬七千餘圓ニシテ尙二萬五千圓弱ノ減入ヲ示セルハ前年度ト同一ノ理由ニ基キキ現地方ニ虎疫ノ流行アリテ一般恐怖ヲ來セシニ因ル四十四年ニハ約三十二萬圓ノ輸入ヲ見タリ

(ト) 砂糖及精糖 輸入先ハ内地ニシテ内地人ノ激増ニ伴ヒ需用モ増加セリ從來朝鮮人ハ糖料トシテ蜂蜜乾菓等ヲ用非ダリシカ近來之ニ代フルニ砂糖ヲ以テスルモノ増加シタリシカハ輸入モ亦年々逐ヒテ増加ヲ示シ四十二年ニハ八十五萬二千餘圓ニ上レリ然ルニ翌四十二年ニ八十三萬八千圓ト少ク一萬四千圓ノ減輸入ヲ見ルニ至リシハ蓋大日本製糖會社ノ紛亂アリテ一時事業ヲ中止スルニ至リシニ因ル四十二年ニハ其ノ勢力ヲ復活シ其ノ輸入八十六萬圓ニ上リ四十四年ニハ一萬四千圓



四ニ達セリ砂糖ニ關スル關稅ハ其ノ種類ノ如何ヲ問ハス皆七分五厘ニシテ而カモ朝鮮内ニハ消費稅ノ課セラルルコトナキカ故ニ内地ニ比シ價格頗ル廉ナリ

(チ)生金市 輸入品ノ大部分ハ英國ヨリス明治三十八年ニハ二百三十三萬七千餘圓ノ輸入ヲ見タリシカ漸次減少ノ傾向ヲ示シ爾來多少ノ消長ヲ經テ四十二年ニハ百十三萬五千圓ニ至リ五年以前ノ半額以下ニ降レリ蓋近時朝鮮人ノ漸ク外觀ヲ美ニスルノ氣風ヲ生シ外裝的ニハ晒金市ヲ撰ミ耐久的ニハ「シーチンク」ヲ需ムルニ至リシニ歸因ス漸次生金市ノ需要力衰ヘ晒金市「シーチンク」ニ勢力ヲ奪ハレツアルハ爭フヘカラサル事實ナルカ如シ

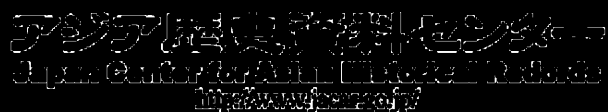
「シーチンク」金市、木綿、麻布ハ朝鮮人ト衣料トシテ必須ノモノナルカ故ニ輸入品中最高位ニ居ルモノナルカ近年我國產ノ「シーチンク」ハ價格低廉ニシテ耐久ナルヲ以テ朝鮮人ノ嗜好ニ適シ其ノ消長ハ英國產出ノ生金市晒金市等ト關聯ス明治四十年ノ如キハ輸入額著著騰貴見レリ蓋當年ハ製作ノ爲購買力ヲ増進セシメ因ルト雖四十二年以來農産物ノ低廉ト市場ノ不況トニ因リ輸入減少シ四十二年ニハ二百四十二萬八千餘圓ニ至レリ然レトモ四十二年ニハ好況ヲ呈シ三百萬圓

ニ上レリ四十四年ニハ前年度以上ノ好況ヲ呈セリ

(リ)晒金市 亦生金市ト同シク其ノ大部分英國ノ輸入ニ係リ近年百五十萬圓ヲ上下スルノ景況ヲ呈セリ蓋木綿ハ漂白ノ勞ヲ要セス生金市、シーチンクニ比シ外觀美ナルカ故ニ朝鮮人ノ嗜好ニ適セリ從テ四十三年ニハ百六十七萬圓四十四年ニハ百八十八萬圓ノ輸入ヲ見タリ

(ヌ)白木綿及日本木綿 就中日本人向籍木綿及緋ハ近年幾少ナカラモ増加セルニ反シ朝鮮人向ノ白木綿ハ近年減少セルヲ見ル明治三十八年中ニ於テ二百萬圓餘ノ輸入アリシモノカ遞次減少シ明治四十二年中ニ於テ百三十一萬圓ニ至レリ内朝鮮人向白木綿ハ八十六萬圓ニシテ他ハ日本人向ナルカ之ヲ明治四十一年ニ比スレハ白木綿ハ三十二萬圓ヲ減シ僅ニ日本人向木綿ニ於テ八千圓弱ノ増入ヲ見タルニ過キサリ此ク減少スルニ至リシ原因ハ一ハ朝鮮人ノ購買力ノ減少ニ基キ他ハ英國產出ノ金市類ノ好敵ヲ控ユルヲ以テナリ日本人向木綿類ノ増加セルハ内地人ノ移住増加ニ伴フ結果ナリ四十四年ニハ約二百萬圓ノ輸入アリタリ

(ル)麻布 朝鮮人ノ夏衣料トシテ昔ク使用セラルルカ故ニ需要甚々多ク嘗テ朝鮮内ニモ相應ニ產出



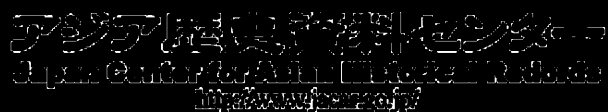
セラレシカ近年海外ノ輸入盛ニシテ遂ニ壓倒セラレ清國産麻布ハ割ヲ唱フニ至レリ明治四十一年
中其ノ輸入百六十四萬九千九百五圓ニ激増シ四十二年中財界ノ不況ニモ拘ラス百五十二萬五千餘
圓ノ輸入ヲ見タリシカ四十二年ニハ著シク減少シテ約九十萬圓ニ減退シタルカ如キ半島内麻布ノ
産出面目ヲ改ムルニ至リシニ由ルヘク四十四年ニハ百三十萬圓ノ輸入ヲ見タリ

(チ)絹布 多クハ朝鮮人上流社會ノ衣服料トシテ需要セララルルモノニシテ輸入額ノ九割以上ハ清國
ノ産出ニ成ルモノニシテ他ハ日本及外國ノ輸入ニ係ル清國ノ輸入ニ係ルモノハ頗ル廉價ニシテ朝
鮮人ノ嗜好ニ適セルモノハ青、赤、紫、白、桃、黄等ノ色合ニシテ浮模樣アル無地ノモノ多シ近
來内地人ノ求メテ裏地帶等ニ使用スルモノ亦尠カラズ近年輸入漸次ニ増加シ四十二年ニハ一般ノ
好況ニ伴ヒ百四十二萬圓餘ニ昇リ四十二年ノ不況ニモ拘ラス猶百二十四圓ノ輸入ヲ仰ケリ元來朝
鮮ニハ朝鮮人ノ需要ニ應スヘキ紡織ノ施設、工機ノ企業備ハラサルカ故ニ漸次生活程度ノ上進ニ
伴ヒ海外絹布類ノ輸入増加ノ機運ニ在リ四十四年ニハ約百萬圓弱ノ輸入ヲ仰ケリ

(リ)陶磁器類 從來輸入品ノ多クハ内地人ノ需要ヲ充ス爲メナリシカ近來朝鮮人ノ生活狀態ノ次第

ニ内地風ニ化セララルルニ至リ陶磁器ノ需要額ニ増加シ食器類、便器、喫煙器内地製ノモノヲ歡迎
スルニ至レリ元來朝鮮内ニハ陶磁器ノ製作ハ或特定モノヲ除クノ外産出ナキヲ以テ内地及清國ニ
及ビ之カ供給ヲ仰グノ外ナシ四十二年中ニハ二十七萬五千三百餘圓、四十二年ノ不況ニモ拘ラス
二十萬三千八百餘圓、四十三年ニハ約三十餘萬圓、四十四年ニハ約四十萬圓ノ輸入ヲ見タリ

(カ)煙草 數年來輸入高百十六萬圓ヲ下リシコトナク明治四十年ノ如キハ百二十四萬一千餘圓ニ上
リ四十二年ニ百十六萬圓八千二百餘圓ノ輸入ヲ見タリ而シテ紙卷煙草ハ總輸入額ノ九割弱ヲ占メ
刻煙草ハ一割ヲ占メ其二三歩ハ葉卷煙草及葉煙草ナリ而シテ其輸入先ハ日本、支那、土耳其、埃
及、比律賓、英國、北米合衆國ナリ朝鮮内ニハ未ダ内地人向ノ刻煙草ノ製出セラレサルヲ以テ内
地人ノ移住ト共ニ輸入額ハ漸次増加ヲ示シタルカ明治四十三年中ニ於テ九十三萬圓ニ減少次テ四
十四年ニ於テ八十九萬圓ニ減少シタルハ東亞煙草會社ノ製品漸次増加改良セラレ外煙ノ販路ヲ奪
ヒタルニ歸因ス東亞煙草會社カ四十二年五月ヨリ四十四年十月ニ至ル一箇年中ノ間ニ於テ其ノ製
出ニ係ルモノハ卷煙草七億九千九百八十六萬五千本此ノ價格百五十九萬四千八百七十五圓及刻煙



草五千五十八貫此ノ價格一萬八千二百四十四圓合計百六十五萬五千九百九十九圓ナリ以テ其ノ貿易ニ及
ホセル影響亦察スハキナリ

二九六

(ヨ)石油 輸入ノ大部分ハ北米合衆國之ヲ占メ爾領印度之ニ亞ク明治三十九年以來毎年一百万圓ヲ
超過シ四十一年中ニハ一躍百四十萬圓餘ニ達セリ然ルニ四十二年中ニ於テ九十三萬四千圓ニ減
入シタルハ前年度輸入超過ノ結果持越ノ存セシト米油ト爾領印度產油(旗印石油)トノ競争ヲ生シ
爲メニ市價ノ著シク下落シタルトニ因ル四十二年中ニハ百二十六萬二千圓、四十四年ニハ又約百
八十萬圓ノ輸入ヲ見ヌリ尙朝鮮人間ニ石油ノ需要漸次増加シ加フルニ移住ト生産ノ事業益繁多ニ
趨クナリ以テ將來輸入増加ノ兆ヲ示セリ

(タ)燐寸 大部分ハ内地ノ輸入ニ係リ他ハ清國ヨリス年々増加ノ兆ヲ示セルモ四十二年中ニハ三十
三萬圓ノ輸入アリ前年ヨリモ約五萬圓ノ減少ヲ見タルカ日鮮人ノ需要販路次第ニ擴張セラレツツ
アリ四十三年中ニハ三十九萬圓、四十四年ニハ四十萬圓ノ輸入ヲ見タリ

(レ)石炭 從來輸入石炭ハ内地產ノミナリシカ近時撫順炭ノ輸入セラレルアリ鐵道局ニテハ其ノ之

ヲ使用スルコトナリシ結果四十二年中ニハ四萬餘噸價格二十七萬七千圓ノ撫順炭ノ輸入アリ内
地炭ハ總輸入額ノ七割弱ヲ占ムルニ過キサリキ漸次半島ノ發展ニ伴ヒ工場、製造場、官衙ノ設備
等増加スルニ至ラハ石炭ノ供給激増スルニ至ラム四十二年中ニハ約八十萬圓ニ過キサリシモ四十
四年ニハ百三十萬圓ノ輸入ヲ見タリ

(リ)木材及板 從來内地ヨリノ移入ニ係リ四十年中ニハ百八十二萬八千圓、四十一年中ニハ百八十
九萬七千圓ノ輸入アリシニ四十二年中ニハ百二十八萬七千圓トナリ前年中ヨリ六十二萬圓ノ減少
アリ蓋一ハ四十二年以來鴨綠江材ノ使用セラルルニ至リ度支部ハ工事上盛ニ之ヲ使用シタリシト
一ハ財界不振ニ伴ヒ企業工事ノ少カリシニ因ル四十二年中ニ於テハ百六十八萬圓、四十四年ニハ
二百萬圓ノ輸入ヲ示セリ

(ツ)織綿及打綿 内地及南滿地方ヨリ輸入セラレ例年四十萬圓ヲ上下セリ蓋氣候冽寒ノ朝鮮ニハ必
須ノモノナルカ故ニ需用ノ増加ハ當然ノ數ナリ

(子)綿織糸 大部分内地ノ移入ニ係リ四十年中ニハ未曾有ノ盛況ヲ呈シ輸入額二百六十七萬餘圓ニ

上り四十一一年中ニハ二百二十萬圓ヲ超過シタリシカ四十二年中ニハ財界不振ノ結果一般農民ノ購買力減少シ加フルニ金市其ノ他ノ綿布類低廉ニシテ地木綿モ下落シ爲ニ綿織糸ノ輸入振ハス百二十八萬五千圓餘ニ過キサリキ然ルニ四十三年中ニハ百八十萬圓餘ニ上リ超テ四十四年ニハ二百萬圓ニ達セリ

(ナ) 熟鐵 大部分英國ノ輸入ニ依リ近時朝鮮内ニ鐵工業漸次發達シ建築工事上ノ需要増加シタルヲ以テ近年其ノ供給ヲ加ヘ四十年以來輸入増加ヲ示シ四十二年中ニハ五十三萬圓、四十四年ニハ九十萬圓ニ達セリ

(リ) 紙類 其ノ需要ハ朝鮮内地ノ發達ニ伴ヒ印刷物ノ増加シタルト日本人ノ移住激増トニ由リテ近年輸入増加セリ輸入紙ノ多クハ内地ノ生産ニ成ルモノニシテ就中印刷物及朝鮮人家屋服用ノ洋紙類多ク内地用半紙、美濃紙、膠紙、卷紙等之ニ次ク四十二年中ニハ六十萬圓餘、四十三年中ニハ七十萬圓餘、四十四年ニハ百萬圓ヲ輸入セリ

以上ヲ除クノ外藥品類、外裝品、小間物類、文具類、乾物、罐詰類工藝化學用品類等ハ國內ノ發

展ニ伴ヒ漸次輸入ノ増加ヲ示シツツアリ

(三) 以上述ヘタル輸出入品ノ國別表ハ左ノ如シ
輸出入品價格國別表 (圓)

國名	明治十四年		同十三年		同十二年		同十一年		同十年		同九年		總貿易ニ對スル割合				
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	四十四年	四十二年	四十一年	四十年	三十九年
日本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	100%	100%	100%	100%	100%
清國	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	500,000	50%	50%	50%	50%	50%
英吉利	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000	30%	30%	30%	30%	30%
北米合衆國	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	20%	20%	20%	20%	20%



其他諸國	輸出		輸入	
	輸出	輸入	輸出	輸入
總計	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

表中示スカ如ク朝鮮ニ於ケル貿易ハ輸出ハ輸入共我國第一位ニ居リ清國之ニ次クト雖英米ノ輸入努力ハ漸次増加ノ傾向ナリ有セリ

(四)朝鮮内貿易港ニ於ケル商況ハ左ノ如シ

貿易額港別累年比較一覽 (圓)

港名	明治四十四年		同 四十三年		同 四十二年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
仁川	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
釜山	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
元山	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鎮南浦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

京 城	明治四十四年		同 四十三年		同 四十二年	
	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入
京城	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
群 山	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
木 浦	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
馬 津	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
清 津	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
城 津	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
新 州	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

表中示スカ如ク貿易額ヨリ觀察スレハ常ニ仁川ハ第一ニ位ス之レ京城ノ大都會ヲ控ユルヲ以テナリ釜山之ニ亞ク然レトモ近年京城線ノ完成セラレ内地トノ聯絡關係頗ル便利トナリシ結果ハ仁川ノ勢力ハ漸次釜山ニ奪ハレツツアルノ傾向ヲ示シ仁川ハ昔日ノ面目ヲ損スルニ至レリ京城稅關出販所經由ノ貿易貨物ノ多クハ釜山港ヲ經過セルモノ多キヲ以テ船舶ノ輻輳、貨物ノ集散ノ點ヨリ觀察スレハ釜山ハ海ニ仁川ヲ凌駕セリ元山之ニ次ク元山ハ東海岸ニ於ケル隨一ノ貿易港ナリ以上ノ三港ヲ稱シテ朝鮮三大貿易港ト謂フ又鎮南浦ハ之ニ次ク貿易港ニシテ近年發展ノ途ニ在リ其



品名	單位	水浦	平壤	鎮南浦	新義州	元山	城津	平均
織寸(入積印)	二百打入	四三三八	四三三八	四三三八	四〇四六	三九四八	三九四〇	三九一八〇
石油(松)	噸	三一〇〇	三一〇〇	三一〇〇	三一〇〇	三一〇〇	三一〇〇	三一〇〇
石炭(普通)	噸	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇	一一〇〇
木炭	噸	〇八三〇	〇八三〇	〇八三〇	〇八三〇	〇八三〇	〇八三〇	〇八三〇
和洋	斤	三二五六	三二五六	三二五六	三二五六	三二五六	三二五六	三二五六
金	百	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇
洋金	百	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇	三〇三〇
紡績絲	噸	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇
紡績	噸	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇	六七〇〇

物價一覽(其ノ三) (四)

品名	單位	水浦	平壤	鎮南浦	新義州	元山	城津	平均
玄米	石	八六五〇	七九九一	八五三三	九五九一	一〇〇〇〇		八九七九
中米	石	八三三三		八〇六七	九一三三			八七八四
下米	石	七五九三		七五三三	八五五八			八二一八

品名	單位	水浦	平壤	鎮南浦	新義州	元山	城津	平均
精米	石	一一九五〇	一一九三五	一二〇〇〇	一二三三三	一二六二五	一二四三三	一二三三九
大麥	石	一〇四九三	一〇七七五	一〇九三八	一一一七一	一一六一一	一一三二五	一一三四一
小麥	石	八九三五	九七五〇	一〇〇二五	一〇二五〇	一一〇四三	一一三四五	一〇三七〇
大豆	石	二七〇〇	二二六〇	二二七〇	二二七〇	二二七〇	二二七〇	二二七〇
小豆	石	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇	一七〇〇
大豆(上)	石	六七八〇	六四八〇	六七六〇	六六八七	六六八七	六六八七	六六八七
大豆(下)	石	五七四〇	五三三〇	五三三〇	五三三〇	五三三〇	五三三〇	五三三〇
小豆(上)	石	五九八〇	六六六〇	六六六〇	六六六〇	六六六〇	六六六〇	六六六〇
小豆(下)	石	五五二〇	五二二〇	五二二〇	五二二〇	五二二〇	五二二〇	五二二〇
食鹽(粗製)	斤	六二八〇	六八六〇	六八六〇	六八六〇	六八六〇	六八六〇	六八六〇
食鹽(精製)	斤	五六八〇	六二六〇	六二六〇	六二六〇	六二六〇	六二六〇	六二六〇
砂糖(粗製)	斤	二六七〇	二八四〇	二八四〇	二八四〇	二八四〇	二八四〇	二八四〇
砂糖(精製)	斤	二〇〇〇	二一六〇	二一六〇	二一六〇	二一六〇	二一六〇	二一六〇
食糖(四溫)	斤	九五二〇	九四六〇	九四六〇	九四六〇	九四六〇	九四六〇	九四六〇
食糖(精製)	斤	六四〇〇	五七六〇	五七六〇	五七六〇	五七六〇	五七六〇	五七六〇
榨油(菜油)	斗	四三三〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇
榨油(桐油)	斗	四三三〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇	三六八〇

第十章 商業

三〇五

三〇四

而シテ其ノ輸出入貨物ノ主ナルモノハ既ニ外國貿易ノ旗下ニ説明シタルハ茲ニハ贅言セザルモ内地へ移出スル物品ノ重要ナルモノハ米ヲ第一トシ大豆之ニ次キ魚類、生牛、牛皮、礦物等又之ニ次ク而シテ内地ヨリ移入スル物品ハ「シーチング」白木綿及日本木綿類ヲ始トシ食鹽、醬油、味噌、酒、煙草、陶磁器、石炭、マツチ、木材、綿織絲等ヲ重要ナルモノトス

朝鮮内ノ商業

朝鮮内ニシテ未タ内地人ノ居住セザル地方ニ在テハ常設ノ店舗ヲ設ケテ販賣ヲ營ムモノナク今尙物物交換ノ遺習ヲ存シ取引ハ所謂市場ニ於テ爲スチ例トシ密給者五ニ日ナ期シテ一定ノ場所ニ相會シテ有無相通スルコト熾ニ行ハル所ナリトス而シテ市日以外ノ日ニ在テハ僅少ノ日用品スラ購入スルニ山ナシ此等ノ市ハ毎月五回若ハ六回ノ定期開催ヲ爲スチ各地一般ノ慣例トシ出市者ハ三四里四方ヲ以テ區域トナスモ時ニ八九里ノ遠キヨリ到ルモノナキニ非ス所謂市場ハ朝鮮全土ヲ通シ其ノ數大小八百五十チ算スヘク毎市日ニ際シテハ其ノ來集者ハ地方ニヨリテ異同アリト雖少キハ百ヨリシ、多キハ數千ニ至リ一萬ニ及フモノ無キニ非ス市場ハ市街ニ於テセラルルモノアリ或ハ野外ニ於

テセラルルモノアリテ商人ハ常ニ開店セル小屋ニ商品ヲ陳列シ或ハ露店ヲ開キテ絹布、木綿、野菜、米穀、生牛、魚類、雞豚等或ハ區劃ヲ設ケ或ハ雜居シテ買ス來集者ハ多少ニ拘ラス各自ノ生産ニ成ル物品ヲ携帶シ之ヲ販賣シ自己ノ需要品ヲ求メテ歸ルヲ慣例トス而シテ市ノ組織及出品手續等ニ至リテハ各地其ノ慣習ヲ異ニスルモノアリ

要スルニ朝鮮内地ニハ到ル處市場ノ設アリテ朝鮮人唯一ノ商業ノ機關ヲ爲シ地方ノ繁閑ニ依テ差異アリト雖市日ニ於ケル市場ハ一般ニ雜踏混亂ヲ極ム

朝鮮人商業ノ機關トシテ重要ナルモノ四アリ曰ク客主曰ク居間曰ク監考曰ク典當之レナリ

(一)客主ノ本來ノ業務ハ委託ヲ受ケテ取引ヲ爲シ又ハ手形ノ引受、割引、貸金及貨幣ノ交換等ヲ爲シ併セテ顧客ヲ宿泊セシムルモノニシテ其ノ商行為トスル所恰モ内地ニ於ケル間屋業ニ類ス客主カ委託販賣ヲナス貨物ハ大樽廢物、煙草、牛皮等ニシテ客主ハ絶ヘス市場ノ相場ヲ通報シ委託者ハ機中見テ其ノ所有貨物ヲ客主ニ送リ指定價格ヲ表示シテ之カ販賣ヲ委託ス之ト同時ニ客主ハ委託者ニ對シ左記様式ノ預證書ヲ交付ス



任置票
一、粳米 三百斗
何號庫入積
月日 客主某
某前

而シテ客主方委託者ヨリノ指定價格ヲ以テ販賣シタルトキハ所定ノ口錢其ノ他儲蓄費ヲ控除シ殘額ヲ委託者ニ返附ス

(二) 居間ハ賣買當事者ノ中間ニ介在シ儲蓄ノ周旋ヲ爲シ一定ノ口錢ヲ受クルコトヲ本業トスル者ニシテ恰モ内地ノ仲立人ニ相似タリ居間ハ常ニ客主ノ店舖ニ出入シ其ノ依頼ヲ受ケ賣買者ヲ探察紹介シ賣買成立ノ曉ニ於テ報酬トシテ口錢ヲ得ルモノナリ普通居間ニ二種アリ一ハ一定ノ出入客主ヲ有シ其ノ使用人トナリテ周旋ノ勞ニ當ルモノヲ謂ヒ一ハ一定ノ客主ヲ有セス尙モ事件アレハ何レノ

客主ニ對シテモ周旋ノ勞ヲ取リ敢テ之ヲ辭スルナキモノヲ謂フ而シテ其ノ行動稍客主業ト相似タルモノアリト雖兩者ノ間ニハ自ラ劃然タル區別ノ存スルアリテ客主ハ委託者ノ爲ニ賣買ヲ媒介スルト同時ニ表面自ラ取引ノ當業者トナリ權義ノ主體タルニ反シ居間ハ單ニ賣買業ヲ紹介スルニ止マリ取引其者ニ關シ何等關與スル處ナシ

(三) 監考ハ地方ニヨリ其ノ取扱フ商品一定セサレトモ市場取引ノ米穀ハ必ス監考之ヲ升量シ其ノ手數料トシテ一俸ニ充タサル端數ノ米穀ヲ收納スルノ慣習アリ

(四) 朝鮮ニ於ケル典當業者(質屋業)ハ多クハ金貸業者カ兼業トシテ之ヲ營ムモノニシテ純然タル典當業ハ皆無ト稱シテ過言ニアラス而シテ金貸業者ノ幾部分カ典當業ヲ兼ムルモノニシテ金貸業者ハ當然典當業者タルモノニ非サルカ故ニ金貸業者ノ數ノ多キニ比シ典當業者ハ其ノ數少ナシ而シテ典當業者ノ取扱フ典物ハ金銀細工、元短筒器具什器等多ク貸金ノ比例ハ借主ノ信用ニ由リ異ナルト雖評價ノ三割乃至五割ヲ以テ普通トス而シテ期限ハ一定セサルカ如キモ普通ノ典物ニ在リテハ三箇月ヲ以テ一期トシ金銀ノ如キ價格移動ノ少ナキモノニ在リテハ稍長キカ如ク細民ニ融通スル場合ニ在



リテハ時期ノ頗ル短キモノアリ然レトモ孰モ利息支拂ニヨリ延期シ得ルハ内地ト異ナルナク又若流

質トナリタル場合ニハ典當權者當然ニ賣却處分シ得ルモノトス

其ノ他商業機關トシテ市場取引、契等ニ關シ慣行ナキニ非サルモ行政ノ刷新ト共ニ次第ニ其ノ面目
ヲ改ムルニ至レリ左ニ朝鮮人ノ所謂商賈ト稱スルモノノ主要ナルモノヲ舉ケム(朝鮮人ハ店ノ字ヲ
用ヒスシテ賈ヲ用ヅ)

米 賈 米ヲ販賣シ上米賈下米賈ノ別アリ

雜穀 賈 米穀、豆類、黍等ヲ賣ル

桐物 賈 果物ヲ賣ル

苧布 賈 苧布ヲ賣ル

立 賈 絹布類ヲ賣ル

白木 賈 木綿類ヲ賣ル

雜貨 賈 雜貨賈ナリ

麻 賈 苧布、絹布、染粉、帶、紐、色糸、帽子等ヲ賣ル

櫛 賈 櫛種ノ指物ヲ賣ル

盆器 賈 漆器類ヲ賣ル

砂器 賈 陶器類ヲ賣ル

冊 賈 書籍ヲ賣ル

銀 房 細工屋ナリ(房ハ製造業者ニ用ヅ)

玉 房 玉細工屋ナリ

飯饌假家 賈 階種ノ日用食料品類ヲ賣ル

具物 賈 飾物類ナリ

木器 賈 下駄、木鉢、尺等ヲ賣ル

商 賈 骨董類ニシテ雜貨モ兼賣ス

喪頭都家 賈 喪具ヲ貸貸スルモノニシテ喪器ノミ賣ルモノヲ都家ト謂フ

第十章 商業



其ノ他商賈ノ名稱種種アレトモ此等ハ大概其ノ名稱ニ依リテ判別シ得ヘキモノナルカ故ニ之ヲ省略ス
朝鮮人商業會議所
主要ナル都市ニ在リテハ内地人間ニ於ケルト同シク朝鮮人商人間ニ於テモ商業會議所ヲ設立セルモノアリ其ノ業務ハ商工業ニ關スル諸般ノ調査報告關係人ノ請求ニ依リ商工業ニ關スル紛議ノ仲裁ヲ爲ス等ニ内地商業會議所ノ業務ト大差ナシ左ニ各地ニ於ケル朝鮮人設立ノ商業會議所概況ヲ示スヘシ

朝鮮人商業會議所一覽

(明治四十四年九月末日關)

名稱	設立年月	官廳認可 ノ有無	四十三年度 經費總額	課金負擔 者總數	課金賦課ノ標準
京城商業會議所	明治三十 八年七月	農商工部 ノ認可	七、三三〇	一、五〇〇人	商業ノ狀態ニ依リ特等 ^甲 及一等 ^乙 ノ二等ニ分テ最高百二十圓最低百圓

仁川商業會議所	同三十八年	仁川監理 署ノ承認	一、四四九	三三四	商業ノ狀態ニ依リ一等ヨリ六等ニ分テ最高十二圓最低一圓
開城商業會議所	同四十年	農商工部 ノ認可	一、二二二	二六〇	等級ヲ設ケス
大邱商業會議所	同四十年	同	二三八	二二九	營業所得ヲ標準トス
東萊商業會議所	同四十年	府尹ノ認	一、五〇〇	二二九	商業ノ狀態ニ依リ等級ヲ分ツ
馬山商業會議所	同四十二年	同	三二四	一三五	同
平壤商業會議所	同三十七年	觀察使ノ 認可	四〇八	一七〇	等級ヲ設ケス
三和商業會議所	同四十年	府尹ノ認	二、五四二	一三〇	間屋ハ口錢、仲買ハ手数料ノ各百分ノ五其ノ他ハ實上高ニ依ル
元山港商業會議所	同三十七年	三十九年四月 農商工部ノ認可 三十九年四月 農商工部ノ認可 ナリ	五七六	不明	各間屋ノ口錢ノ百分ノ二トス

四 内地人商業

朝鮮内地人ノ足蹟殆ト到ラサル所ナク樞要ノ地ハ市ヲ爲シ邑ヲ作り殿殿トシテ日進月歩ノ趨勢ヲ

(イ) 主要商業地

京畿道 京城、龍山、水原、開城、永登浦、仁川、江華島
 忠清北道 清州、堤川、忠州
 忠清南道 江景、公州、烏致院、洪州、禮山、牙山、平海、咸歡、瑞山、天安、大田
 慶尙北道 大邱、金泉、慶州、安東、浦項、尙州
 慶尙南道 釜山、東萊、金海、密陽、蔚山、馬山、統營、晉州
 全羅北道 群山、全州、泗浦、南原、金堤
 全羅南道 羅州、祭山浦、南平、咸平、光州、木浦
 黃海道 鐵嶺、黃州、兼三浦、沙里院、新幕、谷山、海州、新溪
 平安南道 平壤、安州、鎮南浦、咸川
 平安北道 定州、新義州、宣川、義州、寧邊、龍岩浦、鐵山、北鎮、江界、楚山

江原道 春川、江陵、蔚珍、鐵原、原州

咸鏡南道 咸興、元山、北青

咸鏡北道 清津、鏡城、羅南、會寧、富寧、城津、吉州、明川

(ロ) 内地人設立種類別會社表

(明治四十四年一月間)

地方別	農業	商業	工業	運輸業	其他	計
京城	一八	九二	四二	四一	五四	二四九
仁川	—	—	—	—	—	—
群山	—	—	—	—	—	—
木浦	—	—	—	—	—	—
釜山	—	—	—	—	—	—
馬山	—	—	—	—	—	—
平壤	—	—	—	—	—	—
鎮南浦	—	—	—	—	—	—
元山	—	—	—	—	—	—
計	一八	九二	四二	四一	五四	二四九

清新大	三	一	一
濟	四	三	一
津州邱	一	八	二
	一	七	一
	二	八	一
	一	二	九
	三	六	

(ハ) 組織別會社表(會社令ニ依リ届出ヲ爲シタル會社)

明治四十四年六月末日

會社組織	朝鮮ニ本店ヲ有スル會社		内地ニ本店ヲ有シ朝鮮ニ支店ヲ設クル會社	
	實收資本	拂込資本	實收資本	拂込資本
日鮮人合資	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
内地人合資	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
合計	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇

合同株式	總計	
	株式	合資
株式	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
合資	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
合計	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇

備考 一 本表ハ銀行業電氣事業軌道及輕便鐵道會社ハ之ヲ含マズ
 二 本表以外ニ外國人ノ設立ニ係ルモノ十會社朝鮮人ノ設立ニ係ルモノ十會社アリ
 (二) 内地人商業會議所一覽 (明治四十四年六月末日)

名	稱	議員數	特別議員數	創立年	月日
京城日本人商業會議所		三〇	九	明治二十年	二月廿三日
仁川日本人商業會議所		三〇	七	同	十九年四月一日
釜山商業會議所		三〇	四	同	十二年二月一日
元山商業會議所		三〇	四	同	十四年一月十四日

第十章 商業

同治四十四年	同治四十二年	明治四十三年	合	平	新	城	清	馬	大	木	靜	京	鎮	元
四十年	四十二年	四十三年	計	州	嶺	山	浦	浦	邱	浦	山	城	浦	山
七五八、七五〇	六六六、八一五	八六三、三三三	六四七、五一九	八三三、八	四九、二八〇	二五、九六八	二四、五	二、三七五	二、四四五	二、四四五	二、四四五	二、四四五	二、四四五	二、四四五
二、三一九、二六〇	二、五一一、〇三三	二、四三三、二二五	二、五五二、九四八	一、四六六、五	六四、五九〇	三三、九六九	三、〇〇三	五、六〇一、九	四、五一一、五〇	四、七一一、〇三	七、〇三三、九三	八、六三三、三九	四、五五五、五九〇	二、八七二、九六
八七、二一六	九一、九五一	七九、七八〇	七六、三九三	三、〇〇三	一、六五〇	二、二一八	三、〇〇三	二、九五五	二、四七五	三、〇〇六	四、九五四	四、三五四	四、三五四	七、三三五
三、一六五、三三〇	三、三三三、三五九	三、四三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五	三、三三三、二二五

關稅率概表
第一 輸入ノ部(移入ヲ含ム)

類別	品名	最高稅率	最低稅率	普通稅率	備考
第一類	穀類及種子	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第二類	飲糖及糖果	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第三類	砂糖及糖菓	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第四類	酒類	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第五類	皮革骨角牙甲及化學藥類	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第六類	藥材製藥及化學藥類	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第七類	染料及塗料類	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第八類	絲綢及同類	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第九類	布帛及布帛製品	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第十類	衣類及附屬品	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第十一類	紙類及文具類	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ
第十二類	其他	五〇	五〇	五〇	關稅條約ノ稅率ニ基クモノ

第十章 商業

三三三

忠清南道	全道	三七郡	一五	三	一八
全羅北道	全道	一府二七郡	一五	三	一八
全羅南道	全道	一府二八郡	一五	三	一八
慶尙北道	全道	一府四〇郡	一五	三	一八
慶尙南道	全道	一府二七郡	一五	三	一八
黃海道	全道	一府一九郡	一五	三	一八
平安南道	全道	一府一七郡	一五	三	一八
平安北道	全道	一府二〇郡	一五	三	一八
江原道	全道	一府一七郡	一五	三	一八
咸鏡南道	全道	一府一七郡	一五	三	一八
咸鏡北道	全道	一府一七郡	一五	三	一八
計			四七	二一	二〇三

三二六

第十一章 工業

一 朝鮮人の工業

現今朝鮮ノ工業ト稱スベキモノハ殆ド有ラサレトモ既往數百年前高麗朝時代ニ在リテハ稍發達ヲ遂ケタルモノアリシカ如ク之ヲ當時ノ建築ニ見高麗燒ニ徴スルモノ一班ヲ想見スルヲ得ルナリ且下朝鮮人間ニ營マルモノノ中舉クレハ僅ニ織物、陶磁器、製紙、醸造、金屬品業等ノ工業ノ副業トシテ存スルニ過ギズ美術品製作ニ從事スルモノ無キニアラサルモ極メテ幼稚ニシテ粗造タルヲ免レス工場、製作所等數フルニ足ルモノナシ由來朝鮮人ハ手藝、技術ニ巧妙ニシテ加フルニ忍耐、勞働力ニ富ムヲ以テ朝鮮ノ工業ノ將來有望ナリ

一 機械 機械ハ朝鮮ニ於ケル最重要ナル工業ナルヲ以テ其ノ改良發達ヲ圖ル爲朝鮮總督府ハ主要ナル産業地ニ機械廠附ヲ派シ實地指導ノ任ニ當ラシメツアリ左ニ織物主要産地ヲ掲グヘシ

第十一章 工業

三二七

木綿織物		麻織物		絹織物	
道名	郡名	道名	郡名	道名	郡名
忠清北道	清州、忠州	忠清南道	鴻山、鹿仁、韓山、青陽、扶餘、蘆浦、林川	京畿道	朔寧
忠清南道	青陽	全羅北道	長水	忠清南道	公州
全羅南道	求禮、唐津、麗水、光州	全羅南道	求禮	慶尙北道	安東、禮泉
慶尙南道	晉州、梁山、巨濟	慶尙北道	義城、大邱、長巖、永川、善山、安東、永	江原道	金化、江陵
慶尙北道	華山、星州、大邱、禮泉、陽智、義興、	慶尙南道	陝川、三嘉、梁山、安	平安北道	寧邊
黃海道	順興、安東、尙州	江原道	江陵、三陟、襄陽、淮	平安南道	順川、德川
平安南道	平壤、龍岡、三和	咸鏡南道	北青、甲山、高溪、洪		
平安北道	寧邊				

(イ)綿布 綿布ハ慶尙南道全羅南道ヲ以テ主要産地ト爲スモ朝鮮全土到ル處之ヲ産セラルナク

一箇年ノ産額ハ數百萬圓ニ上ルヘシ多クハ農家婦女ノ副業的産物ニシテ棉花ヲ手紡シ居織機ニテ製織スル平織白木綿ノ粗ナルモノナリ近來紡績糸ヲ用キ「バタン」織機ヲ以テ製織スルモノ漸次増加セルモ工場ヲ設ケテ機織ニ從事スルモノハ未タ二三ニ過キス

(ロ)絹布 江原、平安南北及慶尙南北道ニ産出シ多クハ明細ト稱スル平絹ノ類ニシテ平安道咸川、泰川、寧邊、熙川、徳川ノ袖及江原道鐵原ノ袖最名アリ之等ハ皆織上ノ後炭汁ヲ以テ精練シ染色シ衣料ニ供ス一箇年ノ産額概算額四十萬圓ナリ

(ハ)麻布 忠清南道慶尙北道咸鏡南北道江原道最産出多ク重要ナル物産ノ一ナリ何レモ自無地ノモノニシテ之ヲ製織スルニハ豫メ麻ヲ清水ニ浸シ日光ニ晒シテ自然漂白ナシ織機ヲ割キテ細糸トナシ居織機ニ依リテ製織シ夏ノ衣料裏服、帆、袋及雑用ニ用フ各道産出額百數十萬圓ニ上ル

二 窯業

窯業ハ高麗朝時代ニ著シキ發達ヲ爲シタルモ今ヤ余ク見ルヘキモノナク唯各地ニ於テ極メテ粗造ナル日用品ノ製造セラルルヲ見ルノミ然レトモ各地到ル處優秀ナル陶磁器ノ原料ニ當ムヲ以テ製

造方法ニ一改良ヲ加フルアラハ面目チ一新スルコト雖キニアラス

三製紙業

製紙ハ朝鮮工業中有望ナルモノナリ慶尙北道慶州、慶尙南道晉州、三嘉、陝川、全羅北道全州ニハ製紙業ニ從事スルモノ多ク産額亦多シ各所ニ於ケル製紙原料ハ總テ楮ヲ以テス朝鮮人製紙ノ方法ハ頗ル簡易ニシテ楮板ヲ用非ス晴天ヲ選ヒ河岸ニ於テ漉洒沙製シ河原又ハ温泉ニテ乾燥ス一箇年ノ産出額約五十萬圓ニシテ高麗紙ト稱シ窓紙用トシテ海國ニ輸出モラルルモノ毎年十萬圓餘アリ

四金屬品

朝鮮人ハ古來眞鍮製ノ器具ヲ多ク使用スル慣習アリ食器、金盃、火鉢、便器等ノ眞鍮製品各處ニ産出ス鐵器類ハ鍋釜及農具ヲ主要ナルモノトシ就中釜ハ堅牢ヲ以テ名アリ其ノ他婦人ノ裝飾品タル指輪、簪、簪等ノ鐵又ハ眞鍮製品各所ニ製作セラレルモ加工彫刻見ルヘキモノ少シ

五雜工品

(イ) 華鎚 京畿道江華島、全羅道寶城ノ特産物トシテ知ラル又慶尙北道金泉ハ鎚ヲ以テ名アリ無地織ナルモノアリ福藪等ノ文字ヲ織出セルモノアリ近來内地人大邱ニ製鎚合資會社ヲ設立シ朝鮮産藪草ヲ用非高麗鎚及漆表ヲ製造セリ

(ロ) 木竹細工 簾、扇子、煙管竹等ノ竹細工品ハ巧妙ニシテ全羅南道潭陽及羅州ノ簾ハ其ノ名高シ木工品ハ櫃、算笥、漆器等僅ニ存スレトモ見ルニ足ルモノナシ

六醸造業

朝鮮人ノ飲用スル酒類ハ藥酒、濁酒、白酒、燒酎、過夏酒、梨膏酒、甘紅露、松筍酒、合酒等種類多シト雖藥酒、白酒、濁酒、燒酎及過夏酒ハ其ノ主要ナルモノニシテ需要者多ク從テ醸造高多シ

(イ) 藥酒 小麥麴、糯米、粳米等ヲ混合シ醸造シタルモノニシテ他酒ニ比シ品質稍々良好ナリ黃海道以南殊ニ京城附近ニ於テ汎ク飲用セラレ酒中ノ珍トシテ宴會祭日等ニ於テ必須ノモノトセラル其ノ優良ノモノハ果實酒ニ類スル味ヲ有ス酒精分十乃至三〇%ヲ有シ帶黃赤色ヲ呈ス耐久性ヲ有シ貯藏シ難キヲ以テ多クハ冬期自家用トシテ醸造セラル



(ロ)濁酒 小麦粉及粗麴ヲ蒸シ又ハ蒸タル糯米、粳米及水ヲ加ヘテ醸造シタルモノヲ揉潰シテ濾過セル白濁液ニシテ一般下層社會ノ嗜好物タルノミナラス又飯食ノ代用物ナルカ故ニ需要頗ル多シ腐敗シ易キヲ以テ多ク自家用トシテ四季ヲ通シ臨機醸造ス

(ハ)燒酎 小麥、粗麴、粳米糯米及黍等ヲ以テ醸造シタルモノニシテ朝鮮地方ニ於テ殊ニ飲用セラルル精度比較的低ク三十度内外ヲ普通トシ北方ニ到ルニ從ヒ其ノ度ヲ増シ五十度ニ到ルモノアリ京城以南ニ在リテハ夏季ノミ之ヲ飲用スルカ故ニ製造高僅少ナレトモ北鮮地方ニ於テハ四時常ニ飲用スルカ故ニ醸造高從テ多クナリ

(ニ)白酒 藥酒ト濁酒トノ混成物ニシテ水ヲ以テ稀薄トナシタルモノナリ寧酒ニ近シ

(ホ)過夏酒 小麥麴、麥芽、糯、燒酎ヲ加味シ醸造シタルモノニシテ恰モ我カ味淋ニ似タリ其ノ酒精分ハ十乃至十八%ニシテ他酒ニ比シ飲用量多カラス

其ノ他紅酒、甘紅露、梨露酒等ノ諸酒ハ孰モ燒酒ヲ基トシ之ニ糖蜜類ヲ加味シタル混成酒ニ過キス

酒類ノ價格ハ地方ト時期トニ一様ナラスト雖大要左ノ如シ

酒 別	量	價 格
藥 酒	〇〇〇	二四〇〇
燒 酒	〇〇〇	一七二〇
濁 酒	〇〇〇	〇五〇〇
過 夏 酒	〇〇〇	〇五〇〇
	金京	
	京城	
	製製	

朝鮮人ノ造酒類ハ米々統計ノ微スヘキモノナク明確ニ之ヲ知ルノ由ナキモ各酒ヲ通シ約百七八十萬石ニ上ルヘシ

二 内地人ノ工業

内地人經營ノ工業モ米々草創ノ域ヲ脱セス見ルニ足ルヘキモノナシト雖其ノ重ナルモノヲ舉クレハ糖米、鐵工、煙草、煉瓦製造、電氣事業、製材事業、醸造業等ナリトス左ニ内地人經營ノ工場ヲ示スヘシ

第十一章 工業



平安北道	其ノ他	金	三〇〇〇〇	五〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇	八〇	一〇	三五〇〇〇
------	-----	---	-------	-------	-------	------	----	----	-------

(イ) 精米業 朝鮮人ハ米穀ノ收獲法粗笨ニシテ土砂ノ混シタルヲ其ノ儘搗キ糶ヲ去リ半白米ト爲シ土砂ヲ洗ヒ去リテ飯ト爲ス從ヒテ精米中土砂ノ殘存セルコト少カラス内地人ハ精米後人手ヲ假リテ悉ク土砂ヲ去ルヲ常トス故ニ朝鮮人向精米ハ土砂ヲ除カサルヲ以テ一石ニ付一圓五十錢乃至二圓安價ナリ内地人ノ集關地ニ在リテハ石油發動又ハ蒸汽發動ノ精米機ヲ用ヒ精米業ヲ營ムモノ多シ

(ロ) 鐵工業 半島各地ニ行ハルト雖多クハ鍛冶業ノ傍ラ小道具ノ製造階機械ヲ修繕ヲ營ムニ過キスシテ機械ヲ應用シテ大規模ノ工場ヲ經營セルモノハ其ノ數少シ然レトモ近時階所ヨリ鐵礦ノ探掘セラルルアリ加フルニ朝鮮人ノ勞銀低廉ナルヲ以テ鐵工業ノ前途ハ有望ナリト謂フヘシ

(ハ) 煙草製造業 由來朝鮮人ハ煙草ヲ最嗜スル國民ニシテ男子ニシテ喫セルモノ、殆ト稀ナリ十四五歳ノ童兒ヨリ喫煙ヲ始メ以テ死期ニ及フ暇アレハ則チシガハ或ハ煙管ヲ口ニシテ離ササ

ルノ有様ナレハ其ノ喫量亦從テ大ナリ此ノ如ク朝鮮ニハ多大ノ需要販路ヲ有スルカ故ニ京城、釜山、仁川、大邱等ニ於テハ内地人ノ煙草製造業ニ從事セル者多ク孰モ繁榮ノ域ニ在リ從來官煙及英米煙草會社販路ヲ爭ヒタリシカ近時官煙ハ京城ニ製造所ヲ設ケ銳意擴張ナリシ以來漸ク勢力ヲ倍加シ外煙ヲ凌グノ狀ヲ呈セリ(第十章商業中貿易欄參照) 然レトモ朝鮮國內需要ノ類ハ次第ニ増加シ原料ノ作製モ日ニ繁盛ナラムトス

(ニ) 煉瓦製造 麻浦、永登浦等ニ於テ官營セララルルモノノ外到ル處原料ニ富ムヲ以テ内地人及清國人ノ經營セルモノ多シ唯燃料ニ乏シキヲ以テ陶器業ト同シク其ノ發展ヲ阻害セラルルナキ能ハスト雖建築業ノ進歩ト共ニ有望ナル事業ナリ

(ホ) 釀造業 内地人ノ移住ト共ニ清酒ノ需要激増シタルヲ以テ近時内地人ノ各地ニ於テ清酒釀造ニ從事スル者頗ル多ク既ニ大規模ノ設備ニ出ツルモノスラ無キニ非ラス殊ニ半島内ハ原料低廉ナルニ加フルニ職工ノ勞銀安價ニシテ且腐敗ノ虞ナキヲ以テ收益少カラス加フルニ販路廣ク賈刪容易ナルヲ以テ研究改良ヲ加ヘハ酒造ノ前途好望ナリ(四十二年ヨリ居留地内ノ内地人ニハ



免許税トシテ一石ニ付キ金二十錢ヲ課税セリ
左ニ各道ニ於ケル内地人醸酒業ノ概況ヲ表示スヘシ

内地人酒類醸造

(明治四十四年三月十五日現在)

道名	製造者		清酒		酒造		石		價	
	人員	製造	清酒	酒造	味淋	白酒	混成酒	清酒	一石ノ御賣格	
江原道	一	四	八	三	一	〇	一	〇	〇	〇
平海	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
平南	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
慶尚南道	五	一〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
慶尚北道	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
全羅南道	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
全羅北道	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
忠清南道	二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
忠清北道	一	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
京畿道	二	八	六	一	一	〇	〇	〇	〇	〇
畿内	二	八	六	一	一	〇	〇	〇	〇	〇
合計	一六	二〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

(ハ)味噌醬油製造業 近時漸ク隆盛ナ致シ漸次内地輸入品ヲ防遏スルノ兆ヲ示セリ殊ニ味噌ノ醸造ハ頗ル盛ニシテ朝鮮内ノ供給ニ對シテハ最早輸入ヲ仰クノ必要ナク醬油モ近來京城、仁川、釜山等ニ於テ内地品ニ劣ラサル精製ノモノ醸出セラルルニ至リシカハ從來内地人ノ輸入ニ係リシ醬油ハ精製ヲ加ヘラレタルノ觀アリ朝鮮内製醸ノ原料豊富ニシテ而カモ低廉ナルヲ以テ該業ノ前途有光ナリ

(ト)電氣事業 從來米國人コールプランノ經營ニ屬セシ韓美電氣會社ハ京龍間ノ電車、電燈事業ヲ營ミツツアリシカ龍山ニ日韓瓦斯會社(資本金七十萬圓)設立セラレ京龍間ノ瓦斯事業ヲ經營スルニ至リ四十二年八月韓美電氣會社ノ電氣事業ヲ買收シ電氣及瓦斯事業ハ該會社獨占ニ移レリ近時釜山、仁川、鎮南浦等ヲ初メ各所ニ電氣事業ヲ開始スルモノ漸ク増加シ既ニ當該官廳

同 四十二年	三、一五	三、六八	三、四九	三、一〇〇	三、六八	三、一〇〇	三、六八
同 四十三年	三、一五	三、六八	三、四九	三、一〇〇	三、六八	三、一〇〇	三、六八
同 四十四年	三、一五	三、六八	三、四九	三、一〇〇	三、六八	三、一〇〇	三、六八
同 四十五年	三、一五	三、六八	三、四九	三、一〇〇	三、六八	三、一〇〇	三、六八

三四四

備考

一、機關數四十二年ハ現在數ヲ揭ケ四十二年及本年ハ現在使用數ヲ揭ケ但シ使用セサルモノ三基現在セリ

二、平均一日就業時間ハ四十二年ハ平均二日ノ就業時間ヲ示シ四十二年ハ四十四年ハ一日平均一人ノ就業時間ヲ示セリ

四 工業傳習所

工業傳習所ハ京城東署梨花洞龍蹄山麓ニ在リ蓋シ舊韓國政府ハ工業教育機關ヲ設置シ國民ノ技術ヲ上進セシメ以テ産業ノ發達ヲ圖ラムト欲シ伊藤統監ノ贊同ヲ得テ工學博士平賀義英ヲ聘シテ工業顧問ト爲シ工業上階級ノ施設ヲ爲セルト同時ニ工業傳習所ヲ設立シ農商工部ノ管下ニ置ケリ、コレ明治三十九年八月ノコトニシテ工業傳習所ノ起原ハ實ニ爰ニ在リトス次テ翌四十年三月事業ヲ開始セリ

爾來數年ノ星霜ヲ經テ、韓國ノ併合ニ際シ工業傳習所ハ朝鮮總督府ノ管下ニ移レリ

四十年開校ノ當時ニ在リテハ收容豫定生六十四名ニ對シ應募者ハ實ニ二千一百一十二名ノ多キニ上リ爾來年々應募者増加シ頗ル盛況ヲ呈セリ

工業傳習所概況

明治四十四年十二月現在

年次	教員		計數	生徒數	入學者	卒業生	總額
	内地人	朝鮮人					
明治四十四年	一五	二	一七	六八	七五五	一四五	六三、六三〇
同 四十三年	一七	三	二〇	一一三	二、一六四	六八	七五、〇二五
同 四十二年	二二	四	二六	一七八	一、二八〇	四七	五四、八五〇

工業傳習所ノ傳習科目ハ染織、陶器、金工、木工、及應用化學ノ五科ニシテ本科專攻科及實科ニ分シ修業年限ハ本科二年專攻科一年實科一年以内トシ孰モ專ラ技術ノ實地傳習ヲ爲シ併シテ之ニ必要ナル學科ヲ教授スルモノナリ傳習生ノ製作作業ノ主ナルモノハ(一)染織科ニ於テ各種染色及機織(二)陶器科ニ於テ金器裝飾用陶器(三)金工科ニ於テ各種板金鑄工鍛工(四)木工科ニ於テ造家

第十一章 工業

三四五

家具車輛及織機器(五)應用化學科ニ於テ石鹼膠膜皮及紙類ノ製造ニシテ各科ノ卒業生ハ各要所ニ在リテ實務ニ従事シ成績佳良ナリ

五 工業所有權ノ保護

從來朝鮮ニハ工業所有權保護ノ制度存セザリシヲ以テ帝國政府ハ明治四十一年八月米國ト條約ヲ締結シ米國ハ其ノ本國ニ於テ朝鮮人ニ對シテモ工業所有權ノ保護ヲ與フルト同時ニ發明、意匠、商標ノ保護ニ關シテハ朝鮮ニ於ケル治外法權ヲ撤退シ日本國ハ内地ニ行ハルルト同權ノ法令ヲ朝鮮ニ施行シ以テ米國人ノ發明、意匠、商標ヲ朝鮮内ニ於テ保護スヘキコトヲ約セリ仍テ帝國政府ハ同年八月十六日ヲ以テ韓國特許令、同意匠令同商標令ヲ施行シ四十二年十一月一日ヨリ韓國實川新案令ヲ施行シ統監府特許局ニ於テ之ヲ管理シ此等ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシメタリシカ韓國併合ノ事アルト同時ニ韓國特許令外四令ヲ廢止シ統監府特許局ヲ廢止シ新ニ特許法、意匠法、商標法、實川新案法ヲ朝鮮ニ施行シ工業所有權保護ニ關スル事務一切ハ農商務省特許局ニ屬スルコトト爲レリ而シテ從前ノ三令ニヨリテ既得セラレタル權利ハ特許法外二法ニヨリテ設定セラレタルモノト同一ニ

看做サレ其ノ權利ノ効力ハ我領土全部ニ完全ノモノタルト同時ニ本國ニ於テ既得セラレタル權利ハ當然ニ朝鮮ニ於テモ其ノ効力ヲ保有スルモノト爲セリ統監府特許局設置以來其ノ廢止ニ至ル迄ニ(自明治四十一年八月至同四十四年八月)ニ取扱ヒタル事件數ハ特許四百六十八、意匠百二十三、商標千百十四、實用新案五十九、合計一千七百六十四件ナリ

六 工事獎勵ノ施設一斑

朝鮮總督府若ハ地方官廳ハ篤志者ノ企圖ニ係ル工業傳習事業又ハ有益ナル工業ヲ創始セムトスル者ニシテ資本ノ之ニ伴ハス收入ノ之ヲ償フ能ハサルモノニ對シテハ特ニ金品ノ補助ヲ與ヘ其ノ成功ヲ資ケ以テ工業ノ發達ヲ助メツツアリ

又擬ニ韓國併合ノ際下賜セラレタル恩賜金ノ利子ノ一部ヲ以テ工業獎勵ノ資ニ充テ從來一般ニ副業トシテ行ハルル機業製紙業等ノ改良ヲ計リ又將來有望ナル副業タルヘキ蠟燭製造ノ技術ヲ傳習セシムル爲三箇月乃至六箇月ノ短期習業ノ簡易傳習所ヲ各地ニ起シ或ハ實地指導ヲ爲ス爲巡回教師ヲ各所ニ派遣スル等各種ノ方法ヲ講シテ手工業ノ改良發達ヲ圖リツツアリ

第十二章 土地調査

三四八

一沿革 土地調査ノ事業ハ韓國政府ノ時代ニ於テ屢企畫セラレタルコトアリシモ其ノ目的單ニ増税ニ在リテ土地ノ疆界及所有權ノ歸屬等ハ寧ロ之ヲ度外ニ措キシヲ以テ人民ノ反抗ヲ招キ嘗ニ失敗ニ終ハレリ偶成功シタル地方ニ在リテモ其ノ維持方法ヲ講セザリシヲ以テ今日ニ於テハ何等其ノ効果ヲ存スルモノアルヲ見ス仍テ明治三十八年(光武八年)財政顧問設置ノ時代ニ於テ既ニ本事業急務ノ必要ヲ認メ之ヲ準備トシテ度支部司稅局ニ量地課ヲ置キ亞テ臨時財產整理局等ニ於テ所要技術員ヲ養成其ノ他ニ關シ畫策スル所アリシカ秩序ノ事業ヲ開始スルニ至リシハ四十二年三月土地調査局官制發布以來ノ事ニシテ日韓併合後ハ朝鮮總督府ノ主管ニ屬シ政務總監之ヲ總裁ト爲リ著者其ノ事業ヲ進捗シツツアリ

二目的 土地調査ノ目的ハ土地所有權ヲ確認シ權利ノ紛争ヲ未然ニ防止セムコトナリシ土地ノ所有主、地目、疆界及面積ヲ調査測量シテ地積ヲ明カニシ且ツ財政ノ基礎ヲ確實ニシ貢納ノ公正ナリ

セムカ爲土地ノ品位、等級ヲ調査スルニ在リ元來朝鮮ノ土地ハ舊法典タル大典會通及最近施行ノ土地家屋證明規則、土地家屋典當規則、國有未墾地利用法、土地家屋所有權證明規則等ニ依リ個人ノ所有權ヲ認メタルモノト謂フヘキモ證明規則ニ依ルノ外ハ其ノ所有權ヲ證明スヘキ方法ナク然カモ其ノ證明方法タル當該官廳ニ土地家屋ノ設備アルニアラスシテ單ニ證明ノ出願ニ對シ調査スルニ過キス其ノ往々ニシテ正偽ヲ失スルモノアルモ亦固ヨリ其ノ所ナリ若シ夫レ未タ證明ヲ經ラル土地ノ所有者ニ在リテハ之カ買賣等ニ際シ作成スル私文配若ハ占有ノ事實ニ依リテ所有權ヲ主張スルノ外他ニ的確ナル證明方法アルコトナシ是ノ故ニ屢權利ノ紛争ヲ生シ解決ノ爲實地ニ踏査スルモ其ノ判定猶甚々容易ナラス縱令裁判ノ判決アルモ其ノ執行亦頗ル困難ナルヲ免レズ從來ノ制度已ニ斯ノ如シ之レ速ニ土地調査ヲ行ヒ以テ地籍ヲ明カニスルト共ニ財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシメントスル所以ニシテ彼ノ單ニ増税ヲ目的トシタル從前ノ遺田ト全然其ノ趣ヲ異ニスルヤ勿論ナリ

三効果 一國ノ政治經濟ノ發達カ土地所有權ノ確認ニ基クコト多大ナルハ歐米諸國及其ノ殖民地ノ

歴史上顯著ノ事實ナリトス之ヲ朝鮮ノ實況ニ鑑ミレハ土地濫墾ノ備ハルモノナク土地所有權ノ確
 認亦殆ト之アルナシ加之其ノ面積ハ斗落ト云ヒ日耕ト稱シ之ガ廣狹ヲ算定スルノ準規漠トシテ捉
 ナヘカラス然レトモ土地調査完成ノ曉ニハ其ノ効果ノ及フ所單ニ産業及財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシ
 ムルニ止ラス今其ノ効果ノ重ナルモノヲ擧グレハ左ノ如シ

イ 地積ヲ明カニシ土地ノ所有權其ノ他土地ニ關スル階級ノ權利ヲ確認スルカ故ニ土地ノ經濟的
 價値ヲ増進シ其ノ價格ヲ騰貴セシム

ロ 土地ノ權利ニ關スル證明ノ制度ヲ的確ニ實行スルコトヲ得テ買賣、讓與及抵當權等ノ設定ヲ
 容易ナラシメ土地ノ經濟的利用ヲ増大セシム

ハ 世運ノ進歩人文ノ發展ニ伴ヒ必然生スヘキ土地ノ紛争ヲ未然ニ防止スルコトヲ得

ニ 地券ヲ發給シテ土地ニ關スル金融ノ運轉ヲ圓滑ナラシメ地方ノ金利ヲ低下セシム

ホ 地稅ノ基礎ヲ確實ニシ負擔ノ公正ヲ得セシムルカ故ニ歳入ノ増進ヲ期シ得ヘク財政ノ運用ヲ
 シテ圓滑ナラシム

ヘ 産業ノ開發其ノ他行政ノ施設改善ハ地積ノ整理ヲ待テ確實ナル效果ヲ擧グルコトヲ得ヘシ

四 田畝 朝鮮ノ土地調査ニ關シテハ外國ノ事例ヲ參照シタルモノアリト雖主トシテ地積ヲ執リタルハ
 日本内地ニ於ケル地租改正、沖繩ニ於ケル土地整理及臺灣ニ於ケル土地調査ニシテ就中臺灣ニ學
 フ所最多シ

イ 調査ノ範圍及成功期限 調査ノ範圍ハ耕地、宅地ヲ主トシ山林原野(其ノ多クハ國有ニ屬ス)
 ハ單ニ調査地間ニ介在スルモノノミニ止メ其ノ他ハ事業費等ノ關係上姑ク之ヲ除外セリ、調査
 地ノ總面積ハ二百七十五萬五千町歩此ノ筆數一千三百七十七萬五千筆ニシテ四十二年三月開局
 ノ時ヨリ滿七箇年ヲ以テ調査ヲ完了スル豫定ナリ

ロ 従事員ノ養成 調査及測量ノ従事員ハ其ノ指導監督ノ任ニ當ルモノヲ除クノ外專テ朝鮮人ヲ
 養成シテ之ニ充ツ即チ一面ニ於テハ技術員ヲ養成サ各地ノ農業學校等ニ委託スル外局員養成所
 ナ京城ニ設ク(當初ハ滬官立漢城高等學校及同外國留學校ニ臨時事務員若ハ技術員養成所ヲ附
 設シ委託養成ノ方法ヲ採リタリ)土地調査局直接經營ノ下ニ事務員及技術員ヲ養成シ他面ニ於



威鏡北道	三五六
總計	三五六
宣教師	三五六
信徒	三五六
內地	三五六
朝鮮人	三五六
外國人	三五六
計	三五六

續テ基督教傳播ノ由來ヲ尋メルニ起源ハ三百年前ニ羅馬教宣教師ノ布教ニ始マリ次テ漢書ノ聖書類
 支那ヨリ傳播セラルルアリテ信仰者ヲ生シ西曆千七百八十年頃漸ク其ノ盛トナルヤ時ノ政府ハ信仰
 禁止ノ令ヲ發シ之ヲ實行シタリシカ布植セラレシ信教心ハ半トシテ後クヘカラス降テ近世ニ至レ
 李朝ノ末葉ニ於テモ大院君基督教徒ノ國內ヲ驅逐セルノ慮マナルヲ見禁令ヲ發シ之ヲ信仰ヲ禁止シ
 タリシカ大院君ノ勢力衰アルヤ宣教師再々朝鮮ニ入り教徒ハ較前トシテ増加シ西曆千八百九十七年
 ニハ教徒二萬九千五百七十九人ヲ數フルニ至レリ爾來宣教師ハ土地ニ親ミ風習ニ從ヒ土語ヲ操リ難
 苦厭フナク布教ニ從事シタリシカハ明治四十三年十二月ノ統計ニヨレハ信徒ノ數實ニ十九萬八千九
 百七十四人ノ多キニ上リ内三萬八千三百八十五人ハ舊教ニ屬シ十六萬二千八百八十九人ハ新教ニ屬セリ
 基督教布教狀況
 明治四十三年十二月間

道別	宣教師	信徒
京畿	二九	四〇
忠清	三六	四八
全羅	七	一〇
慶尙	一〇	一三
黃海道	一	一
平海	一	一
平南	一	一
江原	一	一
咸鏡	一	一
總計	一〇六	一四〇
內地	三六	四八
朝鮮人	三六	四八
外國人	一	一
計	三六	四八

教派	外國宣教師	朝鮮人牧師及助手	教會堂集會所	朝鮮人信徒
米國北長老派	六〇	九一四	三〇五	七九五〇九
米國南長老派	四六	二七三	一六	二四〇六九
英國聖公會	一	一〇〇	二五	三九七四
露國聖公會	一	一	一	一八八
佛國天主公會	四六	一九七	一〇一	一八〇〇五

而シテ近來朝鮮人間ノ基督教ノ盛ナル京城ニ入ル者ハ忽チ驟然タル大會堂ノ所ニ斷然官衙ヲ凌ク
 モノアルニ驚カム若夫レ安息日ニ會堂ヲ窺フトキハ善男善女ノ袂ヲ連テテ美英シク禮拜ニ列ヌルチ
 見ム京城市中毎日曜日二千入ノ集會者ヲ見ル教會少カラズ
 人アリ問テ曰ク「朝鮮ニ於ケル基督教ノ盛ナル所以如何」ト朝鮮ノ思想單純ナルハ其ノ理由ノ一ナ
 リ、宣教師ノ傳道ニ從事セムトスルヤ先ツ土語ヲ修得シ風俗ヲ了解シ而シテ后任ニ當ル故ニ意志ノ
 疏通シ易キハ其ノ二ナリ、宗派專屬ノ學校、病院、救貧院青年會等ノ機關ノ設備アルハ其ノ三ナリ
 宗派別基督教一覽

米國北監理派	二二	二二四	四九	一五二七八
米國南監理派	三三	三三七	九二	二〇五五五
安息日教會	六六	八	五	一五三
ベテラクシヨノデー	一〇	五一	二八	二九六三
救世軍	一〇	四	二	二五三
英國福音教會	三三	一四	一	三三三
歐洲長老教會	三三	一四	一	三三三
加奈陀長老教會	三三	一四	一	三三三
浸禮教會	三三	一四	一	三三三
大韓基督教會	二七	二七三	七三〇	一九四八三
總計	二七	二七三	七三〇	一九四八三

然リ而シテ内地人ノ發展ニ伴ヒ基督教、佛教、神道ノ布教モ漸次地歩ヲ占ムルアリテ内地人ノ密集
 スル要地トシテ寺院堂宇ヲ見サルナキニ至レリ

内地人設立教務所設教所及布教師信徒

第十三章 宗教

種別 宗派 道別	神			金		名 稱	位 置	設 立 年 月	信 徒 數	擴 充 要
	天		理	南	北					
	度		所	所	所					
金山	金	光	金山	金山	仁川山手町	明治四十一年	一〇	二六		
金山	光	益山教會	益山	益山	益山富平町	明治三十六年	一〇	二六		
天理	天	理	天理	天理	木浦	明治四十一年	一〇	二六		
天理	天	理	天理	天理	大邱大和町	明治四十一年	一〇	二六		
天理	天	理	天理	天理	馬山	明治四十一年	一〇	二六		
天理	天	理	天理	天理	益山富平町	明治四十一年	一〇	二六		
天理	天	理	天理	天理	益山富平町	明治四十一年	一〇	二六		
天理	天	理	天理	天理	益山富平町	明治四十一年	一〇	二六		

朝鮮ニ於ケル内地人經營ノ布教ノ設備ハ概シテ其ノ規模大ナラズト雖漸次發展ノ趣向ヲ示セリ左ニ最近ノ調査ニ係ル布教設備ノ概要ヲ掲クヘシ

内地人經營ニ係ル布教設備概況 (明治四十四年一月末日調)

年次	四十三年		四十二年		四十一年		四十年	
	神	佛	神	佛	神	佛	神	佛
教務所	二二	四〇	二九	七九	二二	三三	二二	二二
既設所	六	七三	八	八七	一三	一三	一三	一三
布教師	四	三六	四	三七	一〇	一〇	一〇	一〇
内地人	七八三	三三二	九二六	四七	一〇	一〇	一〇	一〇
朝鮮人	三〇八六	二七三九	三〇八二	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七	一、一七
外國人	三	一〇九二	三	一〇九二	三	一〇九二	三	一〇九二
計	一〇九二	六、六四九	一、三四〇	七、九九〇	一、三四〇	七、九九〇	一、三四〇	七、九九〇

教									
谷 大 宗									
慶	北慶	南	全	北	全	南	忠		
同布教所	本願寺別院	浦項布教所	同榮山浦布教所	本願寺分教所	本願寺光州別院	本願寺木浦別院	同上	本願寺	大谷派布教所
密陽邑内	釜山西町	延日郡浦項	榮山浦	南平邑内	光州邑内	木浦	靜山朝山町	全州南門内	懷德郡大田
十同	同	八同	二同	十同	十同	三同	三同	五同	七同
四十二年	同	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	三十二年	三十二年	四十二年	四十二年
三	三〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	四〇〇	一〇〇	三〇〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	四〇〇	一〇〇	三〇〇

佛									
道									
眞			教			教			
北忠	畿	京	南慶	畿	京	南慶	南平	南	
大谷派布教所	本願寺布教所	本願寺別院	本願寺出張所	丸山教會	神理教	宮地嶽教會分祠	天理教會	天理教分派所	天理教會
清州	開城郡南門橋	仁川寺町	水原郡南昌洞	釜山辨天町	新豐洞	水原郡北部面	釜山富平町	平壤旭町	密陽郡府内面
十同	十同	同	七同	五同	九同	二同	同	五同	十同
四十二年	三十八年	同	明治四十二年	同	同	同	同	同	同
一〇〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

教

本 宗

第十三章 宗教

慶	南 全		畿						大聖教會分教會	大聖教會分教會			
	金泉布教所	大邱別院	大聖教會	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上			同 上		
金泉布教所	金山郡金泉	大邱	光州北門內	羅州郡邑內	果川郡外飛山	同郡紙停里	同郡紙停里	高陽郡舊把撥	同郡月禮面月	見聖應	楊州郡獨川里	竹山郡白岩里	利川郡邑內
二同	五同	二同	九同	七同	九同	六同	同	同	同	同	同	同	同
四十二年	三十七年	四十三年	四十三年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年
四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
三六五	三六五	三六五	三六五	三六五	三六五	三六五	三六五	三六五	三六五	三六五	三六五	三六五	三六五

佛

眞	派									
	京	北平	南平	海黃	北咸	南 咸	南	南	南	南
大聖教會分教會	永登浦出張所	仁川出張所	新義州布教所	鎮南浦布教所	沙里院布教所	清津布教所	同成興布教所	同元山別院	同布教出張所	同晉州布教所
慶州郡川西洞	始興郡永登浦	仁川 寺町	新義州常盤町	鎮南浦	鳳山郡沙里院	清津	成興朝日町	元山 四町	密陽郡三浪津	晉州 城內
十同	五同	四同	九同	四同	十同	七同	六同	八同	三同	七同
四十二年	四十年	四十一年	三十九年	三十三年	四十三年	四十一年	四十二年	十三年	四十二年	三十九年
四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇
三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四	三六四

教

土

慶	南全		北全		南忠		畿			
	大邱布教所	余州寺	群山寺	淨土宗教會所	江景寺	公州寺	同	淨土宗脱教所	開教院脱教所	淨土宗教會所
智恩寺	大邱	余州	群山	淨土宗教會所	江景	公州	同	淨土宗脱教所	開教院脱教所	淨土宗教會所
益山	大邱	余州	群山	懷德郡天田	恩津郡江景	公州	店洞	水原郡安寧面	廣州郡細村面	開城禮賓里
九同	一同	五同	十同	十同	五同	十同	十同	八同	二同	四同
三十五年	三十八年	四十二年	三十八年	四十年	三十八年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	三十七年
四〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
四〇〇	三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

第十三章 宗教

三六七

佛

淨		派						
京	北平	南	平	海黃	南			
仁川寺	水原寺	定州用服所	安州布教所	平壤布教所	兼二浦出服所	長和浦出服所	統營出服所	釜山布教所
仁川寺町	水原枝洞	定州	安州	平壤南門道	黃州兼二浦	巨濟郡長和浦	統營	釜山四町
六同	十同	八同	三同	二同	三同	四同	一十同	七同
三十四年	三十八年	四十二年	四十三年	四十年	四十二年	四十二年	四十二年	三十七年
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

三六六

教											
宗											
眞											
平	南	威	南	慶	北慶	南全	畿	京	北	平	北平
泰國寺	四海寺	高野山	馬山布教所	高野山金剛寺	高野山布教所	智山派教會所	同會所	遍照寺	高野山布教所	新義州布教所	新義州布教所
平塊	北青郡東里	元山	馬山	益山大願町	大邱	木浦	開城郡大和町	仁川宮町	水原郡南昌洞	新義州	新義州
七同	六同	二同	四同	五同	四同	十同	四同	四同	五同	三同	三同
四十年	四十二年	三十九年	四十一年	三十一年	四十一年	三十四年	四十四年	三十年	四十二年	明治四十二年	明治四十二年
三〇〇	八〇〇	八〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	八〇〇	八〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	一〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇

第十三章 宗教

三六九

佛											
宗											
南	平	海	黃	北威	南威	南	南	南	南	南	南
安州教會所	三和寺	中和布教所	華頓寺	黃州川眼所	海州教會所	新羅教會所	羅南教會所	智恩院教會所	蔚山教會所	蔚山教會所	馬山布教所
安州	鎮南	中和	平塊	黃州郡邑內	海州	瑞興郡新羅	鏡城郡羅南	元山	蔚山	蔚山	馬山
十同	二同	十同	四同	六同	十同	一同	九同	八同	二同	七同	七同
四十二年	四十七年	四十四年	三十九年	四十四年	三十二年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	四十二年	三十五年
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇

三六八

會派公	教 育						
	北平	南平	南平	南慶	北慶	北金	畿京
聖公會講義所	同	同	同	同	同	同	同
益山大廳町	新	龍	平	馬	益	大	群
同	同	同	同	同	同	同	同
三十九年	二月	四月	四月	三月	三月	四月	四月
三	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一

備考 京城内ニ在ルモノ目下調査中ニ付掲載セス

第十四章 教 育

一 内地人ノ教育

朝鮮ノ發展ニ伴ヒ内地人ノ移住スル者日ニ増加シ教育機關ノ設置ハ焦眉ノ急ト爲リシカ既ニ京城、仁川、釜山、元山、平壤等ノ都會ニ在リテハ教育機關ノ設ケラルルアリト雖比較的内地人ノ少ナキ地方ニ在リテハ一小学校ノ設置スラ容易ナラス茲ニ於テカ明治四十二年二月統監府ハ小学校規則ヲ發布シ之カ設置改善ヲ計リ内地諸學校トノ聯絡ヲ保持スルカ爲メ教授科目ヲ統一シ小学校ノ設置、廢止ハ總テ理事官ノ認可ヲ要シ教員ハ原則トシテ小学校教員免許狀ヲ有スルコトヲ要シ且其ノ任命權ハ理事官ニ屬スルコトトセリ本規則發布ノ結果亦文部省ハ省令ヲ以テ在韓小學兒童及卒業者入學權ヲ關シ其在外指定學校タルト否トニ拘ラス全然内地ニ於ケル小学校ト同一ノ取扱ヲ爲スヘキコトヲ認メタリ

明治四十二年十二月學校組合令發布セラル蓋内地人ノ集團地ニシテ其ノ發展ノ程度未タ居留民團ヲ

同 四十四年度 一五七 七八、八〇〇 三七六 五一二

- 備考 一 外三十四年度ハ商業學校三校及高等女學校三校ニ對シ一萬三千圓ノ補助金アルニ依リ本年度教育費補助金ハ合計九萬一千八百圓ナリ
- 二 本表ノ外四十四年度中ニハ尙十七校増設ノ豫定
- 三 本表中一校平均額ハ經常補助金及一時補助金ヲ合計通算シテ校數ニ等分シタルモノナリ

目下内地人ノ設立ニ係ル校數百四十四、生徒一萬七千餘人ニ及ビ逐年激増ノ傾向ヲ示セリ
内地人學校施設累年一覽表

學校	年 度	校 數	兒 童 及 生 徒 數		職 員 數
			男	女	
小 學 校	明治四十一年度	五四	三、九九六	二、四三二	七、四三七
	明治四十二年度	七九	五、三三二	四、六一三	九、九三三
	明治四十三年度	一〇三	六、七二三	五、九一八	一二、六三〇

學校	年 度	校 數	兒 童 及 生 徒 數		職 員 數
			男	女	
中 學 校	明治四十一年度	—	—	—	—
	明治四十二年度	—	—	—	—
	明治四十三年度	—	—	—	—
	明治四十四年度	—	—	—	—
高等女學校	明治四十一年度	—	—	—	—
	明治四十二年度	—	—	—	—
	明治四十三年度	—	—	—	—
	明治四十四年度	—	—	—	—
商業學校	明治四十一年度	—	—	—	—
	明治四十二年度	—	—	—	—
	明治四十三年度	—	—	—	—

第十四章 教育

三七七

等ト認メラレ同年九月官制改革ニ從ヒ朝鮮總督府中學校ト改稱セリ校舎其ノ他階級ノ設備内地中學校ニ譲ラズ目下在學生三百四十三名、學校長ヲ奏任トシ奏任教諭四名以下教員十一名及其ノ他五名アリ左ノ最近ノ概況ヲ表示スヘシ

朝鮮總督府中學校 ×印ハ兼務者以下同シ (明治四十四年九月現在)

種別	生徒數			學級數	職員數	職員其他數	計	設立年月
	第一學年	第二學年	第三學年					
朝鮮總督府中學校	一四七	九四	六三	三	一	二〇	八	四三
附設臨時小學校	二九	—	—	—	—	—	—	—
教員養成所	—	—	—	—	—	—	—	—
計	一七六	九四	六三	三	一	二〇	八	四三

從來朝鮮ニハ小學教員ノ養成所ヲ有セス加ソルニ朝鮮ニ於ケル教育者ハ又特種ノ素養ヲ要スルモノアルニ因リ四十四年三月勅令ヲ以テ臨時教員養成所ヲ設置セラレ朝鮮總督府中學校内ニ設クルコトト爲リ同養成所ニハ中學校長ノ推薦ニ係ル中學卒業者ヲ入學セシメ二箇年間ノ教習ヲ終ヘタル者ヲ小學教員トシテ採用スルモノニシテ養成所ハ一學級ノ組織トシ現今二十九人ノ教習生ヲ收容セリ

高等女學校 (明治四十四年九月現在)

學校名	所在地	管理者	生徒數		學級數	職員數	職員其他數	計	設立年月
			本科	附科					
京城高等女學校	京城南山町	京城居留民團	三〇	—	—	—	—	—	四一
釜山高等女學校	釜山居留民團	釜山居留民團	—	—	—	—	—	—	四一
仁川實科高等女學校	仁川居留民團	仁川居留民團	—	—	—	—	—	—	四一
計			三〇	—	—	—	—	—	四一

專門學校 (明治四十四年九月現在)

學校名	所在地	管理者	學級數	生徒數	職員數	職員其他數	計	設立年月
東洋協會專門學校	京城大和町	東洋協會	—	—	—	—	—	—

商業學校 (明治四十四年九月現在)

學校名	所在地	管理者	生徒數	學級數	職員數	職員其他數	計	設立年月
釜山商業學校(甲種)	釜山	釜山居留民團	—	—	—	—	—	—

第十四章 教育



第十五章 衛生

一 一般衛生

明治二十八年舊韓國政府ハ内部ニ衛生局ヲ設置シ公衆衛生ニ關スル事務並醫藥病院ニ關スル事務ヲ掌理セシメタリ朝鮮ニ於テ衛生ノ曙光ヲ認メタルハ實ニ此ノ時ニ在リ是ヨリ以前ニ在テハ上ニ衛生ノ發達ヲ指導スヘキ機關ナク下ニ衛生ノ何物タルヲ解スノ民ナカリシカ故ニ一般ヲ通シ衣食住ノ不衛生ナルハ勿論屎尿ノ所在放射ニ依リテ耶耶地道路等ハ常ニ汚穢セラレ下水ハ之ヲ排除スヘキ適當施設ヲ加ヘサルカ爲ニ或ハ隨所ニ停溜シ或ハ地中ニ滲入シ飲料水ノ選擇亦一般ニ何等注意ヲ拂フコトナカリシ結果ハ終ニ諸種傳染病流行ノ因ヲ爲シテ比年多數ノ生靈ヲ戕害スルモノニ之ヲ天爲ニ歸シ官民共ニ何等制遏防止ノ方法ヲ講スルコトナク甚シキハ種痘ノ如キスラ疑ヲ挾ミテ接種ヲ肯ヤサルハ一般ノ情慮ナリキ彼ノ阿片ノ授受及所持ヲ濫ニスル如キハ固ヨリ國法ノ嚴禁スル處ナリシト雖偶綱紀ノ弛緩ハ之ヲ勵行スルノ力ナク阿片吸用又ハ「モルヒネ」注射ヲ爲スノ陋習靡然トシテ一般ヲ

徒傾スルノ狀況ヲ呈シタリキ舊韓國政府力其ノ行政組織ノ上ニ衛生ノ一局ヲ設ケ國務ノ一端トシテ衛生ノ發展ヲ企テタル以來漸々歩武ヲ進メ今日ニ於テハ大ニ舊觀ヲ改メタルモノアリ爾來舊韓國ノ衛生取給ノ機關ハ幾多ノ變遷ヲ經テ明治四十三年九月ニ至リ朝鮮總督府警察官署官制施行セラレ各道ニ於ケル警務部及京城ニ於ケル警務總監部ハ内部衛生局ノ掌理事務中警察ニ關スル衛生事項及警視廳所屬ノ衛生事務並各理事廳ノ衛生事務ハ舉テ悉ク之ヲ管掌スルコトナリタリ次テ同年十月新ニ施行セラレタル朝鮮總督府官制ニヨリ衛生行政中(一)公衆衛生ニ關スル事項(二)醫師藥劑師產婆及看護婦ノ業務ニ關スル事項(三)病院及衛生會ニ關スル事項(四)痘苗ニ關スル事項(五)病源檢索及分析檢査其ノ他衛生試驗ニ關スル事項ハ内務部ニ於テ管掌スルコトナリ警務總監部ニ於テハ(一)上水及下水ノ取締ニ關スル事項(二)飲食物飲食物具及藥品取締ニ關スル事項(三)汚物掃除ニ關スル事項(四)墓地及埋火葬ニ關スル事項(五)醫師藥劑師產婆看護婦ノ業務取締ニ關スル事項(六)藥劑商製藥者入齒鍼灸營業ニ關スル事項(七)阿片煙ノ吸用莫見比涅注射禁煙ニ關スル事項(八)行旅病人及死亡人ニ關スル事項(九)精神病者ニ關スル事項(十)屠宰ニ關スル



事項(十二) 檢査ニ關スル事項(十二) 其ノ他公衆衛生ノ取締ニ關スル事項(十三) 傳染病及地方病ニ關スル事項(十四) 種痘ニ關スル事項(十五) 獸畜衛生ニ關スル事項ヲ掌ルニ至リ其ノ外醫務ニ關スル行政ハ一ニ憲兵司令部ニ屬シテ處辨セシムルコトト爲リ超テ四十四年八月内務部ニ關スル衛生行政ノ事項ハ一切學テ之ヲ警務總監部ニ委シ内務ニテハ單ニ總督府醫院及慈惠醫院ニ關スル事項ノミヲ管掌スルコトト爲レリ

今ヤ此等衛生行政ノ緊需ニ依リ朝鮮ニ於ケル一般衛生ハ一新紀元ヲ劃セリ若夫レ之ヲ既往數年以前ノ實際ニ比セムカ其ノ狀態蓋爾世ノ感アラム

二 醫療機關

(イ) 醫師

曩ニ舊韓國政府ハ朝鮮人タル醫師ニ關シテハ醫師規則ヲ發布シタリシト雖モ民間ニ遑由セラレタルノ實跡ナク隨テ朝鮮人タル醫師ハ余ク自由開業ノ狀態ニシテ唯元韓國官立學校及大韓醫院附屬醫學科等ヲ卒業シタル者又ハ私設醫學校ニ於テ修業シ如上ノ學科ヲ卒業シタル者ト同等以上ノ學

力アリト認メタル者ニ就テハ其ノ開業ヲ認許シタリト雖此ノ認許ハ單ニ其ノ學殖ノ保證ニ過キスシテ從テ殆ト取締ナク弊害ヲ生スルノ虞ナキニ非サルヲ以テ醫師及開業中ノ無免許醫師ニ關スル取締法ハ目下審査中ニ屬セリ

朝鮮人醫師ニシテ明治四十四年三月迄ニ開業ノ認許ヲ得タルモノヲ舉ケレハ左ノ如シ

朝鮮人開業醫出身別

年 別	身 別		校 別		計
	官立醫學校	大韓醫院醫育部	同教育部醫學科	世富閣醫學校	
明治四十一年	一	一	一	一	四
同 四十二年	二	一	一	一	五
同 四十三年	二	一	一	一	五
同 四十四年三月	二	一	一	一	五
總 計	七	四	四	四	一五

内地人タル醫師ノ取締ニ就テハ併合以前ニ在テハ日本官憲ニ、併合以後ニ在テハ當該官廳ニ届出ヲ爲シシ之ヲ取締リ爲セリ而シテ内地人ニシテ朝鮮ニ於テ醫師タルヲ得ヘキ者ハ即チ内地ニ於テ醫



ト改稱セリ該院ハ從來ノ内部所屬廣濟院、學部所管醫學校及宮内府所管赤十字病院ヲ合併シ完全ナル組織ト爲シタルモノナルカ朝鮮ニ於テ最完備セル醫療機關ナリ

朝鮮總督府醫院ニ於ケル四十四年中ノ治療患者ハ別表ノ通二十六萬一千七百八十二人ニシテ之ヲ前年四十二年ノ十三萬三千三百五十七人ニ比スレハ約倍數ノ増加ナリ蓋其ノ歸スル所ハ一ハ内地人移増ノ結果ニ依ルヘキモ其ノ多數ハ朝鮮人ノ醫術ノ信賴スヘキヲ知リ從來他人ニ近接スルコトヲ厭ヒシ朝鮮婦人スラモ續續來テ診療ヲ請フモノ激増セルニ因ル

最近三箇年及四十四年朝鮮總督府醫院患者數表

科別	明治四十一年		同 四十二年		同 四十三年		同 四十四年	
	入院	計	入院	計	入院	計	入院	計
內科	1,000	1,000	1,200	1,200	1,500	1,500	1,800	1,800
外科	800	800	900	900	1,100	1,100	1,300	1,300
眼科	100	100	120	120	150	150	180	180
耳鼻咽喉科	150	150	180	180	220	220	280	280
皮膚泌尿科	120	120	150	150	180	180	220	220
小兒科	100	100	120	120	150	150	180	180
合計	3,170	3,170	3,770	3,770	4,650	4,650	5,660	5,660

皮膚泌尿科 齒科 加療部 合計	明治四十四年朝鮮總督府醫院外來入院患者月別表												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
皮膚泌尿科	100	120	150	180	200	220	250	280	300	320	350	380	3,000
齒科	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	1,200
加療部	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	600
合計	170	205	250	295	330	365	405	455	490	530	575	5,800	

區分	明治四十四年朝鮮總督府醫院外來入院患者月別表												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
内地人	100	120	150	180	200	220	250	280	300	320	350	380	3,000
朝鮮人	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	1,200
合計	150	180	220	260	290	320	360	400	430	470	500	4,200	

傳染病院(順化院)ハ京城府ノ負擔ト國費ノ補助ノ下ニ成レル漢城衛生會ノ經營ニ係ルモノニシテ未タ開院ニ至ラサレトモ規模宏壯設備完全ニシテ朝鮮ニ於ケル唯一ノ傳染病院ナリ其ノ他各地ニ稍完備シタル隔離病舎アリト雖其ノ數甚々少シ



(一)産婆

産婆ハ從來朝鮮人ニ於テ就業スル者ナシ而シテ内地人タル産婆ハ漸次其ノ數ヲ加ヘツアレトモ今尙全土ニ於テ僅ニ二百人ニ滿タス故ニ産婆ノ開業ナキ地ニ住居スル内地人ノ不便謂フ斗リナク爲ニ往往産婆ニ困シ正規ノ産婆ヲ遂クル能ハサルモノアルヲ以テ出産期ニ際シテ多ク他所ニ移リ又ハ内地ニ歸還スルヲ例トシ殖民政策上影響スル所尠カラズ

又朝鮮人ハ古來産時ニ他人ノ介助ヲ用ハサルノ習慣アリ近時産婆ノ技能ヲ經驗スルニ迫テ大ニ信頼ノ念ヲ生セリ而シテ從來朝鮮ニ於ケル産婆ハ内地ニ於ケル有資格者ニシテ當該官廳ニ届出タル者ニ限り開業ヲ許セリ

(二)鍼灸術、按摩業

鍼灸術、按摩業及入齒齒拔業ノ如キハ從來朝鮮人ニシテ營業スル者ナク内地人ノミ官廳ノ許可ヲ受ケテ就業セリ尤モ入齒齒拔業ハ土地ノ狀況ニ依リ齒科醫學ニ關シ多少ノ素養アル程度トシ特ニ許可シツアアリシモ醫師ノ普及ニ伴ヒ漸次其ノ數ヲ減シツアアリ

(ホ)種痘認許員

由來朝鮮ニ於テハ種痘ヲ普及セムトスルモ之ニ從事スヘキ醫師ニ乏シ其ノ缺如ヲ補ハムカ爲明治三十二年各道ニ種痘認許員ヲ設置シタルヲ嚆矢トス索ヨリ醫學ノ素養ナキ者ヲ短期養成シテ事ニ當ラシムルカ故ニ技術拙劣ニシテ却テ種痘忌避ノ念ヲ助成セシムルヲ免レスト雖當今尙醫師ノ乏シキ地方ニ在リテハ之ヲ廢スルノ時機ニ達セズ

種痘認許員ハ朝鮮人ヲ限リ認許シ唯朝鮮婦人ハ男子ニ近接スルヲ忌ムノ風習アルヲ以テ内地婦人ニシテ種痘認許員タラムトスルモノハ特ニ之ヲ免許セリ而シテ明治四十四年三月ノ現在數ハ左ノ如シ

種痘認許員調 明治四十四年三月末日現在

地方別	内地		計	朝鮮人		計	合計
	男	女		男	女		
京城府	1	1	2	110	117	119	
京城道	1	1	2	7	117	119	
忠清北道	1	1	2	7	117	119	
合計	3	3	6	124	351	377	

總計	間島	咸鏡北道	咸鏡南道	江原道	平安北道	平安南道	黃海道	慶尚北道	慶尚南道	全羅北道	全羅南道	忠清北道	忠清南道
二五	二	三	一	一	三	六	三	三	一	二	三	一	一
二五	二	三	一	一	三	六	三	三	一	二	三	一	一
七三七	一	三〇	二七	六九	四五	四一	三三	四〇	三五	七九	一	一	一
八													
七三五	一	三〇	二七	六九	四五	四一	三三	四〇	三五	七九	一	一	一
七六〇	一	三三	二九	七〇	四六	五六	四一	四四	二二	四二	三七	八〇	

三 藥品取締

(イ) 藥品 藥品ニ關シテハ從來何等ノ取締方法ナク單ニ阿片ノ輸入製造販賣ニ關シテ取締ヲ爲セ
ルノミ尙朝鮮内陸ニ於ケル醫療機關善子カラサル爲一般ニ賣藥ノ需用旺盛ニシテ動モスレハ不

正品質發賣スルヲキチ保セサルヲ以テ之ヲ取締手續一セムコトヲ期シツツアリ
(ロ) 藥劑師 從來内地ニ於テ其ノ資格ヲ享有セル者ノミヲ認メ其ノ届出ニヨリ開業ヲ許セリ現在
全道ニ在ルモノ合セテ五十六名ナリ朝鮮人ニシテ藥劑師ノ資格ヲ有スル者ナシ

四 飲食物取締

飲食物ニ關スル取締ハ從來極メテ不完全ニシテ衛生上ノ危害ヲ防制スルニ足ラス殊ニ併合後ニ於テ
ハ社會ノ時運急轉直下シ飲食物其ノ他物品ノ製出及移輸入等日ニ増加シ之ト同時ニ不潔物品亦繼
續市場ニ現ハルルニ至リ糞ニ市場露ク所ノ清酒中ニ「フオルムアルテロイド」又ハ多量ノ「サルチ
ル」酸ヲ含有シ飲食用器具其ノ他飲食物中ニ不潔有害ノモノヲ發見シタルニ因リ一層之ヲ取締ヲ爲
スノ必要アリ各關係ノ取締法規發布セラレ

五 屠場

屠場ノ取締ニ關シテハ舊ニ舊韓國政府ノ發布ニ係ル屠獸規則ト各理事廳ノ發布ニ係ル規定ト二者相
俟テ其ノ效力現時ニ達ヘリ現今朝鮮ニ於ケル屠場ノ實況ヲ見ルニ京城ニ於テハ二箇ノ官營屠場アリ



其ノ設備稍々模範的ナリト雖他ノ各道ニ於テハ小規模ノモノ多ク又屠畜検査ノ如キモ各地區區ニシテ統一セズ

屠場數 (明治四十四年三月末日現在)

道名	一等地	二等地	三等地	其ノ他	計
京畿道	4	2	22	1	29
忠清道	6	8	33	1	48
全羅道	4	6	50	7	67
慶尚道	1	4	50	1	56
黃海道	1	3	52	2	58
平安道	3	4	73	1	81
平安南道	3	7	69	1	79
江原道	4	7	76	1	88
内官立	4	2	22	1	29
計	35	47	458	60	599

本表中一等地ト稱スルハ屠場規則施行細則標準第五條ノ措置制限ニ從フテ要スル地、二等地ト稱スルハ措置制限中幾部ヲ省略シ得ヘキ地、三等地ト稱スルハ全然之ニ依ルテ要セザル地トス

官立屠場屠畜數表

道名	計
咸鏡北道	25
咸鏡南道	52
計	77

年次	東			西			合		
	牛	馬	豚	牛	馬	豚	牛	馬	豚
明治四十三年	10,490	3	10,786	1,009	3,276	1,111	1,111	1,111	1,111
同四十二年	7,281	7	11,732	1,109	1,902	1,111	1,111	1,111	1,111
同四十一年	6,338	4	11,859	1,109	1,808	1,111	1,111	1,111	1,111

第十五章 衛生 六 傳染病

(イ) 虎列拉

四十二年ノ如キ京城ニ於テ一名ノ虎列拉患者發生セシカ忽チ猛烈ニ傳播シ初發八月廿九日ヨリ最終十月三十一日ニ至ルマテ日本人百五十四名、朝鮮人千二十一名合計千七百七十五名ノ多キニ達セシヲ以テ明治四十三年ニハ大ニ警誠シ警務總監部ハ八月一日以降數回ニ訓令ヲ發シ日日檢病の戸口調査ヲ行ハシメ一面清潔法ノ持續ヲ圖リ且飲食物ノ店頭検査ヲ厲行シ變敗ノ傾キアル飲食物ヲ廢棄セシメ更ニ醫師ニ對シ日日施療スル患者ノ病名ヲ届出テシムル等防疫上ノ最上ノ措置ヲ盡シ地方一二箇所ニ虎列拉患者ノ發生セシモ直ニ撲滅スルヲ得タリ然ルニ九月廿四日平壤府ニ發生セシ虎列拉病ハ其ノ勢猛烈ニシテ忽チ數十名ノ患者ヲ發生シ蔓延ノ微アリシカハ當局者ハ平壤ニ一萬圓ノ豫防費ヲ投シテ極力防疫セシメタルモ不幸ニシテ大同江沿岸ノ各地ニ傳播シ頗ル猖獗ヲ極メタリシカ銳意撲滅ニ奮発シ檢疫隔離ハ固ヨリ下水ノ浚渫、便所ノ改造、防蠅ノ設備ニ至ル迄厲行シタリシカハ總計患者四百八十六名ニシテ終熄シタリ

四十四年ニハ前年ニ鑑ミ大ニ警戒ヲ加ヘタリシカハ一名ノ患者ヲモ發生セルコトナカリキ

虎列拉病患者表 明治四十三年度

地名	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
京城府													
京畿道													
忠清北道													
忠清南道													
全羅北道													
全羅南道													
慶尙北道													
慶尙南道													
黃海道													
平安北道													
平安南道													
江原道													
咸鏡南道													
咸鏡北道													
計													三〇〇

第十五章 衛生

四二七

(一)痘瘡

痘瘡ハ朝鮮ニ於ケル地方病ノ如ク看做サレ四季ヲ通シ各地ニ發生シ歲次流行狀態ヲ呈スルコト屢屢ナルヲ以テ種痘ノ普及ニ就テハ極力之ヲ怠ラズ一般ニ勸行シツツアリ然ルニ衛生思想ニ乏シキ朝鮮人間ニ於テハ痘瘡ハ神ノ祟ニシテ天運ノ然ラシムル所人爲ヲ以テ避クヘカラス假令種痘ヲ爲スモ免ルヲ得ルモノニ非ストノ迷説ヲ唱ヘ忌避スルモノ少カラス故ニ種痘ノ施行ニ際シテハ其ノ迷信ヲ剛誠シ一般衛生思想ノ注入ヲ兼テ種痘ハ痘瘡豫防ノ最善ナル唯一ノ良法タルヲ諭示シタルノ結果近時其ノ誤信ヲ了解シ接種スルモノ漸次多キヲ加フルニ至レリ左ニ四十二年秋期及四十四年春季ノ種痘成績ヲ表示スヘシ

今之ヲ四十二年中ニ種痘ヲ受ケタル總數六十八萬餘人ニ比較スレハ其ノ増加ハ實ニ二百萬五千餘人ニシテ約四倍ニ達セリ

明治四十三年

秋期種痘表

道府別	内別		種計	再種計		三種以上計		合計	
	男	女		男	女	男	女	男	女
京城府	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
京畿道	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
忠清北道	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
忠清南道	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
全羅北道	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
全羅南道	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
慶尙北道	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
慶尙南道	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
慶尙道	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
黄海道	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000	1,000	1,000	2,000	2,000
合計	10,000	10,000	20,000	10,000	10,000	10,000	10,000	20,000	20,000

第十五章 衛生

四三三

第十五章 衛生

道	府	別	内		計	不		計
			男	女		男	女	
京城府	内	男	三,二二七	一,二一六	四,四四三	七,二七	一,四一七	八,六九四
	内	女	三,三〇六	一,〇三二	四,三三八	一,一〇	一,一〇	五,四三八
		計	六,五三三	二,二四八	八,七八一	八,三七	二,五二七	一〇,九〇四
平安南道	内	男	四,二四五	一,五三七	五,八三二	一,八二七	一,一〇	六,九三二
海	内	女	七,五五五	二,八二二	一〇,三七七	一,一〇	一,一〇	一〇,四七七
		計	一一,八〇〇	四,三九九	一六,〇九九	二,九二七	二,二〇	一八,九二六
慶尙南道	内	男	二〇,三四四	一〇,一八〇	三〇,五二四	六,五〇八	一,七四	三二,二六八
尙	内	女	一九,〇八九	一〇,三〇〇	二九,三八九	五,三三八	一,七二	三四,一〇七
		計	三九,〇三三	二〇,四八〇	五九,五一三	一一,八四六	三,四六	七一,三六〇
慶尙北道	内	男	一六,九六三	一四,五四一	三一,五〇四	三,二五三	二,九一四	三四,四一八
全羅南道	内	女	一六,九六三	一四,五四一	三一,五〇四	三,二五三	二,九一四	三四,四一八
		計	三三,〇三三	二九,〇八二	六二,一一五	六,四六七	五,八二八	六七,九四三
全羅北道	内	男	一六,九六三	一四,五四一	三一,五〇四	三,二五三	二,九一四	三四,四一八
忠清南道	内	女	一六,九六三	一四,五四一	三一,五〇四	三,二五三	二,九一四	三四,四一八
		計	三三,〇三三	二九,〇八二	六二,一一五	六,四六七	五,八二八	六七,九四三
忠清北道	内	男	一〇,一六一	八,二二四	一八,三四五	一,七七五	一,〇	一九,四二〇
畿	内	女	一〇,一六一	八,二二四	一八,三四五	一,七七五	一,〇	一九,四二〇
		計	二〇,三二二	一六,四四八	三六,七七七	二,七七五	一,〇	三九,四五二
		計	一〇,一六一	八,二二四	一八,三四五	一,七七五	一,〇	一九,四二〇

四三五

道	府	別	内		計	不		計
			男	女		男	女	
京城府	内	男	三,二二七	一,二一六	四,四四三	七,二七	一,四一七	八,六九四
	内	女	三,三〇六	一,〇三二	四,三三八	一,一〇	一,一〇	五,四三八
		計	六,五三三	二,二四八	八,七八一	八,三七	二,五二七	一〇,九〇四
		男	七,二七	一,四一七	八,六九四	一,一〇	一,一〇	九,八〇四
		女	三,七四	一,一〇	四,八四四	一,一〇	一,一〇	五,九四四
		計	一〇,〇一	二,五一七	一二,五二八	二,二〇	二,二〇	一四,七二八

明治四十三年秋期種痘成績表

(初種者)

道	府	別	内		計	不		計
			男	女		男	女	
平安南道	内	男	一,九四〇	七,八	一,九四八	一,一	一,一	三,九五九
平安北道	内	女	一,九四〇	七,八	一,九四八	一,一	一,一	三,九五九
		計	三,八八〇	一五,六	三,八九六	二,二	二,二	七,九一八
江原道	内	男	一,九四〇	七,八	一,九四八	一,一	一,一	三,九五九
咸鏡南道	内	女	一,九四〇	七,八	一,九四八	一,一	一,一	三,九五九
		計	三,八八〇	一五,六	三,八九六	二,二	二,二	七,九一八
咸鏡北道	内	男	一,九四〇	七,八	一,九四八	一,一	一,一	三,九五九
合計	内	女	一,九四〇	七,八	一,九四八	一,一	一,一	三,九五九
		計	三,八八〇	一五,六	三,八九六	二,二	二,二	七,九一八

四三四

道府別	内		外		計
	男	女	男	女	
忠清北道	1,234	1,123	567	543	3,467
京城府	2,345	2,234	678	654	5,911
京城府	3,456	3,345	789	765	8,335
全羅北道	4,567	4,456	890	876	10,789
全羅南道	5,678	5,567	901	887	12,132
慶尙北道	6,789	6,678	012	008	13,467
慶尙南道	7,890	7,789	123	119	15,901
黃海道	8,901	8,890	234	230	18,355
平安北道	9,012	8,901	345	341	20,608
平安南道	10,123	10,012	456	452	23,141
江原道	11,234	11,123	567	563	26,487
咸鏡南道	12,345	12,234	678	674	30,337
計	123,456	122,345	34,567	33,456	293,824

第十五章 衛生

四三九

道府別	内		外		計
	男	女	男	女	
忠清北道	1,234	1,123	567	543	3,467
京城府	2,345	2,234	678	654	5,911
京城府	3,456	3,345	789	765	8,335
全羅北道	4,567	4,456	890	876	10,789
全羅南道	5,678	5,567	901	887	12,132
慶尙北道	6,789	6,678	012	008	13,467
慶尙南道	7,890	7,789	123	119	15,901
黃海道	8,901	8,890	234	230	18,355
平安北道	9,012	8,901	345	341	20,608
平安南道	10,123	10,012	456	452	23,141
江原道	11,234	11,123	567	563	26,487
咸鏡南道	12,345	12,234	678	674	30,337
計	123,456	122,345	34,567	33,456	293,824

明治四十四年春期種痘成績表

(初種者善惡ノ分)

道府別	内		外		計
	男	女	男	女	
忠清北道	1,234	1,123	567	543	3,467
京城府	2,345	2,234	678	654	5,911
京城府	3,456	3,345	789	765	8,335
全羅北道	4,567	4,456	890	876	10,789
全羅南道	5,678	5,567	901	887	12,132
慶尙北道	6,789	6,678	012	008	13,467
慶尙南道	7,890	7,789	123	119	15,901
黃海道	8,901	8,890	234	230	18,355
平安北道	9,012	8,901	345	341	20,608
平安南道	10,123	10,012	456	452	23,141
江原道	11,234	11,123	567	563	26,487
咸鏡南道	12,345	12,234	678	674	30,337
計	123,456	122,345	34,567	33,456	293,824

四三八

ハ一般ニ不真ニシテ飲用ニ適セサルモノ多シ蓋朝鮮人ハ習俗トシテ住家ニ便所ヲ設ケテ隨所ニ放射シ下水ノ如キ自然ノ流下ニ委シテ施設ヲ加ヘサルノ有様ナレハ積年ノ穢陋深ク地層ニ浸潤シ爲ニ水質ヲシテ汚濁ナリシメタルニ雖因ス從テ消化器系傳染病比年各地ニ流行シ彼ノ「ジストマ」ノ如キ諸處ニ傳播シ病海極メテ濃厚ナリ是レ故ニ水質ノ改良ハ當面ノ急務ナルヲ以テ各地ニ簡易ノ水道布設、鑿井ノ開掘ヲ見ルニ至レリ各地既設水道ノ現況ヲ擧ケレハ左表ノ如シ

水道事業概況

名稱	管理者	鐵管 延長	工費總額	人口	給水檢點 消火 共用 檢數	設計方法	給水開始 年月
京城水道	京畿道	三、八〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇	唧筒式	明治四十一年八月
仁川水道	同	三、八〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇	同	同四十二年十二月
平壤水道	平安南道	三、八〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇	同	同四十三年七月
釜山水道	釜山居留民團	三、八〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇	同	同四十三年九月
木浦水道	木浦居留民團	三、八〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	四、八〇〇	貯水池式	同四十三年四月

第十六章 裁判及監獄

朝鮮國政府ハ明治二十八年始メテ裁判所構成法ヲ制定シ次テ各種ノ裁判所ヲ設置シ明治三十九年法部ニ日本人委員官ヲ置キ各裁判所ニ日本人法務補佐官若ハ法務補佐官補ヲ配置シテ裁判事務ヲ指導セシメ明治四十年七月日韓條約ニ依リ司法制度改善ニ關スル根本ノ基礎確立シ從來ノ制度ヲ一新シ更ニ裁判所構成法及之ニ關スル各般ノ法令ヲ公布シ明治四十一年一月ヨリ之ヲ實施シタリ當時ノ裁判所ノ構成ハ純テ帝國ニ取リ三審制トシ其ノ機關ノ運用ハ多年ノ經驗アル多數ノ帝國司法官吏ヲ以テ之ニ充テ審察改善ノ實ヲ擧ケ明治四十二年十一月司法及監獄事務ノ委託實施ト爲リ統監府裁判所ヲ開設シ朝鮮國裁判所及内地ノ司法機關タル理事廳並法務院ノ裁判事務一切ヲ繼承シ次テ韓國併合ニ因リ四十二年十月朝鮮總督府裁判所ヲ設置シ統監府裁判所ノ事務一切ヲ承繼シ以テ現時ニ至レ

一 裁判制度

朝鮮總督府裁判所ハ朝鮮總督ニ直屬シ朝鮮ニ於ケル民刑事ノ裁判及非訟事件ニ關スル事務ヲ掌リ司法事務ノ取扱ニ關シテハ通常裁判所ノ例ニ依リ三審制度ニ法リ高等法院、控訴院、地方裁判所及區裁判所ノ四種ヲ置キ區裁判所ハ裁判所構成法ニ定メタル區裁判所ノ事件及朝鮮人ニ對シテハ朝鮮國法規ニ依ル一年以下ノ懲役、禁獄、罰金、管刑、拘留ノ罪、刑法大全、第五百九十二條、第五百九十五條、第五百九十六條、第六百三條、第六百十六條、第六百十七條其ノ他之ニ類スル罪ニ付テ裁判シ地方裁判所ハ同法ニ定メタル地方裁判所ノ事件、控訴院ハ地方裁判所ノ裁判ニ對スル控訴及抗告高等法院ハ地方裁判所又ハ控訴院ノ第二審ノ判決ニ對スル上告及控訴院ノ裁判ニ對スル抗告ニ付裁判ナ行ヒ且裁判所構成法ニ定メタル大審院ノ特別權限ニ屬スル職務ヲ執行ス區裁判所ハ刑事單獨地方裁判所及控訴院ハ三人ノ判事、高等法院ハ五人ノ判事ヲ以テ組織シタル部ニ於テ合議裁判シ地方裁判所ノ事務ノ一部ヲ取扱ハシムル爲區裁判所ニ地方裁判所支部ヲ設置シ且各裁判所ニ檢事局ヲ併置シ檢事事務ヲ掌ラシム現在ニ於ケル裁判所所在地其ノ數及職員ヲ擧レハ左ノ如シ

朝鮮總督府裁判所所在地

高等法院		控訴院		地方裁判所		所轄區		裁判所	
京城									
大邱		平壤		京城					
光州	釜山	大邱	海州	平壤	咸興	公州	京城	開城	水原
山古阜	蔚山	蔚山	蔚山	定州	津會寧	同忠州	仁川	春川	鐵原
順天	蔚山	蔚山	蔚山	寧邊	北青	大田	永興	江陵	蔚珍
*木浦	*馬山	*蔚山	*蔚山	*江界	*元山	江景	瑞山	天安	*清州
長興	密陽	安東	義城	楚山	慶興	鴻山	天安	*清州	永
濟州	龍南	慶州	慶州	鐵寧					
*全州	*晉州	居昌	居昌	松禾					
錦山				*新義州					
南原				義州					
*群									

本表中*印ヲ附シタルハ地方裁判所支部ヲ示ス

裁判所配置一覽

明治四十四年十一月末現在

四四八

職名	應數	内籍人別		判事	檢事	書記長	通譯官	書記	通譯生	計
		内地人	朝鮮人							
高等法院	一	一	—	—	—	—	—	—	—	—
控訴院	三	三	—	—	—	—	—	—	—	—
地方裁判所	八	八	—	—	—	—	—	—	—	—
地方裁判所支部	二二	二二	—	—	—	—	—	—	—	—
區裁判所	六八	六八	—	—	—	—	—	—	—	—
總計	一〇〇	一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 地方裁判所支部ノ職員ハ區裁判所職員ヲ以テ充ツ

前表中朝鮮人ニシテ判事又ハ檢事タル者ハ民事ニ在リテハ原告被告トモ朝鮮人タル場合、刑事ニ在リテハ被告人朝鮮人タル場合ニ限リ其ノ職務ヲ行フ

二 適用法規

現今朝鮮總督府裁判所ノ適用セル法規ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外朝鮮人ニ對シテハ舊韓國法規ヲ適用シ朝鮮人ト朝鮮人ニ非レル者トノ民事事件ニ關シテハ手續上多少ノ變更ヲ加ヘテ日本法規ヲ適用シ又朝鮮人ニ對スル裁判ノ執行ハ舊韓國法規ニ依レリ

三 監獄

監獄ハ從來警察ノ一部トシテ舊韓國内部ノ管轄ニ屬シ其ノ事務ハ警察官ノ兼掌スル所ナリシカ明治四十年十二月監獄官制ヲ公布シ法部ノ所管ニ屬セシメ典獄以下ノ職員ヲ置キ明治四十一年一月京城監獄ノ事務ヲ開始シ以テ七箇ノ監獄及數箇ノ分監ヲ開設シ明治四十二年十一月統監府監獄ヲ開設シ舊韓國監獄及帝國居留民ヲ收容シタル理事廳監獄ノ事務一切ヲ承繼シ明治四十三年十月朝鮮總督府

第十六章 裁判及監獄

四四九

監獄ヲ開設シ統監府監獄ノ事務一切ヲ承繼シ以テ現時ニ至レリ目下朝鮮ニ於ケル監獄ノ數ハ分監ノ數十三在監囚人數約九千三百人ナリ左ニ監獄概況ヲ表示スヘシ

在監人員數 明治四十四年十月末日現在

四五〇

監獄名	受刑者		刑罰被罰人		合計	
	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人	内地人	朝鮮人
京城	2,500	1,200	1,000	1,500	3,500	2,700
公州	1,500	800	600	900	2,400	1,700
咸興	1,000	500	400	600	1,600	1,100
平壤	800	400	300	500	1,300	900
海州	600	300	200	400	1,000	700
合計	6,400	3,200	2,500	3,700	9,100	6,400

總計	大邱		釜山		光州	
	男	女	男	女	男	女
合計	2,500	1,200	1,500	800	1,000	500
内地人	2,000	1,000	1,200	600	800	400
朝鮮人	500	200	300	200	200	100
合計	2,500	1,200	1,500	800	1,000	500

在監囚人ハ明治四十二年監獄開始以來逐月増加シ四十三年八月ニハ大赦ニ因リ千四百十七人ノ出獄者アリシニモ拘ラス四十四年十月末日ノ各監獄現在ノ囚人ノ數ハ四十三年十月末ノ在監囚人數ニ比シ二千七百四十餘人ノ増加ヲ示セリ

監獄配置一覽 明治四十四年十一月末現在

第十六章 裁判及監獄

四五二

第十七章 警察

明治二十七年始テ警察廳ヲ置キ警視廳ヨリ警視ヲ聘シテ顧問ト爲シ各種ノ法令ヲ發布シ服制ヲ一定シテ威嚴ヲ保タシムル等一ニ日本ノ制度ニ模倣セリ當時我國ハ朝鮮内ニ領事裁判權ヲ有セシヲ以テ日本居留民ニ對シテハ帝國自ラ保護ノ任ニ當リ要所ニ警察官ヲ配置シタリシカ後久シカラズシテ舊韓國政府ハ警察顧問ヲ解僱セシナリ以テ警察制度ニ一頓挫ヲ來セリ然ルニ日露ノ開戦以後帝國ハ必要ニ應ジ京城及其ノ附近ニ憲兵警察ヲ設ケルヤ大ニ韓國官憲ノ反省ヲ促カシ明治三十八年更ニ我國ヨリ警察顧問ヲ僱聘シ數多ノ警察官ヲ聘用シテ之ヲ國內ニ配置シタリ又一方ニ於テ日本警察ハ統監府ニ警察總長アリ各理事廳必要ノ個所ニハ警視ヲ配置シタリシヲ以テ朝鮮内ニハ依然兩國警察ノ存立ヲ認メタリ然ルニ明治四十年七月ノ新條約ニヨリ統監ハ帝國官吏ノ施行スル諸般ノ政務ヲ總攬スルノミナラス韓國政府ノ聘用ニ係ルモノヲモ監督スルニ至リシヲ以テ韓國警察顧問ハ當然統監ノ指揮

ノ下ニ屬スルノ結果從來各個獨立シタル憲兵警察、顧問警察、日本警察ハ茲ニ一ノ監督權ノ下ニ統一セラレタリ而シテ之ヲ移シテ内務大臣管理ノ下ニ置キ内部警務局ニ於テ其ノ事務ヲ處理セシメ各道ニ警察部長ヲ置キ京城ニ警視廳及皇宮警察署ヲ設ケ警視廳監ヲシテ之ヲ管理セシメ多數ノ内地人巡查ヲ擧ケテ舊韓國政府ニ任用シ且在留内地人ニ對シテハ内地人タル舊韓國警察官其ノ警察事務ヲ執行スルコトトナリ日本警察ト韓國警察トノ兩者ハ全ク統一シタリシカ明治四十三年六月更ニ之ヲ統監府所屬ニ移シ憲兵司令官ヲ以テ警察總長ニ充テ警察總監部ヲ中央ニ於ケル上級警察官廳トシ併セテ京城府ニ於ケル警察事務ヲ一轄シ各道ニ於ケル憲兵隊長ヲ以テ警察部長ニ充テ警察部ハ道内ノ警察ヲ指揮監督シ警察署ヲ置カサル地ニ於ケル警察事務ハ憲兵分隊及憲兵分遣所ニ於テ之ヲ取扱フコトトナリ憲兵警察全ク統一シ警察機關ハ完備スルニ至レリ韓國併合ノ結果警察總監部ハ朝鮮總督府警察總監部ト改稱シ從來ノ職務ヲ繼承セリ警察總監部ノ概況ヲ示セハ左ノ如シ

(イ)警察部及警察署名稱、位置及管轄區域表



警務畿部道					
安城警察署	永登浦警察署	水原警察署	京畿道	龍山警察署	北部警察署 西大門分署 水門洞分署
安同 城郡道	始同 登興 浦郡道	水水京 原畿 原郡道	禮京京 賀城畿 洞府道	龍同同 山川端 洞府道	狎同同 洞府道
安城郡一圓、陽城郡一圓	始興郡一圓、安山郡一圓、陽川郡一圓	水原郡一圓、振威郡一圓	京畿道一圓(京城府ヲ除ク)	龍山面ノ内、晉坡ヨリ漢江鐵橋ニ至ル以北一圓、西面一圓、延禧面一圓及豆毛面ノ一部	北部一圓及恩平面ノ一部 四部一圓(南部警察署管内及龍山警察署管内ヲ除ク)龍山面ノ一部

警務部					
北部警察署	南部警察署	昌德宮警察署	昌德宮警察署	昌德宮警察署	昌德宮警察署
東大門分署	銅岬分署	德壽宮分署	昌德宮分署	昌德宮分署	昌德宮分署
二同同 橋洞府道	塔同同 洞府道	貴同同 金洞府道	本同同 町二丁目府道	貞同同 洞府道	滄京京 城畿 關府道
仁昌面一圓、崇信面一圓	中部一圓	明神坊々界ヲ區劃シタル東北一圓仁昌面ノ一部	南部一圓(銅岬分署管内ヲ除ク) 西部ノ内、青坡ヨリ漢江坊ニ至ル線ヲ區劃シタル東一圓 南部ノ内、銅岬ヨリ樂善坊々界及本町八丁目ヲ經テ	德壽宮ノ地域	昌德宮ノ地域

	忠清南道 警務部					
公州警察署		槐山警察署	永同警察署	報恩警察署	堤川警察署	陰城警察署
公州同郡道	忠清南道同郡道	槐山同郡道	永同同郡道	報恩同郡道	堤川同郡道	陰城同郡道
公州郡ノ内	忠清南道一圓	槐山郡一圓	永同郡ノ内、黃洞郡ノ内	報恩郡ノ内、沃川郡ノ内	堤川郡ノ内、丹陽郡ノ内、永春郡一圓	陰城郡ノ内

	忠清北道 警務部					
清州警察署		開城警察署	交河警察署	江華警察署	金浦警察署	仁川警察署
清州同郡道	忠清北道同郡道	開城同郡道	交河同郡道	江華同郡道	金浦同郡道	仁川同郡道
清州郡ノ内、清安郡ノ内、文海郡一圓	忠清北道一圓	開城郡ノ内	交河郡一圓、坡州郡ノ内	江華郡一圓、衙桐郡一圓	金浦郡一圓、富平郡一圓、通津郡一圓	仁川府一圓

						警務部	全羅北道
非邑警察署	任實警察署	鎮安警察署	群山警察署	全州警察署			江景警察署
郡非邑	一任同	上鎮同	北群同	府全同	府全同	江恩同	津
道北	道安	道安	道山	道西	道西	道北	京
道	道	道	道	道	道	道	道
非邑郡一圓	任實郡一圓	鎮安郡一圓、長水郡一圓	群山府一圓、咸悅郡一圓、臨陂郡一圓、萬頃郡一圓	全州郡一圓	全羅北道一圓	林川郡一圓、石城郡一圓、魯城郡一圓、贊川郡一圓	恩津郡一圓、韓山郡一圓、贊川郡一圓

瑞山警察署	唐津警察署	洪州警察署	保寧警察署	鴻山警察署	牙山警察署	大田警察署
瑞同	唐同	洪同	保同	鴻同	牙同	大同
山	津	州	寧	山	山	德
山郡道	津郡道	州郡道	寧郡道	山郡道	山郡道	田郡道
瑞山郡一圓、海美郡一圓、泰安郡一圓	唐津郡一圓	洪州郡一圓、大興郡一圓、結城郡一圓	保寧郡一圓、贊川郡一圓	鴻山郡一圓、舒川郡一圓、庇仁郡一圓	牙山郡一圓、新昌郡一圓、溫陽郡一圓	懷德郡一圓

			慶尚南道 警務部			
河東警察署	晉州警察署		濟州警察署	靈光警察署	木浦警察署	海南警察署
河東同 東郡道	晉州同 州郡道	慶尚南 州郡道	濟州同 州郡道	靈光同 光郡道	木浦同 浦郡道	海南同 南郡道
河東郡ノ内、南海郡一圓	晉州郡ノ内、宜寧郡ノ内	慶尚南道一圓	濟州郡一圓、大靜郡一圓、旌義郡一圓	靈光郡ノ内、咸平郡ノ内	木浦府ノ内、智島郡一圓	海南郡一圓、莞島郡一圓、珍島郡一圓、靈巖郡ノ内

					全羅南道 警務部	
康津警察署	麗水警察署	谷城警察署	光州警察署		高敞警察署	高敞警察署
康津同 津郡道	麗水同 水郡道	谷城同 城郡道	光州同 州郡道	全羅南 州郡道	乾扶同 先安郡道	高敞同 北郡道
康津郡一圓、靈巖郡ノ内	麗水郡一圓、突山郡一圓	谷城郡一圓	光州郡ノ内、昌平郡ノ内	全羅南道一圓	扶安郡ノ内	高敞郡一圓、茂長郡一圓、興德郡一圓

				慶尙北道 警務部		
慶州警察署	善山警察署	星州警察署	大邱警察署	蔚山警察署	釜山警察署	益山警察署
慶州同	善山同	星州同	大邱同	慶尙北	蔚山同	釜山同
慶州道	善山道	星州道	大邱道	蔚山道	蔚山道	蔚山道
慶州郡一圓、長壽郡一圓	善山郡一圓、開寧郡一圓	星州郡一圓、高靈郡一圓	大邱府一圓、清道郡一圓、慈仁郡一圓、慶山郡一圓、玄風郡一圓	慶尙北道一圓	蔚山郡一圓、梁山郡一圓	釜山府一圓、機張郡一圓、靈島郡一圓

三浪浦警察署	陝川警察署	昌寧警察署	馬山警察署	馬山警察署	統營警察署	三浦警察署
三密同	陝川同	昌寧同	馬山同	馬山同	統龍同	三浦同
浪陽道	川道	寧道	洞道	山道	營道	浦道
密陽郡一圓、金海郡一圓	陝川郡一圓、草溪郡一圓	昌寧郡一圓、靈山郡一圓、宜寧郡一圓	馬山府一圓	馬山府一圓、咸安郡一圓	龍南郡一圓、巨濟郡一圓	泗川郡一圓、固城郡一圓

第十七章 警察

長連警察署	新溪警察署	少金浦警察署	南川警察署	黃州警察署	瑞興警察署	海州警察署
長股同連梨面郡道	中新同溪面郡道	海長黃安淵海面郡道	寶平同上山面郡道	齊黃同安州面郡道	中瑞同部興面郡道	州同同内面郡道
般栗郡一圓、松禾郡一圓	新溪郡一圓、兎山郡一圓、遂安郡一圓	長淵郡一圓	平山郡一圓、金川郡一圓	黃州郡一圓	瑞興郡一圓、鳳山郡一圓	海州郡一圓

警政務海部道	榮川警察署	盈德警察署	青松警察署	安東警察署	義城警察署	永川警察署
州海黃内州海面郡道	榮樂同川郡道	盈同德郡道	青同松郡道	安同東郡道	義同城郡道	永同川郡道
黃海道一圓	榮川郡一圓	盈德郡一圓	青松郡一圓、眞寶郡一圓	安東郡一圓、禮安郡一圓	義城郡一圓、比安郡一圓	永川郡一圓、河陽郡一圓

第十七章 警察

朔州警察署	北鎮警察署	寧邊警察署	博川警察署	宜川警察署	龍岩浦警察署	新義州警察署
朔州同州郡道	北鎮同山鎮郡道	寧邊同邊郡道	博川同平安北川郡道	宜川同宜川郡道	龍岩同龍川郡道	新義州同義州府道
朔州郡二回、昌城郡ノ内	雲山郡二回	寧邊郡二回、泰川郡二回	博川郡二回、嘉山郡二回	宜川郡二回、鐵山郡二回、郭山郡二回	龍川郡二回	義州府ノ内

平安北道 警務部	廣梁警察署	鎮南浦警察署	順安警察署	中和警察署	平壤警察署	平安南道 警務部
平安北道	廣梁同梁郡道	鎮南浦同鎮南浦郡道	順安同順安郡道	中和同中和郡道	平壤同平壤郡道	平安南道
平安北道一四	鎮南浦府ノ内、龍岡郡ノ内	鎮南浦府ノ内、龍岡郡ノ内	順安郡二回	中和郡一四、祥原郡一四	平壤府一四	平安南道一四

					警務部	警務部
元山警察署	新浦警察署	洪原警察署	四湖津警察署	成興警察署		平昌警察署
元同山府道	新北同浦郡道	洪同原郡道	四成湖津郡道	成同興郡道	成鏡南興郡道	平同昌郡道
元山第一團	北青郡ノ内	洪原郡一團	成興郡ノ内、洪原郡ノ内	成興郡ノ内	興鏡南道一團	平昌郡ノ内、寧越郡ノ内

						警務部	警務部
臨津警察署	江陵警察署	通川警察署	金城警察署	平康警察署	春川警察署		江原道
臨三同院津郡道	江陵郡道	通川郡道	金城郡道	平康郡道	春川郡道	春川郡道	江原道一團
三陟郡ノ内、蔚珍郡ノ内	江陵郡ノ内	通川郡ノ内	金城郡ノ内	平康郡ノ内、金化郡ノ内	春川郡ノ内、洪川郡ノ内		

龍山	二京城第	楊根	一京城第	分	名
				隊	稱
龍山	北京	楊根	大京	分	位
城山	化城	平根	和城	道	置
府道	府道	根道	町府道	所	置
京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	管	轄
果城府内	高城府内	楊平郡	加平郡	轄	區
漢芝面及龍山面之一部	廣灘面、白石面	恩平面之一部	下真乾九古豆 道宮川旨州毛 面面面面面 草瓦忘藤 阜孔雲原 面面面面 上溪金別 道陰村非 面面面面	轄	城

(口) 警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊憲兵分遣所名稱、位置管轄區域表

龍山	二京城第	楊根	一京城第	分	名
龍山	北京	楊根	大京	分	位
城山	化城	平根	和城	道	置
府道	府道	根道	町府道	所	置
京畿道	京畿道	京畿道	京畿道	管	轄
果城府内	高城府内	楊平郡	加平郡	轄	區
漢芝面及龍山面之一部	廣灘面、白石面	恩平面之一部	下真乾九古豆 道宮川旨州毛 面面面面面 草瓦忘藤 阜孔雲原 面面面面 上溪金別 道陰村非 面面面面	轄	城

清河	倭館	火邱	同福	同福	順天
清河郡道	倭館郡道	大邱郡道	同福郡道	同福郡道	順天郡道
慶尙北道	慶尙北道	慶尙北道	全羅南道	全羅南道	全羅南道
清河郡	漆谷郡	新寧郡	昌平郡内	順天郡内	光陽郡
興海郡	仁同郡	義興郡	同福郡内	興陽郡	求禮郡
			(玉山面、水、立、只、火面)	東下面、草下面、東上面、	蘇安面、長平面、別良面、上沙面、

長興	咸平	榮山浦
長興郡道	咸平郡道	榮山浦郡道
全羅南道	全羅南道	全羅南道
寶城郡内	木浦府内	羅州郡内
古上面、古下面、南上面、南下面	新四、二老、一西、三柳、一老、二老	命終、香枝、金東、終山、香竹、金山、非北、二始、音面
	永豐、水多、竹浦、居平	伏岩、伊老、知其、西岩、上谷、公水

	居昌	晋州	
咸陽			尙州
咸陽南道	居昌南道	晋州南道	尙州北道
慶尙南道	慶尙南道	慶尙南道	慶尙北道
咸陽郡、山清郡、內	居昌郡、陝川郡、內	河東郡、內、固城郡、內、山清郡、內、晉州郡、內	昆陽郡、尙州郡
草谷面、生林面、益谷面、郡內面、古邑面、	安義郡、崇山面、三嘉郡、心妙面、	丹城郡、柳洞面、加次禮面、枝實面、省乙山面、東面、上西面、下西面、北面、上州面、東面、上西面、下西面、內面、上里面、中南面、下南面、郡內面、近南面、中南面、下南面、郡內面、巴只面、三壯面、柏谷面、沙月面、東面、金萬面、	
草谷面、生林面、益谷面、郡內面、古邑面、	安義郡、崇山面、三嘉郡、心妙面、	丹城郡、柳洞面、加次禮面、枝實面、省乙山面、東面、上西面、下西面、北面、上州面、東面、上西面、下西面、內面、上里面、中南面、下南面、郡內面、近南面、中南面、下南面、郡內面、巴只面、三壯面、柏谷面、沙月面、東面、金萬面、	
草谷面、生林面、益谷面、郡內面、古邑面、	安義郡、崇山面、三嘉郡、心妙面、	丹城郡、柳洞面、加次禮面、枝實面、省乙山面、東面、上西面、下西面、北面、上州面、東面、上西面、下西面、內面、上里面、中南面、下南面、郡內面、近南面、中南面、下南面、郡內面、巴只面、三壯面、柏谷面、沙月面、東面、金萬面、	

金泉	醴泉	咸昌	春陽	順興	英陽	浦項
慶尙北道	慶尙北道	慶尙北道	慶尙北道	慶尙北道	慶尙北道	慶尙北道
金山郡、知禮郡	醴泉郡	咸昌郡、陽慶郡、龍宮郡	奉化郡	豐基郡、順興郡	英陽郡、寧海郡	延日郡

厚昌		江界	楚山	熙川	定州
厚昌北道	高山嶺	江界北道	楚山北道	熙川北道	定州北道
平安北道	平安北道	平安北道	平安北道	平安北道	平安北道
厚昌郡	江界郡ノ内	江界郡ノ内	楚山郡	熙川郡	定州郡
	高外山 嶺坊坊	于化立山郡 北京館河内 面面面	渭原郡		龜城郡
	文時 玉上面	于龍從公 上林南四 面面面			
	衷時 西下面	于前從公 下川西北 面面面			

	義州	安州	德川	寧遠	孟山
碧潼	義州府	安州郡	德川郡	寧遠郡	孟山郡
平安北道	平安北道	平安南道	平安南道	平安南道	平安南道
碧潼郡	昌城郡ノ内	价川郡	德川郡	寧遠郡	孟山郡
	田府 倉内面	安州郡			
	南倉面	肅川郡			
	昌州面				
	州館内 水鏡面				
	所串面				
	古寧面				
	古玉面				
	郡尚面				
	松長面				

金 化	淮 陽	高 城	襄 陽	三 陟	蔚 珍	寧 越
江 原 道	江 原 道	江 原 道	江 原 道	江 原 道	江 原 道	江 原 道
金 化 郡 ノ 内	通 金 川 郡 ノ 内	通 高 城 郡 ノ 内	通 襄 陽 郡 ノ 内	通 三 陟 郡 ノ 内	通 蔚 珍 郡 ノ 内	通 寧 越 郡 ノ 内
四面	梧 山 面、 通 口 面、 鶴 一 面、 鶴 二 面、 鶴 三 面、 踏 錢 面	臨 道 城 面	北 面、 瑞 利 面、 麟 麟 面、 内 面、 二 里 面、 内 面、 三 里 面	望 祥 面、 近 德 面、 岩 谷 面、 遠 德 面 ヲ 除 ク	遠 北 面 ヲ 除 ク	(川 上 面、 北 面 ヲ 除 ク)

原 州	楊 口	麟 蹄	春 川	慈 城	中 江 鎮
江 原 道	江 原 道	江 原 道	江 原 道	平 安 北 道	平 安 北 道
原 州 郡 ノ 内	楊 口 郡 ノ 内	洪 蹄 郡 ノ 内	洪 蹄 郡 ノ 内	慈 城 郡 ノ 内	慈 城 郡 ノ 内
大 和 面、 珍 富 面、 蓬 坪 面		斗 村 面、 東 面、 南 面、 乃 村 面、 瑞 石 面	今 勿 山 面、 甘 勿 岳 面、 史 外 面、 史 内 面	三 郡 内 面、 慈 上 面、 慈 下 面、 洞 面、 四 海 面、 梨 坪 面	開 延 面、 長 土 面

同 第一神戶丸(汽船) 一七噸

警備船 (各五噸)
石油發動機 (各三噸)
揮發油發動機 (各三噸)

十隻
五隻

三 警察官ノ養成

内地人巡査養成ノ爲京城北部順化坊帶洞元韓國赤十字病院跡ニ警官練習所ヲ設置シ新ニ採用セル巡査ヲ約三箇月(警察官ノ前歴アルモノハ一箇月)間ノ練習ヲ爲シ朝鮮各道ノ缺員ヲ補充セムコトニ勉ム又朝鮮人タル巡査補ノ養成ハ各道ニ於テ之ヲ爲シ何レモ初級警察官トシテ必要ナル學科ヲ教授ス尙將來ハ京城ニ於ケル練習所ニ特ニ練習科ヲ設置シ現職ノ警部巡査中ヨリ選拔シタル者ニ特種ノ教育ヲ施ス計畫アリ

去ル四十三年一月ヨリ四十四年九月迄ニ巡査トシテ新ニ採用シタルモノ内地人千三百七名、巡査補トシテ朝鮮人ヲ採用シタルモノ七百五十二名ニ及ブ

四 富籤類似其ノ他取締

懸賞又ハ富籤類似其ノ他ノ射俸ノ方法ヲ用非ムコトヲ提供シ又ハ投票ヲ募集セムトスルモノ漸ク増加シ動モスレハ弊害ノ之ニ伴フモノアルヲ以テ明治四十四年四月朝鮮總督府ハ府令ヲ發シ是等ノ所爲ヲ爲サムトスル者ニ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地方ニ在リテハ警務部長ノ許可ヲ受クヘキコトト爲シ唯事項ノ學術技藝ニ關スルモノニ就キ懸賞ノ方法ヲ用非ムトスルモノニ在リテハ此ノ限ニアラストセリ

五 引火質物貯藏所取締

石油、揮發油、酒精、燐寸、煙火ノ貯藏所ヲ建設スルモノ漸次増加シ之ヨリシテ危險ノ發生スルコト往往アルヲ以テ四十四年六月朝鮮總督府ハ府令ヲ以テ引火質物貯藏所取締規則ヲ發布シ是等物件ノ貯藏所ハ京城ニ在リテハ警務總長其ノ他ノ地方ニ在リテハ警務部長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ建設スヘカラサルコトト爲セリ

六 信用告知業取締

道別	募集の目的		金額	品額
	學校維持	佛堂建設		
京城府	許	許	三、五、五、三〇〇	三
京城畿道	許	許	六、一、二、八、六、三〇	一七
忠清北道	許	許	二、二、〇、〇、三、六、五	三
忠清南道	許	許	七、五、〇、〇、〇	七
全羅北道	許	許	三、一、三、七、九、〇〇	三
全羅南道	許	許	四、五、〇、〇、〇	六
慶尙北道	許	許	六、二、二、九、六〇	一六
慶尙南道	許	許	三、三、八、四、五、四〇	一六
慶尙北道	許	許	二、三、三、五、八、五〇	三

額八十二石、奉七石
 額百十石、奉六斗、額一石
 額二十七石、奉二十八石、斗
 額一百石

第十七章 警察

五〇三

道別	募集の目的		金額	品額
	學校維持	佛堂建設		
黃海道	許	許	二、〇〇、〇〇〇	一
平安南道	許	許	六、六、五、〇、〇〇	三
平安北道	許	許	二、〇〇、〇〇〇	一
江原道	許	許	二、〇〇、〇〇〇	三
咸鏡南道	許	許	八	一
咸鏡北道	許	許	△一六	△一六

備考 一 京畿道ハ京城府ヲ除ク

二 △印ハ外國人ノ分

三 募集ノ目的中「其ノ他ノ欄」ハ忠魂紀念碑及修武館ノ建設、離破船遭難遺族救助等ナ

朝鮮人寄附金品募集願許書調

(自明治四十三年十月一日
至明治四十四年九月末日)

五〇三

忠清北道	一	清州郡、清州府、清州府大邱、蔚州府、蔚州府新義州
忠清南道	二	大邱府、大邱、蔚州府、蔚州府新義州
全羅北道	三	全羅北道、全羅北道、全羅北道、全羅北道
全羅南道	四	全羅南道、全羅南道、全羅南道、全羅南道
慶尙北道	五	慶尙北道、慶尙北道、慶尙北道、慶尙北道
慶尙南道	六	慶尙南道、慶尙南道、慶尙南道、慶尙南道
黃海道	七	黃海道、黃海道、黃海道、黃海道
平安南道	八	平安南道、平安南道、平安南道、平安南道
平安北道	九	平安北道、平安北道、平安北道、平安北道
江原道	十	江原道、江原道、江原道、江原道
咸鏡南道	十一	咸鏡南道、咸鏡南道、咸鏡南道、咸鏡南道
咸鏡北道	十二	咸鏡北道、咸鏡北道、咸鏡北道、咸鏡北道

備考 右中内地人組織三十四組、鮮人組織二十五組、内鮮人混合組織二十二組
 犯罪ノ状況ヲ對比スルニ、四十二年上半期ニ於テハ内亂罪四十六件、暴動罪二百八十六件、強盜罪千

六百五十三件、窃盜罪四千七百三十三件、他ノ犯罪五千四百一〇件、總計一萬二千九十八件ナリシモ、十四年上半期ニ於テハ内亂及暴動ノ如キハ絶滅シ強盜犯ノ如キモ千三百三十四件ニシテ之ヲ前上半期ニ比較スルトキハ五百十九件ノ減少ヲ見ルニ至レリ、然ルニ犯罪總數ニ於テハ四十四年上半期ハ前年ノ上半期ニ比シ著シク増加セル所以ハ犯罪ノ増加ニアラスシテ、從前ニ於テハ警察力ノ微弱ナルト又人民ノ後進ヲ恐レテ被害ノ申告ヲ爲サザリシニ起因セシモノニシテ、漸次警察力ノ充實ニ伴ヒ人民ハ官憲ノ保護ヲ信賴シ其ノ意嚮犯罪必訴ノ觀念ヲ懷クニ至リシ結果ナルカ如シ
 既往ノ犯罪種別ニ徴スレハ窃盜最多ク之ニ次クモハ強盜、詐欺取財等ナリトス而シテ強盜ハ京城府内最多ク慶尙南道、慶尙北道、京畿道等之ニ次キ強盜ハ黃海道、京畿道、全羅北道、平安南道、忠清北道等之ニ次ク又詐欺、横領恐喝取財等ハ京城府内最多クシテ全羅南道、慶尙南道等之ニ次ケリト然ルニ一般犯罪トシテハ京城府内最多クシテ慶尙南道、全羅北道、咸鏡北道、京畿道等之ニ次キ江原道、忠清北道、平安北道地方ハ概シテ少ナキモノノ如シ

第十七章 警察

一 犯罪即決例實施後ノ狀況

犯罪即決實施以來一般ノ之ニ對スル感想ハ甚々良好ニシテ治罪ノ方法ノ簡便ナルト又處斷敏捷ニシテ直ニ處罰ノ結果ヲ明カニシ且微罪ヲ一一裁判所へ送致スル等ノ煩ナキハ刻下最時宜ニ適セル制度ナルカ如シ

四十四年一月ヨリ六月ニ至ル犯罪即決總件數ハ四千七百九件ニシテ內有罪四千五百十三件無罪百九十六件ナリ之ヲ罪種ニ別ツトキハ賭博、傷害罪、警察犯處罰令違反等最多ク其ノ他ハ略規則違反或ハ刑罰法令違反ナリ

一月ヨリ六月ニ至ル半年間ニ於ケル正式裁判請求件數ハ廿三件ナルヲ以テ有罪四千五百十三件ニ對スル比例ハ有罪百九十六件強ニ對スル一件ニ過ス又正式裁判ノ結果無罪トナリシハ僅ニ八件ナリ

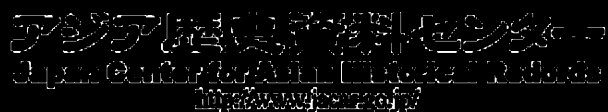
一 民事訴訟調停ノ概況

事件ハ主トシテ貸金請求小作米給付方ノ要求等ニシテ原被兩造ノ感情ハ極メテ良好ニシテ多クハ期限内ニ履行シ居レリ而シテ之カ手續方法甚々簡易ニシテ費用ト日時トヲ要セサルヲ以テ一般ニ此ノ方法ヲ歡迎シツツアリ

第十八章 通信

明治三十八年四月一日日韓兩國政府ノ間ニ韓國通信機關委託ニ關スル取極書ノ調印アリシ以來朝鮮ノ通信業ハ一大刷新ヲ加ヘラレタリ

之ヨリ以前ニ在リテモ朝鮮國內ニハ電信電話等ノ通信機關ハ多少ノ設備ナキニ非ザリシモ頗ル不完全ノモノニシテ電信ノ如キ電線迂迴複雜タシク中繼接續ノ敏捷ヲ缺キ電話ノ如キモ僅ニ京城、仁川、平壤等ノ都會ニ設備アリシノミニシテ加入者至テ少ク郵便ノ如キ唯普通郵便及書留小包ノ一定區域内ニ於テ取扱ハルルニ止マリ而モ其ノ確實敏捷ハ保證スヘカラサル有様ナリシヲ以テ通信機關ハ殆ト形態ヲ存スルニ過キザリシナリ然ルニ明治九年十一月以來日本政府ハ釜山ニ郵便局ヲ設置シタルヲ始トシ爾來内地人ノ移住ノ増加ニ伴ヒ元山、仁川、京城等ノ各地ニ郵便局ヲ増設シ明治三十八年ニ至リテハ郵便局、同出張所、同受取所等ヲ通シ三十六個所ニ達シ尙内地人出漁者ノ便ニ資スル爲釜山ニ在ル朝鮮海産組合ノ巡邏船ニモ郵便受取所ヲ設ケ普通郵便ノ外爲替、貯金、小包等



ノ事務取扱ヲ開始セリ此ノ如クニシテ朝鮮國ノ通信事務ハ依然トシテ舊態ヲ存續セルニモ拘ラス日本政府ノ施設ハ廢除トシテ歳月ト共ニ更新シ遂ニ明治三十八年四月ニ至リ舊韓國政府ノ通信事務ノ全部ヲ舉ゲテ日本政府ニ委託スルコトナレバ茲ニ始テ兩國ノ通信機關ヲ合同シテ共同ノ一組織ト爲シ以テ其ノ統一ヲ保チ得ルニ至レリ次テ明治三十九年七月舊韓國政府支金庫ノ存在セサル地方ニ於ケル國庫金ヲ取扱フコトトナレリ斯クテ合同後ニ於ケル通信事務ハ日本ノ法規ニ依リ取扱ハレ其ノ取扱事務ノ範圍モ内地郵便局所ニ於テ取扱フ總テノ事務ヲ取扱ヒ此等ノ通信機關ハ當時遞信省ノ管理ニ屬セシカ明治三十九年一月以來統監管理ノ下ニ統監府通信管理局ニ於テ管掌シ韓國併合ノ事アルヤ通信事務ハ舉テ朝鮮總督府通信局ニ移レリ爾來其ノ發達著シク内地人又ハ外國人ノ居住地若ハ府郡廳所在地ニハ郵便局又ハ郵便所ヲ置キ單ニ朝鮮人ノミナル部落ニ設置アル郵便所モ漸次郵便所ニ改稱シ今ヤ半島到ル處通信ノ便ヲ有セサルハ無キニ至レリ

左ニ通信機關發達ノ一覽表ヲ示スヘシ

一 郵便局所數

(各年度末日調)

年 度	郵便局	郵便所	郵遞所	受渡所	郵便電話	郵便電話	計	郵便手
明治四十三年度	九三	一四三	一〇九	二	—	—	五〇三	八五五
同 四十二年度	九三	一四三	一〇九	二	—	—	五〇三	八五五
同 四十一年度	五三	八二	五二	二	—	—	四八六	五一八
同 四十年度	五三	八二	五二	二	—	—	四八四	四八三
同 三十九年度	五〇	六六	四六	七	—	—	四八七	三七六
	五〇	一四三	二〇四	七	—	—	五〇八	二四八

本表中明治四十二年度ハ同四十三年一月一日現在ヲ掲ク但シ郵便切手賣捌所ハ同四十二年十一月末日現在トス *印ヲ附シタルハ繼立所及交換所ヲ示ス

郵便局所ニ於テハ左ノ事務ヲ取扱フモノトス

郵便局 郵便、爲替、貯金、電信、電話、歳入歳出金受拂、年金恩給交付

郵便所 郵便、爲替、貯金、電信、電話、歳入歳出金受拂、年金恩給交付

電信取扱所 電信

郵遞所 郵便

第十八章 通信

	道北清忠	道
江	鎮川 堤川 沃川 忠州	楊平 廣州 長湍
量	川 川 川 州	平 州 湍
(交)	話 話 話 話	話 話 話
(電)	電 電 電 電	電 電 電
公	槐 永 報 清	汝 振 安
州	同 恩 州	山 威 城
(接)	話 話 話	話 話 話
(電)	電 電 電	電 電 電
於	延 陰 黃 秋	龍 通 永 陰 果 安 楸 文 鸞 麻 烏 平
青	城 風	浦 梁
島	豐 淵 嶺	仁 津 平 草 川 山 城 河 津 山 澤
島	懷 清 文 英	陽 竈 陽 竹 富 高 加 軍 霧 土 素
致		浦
院		城 田 智 山 平 陽 平 場 島 城 砂
(話)		
(電)		
大	伊 美 永 秋	
成	院 江 同 嶺	
田		
歌		
三	丹 青 清 永	
燕	陽 山 風 峯	
稷		
岐		
山		
	伊 深 院 川	

畿	京	道名
江 驪 抱 利 開 仁 光 四 京	州 川 川 城 川 花 大 城	郵 便 局 郵 便 所 電 報 所 郵 遞 所 受 渡 所
驪 州 川 川 城 川 花 大 城	州 川 川 城 川 花 大 城	
南 連 楊 金 水 永 龍 南 分	陽 州 州 浦 原 登 山 大 京	
州 州 浦 原 登 山 大 京	州 州 浦 原 登 山 大 京	
京 仁 花 仁 元 龍 青 京 鐘 京 永 京 明 京	町 川 町 川 町 山 葉 樂 治 町 城 町 城 町 城	
町 川 町 川 町 山 葉 樂 治 町 城 町 城 町 城	町 川 町 川 町 山 葉 樂 治 町 城 町 城 町 城	
車 水 花 仁 漢 龍 黃 京 太 京 元 京 門 京 四 九	場 原 房 江 橋 平 京 寺 京 京 京 京 京	
場 原 房 江 橋 平 京 寺 京 京 京 京 京	場 原 房 江 橋 平 京 寺 京 京 京 京 京	
烏 紐 一 平 長 素 土 汝 開 仁 水 龍 南	山 峴 山 澤 湍 砂 城 山 城 川 原 山 門	
山 峴 山 澤 湍 砂 城 山 城 川 原 山 門	山 峴 山 澤 湍 砂 城 山 城 川 原 山 門	
	喬 陽 豐 勿	
	桐 川 德 寧	

二 郵便局所在地一覽表 (明治四十四年九月末日現在)

黃	道	南
賊延海 寧安州 (話郵) (話郵) (話郵) (電) (電) (電) 沙瓮黃 里院津州 (話郵) (話郵) (話郵) (電) (電) (電)		
黑新兼 龍二 橋浦 遂金龍 湖 安川島 兼黃沙興新金 二浦州院水幕郊 兔 山	毋益昌彥咸機 天町山 (話郵) (話郵) (話郵) (電) (電) (電) 寧陽安張 梁四釜丹宜昆 町山 (話郵) (話郵) (話郵) (電) (電) (電) 城	進長 勿馬 川 禁永 下三 魚千 津浦 海 鎮 端

尚	慶	道	北
南固三 城嘉昌 (話郵) (話郵) (話郵) (電) (電) (電) 海靈巨 山 (話郵) (話郵) (電) (電) 濟	河東 山 (話郵) (話郵) (電) (電) 密 州 (話郵) (話郵) (電) (電) 州 (話郵) (話郵) (電) (電)	山 (話郵) (話郵) (電) (電) 山 (話郵) (話郵) (電) (電) 山 (話郵) (話郵) (電) (電)	清青榮金 松川泉 (話郵) (話郵) (話郵) (電) (電) (電) 道 開永浦盈 川項德 (話郵) (話郵) (話郵) (電) (電) (電) 慶 長 營 (話郵) (話郵) (電) (電) 寧河海風化 英里漆知河務 陽州谷禮陽興
勿進馬密三龜草釜 浪 禁永山陽津浦梁山	昌三松 原浪 津 東 萊 交話 電	統元馬 營町山 (話郵) (話郵) (電) (電) 樽陵島 外州內 (話郵) (話郵) (電) (電)	總影島 釜山鎮 龜山 寶水 草梁 寶水 草梁 (話郵) (話郵) (電) (電)
安山草 瀉清溪	與眞禮順 海寶安興		五二六

備考 一(郵)郵便事務
第十八章 通信

局外 分室 三	局所 ○ 三	間島	道北鏡
		間島(郵、電)	富寧(話、郵、電) 鎮城(話、郵、電) 吉州(話、郵、電) 會寧(話、郵、電) 稷城(話、郵、電) 北蒼坪(話、郵、電)
外分室 一八九		開島局(無)	雄基(話、郵、電) 茂山(話、郵、電) 慶興(話、郵、電) 羅南(話、郵、電) 慶源(話、郵、電)
二二			
六〇			
四三			
二			

五二二

道	道南鏡咸	道
鏡清 城津(話、郵、電) 明城 川津(話、郵、電)	元北 山青(話、郵、電) 咸興(話、郵、電) 咸興(話、郵、電)	伊三洪 陟川(話、郵、電) 通楊 川口(話、郵、電)
	新元 山町(話、郵、電) 四湖津(話、郵、電) 銅店(話、郵、電) 洪原(話、郵、電) 定安(話、郵、電)	
	元山里(話、郵、電) 新油(話、郵、電) 新架坡(話、郵、電) 高利(話、郵、電) 原(話、郵、電)	
	三文 水川	

五二〇

- 一(電)ハ電信事務
- 一(交)ハ電話交換事務
- 一(話)ハ電話通話事務
- 一(無集配)ハ郵便物ノ集配事務ヲ取扱ハサルモノ
- 一(無配)ハ電報ノ配達事務ヲ取扱ハサルモノ
- 一(歳不扱)ハ歳入金歳出金歳入歳出外現金ノ振替繰替受拂ニ關スル事務ヲ取扱ハサルモノ
- 一電信取扱所ハ電信事務(和文電報)ノミヲ取扱フ
- 一郵便所ハ普通通郵便、書留通郵便事務ノミヲ取扱フ
- 一受渡所ハ通郵便小包郵便ノ受付交付事務ノミヲ取扱フ
- 一其他ノ無記號ハ郵便事務ノミヲ取扱フ

三 郵便線路

(各年度末調)

年 度	通 道 路		鐵 道		水 路	
	單 程	平均一日延程	單 程	平均一日延程	單 程	平均一日延程
明治四十三年度	二、六八九	三、九〇〇	六八一	三、三六六	一、二五三	二、八八〇
明治四十二年度	二、四三三	三、二五〇	六四六	二、八九三	一、二七八	二、八八〇
明治四十一年度	二、三六五	二、六四一	六四七	二、七七〇	一、〇五五	三、一七九
明治四十年度	二、三八八	二、六三九	六四八	二、六二七	八、一五四	二、六九六
明治三十九年度	二、四九四	二、三六六	六四八	二、五五八	八、四五三	二、四三九

四 郵便電信及電話線路

(同上)

年 度	互 電 信 線 路		互 電 話 線 路	
	長	延	長	延
明治四十三年度	一、三八九	三、一七二	一、二四四	四、一四八
明治四十二年度	一、三六三	三、〇五四	一、〇三三	三、九八一

第十八章 通信

明治四十一年度	一、三一六	二、八八〇	八二	二、二五三
明治四十年度	一、三〇七	二、七六四	六五	一、六六六
明治三十九年度	一、二四八	二、六三六	五三	一、二五三

五 郵便物取扱数 (同上)

年 度	引 通 常 郵 便 物	配 送 物	引 小 包 郵 便 物	配 送 物
明治四十三年度	四七、〇八三、五七〇	五三、一八一、四七一	六六、一六二、五	九二、八〇、九七
同 四十二年度	四〇、七二二、八一三	四三、二七七、八二〇	四八、九一七、三	七五〇、九六七
同 四十一年度	三五、六五九、七五八	三七、六一四、九七九	三六、二七六、二	六〇一、七六五
同 四十年度	三一、六四一、六九〇	三三、〇二七、七八九	二二、八〇三、五	四三八、五一六
同 三十九年度	三一、一七三、七二〇	三二、四五二、九六二	一五、七〇五、六	三五五、一七四

六 外國郵便物取扱数 (同上)

年 度	引 通 常 郵 便 物	配 送 物	引 外 國 小 包 郵 便 物	配 送 物	引 日 清 小 包 郵 便 物	配 送 物
明治四十三年度	一、三三、八七六	一、三九、八五三	一、四〇、一	一、〇四、六五	七九、五五八	三、三三、一三三
同 四十二年度	一、三〇、六五〇	一、七七、七七五	一、一五	一、〇〇、九〇	七三、五五七	三、〇八、〇二〇
同 四十一年度	一、二五、八二〇	一、四七、五八四	一、三〇、三	四、三三	六、三七五	二、六三、六八一
同 四十年度	一、二二、九三三	一、四〇、八九七	一、七六	三、一〇八	六、三三五	二、六三、六八一
同 三十九年度	一、二〇、七三三	一、三三、九四四	一、五七	二、一六九	五、九二二	二、三三、〇一四

七 朝鮮人通常郵便物取扱数 (同上)

年 度	引 内 國	配 送 物	引 外 國	配 送 物	引 計	配 送 物
明治四十三年度	七、五七四、七三六	二、八〇、五六六	七、六三三、一七三	七、六三三、一七三	七、五七四、七三六	一、〇、三七六、七〇五
同 四十二年度	六、五二〇、六七六	三、五、四二四	六、五四六、一〇〇	六、五四六、一〇〇	五、五九六、九四六	七、五七四、七三六
同 四十一年度	四、〇六七、三五四	二、九、三一六	四、〇九六、六七〇	四、〇九六、六七〇	四、三三二、一七七	五、五九六、九四六
同 四十年度	四、〇六七、三五四	二、九、三一六	四、〇九六、六七〇	四、〇九六、六七〇	四、三三二、一七七	四、三三二、一七七

第十八章 通信 五三五

朝鮮ニ於ケル郵便爲替ノ業務ハ金融機關ノ設備治チカラサルト内地人移住者ノ劇増トニ因リ逐年著シク發展シ來リシモ今ヤ朝鮮ニ於ケル儲蓄ノ設備稍整理シ兩取引品ノ如キハ各其ノ地方ニ於テ辨スルヲ得從ヒテ當初ノ如ク郵便爲替ノ便ヲ辦ルチ要セサルモノヲ生スルニ至リシ結果本年度ニ於ケル取扱高ハ既往ノ如ク著シク増加チ見ルニ至ラサルモ尙一割以上ノ増加チ示セリ

八 郵便爲替最近五箇年比較

年度	國內爲替		外國爲替		合計	
	口數	金額	口數	金額	口數	金額
明治四十三年度	1,234,567	123,456,789	987,654	98,765,432	2,222,221	222,222,221
同 四十二年度	1,345,678	134,567,890	1,098,765	109,876,543	2,444,443	244,444,433
同 四十一年度	1,456,789	145,678,901	1,209,876	120,987,654	2,666,665	266,666,555
同 四十年度	1,567,890	156,789,012	1,320,987	132,098,765	2,888,877	288,888,777
同 三十九年度	1,678,901	167,890,123	1,432,098	143,209,876	3,111,000	311,111,000

九 郵便貯金最近五箇年比較

年度	預入		払出		平均一度ノ金額
	口數	金額	口數	金額	
明治四十三年度	123,456	12,345,678	98,765	9,876,543	123,456
同 四十二年度	134,567	13,456,789	109,876	10,987,654	134,567
同 四十一年度	145,678	14,567,890	120,987	12,098,765	145,678
同 四十年度	156,789	15,678,901	132,098	13,209,876	156,789
同 三十九年度	167,890	16,789,012	143,209	14,320,987	167,890

朝鮮ニ於ケル郵便貯金ハ主トシテ内地人ノ預入ニ係リ朝鮮人貯金ノ増加ハ未タ朝鮮郵便貯金全體ノ發展ニ著シキ影響ヲ及ボスニ至ラサル状態ニシテ朝鮮人ニ對スル貯金獎勵ハ朝鮮發展上當面ノ急務ナルニ依リ本府通信局ハ努メテ之ヲ獎勵ノ策ヲ講シ朝鮮文郵便貯金通帳ヲ發行シ又朝鮮文郵便貯金案内書ヲ編成シテ之ヲ配布シ各地郵便局ヲシテ勸誘ノ任ニ當ラシメツアリ從ヒテ其ノ取扱高ハ前表ニ示スカ如ク漸次増加チ示セリ左ニ朝鮮人貯金額ノ一斑ヲ示スヘシ

十 朝鮮人郵便貯金比較

年 度	同 年			架 設 申 込 者
	和 文	歐 文	計	
同 四 十 年 度	七五九五	四九七	八〇九二	一〇四八四
同 三 十 年 度	六四七五	四九三	六九六八	一〇四八四
九 年 度	七五八五	四九三	八〇七八	一〇四八四

十三 電話加入者數

年 度	加 入 者	前 年 度 比 較 増 數	架 設 申 込 者
同 三 十 年 度	六九六八	九四四	一〇四八四
九 年 度	五五〇四	一四七三	一〇四八四

十四 雜 件

明治四十四年三月現在

自 働 電 話 數	郵 便 函 掛 函 數	私 書 函 貸 設 與 備 數
三〇	四七五九	三六六
	九三四	四八七

同 四 十 一 年 度	同 四 十 年 度	同 三 十 年 度	九 年 度
四〇三三	三三九七	三三九七	三三九七
一八八五	一八八五	一八八五	一八八五
七三三	九三三	九三三	九三三



第十九章 交通

一 道路

朝鮮ノ道路ハ從來京城ヲ基點トシテ各道ニ到ルノ施設ヲ爲シ居レリ岐チテ之ヲ九街道トス(一)義州街道、(二)慶興街道、(三)平安街道、(四)釜山街道、(五)仁川街道、(六)鎮南街道、(七)羅州街道(八)保寧街道、(九)江寧街道即チ是ナリ然レトモ所謂街道ナルモノモ頗ル不完全ニシテ幅員狹ク加フルニ凸凹起伏甚タシク運輸ヲ爲スニ人肩馬背ニ倚ル外ナキ狀態ニ在リシカ近年京釜及京海線全通スルアリ其ノ枝線ノ延長セラルルアリ又湖南及京元線ノ一部開通セラルルアリテ從來不充分ナリシ交通ハ漸ク便利得ルニ至リシカ半島内陸ノ開發ハ管ニ一部鐵路ノ開通ニ依リテ辨スヘキニ非サレハ明治三十九年以來舊韓國政府ハ努メテ諸道ノ改修ヲ行ヒ要路ニハ地方費ヲ支出シ國庫ヨリモ亦之ヲ補助シ以テ其ノ費ニ充テ勉メテ改修ヲ計リツツアリシカ總督府ハ四十三年韓國併合以後新ニ五百有餘里ノ道路改修ヲ企畫シ四十四年度以降五箇年ヲ以テ竣成スヘキ豫定ナリ斯ノ如ク交通機關ノ整備

ヲ計リツツアルヲ以テ近キ將來ニ於テ交通上一段ノ便宜ヲ得ルニ至ルヤ必セリ改正道路ハ地方ニ依リ同シカラスト雖幅員二間半乃至四間トシ尙六間ニ到ルモノアリ近時京城、龍山間ノ道路ヲ十五間幅トシタルカ如キ京城市街ノ凸凹甚ク幅員狹隘ナル部分ヲ漸次改修シタル如キ大邱、仁川新市街ヲ擴張シタルカ如キアリ又京城ニハ輓近市區改正ノ聲漸ク高ク既ニ局部ノ改修的線路修築ノ實施中ニ屬スルモノアリ今ヤ都鄙ヲ通シテ道路ノ改修ニ努メツツアレハ朝鮮各地ノ交通ハ内陸ノ發展ニ伴ヒ漸次普及スヘシ

改正道路一覽表 (四十三年度前迄ノ起工ニ係ルモノ)

區	間	等級	幅	總距離	功	部	竣	成
鎮南浦	平壤間	一	三、九	一三、〇四	全			
水浦	光州間	一	三、三	二二、〇五	同			
大邱	慶州間	二	三、三	一七、二八	同			
群山	全州間	一	三、九	一一、三〇	同			

第十九章 交通

アリ而シテ支線中永登浦ヨリ岐レテ仁川ニ到ルモノヲ京仁線ト爲シ三浪津ヨリ馬山ニ達スルモノヲ馬山線ト爲シ黃州ヨリ釜ニ浦ニ入ルモノヲ釜ニ浦線ト爲シ平壤ヨリ鎮南浦ニ達スルモノヲ平安線ト爲ス孰モ要港ニ出テテ世界的交通ノ便ニ資セリ

且下建設中ノモノ一ヲ湖南線ト爲シ他ヲ京元線ト爲シ湖南線ハ京釜線大田ヨリ起リ江界、羅州ヲ經テ木浦ニ達スル幹線ト之ヨリ分岐シテ群山ニ到ルノ支線ヨリ成リ延長百七十四哩五分ニシテ明治四十三年度ヨリ起工シ十一月箇年間ニ完成ノ豫定ニシテ總費額千二百八十二萬四千三百五十四圓外ニ車輻費二百七十七萬五千六百四十六圓計上シタリシカ朝鮮ノ狀況ハ其ノ速成ノ必要アルニ鑑ミ十一月箇年短縮シテ五年計畫ト爲シ(第二十七議會ニ於テ)既ニ大田、江界間ノ三十七哩七分ハ工事竣成シ四十四年十一月以來營業ヲ開始セリ京元線ハ龍山ヨリ起リ漣川、鐵原、平康ヲ經テ元山ニ達スルモノニシテ延長百三十六哩三分ナリ明治四十三年度ヨリ起工シ十一月箇年ニ完成ノ豫定ニシテ總費額千四百三十三萬六千九百九十八圓外ニ車輻費二百四萬四千五百圓計上シタリシカ速成ノ必要上五箇年竣功ノ計畫ト爲シ既ニ龍山、驛政府間十九哩四分ハ工事竣功シ營業ヲ開始セリ

今ヤ歐亞連絡ノ第一關門タル鴨綠江ノ架橋工事竣工シ所謂歐洲極東間ノ最捷線路ノ開通スルニ至リシカ日本ヨリ歐洲ニ赴クモノ歐洲ヨリ極東ニ出ツルモノ至大ノ利便ヲ享有スルニ至レリ京城南大門發ノ列車ハ僅ニ二十時間ニシテ新義州ヲ經、鴨綠江ヲ渡リ安東縣ニ達スヘク尙十六時間ニシテ長春ニ到ルヘシ朝鮮鐵道及滿洲鐵道ハ鮮滿ノ連絡ヲ圖リ且歐亞ノ脉絡ヲ通スル爲ニ南大門ヨリハ每週火木土又長春ヨリハ月水金ニ列車ヲ運轉セシメツツアリ此ノ線路ニ依レハ東京ヨリ長春ニ到ル僅ニ三晝夜ニシテ達スヘシ

朝鮮鐵道ハ幾多ノ變遷ヲ經テ今日ニ至リ今ヤ朝鮮總督府ノ所管ニ係リ本線支線ヲ通シ孰モ四呎半ノ廣軌ヲ敷設シ車輛ハ「ボギー」式ヲ用ヒ殊ニ客車ハ廣闊ニシテ壯麗ナリ貨車モ亦長大ニシテ一輛克ク二十六噸ヲ搭載シ得ヘク殊ニ鮮滿直通列車ハ歐米ニ讓ラサル優良ナル車輛ヲ以テ編成セリ

附記

鴨綠江ノ架橋ハ總延長三千九十八呎ニシテ朝鮮側ヨリ二百呎八連三百呎六連ノ鋼桁ヲ架シ清國側ニ達スルモノニシテ明治四十二年八月始メテ工ヲ起シ四十四年五月橋臺橋脚ヲ竣成シ十月迄ニ橋



桁工事ノ建設ヲ終ヘ該橋梁ハ朝鮮側ヨリ第九連ノ梁ヲ開閉式ト爲シ船舶ノ航行ニ便ナラシメ又橋梁ノ兩側ニ幅八呎宛ノ歩行道ヲ設ケ通行ノ用ニ供セシム尙各桁ノ最下端ハ平時滿潮水面上二十五呎干潮水面上三十呎ナルヲ以テ普通ノ船舶ハ僅ニ橋梁ノ下ヲ通過スルヲ得ヘシ橋脚ハ何レモ潜水基礎工事ヲ施シ河中ニ潜水面ヲ沈下シ遂ニ川底ニ達セシメタルモノニシテ豫期以上ノ好成績ヲ收メツツアリ(口繪參照)

左ニ朝鮮鐵道ノ最近ノ狀況ヲ示サム

朝鮮鐵道哩程表

線名	區	間	哩數
京釜線	京城	釜山	二七四、九
支線	永登浦	仁川	一八四
支線	三陟	馬山	二四八
支線	龍山	東縣	三〇、二

支線	兼二浦線	平南線	平壤炭鐵線	元山線	京元線	龍山線	大田線	湖山線
黃州	兼二浦	平壤	平壤	元山	京城	龍山	大田	湖山
兼二浦	兼二浦	兼二浦	兼二浦	兼二浦	兼二浦	兼二浦	兼二浦	兼二浦
八、九	三、四、三	六、七	一、三、六、三	一、九、四	一、七、四、五	三、七、七	(開通)	(開通)

外ニ

新義州荷扱所線(新義州驛ヨリ分岐ス)
碧淵渡貨物線(十城驛ヨリ分岐ス)

最近五箇年間營業成績表(四十四年度ハ半期) 其ノ一

年度	線路名	旅客乘車人員	小手荷物輸送斤量	貨物輸送噸數	客運車	貨運車	收入計
京釜線	三、五、三、六、五、六、三、四	三、四、九、〇、四、二、八、四、六、五、六、五、四	八、六、四、三、七、九、三、三、九、九、三、三				

第十九章 交通

上中期	湖南線	四三	六六	四三	六三三	八八〇	三三	四八	一七〇
全線合計	六三三	六〇〇	三三〇	三三〇	七四〇	六〇八	三三三	四〇〇	三三三

備考 各線ノ旅客人員、小手荷物斤量、貨物噸數等ノ其ノ全線合計ニ符合セサルハ二線以上ヲ通シテ輸送シタル全線合計ニ在リテハ重複ニ直レル數ヲ控除シタルニ因ル

即チ朝鮮鐵道ハ運輸總收入明治四十二年度ニ於テハ三百八十一萬七千三百四圓、四十三年度ニ於テハ四百五十六萬二千九百四圓、四十四年度上半期ノミニ於テ二百四十二萬八千六百二十三圓ニ達シ逐次收入増加ノ趨勢ヲ呈セリ

三 關釜聯絡概況

從來關釜聯絡航路ニ使用セラルル船舶ハ臺岐丸、對馬丸、櫻丸、梅ヶ香丸ノ四艘ニシテ前二隻ハ軌道千五百噸内外ヲ有シ殊ニ櫻丸ハ三千二百噸噸梅ヶ香丸ハ三千二百七噸ニシテ日變方ヨリ定期ニ出航シ一ハ釜山發京城經山ノ急行列車ニ接續セシメ一ハ下關門司ニ於テ新橋、長崎及鹿兒島行ノ列車ニ聯繫直通セシメ以テ内地各所ト朝鮮間交通ノ連鎖ヲ爲セリ海上百二十二哩、片道十時間ニシ

テ渡航シ得ヘシ

關釜聯絡概況

年 度	航路別	航 海			客			貨 物		
		航 數	一 等	二 等	三 等	合 計	貨 物	手 荷 物	小 荷 物	郵 賃 物
四十三年度	内地行	五九	一八四	七六四	四三	四三	一、七〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
	朝鮮行	五九	一八七	八三三	五五	五五	一、八〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
四十三年度	計	一一八	三七一	一、五九七	九八	九八	三、五〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
	内地行	一〇八	三六六	一、四〇〇	九〇	九〇	三、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇
四十三年度	朝鮮行	一〇	六五	一九七	八	八	一、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
	計	一一八	四三一	一、六〇〇	九八	九八	三、五〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
四十三年度	内地行	一〇〇	三二七	一、三三三	八二	八二	二、八〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
	朝鮮行	一八	一〇四	二六七	一六	一六	七〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
四十三年度	計	一一八	四三一	一、六〇〇	九八	九八	三、五〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇
	内地行	一〇〇	三二七	一、三三三	八二	八二	二、八〇	四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
四十三年度	朝鮮行	一八	一〇四	二六七	一六	一六	七〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
	計	一一八	四三一	一、六〇〇	九八	九八	三、五〇	六、〇〇	六、〇〇	六、〇〇

第一 船舶 四海運

第十九章 交通

五四五

朝鮮半島ハ三方遼ラス海洋ヲ以テス而カモ從來朝鮮人ハ漸ク小舟、帆船ニ倚リテ遠隔近嶼ニ航海シタルモノニシテ從テ近時朝鮮ニ於ケル航海權ハ自ラ内地人ノ獨占ニ移リテ各港ヨリ出テテ世界的交通ヲ爲セルモノ皆内地人ノ經營ニ係レリ

船舶ニ關シテハ從來何等ノ取締ナク放任セラレタリシカ明治四十三年四月帝國政府ハ舊韓國政府ト謀リ一様ノ取締法規ヲ制定シ爾來之方取締ヲ勵行シタリシカハ大ニ舊來ノ面目ヲ一新シ沿岸航路ノ發達ト俱ニ船舶ノ數亦著シク増加シタリ今最近朝鮮ニ現在スル船舶及朝鮮沿岸ニ寄港スル船舶數ヲ示セハ左ノ如シ

朝鮮現在船舶

(明治四十四年十月現在)

種別	汽船		帆船		合計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數
朝鮮ニ船籍港ヲ有スル	四七	八、四四〇	一〇九	三、三三九	一五六	一一、六七九
不登簿船	二〇	一八八	八六四	七、二六〇	八八四	七、四四八

種別	汽船		帆船		合計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數
内地ニ船籍港ヲ有シ朝鮮沿岸ニ所在スルモノ	三	一八三六	不詳	不詳	三	一八三六
鮮沿岸ニ所在スルモノ	一六	一八六	不詳	不詳	一六	一八六
同上假船鑑札ヲ受有スルモノ	一	九	二、二七	一六	三	二二六
内地ヲ起點シテ朝鮮ニ寄港スルモノ	四三	六、一九七	不詳	不詳	四三	六、一九七
計	一六〇	七、六八四	一、三三	二、二六	一、二九三	八、九四六

第二 海員

輓近船舶ノ數著シク増加シタル結果海員ノ數モ亦劇増シ受檢船舶ノ海員ハ概數一千二百人ヲ算シ其ノ内船舶職員トシテ職ヲ執ル者二百七十四人ニ達セリ而モ現今海員ニ關スル取締法ヲ缺ケルヲ以テ之ヲ調査中ニ屬ス

船舶職員

種別	朝鮮ニ船籍港ヲ有		日人		合計	
	船長	一等士	船長	一等士	船長	一等士
朝鮮ニ船籍港ヲ有	五三	一七	二四	一	七七	一八
日人	無	無	無	無	無	無
計	五三	一七	二四	一	七七	一八

第十九章 交通

目的地	内地ニ船籍港ナリ		朝鮮人		日本人		朝鮮人	
	有	無	有	無	有	無	有	無
甲	四〇	九六	一	五	四三	一〇	三	三
乙	三	一〇	三	三	三	三	三	三
丙	三	三	三	三	三	三	三	三
丁	一九	九四	六	六	四三	六	三	三
戊	三	四	三	三	三	三	三	三
己	六八	二〇六	一	二	八八	三五	三	三

五四八

朝鮮ニ於テハ未タ船舶職員試験ノ制度ナカリシカ四十四年十月選信省ハ便法ヲ執リ釜山港ニ於テ臨時海員試験ヲ執行シ受験者十七名中十名ノ合格者ヲ得タリ

第三 定期航路

朝鮮沿岸ノ現在航路ハ(一)朝鮮沿岸ニ限ルモノ(二)内地ヲ起點トシテ朝鮮ニ到ルモノ(三)内地ヲ起點トシテ朝鮮沿岸ヲ經由シ外國ニ到ルモノ(四)朝鮮ヲ起點トシテ内地又ハ外國ニ到ルモノノ四種アリ而シテ日下定期船ノ配在セルハ(一)(二)(三)種航路ニシテ(四)種航路ニ至リテハ未タ定期航海ヲ

開始スルノ時運ニ違ヒス

定期航路中選信省命令ニ依ルモノハ(一)種及(二)種ニ屬シ朝鮮總督府命令ニ依ルモノハ(一)種ニ屬ス別ニ陸軍省命令ニ依ル(三)種、長崎縣命令ニ依ル(三)種、及鐵道院ノ經營ニ依ル(三)種等ノ各航路アリ又補助命令ニ依ラス自營ヲ以テ定期航海ヲ爲スモノハ(一)種航路ノ小區域間ニ多ク他ハ極メテ小數ナリ

今此等航海ニ配在セル船舶ノ大勢ヲ示セハ

- (一)ニ屬スルモノ 四〇艘 三、七二九噸
- (二)ニ屬スルモノ 一七艘 二四、〇五五噸
- (三)ニ屬スルモノ 八艘 一三、四二六噸

ニシテ更ニ政府ノ補助命令ニ依ルモノト自營ノモノトヲ區別スレハ左ノ如シ

- 命令航路使用船(官營船ヲ含ム) 二七艘 三三、一一九噸
- 自營航路使用船 三八艘 八、〇九一噸

第十九章 交通

五四九

同	馬山縣洞線		(日) 六同	
同	飛鳳里		(日) 四	馬山 吉田 佃漕部
同	釜山統營線	加德、熊川、馬山	三〇	釜山汽船株式會社
總督府 命令航路	釜山左水營線	馬山、統營、三千浦	六同	
自營航路	同	前記ノ外縣洞、辰橋、慶梁津	二四同	
同	同	加德、熊川、螺洞、新舊馬山、統營、三千浦、露梁津	三〇	釜山 商船組 佃漕部
同	釜山長興線	馬山、統營、三千浦、麗水、順天、筏橋、羅老島、興陽	五	釜山汽船株式會社
總督府 命令航路	釜山木浦線	長承浦、欲知島、麗水、羅老島、巨文島、濟州島、朝天、同山地、椒子島、所安島	四同	
同	木浦長興線	右水營、莞島	四	木浦 福田有造

同	木浦濟州島線	右水營、椒子島、濟州島山地、同朝天	六同	
自營航路	木浦榮山浦線	夢灘、沙浦、中村浦	三〇	木浦航運合名會社
同	木浦靈岩線		三〇	木浦 平岡寅次郎
同	木浦海南線		三〇同	木浦 梶見 佃漕部
總督府 命令航路	木浦巨浦線	智島、法聖浦	七同	福田有造
自營航路	群山江景線		三〇	江景 松永定次郎
同	同		三〇	群山 大澤 某
同	江景公州線	龜巖里、旺津、定山	一五	江景 松永定次郎
同	仁川舊島線	三吉里、海倉	六	仁川 合資會社 秋田商會

同	仁川、冬、串浦線	漢津、富里浦、大湖芝	一〇	同
同	仁川、海州線	丹串、喬桐	二五	同
遞信省 命令航路	神戶朝鮮北清線	釜山、仁川	(年)二三	日本郵船株式會社
同	橫濱北清線	仁川、	(同)一六	同
遞信省 寄港命令	大阪仁川線	釜山、木浦、群山、仁川	(同)五二	大阪商船株式會社
自營航路	鎮南浦、載寧線	外岩浦、石海、舟嶺、壽易浦、海	一五	鎮南浦 馬場 嘉 外五名
同	新滿州安東縣線		約卅分 ニ發船ス	鴨綠江渡江株式會社
長崎縣 寄港命令 航路	長崎大連線	釜山、木浦、群山、仁川、鎮南浦	四	大阪商船株式會社
自營航路	唐津大連線	(往航)釜山、木浦、群山、仁川 (復航)直行	三	合資會社 辰馬本家回漕部

五五四

遞信省 寄港命令	大阪安東縣線	仁川、鎮南浦	(年)一八 内四回ハ 鎮南浦止 リトス	大阪商船株式會社
官 營	下關釜山線		四五	鐵道院
自營航路	大阪仁川線	釜山、木浦、群山	八	尼崎汽船部

備考 原田商行經營大阪、浦鹽斯德線、辰馬本家回漕部經營唐津大連線及尼崎汽船部ノ經營大阪仁川線ハ準定期航海トス

第四 朝鮮總督府命令航路

舊韓國政府ノ債務トシテ繼承シタル航路補助ハ前年度ニ繼續シテ東沿岸、南沿岸及釜羅沿岸ノ各航路ニ對シテ之ヲ支給セリ將來沿岸及島嶼ノ發展ニ伴ヒ航路ノ整理、船舶ノ改良ヲ行ハシムルノ必要アルニヨリ努メテ其ノ改善ヲ圖リツツアリ

今最近一ケ年間ニ於ケル業務成績ヲ擧グレハ左ノ如シ

第十九章 交通

五五五

命令航路業務成績(自明治四十三年十一月至同四十四年十月)

五五六

受命者	使用船數	總噸數	航海度數	航海哩數	搭載貨物	乘客員數
青田秀次郎	六一	三三、七八	六一	四九、〇三	一六三、三七	一一、七九
釜山汽船株式會社	三二六	四八、二七一	三二六	九一、九〇	一三八、二六	二〇、〇八
福山右遊	三三六	一六、九四七	三三六	四三、五八	六〇、七〇	八、八二
計	六〇三	八八、三九六	六〇三	一八二、六一	三六三、三五〇	四〇、七〇

備考 噸數及哩數ハ延數ナリ

第五 水路嚮導

政府ノ施設ニ係ル鴨綠江水路嚮導ハ一般ノ利便ニ資セルコト尠ナカラス之ニ依リテ同流域ニ出入スル船舶安全ニ航行シツツアリ私設ノモノハ群山港ニ一私人ノ經營ニ係ルモノ一アルノミ今最近一箇年間(結氷期ヲ除ク)ニ於ケル鴨綠江水路嚮導成績ヲ舉ケレハ左ノ如シ

鴨綠江水路嚮導成績(自明治四十三年十一月至同四十四年十月)

入出船數	日本		英國		佛國		諸國		計	
	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數	船數	總噸數
入船	八	八、五七	一〇	一〇、一〇	三	三、〇〇	一	一、〇〇	二二	二二、六七
出船	八	八、五七	一〇	一〇、一〇	三	三、〇〇	一	一、〇〇	二二	二二、六七
合計	一六	一七、一四	二〇	二〇、二〇	六	六、〇〇	二	二、〇〇	四四	四四、三四

六 沿岸及接續主要航路運程表

釜山大阪間			釜山福岡間			釜山長崎間		
釜山	一三三	三、七五	釜山	三三〇	一、〇七	釜山	六九	一、〇九
下關	二四〇	三、五三	下關	四一五	一、二四	下關	四〇	一、三三
神戸	一一三	一、三三	神戸	二九	六、九	神戸	八三	一、三三
大阪	一一三	一、三三	大阪	四〇	一、〇	大阪	八三	一、三三
			福岡	四〇	一、〇	福岡	八三	一、三三
			長崎	八三	一、三三	長崎	八三	一、三三

備考 表中〇印ヲ附スルモノハ直行運數トス

第十九章 交通

五五七

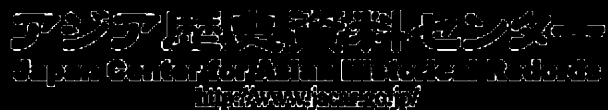
一、^{ハシラシ}漢江 黃海ニ注グ一大河ニシテ源テ江原咸鏡兩道ノ境ナル鐵嶺ニ發スル北江及江原、忠北ノ境上小山脈ニ發スル南江ハ河口ヲ去ル三十里ナル高安附近ニ於テ相合シ一大江流ヲ成シ遂ニ河口ニ到リテ亦臨津江、禮江ト相合ス水流概々緩漫ニシテ水深ク且清シ流域各地ニ形勝ノ地多ク又都邑少カラス河口ヨリ龍山ニ到ル十七里ノ間寬ク小蒸汽船航行スヘシ龍山ヨリ上流南江ノ北倉ニ至ル三十里ノ間五六石ノ河舟ヲ通スヘク北倉ヨリ上流永春ニ到ル十七里ノ間及南北兩行ノ合流ヨリ北行上流春川ニ到ル間ハ尙小舟ヲ通航セシムヘシ沿岸ノ都邑狼川、春川、高安(以上北江)永春、丹陽、北倉、白岩、驪州(以上南江)、麟島、龍山、麻浦、楊花津等ハ貨物ノ運搬頗繁ナリ殊ニ龍山ハ京城ニ近ク四方約一里ノ地ニ在リ古來雞林入道貢米ノ集積地トシテ知ラレ漢江上流ノ木材ノ舟筏ニヨリテ賑揚セラルルモノ毎年十數萬圓ニ及ヘリ冬時結氷期ニ際シテハ江流杜絶シテ舟筏ヲ遣ルニ由ナク氷河途ヲシ人馬ノ往來スルヲ見ル

二、^{イシシガシ}臨津江 河口ニ於テ漢江ト合シテ黃海ニ注グ江流大ナラサルカ故ニ水運ノ利少クキモ潮沙ヲ利用セハ克ク十四五里ヲ通航シ得ヘシ沿岸都邑ノ重ナルモノヲ波山浦(河口ヨリ八里ノ上流ニ在リ)

高浪津、砂浪里、迦寧、伊川等トス就中波山浦ハ京畿道北部ニ於ケル著明ノ貨物集散地ニシテ高浪津ハ大豆ノ産出ヲ以テ名アリ

三、^{ククシ}錦江 亦黃海ニ注グ大河ニシテ源ヲ全羅、慶尙ノ境ナル蘆嶺ニ發シ流域七十里ニ及フ河口群山浦附近ハ幅員十二町餘ヲ有シ數百噸ノ汽船ヲ碇泊セシムヘク群山ヨリ上流江景ニ到ル十里間ニ小蒸汽船ヲ航行セシムヘク江景ヨリ英江ニ到ル約十八里間ハ克ク小舟ヲ通セシムヘシ沿岸都邑ニ富ミ貨物ヲ吞吐スル所多シ就中重ナルモノヲ英江、公州、鏡岩、江景、群山等トナス殊ニ江城ノ兩岸ハ沃野相連リ米、大豆、麥、綿花等農産物ニ富ムヲ以テ繫舟地ハ孰レモ繁榮セリ

四、^{ソクトシ}洛東江 半島南岸朝鮮海峽ニ注グ朝鮮唯一ノ大江ニシテ源ヲ大田山脈ニ發シ右直嶺、蔚時嶺等ヨリ發スル諸水ヲ集メ安東洋ニ出テ大邱ノ四ツ走り三浪津ヲ經テ河口數脈ニ岐レ釜山ニ近ク多太浦ノ四ニ注ク流域百十里江口ヨリ洛東津ニ到ル六十里ノ江流ハ舟楫ノ便アリテ數千石ノ帆船ヲ通スヘク尙順潮ニ際シテハ上流安東ニ到ル迄小舟ヲ通航セシムヘシ木江ハ所謂大邱ノ平原ヲ貫流シ灌溉ノ便アルニ加ヘテ沿岸各所ニ貨物ノ集散ニ適セル都邑多キヲ以テ釜山ヨリスル物貨ノ吞吐頗繁ナリ



都邑ノ重ナルモノヲ安東、尙州、倭館、星州、密陽、洛東、三浪浦、龜浦、金海等トス。
 五、大同江、四海岸黃海ニ注グ大江ニシテ源ヲ平安、咸鏡ノ境ナル狼林山脈ニ發シ所謂妙香山脈ノ南麓ヲ西南ニ流レ陽德山ノ二支流ヲ合セ平壤、兼二浦等ヲ經テ鐵島ニ到リ更ニ戰寧江ト合シテ一大流域ヲ成シ幅員著シク闊大ト爲リ約四町ニ及ヒ是ヨリ四流シテ鎮南浦ニ滑ヒ流隱洞ニ到リテ河幅一里餘ノ大角江ト爲ル本江ト大同江ノ會合地鐵島附近ニ在リテハ水深約二十尋ニシテ優ニ數千噸ノ汽船ヲ碇泊セシムヘク鐵島ノ上流平壤ヲ下ルコト約二里半萬景傍附近ニ到ル間ハ水深四尋乃至六尋ニ及ヒ亦數百噸ノ汽船ヲ航行セシムヘシ萬景傍、平壤間ニハ三個所ノ淺瀬アルヲ以テ高潮ノ時ト雖吃水五尺ノ船舶ハ航行シ難ク荷客ハ之ヲ小艇ニ移シテ平壤ニ送ルヘシ而シテ其ノ河口鎮南浦附近ハ幅員水深共ニ増加シ渺茫トシテ海洋ヲ望ムカ如ク數千噸ノ大船巨船ハ鎮南浦ノ波止場ヲ去ルコト僅ニ三十米突ノ所ニ碇泊シ得ヘシ

大同江下流ニ於ケル潮流干潮ノ差ハ二十八呎ニシテ平壤ニ到リテハ約十尺ニ減スト雖潮流ノ速力ハ常ニ四節半ノ勢ヲ以テ干潮ニ應シ上下スルヲ以テ帆船ノ如キモ其ノ風位ニ拘ハラヌ潮流ヲ利用シテ

滿湖ニ上リ干潮ニ下ル故ニ舟楫ノ便甚タ可ナリ殊ニ本江ハ半島有數ノ農産地タル平壤及戰寧ノ大沃野ニ連ナリ沿岸ニハ平壤、鐵島、鎮南浦、流隱洞、ノ如キ商業地アルヲ以テ運輸交通ニ資スル所大ナリ又上流一帶ノ地ヨリ伐材ノ筏ニ依リテ平壤ニ下ルモノ尠カラズ然レトモ本江上流ハ冬期約三箇月(十二月、一月、二月)ノ間結氷シ鐵島ヨリ下流ナル三角江ハ幸ニ結氷セザレトモ流水ノ爲舟楫杜絶スルニ至ル

六、鴨綠江、朝鮮五大江中最大江ニシテ江城ハ清鮮ノ國境ヲ劃スルモノナリ源ヲ白頭山ノ西麓ニ

發シ咸鏡南道ノ惠山鎮ニ於テ南方ヨリ來ル虛川江ヲ合セ白頭山脈ノ諸谿谷ヨリ發スル數多ノ小流ヲ集メテ西北流シ楚山ニ到リテ滿州ヨリ南下スル運河ト合シ更ニ義州ノ上流ニ於テ滿州ノ豐河ヲ容レ河流ハ九里島、於赤島、踏完島、中江灘等ノ沙洲ニ依リテ三分シ下リテ沙河鎮ニ至リ三江再ヒ合シテ一江ト成リ更ニ感化島ヲ築堆シテ湖大ナル三角江ヲ爲シ黃海ニ入ル江ノ流域百四十里ニ及フト雖河床急麗ニシテ岩礁多ク激流奔湍ノ個所尠ナカラサルヲ以テ航運河トシテノ價值ハ大ナラス河口龍岸浦ニ於テハ大船巨船自由ニ碇泊スルコトヲ得レトモ河口ヲ遡ルコト十五里ナル安東縣ニ到リテハ



漸クニシテ淺吃水ノ小蒸汽船ヲ通スルニ足ルノ唯「ジヤンク」ハ辛フシテ江口ヲ去ル百餘里ノ順見
 山附近ニ航行シ得ヘシ故ニ沿岸一帯ノ地ニハ貨物ノ集散地少カラスト雖商港トシテ數フルニ足ルモ
 ノ唯安東縣及龍岩浦アルノミ然レトモ江ノ上流ニハ有名ナル鴨綠江ノ大森林アリテ巨樹大木鬱生シ
 其ノ富源無盡蔵ト稱セラレ近年其ノ伐材ノ筏ニヨリ流下セラレルモノ年數百萬ニ及フ清國人カ鴨
 綠江流域ノ富源ニ着目シタルハ僅ニ三十餘年以前ノコトニシテ其ノ富源開發ト共ニ新ニ勃興シタル
 モノ安東縣、大東溝等トス其ノ沿岸ニハ「ジヤンク」輻輳シ材筏連坦ス
 七、**遼江** 東岸日本海ニ注ク大河ナリ源ヲ白頭山ノ東南麓ニ發シ白頭、江南、妙香ノ諸山脈ヨ
 リ發スル諸流ヲ合セ茂山郡ニ到リテ稍大流ト成リ會寧、鎭城ノ諸郡ヲ經穩城ノ北ニ到リ滿州ヨリ南
 下セル布爾哈圖河ト合シ更ニ慶源ニ於テ耶春河ト會シ水量益増大シ其ノ間右山左折シ豁谷ノ間ヲ縱
 下ス慶源ノ下流ハ露領ト境界ヲ爲シ遼山灣ト露領ボトシエツト灣トノ間ナル四水羅ノ東方ニ到リ日
 本海ニ注ク流域全長九十里ニ亘リ河口ヨリ慶源ニ到ルノ間ハ百噸内外ノ汽船ヲ通航セシムヘシ然レ
 トモ流水一帯ニ急湍ニシテ降雨ニ際シテハ河水氾濫シ濁流沿岸ヲ蓋ヒ舟楫危險カラス加フルニ河

口ニハ土砂ノ堆積シテ洲ヲ爲ス所多キナリ以テ航行ノ便宜シカラス

版二第
最近朝鮮事情要覽 終

第十九章 交通

